

取扱書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

GR Supra

 TOYOTA

GR Supra



1 備考**1-1. 備考**

注意事項.....	4
-----------	---

2 クイックリファレンス**2-1. クイックリファレンス**

乗車.....	14
設定と操作.....	19
走行.....	23

3 概要**3-1. 概要**

運転席まわり	32
停止状態、作動および走行スタンバイ	36
Toyota Supra Command	39
スピーチ コントロールシステム	49
一般設定.....	52
個人設定.....	56
接続	61
取扱説明書のメディア	68

4 操作方法**4-1. 操作方法**

開閉	70
シート、ドア ミラーおよびステアリング ホイール	86
お子様の安全について	100
走行	109
表示	126
ライト	142
安全性	149
ドライビング スタビリティ コントロール	185
ドライバー アシスト システム ..	189

走行快適性.....	211
快適な温度調節.....	212
インテリア	220
小物入れ	222
ラゲッジ ルーム.....	224

5 ドライブのヒント**5-1. ドライブのヒント**

ドライブ時に覚えておきたいこと	228
燃料の節約.....	233

6 メンテナンス**6-1. メンテナンス**

給油	238
ホイールとタイヤ	240
エンジンルーム	261
燃料・油脂類.....	263
メンテナンス.....	270
部品の交換	272
いざというときに	281
お手入れ	290

7 参考情報**7-1. 参考情報**

メンテナンスデータ	298
認証情報	299

さくいん

五十音順さくいん	302
----------------	-----

備考

1

1-1. 備考注意事項.....**4**

1

備考

注意事項

本取扱説明書について

手引き

取扱説明書から特定のテーマを調べる場合、50 音検索が適しています。

車両の概要については、第 1 章をご覧ください。

補足情報

トヨタ販売店

不明な点は、いつでもトヨタ販売店にお問い合わせください。

シンボルと表示

取扱説明書の中のシンボルマーク

シンボル	意味
	お客様ご自身と他者の安全さらに車両の損傷を回避するために守らなければならない警告
	環境保護に貢献する措置
「...」	機能を選択するための車内ディスプレイのテキスト
›...‹	スピーチコントロール用のボイス コマンド
»...«	スピーチ コントロールシステムの応答

取扱い手順

実行する取扱い手順は数字付きリストで表示されています。手順に従ってください。

1 第 1 の取扱い手順

2 第 2 の取扱い手順

列記

並び順や選択肢のない列記は、箇条書きのリストで表示されています。

- ・ 第 1 の方法
- ・ 第 2 の方法

車両部品につけられたシンボル

 取扱説明書に詳細情報が記載されていることを示す車両部品のマーク。

車両装備

本書では、全てのモデルについて、またモデルシリーズに提供される全ての標準装備、国別装備、オプション装備について説明を行っています。したがってこの取扱説明書には、選択されたオプション装備や国別仕様などの理由により、車両には備わっていない装備や機能についての説明とイラストも含まれています。

このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。

該当する機能とシステムを使用する場合は、各国の有効な法律と規定に従ってください。

本書の内容について

車両の機能および安全、ならびに品質向上の観点から、道路運送車両法および関連法令に基づき、装備内容は変更される場合があります。

車両の構造、装備および付属品の仕様変更や改良などにより、本書の内容とお客様の車両が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

車両の仕様説明のために法定速度を超える記載があります。これは高速走行を奨励するものではありません。事故予防のためにも走行時には法定速度を遵守してください。

お客様の安全のために

適切な使用

車両を使用する場合は、以下に注意してください：

- ・ 取扱説明書
- ・ 車両の情報ラベル（はがさないでください）
- ・ 車両のテクニカル データ
- ・ 車両を走行させる国の交通法規および安全基準
- ・ 車検証および法定文書

保証

お客様の車両は、新車で納車時に型式承認が行われた国で定められている運転条件や認可要求を技術的に満たすように設計されています。車両を外国で運転する場合は、

運転条件や認可要求が母国と異なることがあります。その場合はお客様の車両を事前にその国で適用される運転条件や認可要求に合わせる必要があります。車両が特定の国の型式承認要求を満たしていない場合、その車両に対する保証申請が無効となる場合があります。詳細はトヨタ販売店にお問い合わせください。

点検整備および修理

車両に採用される素材や高性能電子機器の技術的進歩に伴い、適したメンテナンスや修理の方法が必要になっています。

そのため車両メーカーは、該当する作業をトヨタ販売店に依頼することを推奨しています。

メンテナンスや修理などで作業が適切に行われなかった場合は、結果として車両が損傷し、それが原因で安全性が損なわれるおそれがあります。

車両塗装に対し専門知識を欠いた不適切な作業を行うと、レーダーセンサーなどのコンポーネントの故障や異常を招き、安全性に問題が生じるおそれがあります。

部品およびアクセサリー

お客様ご自身の安全のために、部品およびアクセサリーを使用する場合はメーカーが承認した製品をご使用ください。

トヨタ販売店では、トヨタ純正部品、アクセサリーならびにトヨタの承認する製品、およびそれらに

対する適切なアドバイスを提供しております。

これらの製品は、トヨタ車に装着した場合の安全性と機能の有用性についてトヨタが評価したものです。

トヨタはトヨタ純正部品およびアクセサリーに対して製造物責任を負っています。ただし、メーカーが承認していない部品およびアクセサリーをお客様の車両に装着した場合、その装着または装着方法に起因して発生した問題については、メーカーは一切その責任を負いません。

メーカーでは、お客様の安全を第一に考えています。他社の製品をお客様の車両に装着した場合、装着した部品の安全性を判断できないため、純正品または承認された製品以外を、車両に取り付けることは認めません。

データ メモリー

一般事項

車両には電子コントロール ユニットが取り付けられています。電子コントロール ユニットは、車両センサーなどから受信したデータや内部で生成したデータ、交換したデータを処理します。いくつかのコントロール ユニットは車両の安全機能に必要であり、ドライバー アシスト システムなどのように走行をサポートするものもあります。さらにコントロール ユニットはコンフォート機能またはインフォテ

イメント機能を実行します。

個人の特定

各車両には、車両特定番号が付けられています。国に応じて車台番号やライセンス プレートナンバー、該当官庁によって車両所有者を特定できます。さらに、使用している Toyota Supra Connect アカウントなどにより車内で発生したデータでドライバー や車両所有者を特定する方法もあります。

データ保護法

車両利用者は、有効なデータ保護法にしたがい車両メーカー や個人データを使用または取り扱う企業に対して、特定の権利を有します。

車両利用者には、車両利用者の個人データを保持する機関に対して、無償で包括的な情報要求権があります。

この機関には以下などが含まれます：

- ・ 車両メーカー
- ・ トヨタ販売店

車両使用者は、どの個人データが保存され、どのような目的で利用され、そのデータの出処はどこなのか情報を開示請求することができます。この情報を請求するには、所有または使用証明が必要です。

情報開示請求は、他の企業や機関に転送されたデータに関する情報も含まれます。

車両メーカーのウェブサイトには、

適用される個人データの取扱いに関する注意事項が記載されています。この個人データの取扱いに関する注意事項には、データの削除や訂正を行う権利についての情報も含まれています。車両メーカーは、インターネットでもメーカー問い合わせ先および代理人の問い合わせ先を記載しています。

車両所有者は、トヨタ販売店でも、車両に保存されているデータを有料で読み出すことができます。

車両データの読み出しは、法的に決められた車両オンボード診断(OBD)のソケットを使用して行われます。

データ開示のための法的 requirement

車両メーカーは、有効な法律の範囲内において、保存されているデータを官庁に提供する義務があります。必要範囲のデータ提供は、犯罪行為の解明など個別のケースでも行われます。

国の機関には有効な法規の範囲内で、個別のケースにおいて自身でデータを車両から読み出す権利があります。情報は事故の解明などの場合に、主にエアバッグコントロールユニットから読み出されます。

車内の作動データ

車両を作動させる際、コントロールユニットがデータを処理します。

これには、例えば以下が含まれます：

- ・車両とその個別コンポーネントのステータスマッセージ、例えばホイール回転数、ホイール速度、減速、横方向加速度、シートベルト装着インジケーターなど
- ・周囲の状況、例えば気温、レンセンサーの信号

処理されたデータは車内でのみ処理され、一時的に保存されます。このデータは作動時間外にはメモリーされません

コントロールユニットや車両キーなどの電子部品は、技術情報を保存するためのコンポーネントを含みます。これは車両状態や部品への負荷、メンテナンスの必要性、イベント、エラーに関する情報を一時的または長期的にメモリーすることができます。

これらの情報は一般に、以下のようないくつかのコンポーネント、モジュール、システム、および環境の状態を示すものです：

- ・システムコンポーネントの作動状態、例えば充填レベル、タイヤ空気圧、バッテリーの充電状態など
- ・重要なシステムコンポーネントの機能異常、故障、例えばライトおよびブレーキ
- ・エアバッグの作動、ドライビングスタビリティコントロールの作動など、特別な走行状況での車両の反応
- ・車両損傷の状況に関する情報

これらのデータはコントロールユニット機能の実行に必要です。さらにこれらのデータは機能不良の

検出と解消、車両メーカーによる車両機能の最適化に使用されます。

これらのデータの大部分は揮発性であり、車両自体でのみ処理されます。一部のデータのみ、状況に応じてイベントまたはディフェクトメモリーに保存されます。

例えば修理作業、サービスプロセス、保証、品質保証などでサービス業務が要求される場合、車両からこれらの技術的な情報と車台番号を読み出すことができます。

情報の読み出しはトヨタ販売店で行うことができます。読み出しには、法律で規定された車両のオンボーダーOBD用ソケットを使用します。

データはサービスネットワークの各拠点で集計、処理、利用されます。このデータは車両の技術的な状態を記録し、故障の発見や補償義務および品質改善の遵守のために使用されます。

さらにメーカーは製造物責任法により製品監視義務を担っています。この義務を果たすために、車両メーカーは車両からの技術的なデータを必要とします。これに加えて、車両からのデータは顧客からの補償および保証処理時の調査にも使用されます。

車両のエラーおよびイベントメモリーは、トヨタ販売店において修理またはサービス作業の範囲でリセットすることができます。

データ入力と車両へのデータ転送

一般事項

装備に応じて、コンフォート設定および個人設定を車両にメモリーし、いつでも変更することができます。

これには、例えば以下が含まれます：

- ・シート位置の設定
- ・サスペンションおよびエアコンの設定

例えばスマートフォンを介して、データを車両のエンターテインメントおよびコミュニケーションシステムに送信することができます。

これは装備に応じて異なります：

- ・音楽、映画、写真などのマルチメディアデータ、内蔵のマルチメディアシステムでの再生用
- ・内蔵のハンズフリーユニットまたは内蔵のナビゲーションシステムと接続して利用されるアドレス帳データ
- ・入力されたナビゲーション目的地
- ・インターネットサービスの利用に関するデータ

これらのデータは車両にローカルでメモリーすることができます。あるいはスマートフォン、USBスティック、MP3プレーヤーなど、車両と接続された機器に入っています。これらのデータを車両にメモリーした場合は、いつでも削除することができます。

これらのデータを第三者へ転送す

することは、オンライン サービスの利用の枠組みにおいて個人の希望に基づいてのみ行われます。転送はサービス利用時の希望設定によって異なります。

モバイル端末の接続

装備に応じて、スマートフォンなど、車両と接続されたモバイル端末を車両の操作ボタンにより操作することができます。

その場合、モバイル端末の画像と音声をマルチメディア システムを介して出力することができます。同時に、モバイル端末に特定の情報が伝送されます。接続方式によって、位置データとその他の一般車両情報などがこれに含まれます。これにより、ナビゲーションや音楽再生など、選択したアプリを最適に利用することができます。モバイル端末と車両間のその他の相互作用、例えば車両データへのアクティブなアクセスなどは行われません。

その他のデータ処理の方式は、使用される各アプリのプロバイダーによって規定されます。可能な設定の範囲は、各アプリとモバイル端末のオペレーティング システムにより異なります。

サービス

一般事項

車両が無線ネットワークを使用する場合、車両とその他のシステム間でのデータ交換が可能となりま

す。無線ネットワークは、車両固有の送受信ユニットにより、または個人的に使用するスマートフォンなどのモバイル端末を介して実現されます。この無線ネットワークを介していわゆるオンライン機能を利用することができます。これには、車両メーカーまたは他のプロバイダーによって提供されるオンライン サービスやアプリが含まれます。

車両メーカーのサービス

車両メーカーのオンライン サービスの場合、各機能の説明は取扱説明書やメーカーのウェブサイトなど適切な個所にあります。そこには、関連するデータ保護法の情報も記載されています。オンライン サービスを利用する際には、個人に関するデータが使用されることがあります。データ交換は、例えば車両メーカーの専用 IT システムとの安全な接続を介して行われます。

サービス提供の範囲を超える個人データの収集、処理、利用は、法律による許可、契約による取決め、または同意に基づいてのみ行われます。また、全てのデータ接続をオンまたはオフにすることもできます。

他のプロバイダーのサービス

他のプロバイダーのオンライン サービスを利用する場合、これらのサービスは該当するプロバイダーの責任ならびにデータ保護および利用条件に従うことになります。

す。その際に交換される内容に対し、車両メーカーは何ら影響を与えません。第三者のサービス範囲における個人データの収集および処理の方法、範囲、目的についての情報は、該当するサービス プロバイダーにお問い合わせください。

車台番号

エンジン ルーム

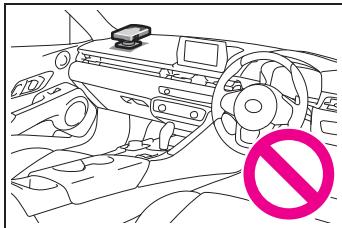


車台番号はエンジン ルーム内の車両右側にあります。

その他注意事項

警告

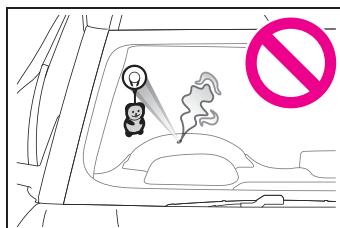
車両の改造は、行わないでください。



車を改造したり、トヨタ純正部品およびアクセサリー品、トヨタ社が承認した製品以外の不適切な部品（例：バッテリーや電装品等）を取り付けることにより、思わぬ故障や事故の原因になることがありますので、絶対に行わないでください。トヨタ純正アクセサリー品の詳細については、トヨタ販売店へお問い合わせください。

警告

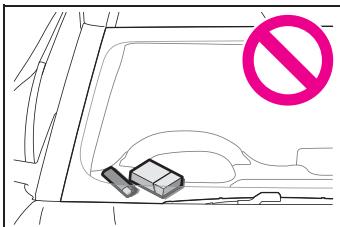
ウィンドウ ガラスにアクセサリー類を取り付けないでください。



ガラス面やルーム ミラーなどにアクセサリーを取り付けると、視界を損なったり、走行中に気をとられたりして思わぬ事故につながる原因になります。また、透明吸盤がレンズの働きをして火災を起こす場合があります。また、ルーム ミラーにワイド ミラーを取り付けると、衝突時における原因となりますので、おやめください。

警告

車内にライターを放置しないでください。

⚠ 警告

炎天下で駐車すると車内が高温になり、ライターなどの可燃物が爆発や自然発火を起こす場合があり、たいへん危険です。また、シートなどの可動部分にライターが入り込んだまま放置すると、シートが動いたときに着火して火災を起こすおそれがあります。

クイックリファレンス

2

2-1. クイックリファレンス

乗車.....	14
設定と操作.....	19
走行.....	23

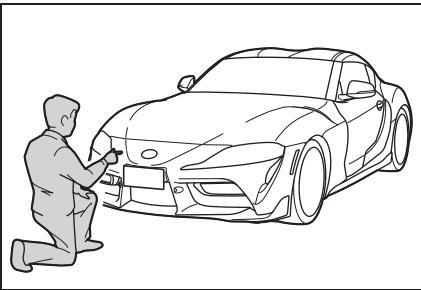
2

クイックリファレンス

乗車

運転の前に

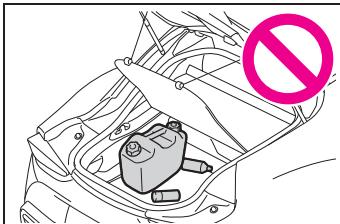
点検の実施



エンジンをかける前に、日常点検を実施してください。関連法規により、使用者の責任において日常点検と一年毎の法定定期点検の実施が義務づけられています。点検方法については、別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。

！ 警告

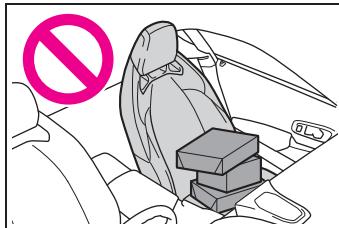
燃えやすいものを積まないでください。



燃料を入れた予備タンクや可燃性のカーケア用品、スプレー缶などを積んでいると、万一の場合、引火したり、爆発することがあり危険です。また、密閉された車内など、場所によっては温度が 50 ℃以上になる場合がありますので、車内に炭酸飲料などの容器を放置しないでください。

！ 警告

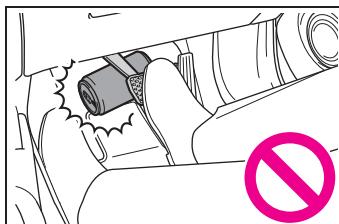
荷物は確実に固定してください。



車内に不安定な状態で荷物を載せていると、急ブレーキをかけたときなどに荷物が放り出されて乗員にぶつかることがあります。思わぬけがをするおそれがあります。荷物はできるだけラゲッジルームに積み、なるべく動かないよう固定してください。

！ 警告

運転席の足元にものを放置しないでください。

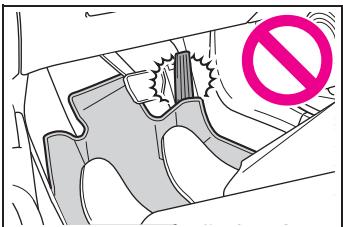


ブレーキペダルの後ろに異物がはさまってブレーキ操作ができなくなったり、アクセルペダルが戻らなくなることがあります。非常に危険です。

！ 警告

フロアマットは確実に固定してください。

⚠ 警告



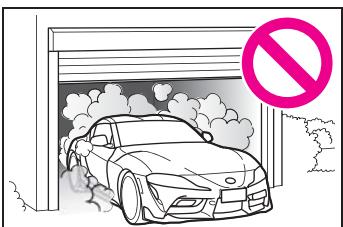
フロアマットは、この車両専用のトヨタ純正品のみを使用し、付属の固定具で確実に固定してください。清掃等でフロアマットを脱着後も、固定具で確実に固定してから運転をしてください。

固定具の破損などにより確実に固定できないフロアマットを使用すると、フロアマットの位置がずれてアクセルペダルを覆い、フロアマットを介しペダルが誤操作される等、思わぬ事故につながるおそれがあります。

また、フロアマットを重ねて使用することは絶対に止めてください。ペダル操作を妨げるだけでなく、マットが丸まってブレーキペダルが踏み切れなくなるおそれもあり危険です。

⚠ 警告

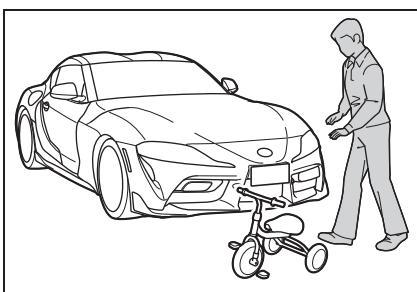
排気ガスを吸い込まないように注意してください。



排気ガスには、無色無臭で有毒な一酸化炭素が含まれています。この一酸化炭素は気づかぬうちに吸い込んでしまうおそれがあり、最悪の場合、死に至るおそれがあります。密閉されたガレージのように換気の悪い場所では、エンジンをかけたままにしないでください。

排気管に腐食による亀裂や穴あきがあると、走行中、車内に排気ガスが入ってくるおそれがあります。車内で排気ガスのにおいを感じたときは、 WINDOW を全開にし、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

周囲の安全確認



- 車の周囲には運転席から見えない、死角部分があります。発進する前に、小さなお子様や高さの低い障害物がないか、車のまわりを確かめてください。

- 後退（バック）するとき、十分に後方の視界が見渡せない場合は、車から降りて後方を確かめるようにしてください。

体調のすぐれない時

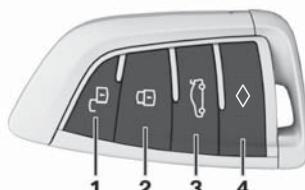
疲労しているときや、体調がすぐれない時は運転を控えてください。また、長時間運転するときは適度

に休憩を取るようにしてください。

ます。

開閉

電子キーのボタン



- 1 ロック解除
- 2 ロック
- 3 トランクリッドロック解除
- 4 ホームライト

車両をロック解除する



電子キーのボタンを押します。

設定に応じて、運転席ドアのみ、または全てのドア／リッドがロック解除されます。

運転席ドアのみがロック解除される場合、電子キーのボタンを再び押すと、他の車両ドア／リッドがロック解除されます。

車両をロックする

- 1 運転席ドアを閉じます。

電子キーのボタンを押し
ます。

全てのドア／リッドがロックされ

ドアロックスイッチ用ボタン

概要



ドアロックスイッチ用ボタン。

ロック



ボタンを押すと、フロント
ドアが閉じている場合は車
両がロックされます。

フューエルリッドは、ロック解除
されたままでです。

ロック解除



ボタンを押すと車両がロッ
ク解除されます。

スマートキーシステム

原理

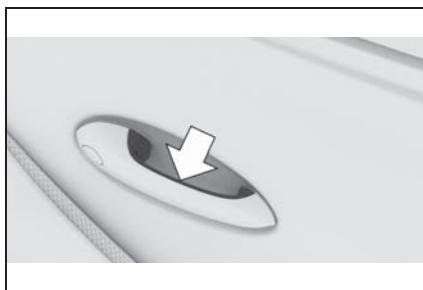
電子キーを操作しなくても、車両
にアクセスすることができます。

電子キーをズボンのポケットなど
に入れて携行するだけで十分です。

車両は自動的に、近くの、または

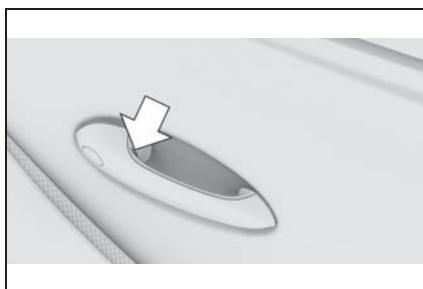
車内の電子キーを検知します。

車両をロック解除する



車両ドアのハンドルを完全に握ります。

車両をロックする



閉まっている車両ドアのドアハンドルをつかまずに、ドアハンドルの溝の部分に指で約1秒間触れます。

トランクリッド

開ける

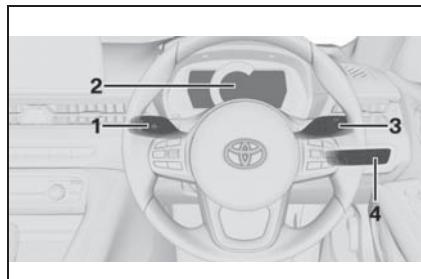
 電子キーのボタンを約1秒間押し続けます。必要に応じてドアもロック解除されます。

クローズ

トランクリッドを手動で閉めます。

表示と操作ボタン

ステアリングホイールの周辺



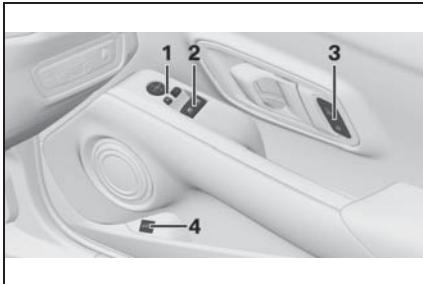
- 1 ターンインジケーター、ヘッドライト
- 2 メーターパネル
- 3 ウィパー
- 4 ランプスイッチ

表示灯と警告灯

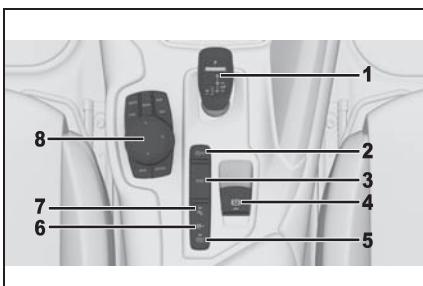
メーターパネル

表示灯と警告灯は、異なった組み合わせと色で点灯します。

いくつかの表示灯 / 警告灯は、エンジンをスタートさせたとき、または作動スタンバイをオンにしたときに、機能点検が行われ、短時間点灯します。

運転席ドア

- 1** ドアミラー
- 2** パワーウィンドウ
- 3** ドアロックスイッチ
- 4** トランクリッドロック解除

スイッチセンター

- 1** セレクターレバー
- 2** アイドリングストップキャンセルスイッチ
- 3** スポーツモードスイッチ
- 4** パーキングブレーキ
- 5** Toyota Supra Safety スイッチ
- 6** VSC OFF スイッチ
- 7** パーキングアシスタントボタン
- 8** コントローラー

Toyota Supra Command**原理**

Toyota Supra Commandは、多数のスイッチ機能を統合したものです。これらの機能はコントローラーと、装備によってはタッチスクリーンにより操作することができます。

コントローラー**■ 一般事項**

ボタンを使って、メニューを直接呼び出すことができます。コントローラーでメニュー項目を選択し、設定を行うことができます。

■ コントローラーのボタン

ボタン	機能
	1 回押す：メインメニューを呼び出します。 2 回押す：メインメニューの全てのメニュー項目を表示します。
	コミュニケーションメニューを呼び出します。
	メディア / ラジオ メニューを呼び出します。
	ナビゲーションの目的地入力メニューを呼び出します。
	ナビゲーションの地図を呼び出します。

ボタン	機能
	1 回押す：前の画面を呼び出します。 押し続ける：最後に使用したメニューを呼び出します。
	オプションメニューを呼び出します。

スピーチコントロール

ボイス コマンドを話す

■ スピーチコントロールを作動させる

- 1 ステアリングのボタンを押します。
- 2 警告音を待ちます。
- 3 ボイスコマンドを話します。



コントロールディスプレイのシンボルは、スピーチコントロールシステムが作動していることを示します。

コマンドが使用できない場合があります。その場合は Toyota Supra Command から機能を操作してください。

■ スピーチコントロールを終了する

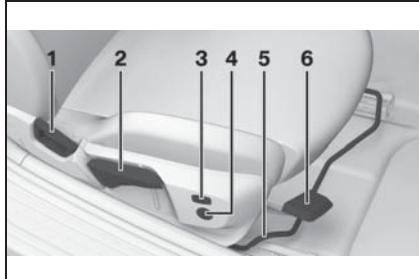


ステアリングのボタンを押す、または > キャンセル < と発話する。

設定と操作

シート、ドアミラーおよびステアリングホイール

手動調節シート



1 バックレスト角度

2 高さ

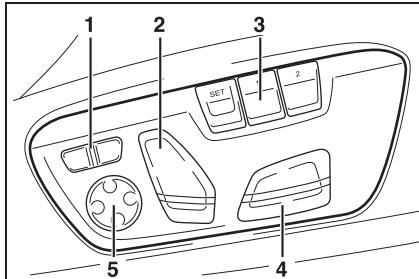
3 バックレスト幅

4 ランバーサポート

5 前後

6 シート角度

電動シート



1 バックレスト幅

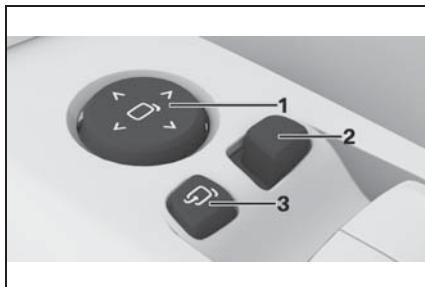
2 バックレスト角度

3 運転席メモリー

4 前後方向、高さ、シート角度

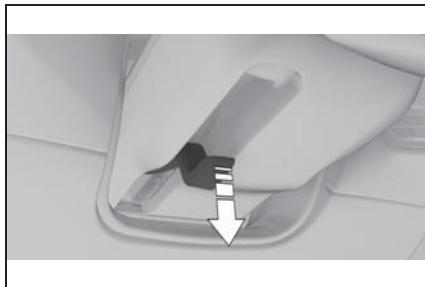
5 ランバーサポート

電動ドアミラー



- 1 調節
- 2 ドアミラーの選択、リバース連動機能
- 3 折りたたみ

ステアリングの調節



- 1 レバーを下に倒します。
- 2 シート位置に合わせてステアリングホイールの前後方向と高さを調節します。
- 3 レバーを元に戻します。

メモリー機能

原理

メモリー機能により、以下の設定

を記憶させ、必要に応じて呼び出すことができます：

- ・シート位置
- ・ドアミラー位置
- ・ヘッドアップディスプレイの高さ

登録

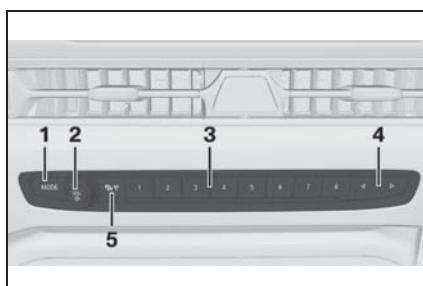
- 1 希望する位置に調節します。
- 2 運転席の **SET** ボタンを押します。ボタンの文字が点灯します。
- 3 文字が点灯している間に、運転席のボタン 1 または 2 の希望する方を押します。信号音が鳴ります。

シート位置の呼び出し

希望するボタン 1 または 2 を押します。

インフォテインメント

ラジオ



- 1 エンターテイメントの音源の切換え
- 2 音声出力オン / オフ、音量
- 3 プログラマブル ボタン

4 放送局 / トラックの切換え

5 交通情報

ナビゲーションの目的地入力

目的地を入力する

例えば保存された周辺施設を使用して、目的地を入力することができます。

- 1 「地図」
- 2 コントローラーを左に傾けます。
- 3 「目的地入力」
- 4 「施設」
- 5 検索の種類を選択します。

「現在地周辺」

「目的地周辺」

「ルート沿い」

「その他の場所」

- 6 必要に応じて、次のカテゴリーとサブカテゴリーを選択します。

周辺施設のリストが表示されます。

周辺施設をアルファベット順に、または距離の順に並べ替えることができます。

- 7 周辺施設を選択します。
- 8 「新規目的地に設定」または必要に応じて目的地に関する更なる機能を選択します。

ルート案内開始

目的地入力が終了するとルート案内が、自動的に、または発進すると始まります。

携帯電話を接続する

一般事項

携帯電話を車両と 1 度接続すれば、Toyota Supra Command、ステアリングのボタン、またはスピーチコントロールによって携帯電話を操作することができます。

パスキーを入力して携帯電話を接続する

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「システム設定」
- 3 「携帯機器」
- 4 「新規機器接続」
- 5 さらに携帯電話側の作業手順を実行します。携帯電話の取扱説明書を参照してください：Bluetooth 機器を検索する、接続する、または新しい機器など。

車両の Bluetooth 名が携帯電話のディスプレイに表示されます。車両の Bluetooth 名を選択します。

- 6 モバイル機器によっては、コントロール番号が表示されるか、コントロール番号を自ら入力する必要があります。
- ・ コントロールディスプレイに表示されたコントロール番号と、機器のディスプレイに表示されたコントロール番号を比較します。

機器とコントロール ディスプレイでコントロール番号を確定します。

- ・ 機器と Toyota Supra

Command で同一のコントロール番号を入力して、確定します。
機器が接続され、機器リストに表示されます。

通話する

電話に出る

装備に応じて、さまざまな方法で着信電話を受けることができます。

- ・ Toyota Supra Command から :  「応答」
- ・  ステアリングのボタンを押します。
- ・ メーターパネルの選択リストから : ステアリングホイールのダイヤルで選択します : 「応答」

番号をダイヤルする

Toyota Supra Command から :

- 1 「通信 / 電話」
- 2 「番号ダイヤル」
- 3 電話番号を入力します。
- 4  シンボルを選択します。電話機能が割り当てられている携帯電話から接続されます。

サブ電話との接続を確立します :

- 1  ボタンを押します。
- 2 「から電話をかける」

Apple CarPlay の準備

原理

Apple CarPlay は、互換性のある

Apple iPhone の特定の機能を Siri スピーチ コントロールおよび Toyota Supra Command で操作できるようにします。

Apple CarPlay の設定方法はナビゲーションシステム取扱書を参照。

走行

走行

走行スタンバイ



- ブレーキ ペダルを踏みます。
- スタート / ストップボタンを押します。

走行スタンバイをオフにする

- 停車している状態で、セレクターレバーをポジション P にします。
- スタート / ストップボタンを押します。エンジンがオフになります。
- パーキングブレーキをかけます。

アイドリングストップ

燃料を節約するため、アイドリングストップ機能は停車中にエンジンを自動的に停止します。発進するときに、次の条件が満たされていればエンジンが自動的に始動します：

- ブレーキ ペダルを解除する。

パーキング ブレーキ

ブレーキをかける



スイッチを引き上げます。
LED と表示灯が点灯します。

解除する

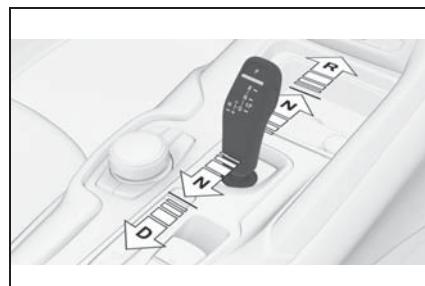


走行スタンバイがオンになっている場合：ブレーキを踏む、またはセレクターレバーをポジション P にして、スイッチを押します。

LED と表示灯が消えます。
パーキングブレーキが解除されている。

オートマチックトランスマッショ

セレクターレバーをポジション D、N、R にシフトする



- D ドライブ ポジション
- N ニュートラル
- R 後退

運転席シートベルトが着用されている場合、セレクターレバーを希

望する方向に軽く押し、必要な場合は軽く止まる位置を越えるまで押します。セレクターレバーはそれぞれ、中央位置に戻ります。

ギアがポジション D またはリバースギアに入っている場合は車両が動き出しますので、発進するまでの間はブレーキを踏んでいてください。

セレクターレバーロックは、セレクターレバー ポジション R への間違ったシフトまたはセレクターレバー ポジション P からの間違ったシフトを防止するためのものです。

必ず停車している状態で、セレクターレバーをポジション R にします。

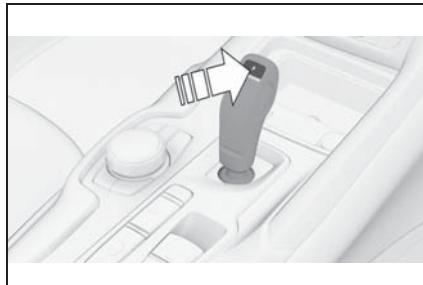
セレクターレバーロックの解除



ボタンを押します。

P 位置にシフトする

必ず停車している状態で、セレクターレバーをポジション P にします。



P ボタンを押します。

オートマチックトランスマッショ n、マニュアルモード



マニュアルモードをオンにする：

セレクターレバーをセレクターレバー ポジション D から出して、左に押します。

マニュアルモード：

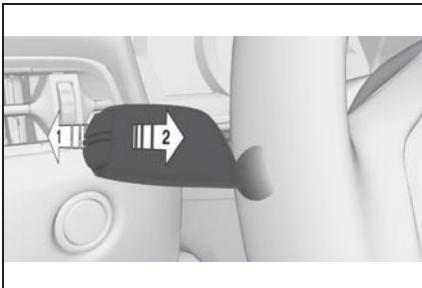
- ・ シフトダウン：セレクターレバーを前に押します。
- ・ シフトアップ：セレクターレバーを後方に引きます。

マニュアルモードを終了する：

セレクターレバーを右に押します。

ヘッドライト、ハイビーム、 方向指示灯

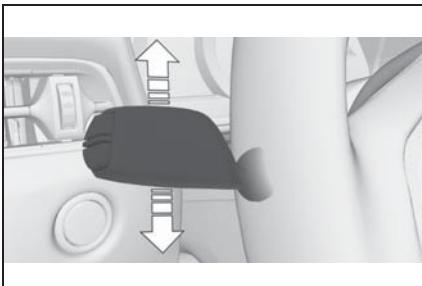
ヘッドライト、ハイビーム



レバーを前に押すか、後ろに引きます。

- ・ ヘッドライトオン (矢印 1)。
ヘッドライトは、ロー ビームが
オンのときに点灯します。
- ・ ヘッドライトオフ / ハイビーム
オン (矢印 2)。

方向指示灯



- ・ オン：レバーを上または下に軽く止まる位置を越えるまで押します。
- ・ オフ：レバーを逆の方向に、軽く止まる位置を越えて押します。
- ・ 3 ターンシグナル：レバーを上または下に軽く押します。
- ・ 一時的な点滅：レバーを軽く止

まる位置まで押し、点滅を続けたい間、保持します。

ライトと照明

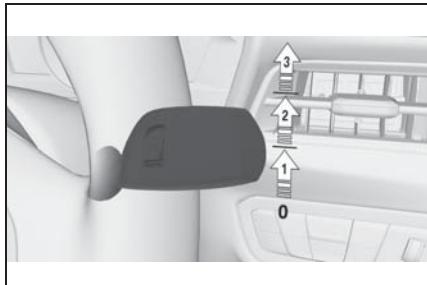
ライト機能

シンボル	機能
	リアフォグ ライト
	ライトオフ。デイランニング ライト
	スマールライト
	オート ライト コントロール、アダプティブ ライト機能
	ロー ビーム
	メーターパネル照明
	パーキングライト (右)
	パーキングライト (左)

ワイパー

ワイパーのオン / オフ、ワンタッチワイパー

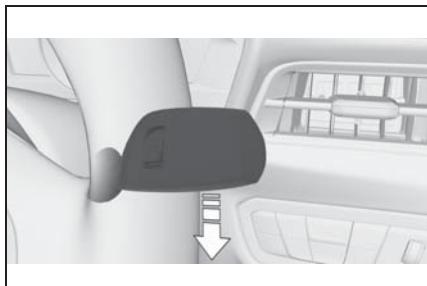
■ オンにする



レバーを、希望する位置になるまで上方に押します。

- ・ ワイパーの停止位置：位置 **0**
- ・ レインセンサー：位置 **1**
- ・ 標準ワイパースピード：位置 **2**
- ・ 高速ワイパースピード：位置 **3**

■ ワンタッチワイパーとスイッチオフ

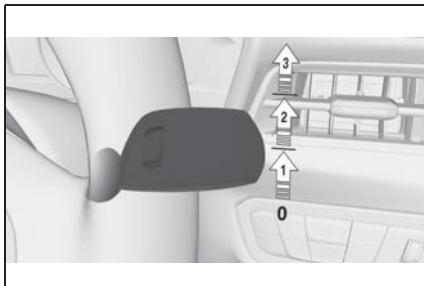


レバーを下に押します。

- ・ オフ：レバーを、基本位置になるまで下に押します。
- ・ ワンタッチ ワイパー：レバーを基本位置から下に押します。

レインセンサー

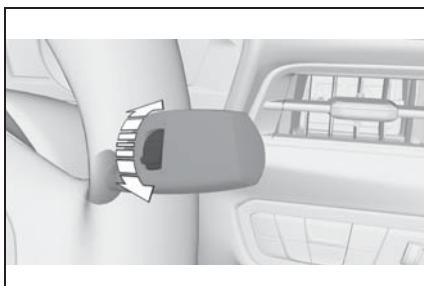
作動させる / 作動解除する



作動させる：レバーを基本位置から 1 回上方（位置 **1**）に押します。

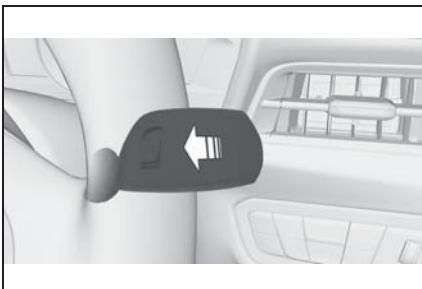
作動解除する：レバーを押して基本位置に戻します。

■ 感度を調節する



ワイパーレバーのダイヤルを回してください。

フロントガラスを洗浄する



ワイパーレバーを引きます。

快適な温度調節

ボタン	機能
	温度
	内気循環機能
	最大冷房
	AUTO プログラム
	送風口の手動調節

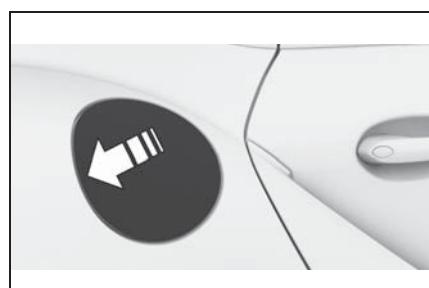
ボタン	機能
	オフ
	フロントウィンドウの結露と曇りを取り除きます。
	リアデフォッガー
	シートヒーター
	エアコンモード
	風量の手動調節

給油

給油

給油口

- 1 フューエル リッドを開くには、フューエルリッドの後端を軽く押します。



- 2 フューエルキャップを反時計回りに回します。
- 3 フューエルキャップは、フューエルリッド裏のホルダーに差し込みます。

ガソリン

最適な燃費を得るために、ガソリンは無硫黄または硫黄分の少ないものを使用してください。

給油機に金属添加物の表示のある燃料を使用しないでください。
→P.263

ホイールとタイヤ

タイヤ空気圧の記載



タイヤ空気圧規定値はドア ピラーのタイヤ空気圧ラベルに記されています。

タイヤ空気圧の調整後

タイヤ空気圧警報 (TPM) の場合：

コントロールディスプレイでタイヤ空気圧規定値を確認することができないタイヤの場合、タイヤ空気圧警報 (TPM) のリセットを行

います。

タイヤ空気圧の点検

定期的に点検し、必要に応じて調整する：

- ・ 最低でも月 2 回
- ・ 長距離ドライブの前

電子的なオイル計測

機能の前提条件

最新の計測値は、約 30 分の通常走行後に提供されます。

エンジン オイル レベルの表示

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「車両ステータス」
- 3 「エンジンオイルレベル」

エンジンオイルレベルに応じて、コントロールディスプレイに異なるメッセージが表示されます。これらのメッセージに注意してください。

エンジン オイルの補給

一般事項

エンジンオイルを補給する前に、車両を確実に停止し、走行スタンバイをオフにします。

補給



エンジンオイルは、メーターパネルにメッセージが表示されてから補給してください。

通知の補充量に注意します。

過剰な量のエンジンオイルを充填しないように注意します。

推奨エンジンオイルを確認します。

いざというときに

ハザードフラッシャー



ボタンはセンターコンソールにあります。

ロードサイドアシスト

車両トラブルが発生したとき、JAF ヘレッカーなどの救援車両を手配するサービスです。

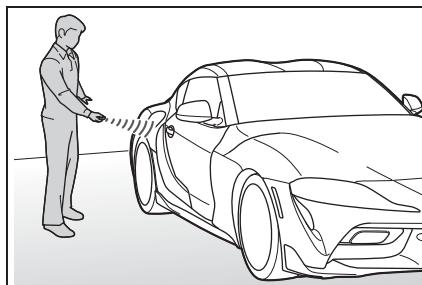
※ 上記サービス利用にかかる 料金はお客様のご負担となります。

詳細はナビゲーションシステム取扱書を参照。

走行の後に

駐車するとき

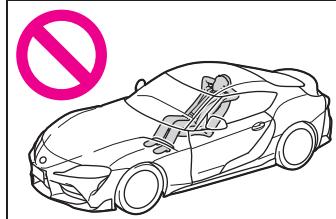
車から離れるときは、エンジンを止め、パーキングブレーキをかけ、ドアを施錠してください。



迷惑駐車にならない安全な場所に駐車し、セレクターレバーを“P”（パーキング）にシフトしてから、エンジンを止めます。

警告

仮眠するときは、エンジンを止めてください。

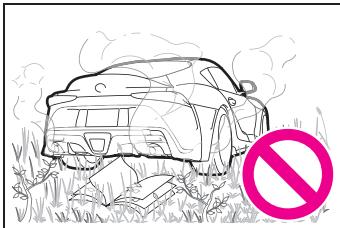


⚠ 警告

やむを得ず車内で仮眠するときは、安全な場所に駐車し、エンジンを止めて、なるべく助手席で仮眠してください。エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にアクセルペダルを踏み込んだり、セレクターレバーを動かして思わぬ事故の原因になります。また、停車中にエンジンを長時間空ぶかしすると、排気管やエンジンが過熱して火災を起こす場合があります。

⚠ 警告

駐停車するときは、燃えやすいものに注意してください。



周囲に燃えやすいもの（枯れ草、落ち葉、芝、紙くず、油など）がある場所には駐停車しないでください。排気管に燃えやすいものが触れたり、排気熱で火災の原因となるおそれがあります。

概要

3

3-1. 概要

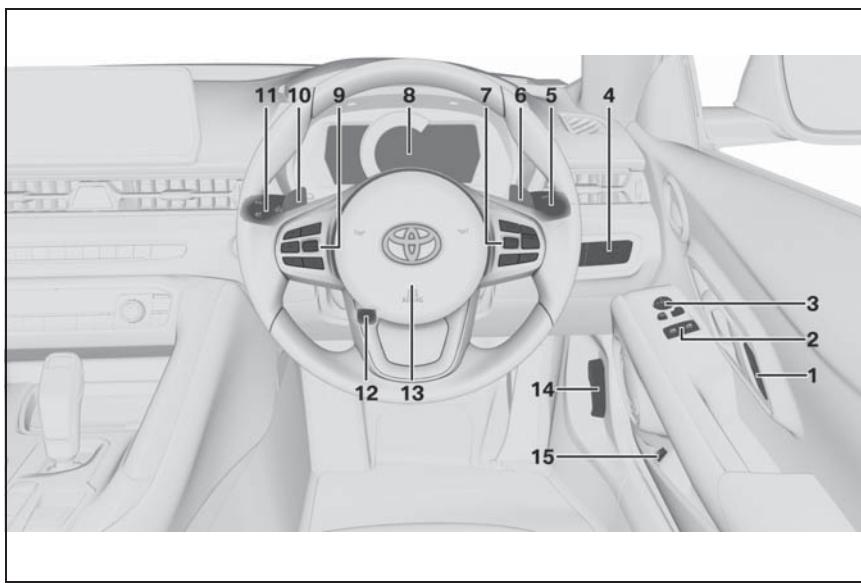
運転席まわり	32
停止状態、作動および走行スタンバイ	36
Toyota Supra Command	39
スピーチ コントロールシステム	49
一般設定	52
個人設定	56
接続	61
取扱説明書のメディア	68

運転席まわり

車両装備

この章では、モデルシリーズに提供される全ての標準装備、国別装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備や国別仕様などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、各国の有効な法律と規定に従ってください。

ステアリングホイールの周辯



1 ドアロックスイッチ



ロック解除 P.77



ロック P.77

2 パワーウィンドウ P.85



リアフォグライト P.147

OFF ライトオフ

デイランニングライト P.145

モードスモールライト P.143

3 ドアミラーの操作 P.95

4 ライト

AUTO オートライトコントロー

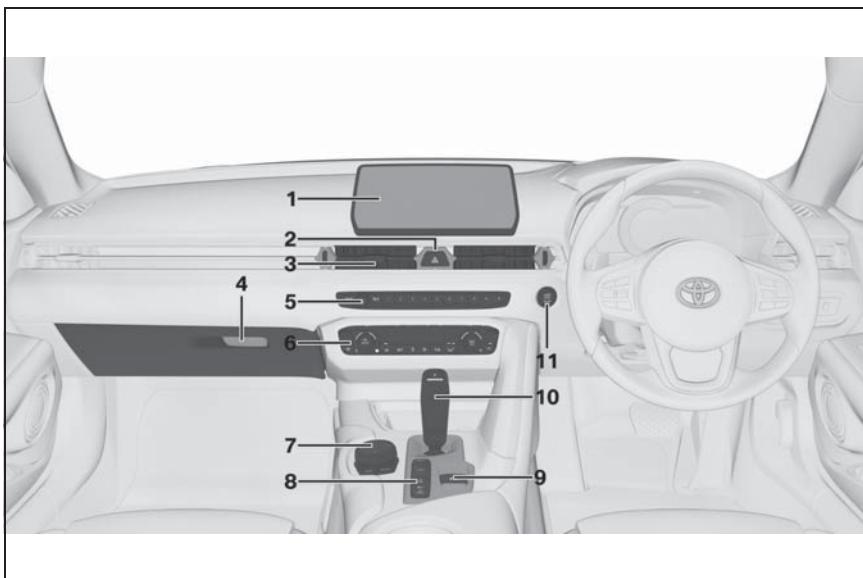
- ル P.143
 アダプティブライト機能 P.145
 オートマチックハイビーム P.146
-  ロービーム P.144
-  メーターパネル照明 P.148
-  パーキングライト、右 P.144
-  パーキングライト、左 P.144
- 5** ステアリングコラムレバーー右側
 ワイパー P.115
-  AUTO レインセンサー P.116
-  フロントウィンドウを清掃する P.117
- 6** パドルスイッチ P.122
- 7** ステアリングホイールの右側のボタン
 MODE 選択リスト P.135
-  音量、ナビゲーションシステム取扱書を参照
-  スピーチコントロールシステム P.49
-  電話、ナビゲーションシステム取扱書を参照
- 選択リスト用ダイヤル P.135
- 8** メーターパネル P.126
- 9** ステアリングホイールの左側のボタン
 LIM マニュアルスピードリミッター P.189
-  レーダークルーズコントロールオン / オフ P.191
-  SET クルーズコントロール：速度の記憶 P.191
-  RES/CNCL レーダークルーズコントロールを中断する / レーダークルーズコントロールを続行する P.191
-  レーダークルーズコントロール：車間距離を増やす / 車間距離を狭める P.191
- レーダークルーズコントロール用ダイヤル
- 10** パドルスイッチ P.122
- 11** ステアリングコラムレバーー左側
 R/L ターンインジケーター P.114
-  ヘッドライト、パッシングライト P.115
-  オートマチックハイビーム P.146
-  BC 走行データ P.135
- 12** ステアリング調節 P.97

13 ホーン、全面
P.262

14 ボンネットロック解除
P.73

15 トランクリッドロック解除
P.73

センターコンソールの周辺



1 コントロールディスプレイ
P.41

走行モード SPORT

Toyota Supra

2 ハザードフラッシャー
P.284

Safety P.161

3 送風口 P.217

アイドリングストップ

4 グローブボックス P.222

P.110

5 ラジオ / マルチメディアについて
ては、ナビゲーションシステム
取扱書を参照

クリアランスソナー P.200,

6 オートエアコン P.212

リアビューカメラ P.206

7 コントローラーとボタン P.41

リヤクロストラフィックアラート P.209

8 スポーツモードスイッチ
P.124

ビーコルスタビリティコントロール (VSC) P.186

- 9  パーキングブレーキ

P.113

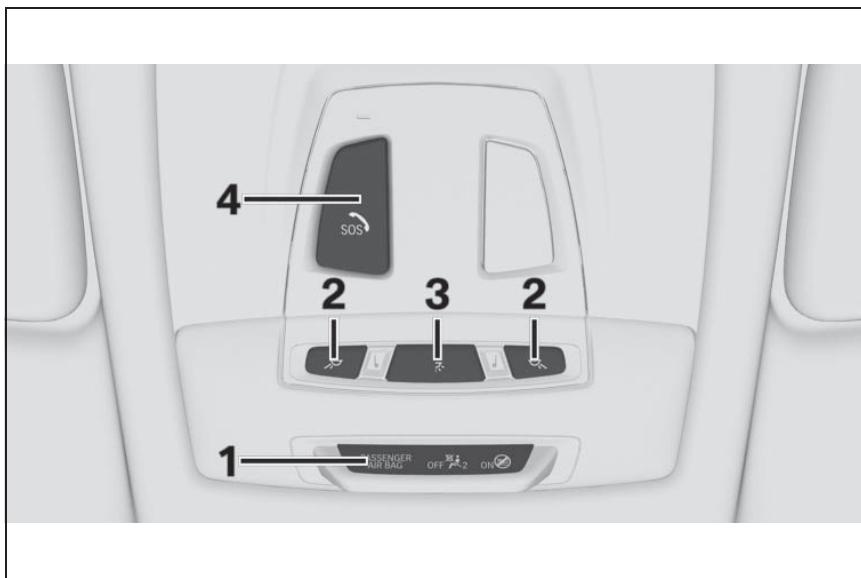
- 10 オートマチックトランスマッシュ
ションセレクターレバー

P.119

11 

走行スタンバイをオン /
オフにする P.109

ルーフ内張りの周辺



- 1  助手席エアバッグの表示

灯 P.160

- 2  リーディング ライト

P.149

- 3  ルームライト P.148

- 4  SOS コール、ナビゲー

ションシステム取扱書を参照

停止状態、作動および走行 スタンバイ

車両装備

この章では、モデルシリーズに提供される全ての標準装備、国別装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備や国別仕様などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、各国の有効な法律と規定に従ってください。

一般事項

状況に応じて、車両は次の3つの状態のいずれかになります：

- ・ 停止状態
- ・ 作動スタンバイ
- ・ 走行スタンバイ

停止状態

原理

車両が停車状態のとき、全ての電装品はオフになっています。

一般事項

外側から開ける前とロックして車両を離れた後、車両は停止状態になっています。

安全に関する注意事項

警告

固定されていない車両は自然に動き出してしまうことがあります。事故の危険があります。車両を離れる前に、車両が動き出さないように固定してください。

車両から離れない

以下のようにして、車両が動き出さないように確実に固定してください：

- ・ パーキングブレーキをかけます。
- ・ 上り坂または下り坂では、フロントホイールを縁石の方向に向けます。
- ・ 上り坂または下り坂では、例えば輪止めなどで車両を補助的に固定してください。

警告

お子様やペットを車内に残したままにすると、以下の操作などが行われることにより、車両が動き出したり、お子様やペットがけがをしたり、他の道路利用者が危険にさらされるおそれがあります：

- ・ スタート / ストップボタンが押される
- ・ パーキングブレーキの解除
- ・ ドアやウィンドウの開閉
- ・ セレクターレバーがポジション N に入る
- ・ 車両装備の操作

事故の危険またはけがをする危険があります。お子様やペットを車内に残したままにしないでください。車両を離れるときは、電子キーを携行し、車両をロックしてください。

停止状態、自動

以下の前提条件で自動的に停止状態に切り換わります：

- ・車両で操作がまったく行われずに数分が経過した後
- ・車両バッテリーの充電状態が低い場合
- ・Toyota Supra Commandによる設定に応じて、車両を離れる際にフロントドアのいずれかを開けるとき

電話での通話中には、停止状態は自動的に確立されません。



メーターパネルのOFF表示が消えるまでボタンを押し続けます。

作動スタンバイ

原理

作動スタンバイがオンの場合は、停止時にほとんどの機能を操作できます。希望の設定を行うことができます。

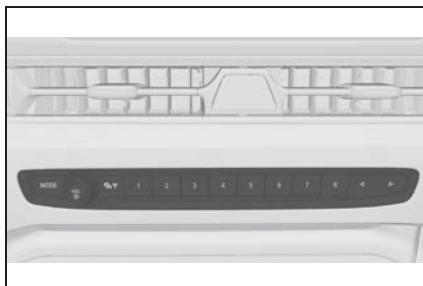
フロントドアを開けるときに停止状態を確立する

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「車両設定」
- 3 「ドア / キー」
- 4 「ドア開時に車両電源オフ」

停止状態、手動

走行終了後に車両で停止状態を確立する：



メーターパネル内の表示



メーターパネルにOFFが表示されます。ドライブトレインがオフで、作動スタンバイがオンの状態です。

走行スタンバイ

原理

走行スタンバイのオンはエンジンスタートに相当します。

一般事項

ビーカルスタビリティコントロールとトラクションコントロールVSCなどのいくつかの機能は走行スタンバイオン時にのみ操作でき

ます。

安全に関する注意事項

⚠ 警告

エキゾーストパイプが塞がれている場合や換気が十分でない場合は、有害な排気ガスが車内に侵入するおそれがあります。排気ガスは無色で無臭の有害物質を含んでいます。閉じられた空間では、車両の外側にも排気ガスが溜まるおそれがあります。事故の危険があります。エキゾーストパイプが塞がれないよう、また十分に換気するように注意してください。

⚠ 警告

固定されていない車両は自然に動き出してしまうことがあります。事故の危険があります。車両を離れる前に、車両が動き出さないように固定してください。

車両から離れない

以下のようにして、車両が動き出さないように確実に固定してください：

- ・ パーキングブレーキをかけます。
- ・ 上り坂または下り坂では、フロントホイールを縁石の方向に向けます。
- ・ 上り坂または下り坂では、例えば輪止めなどで車両を補助的に固定してください。

⚠ 警告

ペダルを踏み間違えると、車両の思わぬ動作につながるおそれがあります。事故の危険があります。エンジンスタート後、ブレーキとアクセルを踏み間違えないよう、ペダルの位置を十分確認してください。

⚠ 警告

車内で仮眠をすると、無意識にアクセルを踏み込んだり、セレクターレバーを動かしたりするおそれがあります。火災や事故の危険があります。車内で仮眠しないでください。

⚠ 注意

スタートの試みが繰り返される場合や短時間のうちに連続して何度もスタートが行われると、燃料が燃焼しなかつたり、不完全燃焼します。キャタライザーが過熱するおそれや、損傷が発生するおそれがあります。短時間のうちに連続してスタートを繰り返すことは避けてください。

走行スタンバイオン

原理



走行スタンバイはスタート / ストップボタンによりオンになります：

オートマチックトランシッショ

- 1 ブレーキペダルを踏みます。
- 2 スタート / ストップボタンを押します。

始動は、短時間自動的に行われ、エンジンがかかると終了します。

メーターパネル内の大部分の表示灯や警告灯が、異なった長さで点灯します。

ガソリンエンジン

エンジン仕様により、エンジン始動後にフル駆動出力が提供されるまで約30秒かかる場合があります。この場合、車両は通常通りに加速しません。

メーターパネル内の表示

走行スタンバイがオンのとき、タコメーターは現在のエンジン回転数を示します。

走行スタンバイをオフにする

- 1 停車している状態で、セレクターレバーをポジションPにします。
- 2 スタート / ストップボタンを押します。エンジンがオフになります。車両は作動スタンバイに切り換わります。
- 3 パーキングブレーキをかけます。

Toyota Supra Command

車両装備

この章では、モデルシリーズに提供される全ての標準装備、国別装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備や国別仕様などの理由により、お客様の車両では使用できない装備についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、各国の有効な法律と規定に従ってください。

原理

Toyota Supra Commandは、多数のスイッチ機能を統合したものです。これらの機能はコントローラーにより操作することができます。

安全に関する注意事項

⚠ 警告

走行中に統合インフォメーションシステムおよび通信機器を操作すると、交通状況から注意がそれるおそれや、車両を制御できなくなるおそれがあります。事故の危険があります。システムや装置の操作は、交通状況が許す場合にのみ行ってください。必要な場合は車両を止め、停止状態でシステムや装置を操作してください。

入力と表示

入力比較

名前と住所の入力の場合は、文字を入力するにつれて、徐々に選択が絞られ、場合によっては完全に入力されます。

入力は、車両に保存されているデータと連続的に比較されます。

- 入力時には、データがある文字のみが表示されます。
- 目的地検索：Toyota Supra Command で使用可能な全ての言語で、場所の名前を入力することができます

機能を作動させる / 作動解除する

いくつかのメニュー項目の前にチェックボックスが表示されます。このチェックボックスは、機能が作動しているか、または作動解除されているかを示します。メニュー項目の選択により、機能が作動または作動解除されます。

- 機能が作動しています。
- 機能が作動解除されています。

ステータス情報

一般事項

コントロール ディスプレイの上部領域にステータスバーがあります。ステータス情報はシンボルで表示されます。

ステータスバーのシンボル

電話

シンボル 意味



電話を受ける / かける



不在着信



モバイルネットワークの受信
感度



ネットワーク サーチ



モバイルネットワークが利用
できない



携帯電話の充電量が残りわず
かである



ローミングが作動中



新着 SMS あり



新着メッセージあり



リマインダー



送信ができない



連絡先をロードする

エンターテイメント

シンボル 意味



Bluetooth オーディオ



USB / オーディオ インター
フェース



無線 LAN(WLAN)

その他のシンボル

シンボル 意味



チェック コントロール メッ
セージ

シンボル 意味



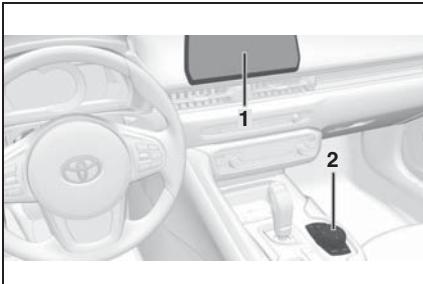
音声出力がオフ



現在の車両位置を検知

操作ボタン

概要



- 1 タッチスクリーン付きコントロールディスプレイ
- 2 ボタンおよびタッチパッド付きコントローラー

コントロールディスプレイ

一般事項

コントロールディスプレイを手入れする際は、お手入れの注意(296ページ参照)を守ってください。

直射日光などによってコントロールディスプレイが非常に高い温度にさらされる場合、明るさが低下し、完全にオフになることがあります。影やエアコンにより温度が下がると、再び通常の機能に戻ります。

安全に関する注意事項

注意

コントロールディスプレイの前に物があると、物が滑ってコントロールディスプレイを損傷するおそれがあります。コントロールディスプレイの前には物を置かないでください。

自動でオン/オフにする

コントロールディスプレイは、ロック解除後に自動的にオンになります。

特定の状況では、例えば車両で操作がまったく行われずに数分が経過した後、コントロールディスプレイは自動的にオフになります。

手動でオン/オフにする

コントロールディスプレイは手動でもオフにすることができます。

- 1 **OPTION** ボタンを押します。
- 2 「コントロールディスプレイ オフ」

新たにオンにするには、コントローラーまたはコントローラーのいずれかのボタンを押します。

ナビゲーションシステム装備のコントローラー

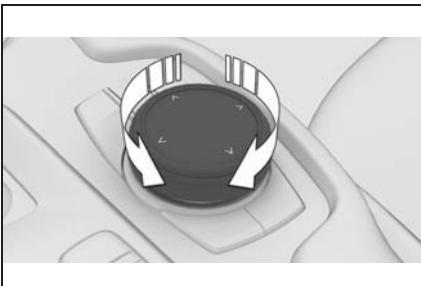
一般事項

ボタンを使って、メニューを直接呼び出すことができます。コントローラーでメニュー項目を選択し、設定を行うことができます。

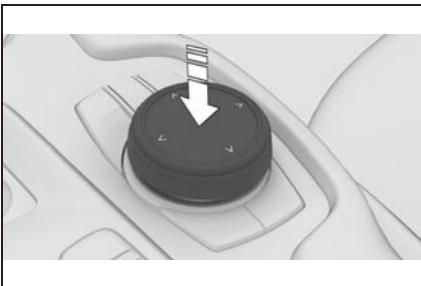
コントローラーのタッチパッド(47 ページ参照)で、Toyota Supra Command のいくつかの機能を操作することができます。

操作方法

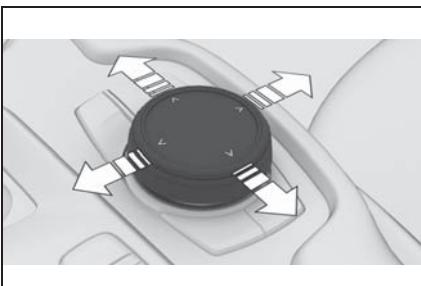
- 回す。メニュー項目などを切り替えます。



- 押す。メニュー項目などを選択します。



- 4 方向に傾ける。画面などを切り替えます。



コントローラーのボタン

ボタン	機能
MENU	1 回押す：メイン メニューを呼び出します。 2 回押す：メイン メニューの全てのメニュー項目を表示します。
COM	コミュニケーション メニューを呼び出します。
MEDIA	メディア / ラジオ メニューを呼び出します。
NAV	ナビゲーションの目的地入力メニューを呼び出します。
MAP	ナビゲーションの地図を呼び出します。
BACK	1 回押す：前の画面を呼び出します。 押し続ける：最後に使用したメニューを呼び出します。
OPTION	オプション メニューを呼び出します。

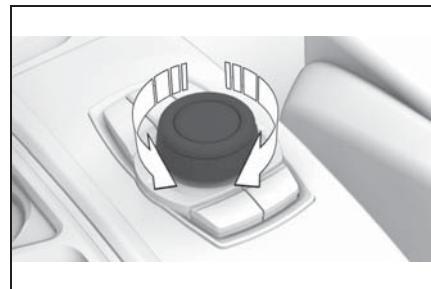
ナビゲーション システム非装備コントローラー

一般事項

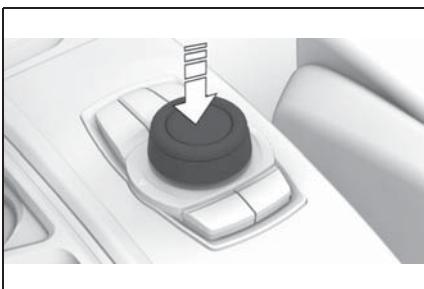
ボタンを使って、メニューを直接呼び出すことができます。コントローラーでメニュー項目を選択し、設定を行うことができます。

操作方法

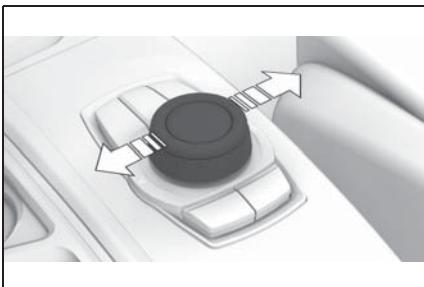
- 回す。メニュー項目などを切り替えます。



- ・押す。メニュー項目などを選択します。



- ・2 方向に傾ける。画面などを切り替えます。



コントローラーのボタン

ボタン	機能
MENU	1 回押す：メイン メニューを呼び出します。 2 回押す：メイン メニューの全てのメニュー項目を表示します。
COM	コミュニケーション メニューを呼び出します。
MEDIA	メディア / ラジオ メニューを呼び出します。
BACK	1 回押す：前の画面を呼び出します。 押し続ける：最後に使用したメニューを呼び出します。
OPTION	オプション メニューを呼び出します。

コントローラーによる操作

メイン メニューを呼び出す

MENU ボタンを押します。



メイン メニューが表示されます。

Toyota Supra Command の全ての機能は、メイン メニューに呼び出することができます。

メイン メニューを適合化する

- 1 **MENU** ボタンを 2 回押します。

メイン メニューの全てのメニュー項目が表示されます。

- 2 メニュー項目を選択します。

- 3 メニュー項目を希望の位置に移動させるには、コントローラーを右または左に傾けます。

メニュー項目を選択する

ハイライトされたメニュー項目を選択することができます。

- 1 希望のメニュー項目がマークされるまで、コントローラーを回します。



- 2 コントローラーを押します。

表示される画面の切換え

任意のメニュー項目（例：「システム設定」）を選択すると、新しい画面が表示されます。

- ・ コントローラーを左に傾けます。

現在の画面が閉じられ、前の画面が表示されます。

- ・ **BACK** ボタンを押します。

前の画面が再度開きます。

- ・ コントローラーを右に傾けます。

新しい画面が開きます。

矢印は、その他の画面を呼び出すことができるることを示しています。

前回使用したメニューを呼び出す

- BACK** ボタンを押し続けます。

前回使用したメニューが表示されます。

オプション メニューを呼び出す

- OPTION** ボタンを押します。

「オプション」メニューが表示されます。

メニューは、いくつかの項目に分けて構成されています：

- ・ 画面設定、例：「サブ画面」。
- ・ メイン メニューで操作可能な項目、例：「マルチメディア」用。
- ・ 場合によっては、メイン メニューでその他の操作可能な項目、例：「放送局登録」。

設定を行う

明るさなどの調節を行うことができます。

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「システム設定」
- 3 「ディスプレイ」
- 4 「コントロールディスプレイ」
- 5 「夜間の明るさ」
- 6 希望の設定が表示されるまでコントローラーを回します。

7 コントローラーを押します。

文字または記号を入力する

一般事項

文字と記号は、コントローラーまたはタッチスクリーンで入力することができます。その場合、キーボードの表示は自動的に変更されます。

入力

- 1 入力言語を選択します。
 - 2 コントローラーを回す：列をマークします。
 - 3 コントローラーを押す：マークされた列が選択されます。
- コントローラーを左に傾ける：列の選択に戻ります。
- 4 文字または音節をマークします。
 - 5 OK：文字または音節を選択します。

上の行に、文字または音節が表示されます。

シンボルの一覧

選択できないシンボルは灰色で表示されます。

シンボル 機能

OK 選択を確定します。

①④ 文字を切換える機能です。

シンボル 機能

← 入力を削除します。
長く押す：全ての入力を削除します。

□ スペースを挿入します。

アルファベット文字のリストを操作する

アルファベット文字のリストに30以上の項目が含まれる場合、項目のある文字を左縁部に表示させることができます。

- 1 コントローラーを素早く左または右に回します。

左の縁部に、項目がある全ての文字が表示されます。

- 2 希望する項目の最初の文字を選択します。

選択した文字の最初の項目が表示されます。

タッチスクリーンによる操作

一般事項

コントロールディスプレイにはタッチスクリーンが付いています。

タッチスクリーンには指で触れてください。物を使用しないでください。

メインメニューを呼び出す

⌂ シンボルをタップします。



メインメニューが表示されます。

Toyota Supra Command の全ての機能は、メインメニューに呼び出すことができます。

メインメニューを適合化する

- 1 シンボルをタップします。
メインメニューの全てのメニュー項目が表示されます。
- 2 メニュー項目を、希望の位置まで右または左にスライドします。

メニュー項目を選択する

希望のメニュー項目に触れます。



自動更新内容

メニュー項目内で自動更新内容を表示させることができます。メニュー項目の内容、例えばナビ

ゲーションのアクティブルート案内が自動的に更新されます。自動更新内容に直接アクセスするには、メニュー項目の下部を軽く押します。

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「メインメニューcontents」

表示される画面の切換え

1 つのメニュー項目を選択すると、新しい画面が表示されます。

矢印は、その他の画面を呼び出すことができる事を示しています。

- ・ 左方向にはらいります。
- ・ 矢印を軽く押します。

新しい画面が開きます。

設定を行う

明るさなどの設定はタッチスクリーンで行うことができます。

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「システム設定」
- 3 「ディスプレイ」
- 4 「コントロールディスプレイ」
- 5 「夜間の明るさ」
- 6 希望する設定を行います：
 - ・ 希望の設定が表示されるまで右または左にスライドします。
 - ・  シンボルをタップします。

文字または記号を入力する

一般事項

文字と記号は、コントローラーまたはタッチスクリーンで入力することができます。

その場合、キーボードの表示は自動的に変更されます。

シンボルの一覧

選択できないシンボルは灰色で表示されます。

シンボル 機能

文字を切換える機能です。

入力を削除します。

長く押す：全ての入力を削除します。

スペースを挿入します。

タッチスクリーンでの手書き入力

シンボルをタップします。

文字と記号をタッチスクリーンで直接入力することができます。

ナビゲーションの地図を操作する

ナビゲーションの地図をタッチスクリーンで動かすことができます。

機能 操作方法

地図を拡大 / 縮小する。	指で表示を狭めるとか、広げます。
---------------	------------------

タッチパッド

一般事項

コントローラーのタッチパッドで、Toyota Supra Command のいくつかの機能を操作することができます。

機能を選択する

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」

2 「システム設定」

3 「タッチパッド」

4 希望する設定を選択します：

- ・「手書き入力」：文字と記号を入力します。
- ・「地図」：地図を操作します。
- ・「フィードバック音」：入力した文字と記号を読み上げます。

文字または記号を入力する

原理

タッチパッドで文字、音節、記号を入力することができます。

タッチパッドによる入力をオンにする

シンボルをタップします。

タッチパッドによる入力がオンになります。

1 入力言語を選択します。

2 入力モードを選択します。

3 タッチパッドで文字、音節、数字を入力します。

文字を削除するには、タッチパッド上で左方向にスワイプします。

スクロール地図を操作する

ナビゲーションシステムの地図は、タッチパッドを用いてスクロールすることができます。

機能	操作方法
地図をスクロールする。	該当する方向にスワイプする。
地図を拡大 / 縮小する。	タッチパッド上に置いた 2 本の指を狭めるか、広げる。
メニューを表示する。	1 回タップする。

プログラマブルボタン

一般事項

ラジオ放送局、ナビゲーションの目的地、電話番号、メニューなど、Toyota Supra Command の機能は、プログラマブルボタンにメモリーし、直接呼び出すことができます。

設定は、そのとき使用しているドライバー プロファイルに記憶されます。

機能をメモリーする

- 1 Toyota Supra Command で機能を選択します。
- 2 1...8 信号音が鳴るまで、希望のボタンを押し続けます。

機能を実行する

1...8 ボタンを押します。

機能はすぐに実行されます。電話番号が登録されている場合は、直接その番号に電話をかけます。

ボタンの設定を表示する

ボタンを指で触れてください。手袋をはめたり、他の物を使用しないでください。

ボタンの設定内容は画面の上端に表示されます。

ボタンの設定を削除する

- 1 ボタン 1 と 8 を同時に約 5 秒間押し続けます。
- 2 「OK」

スピーチ コントロールシステム

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、国別装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備や国別仕様などの理由により、お客様の車両では使用できない装備についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、各国の有効な法律と規定に従ってください。

原理

スピーチ コントロール システムを介して、コントロール ディスプレイに表示されるほとんどの機能を音声を使ったコマンドで操作できます。システムは、ボイス コマンドでの操作をサポートします。

一般事項

- 車両停止時にのみ使用可能な機能は、スピーチ コントロール システムでは一部しか操作できません。
- 運転席側にこのシステムの専用マイクがあります。
- は、取扱説明書に記載されているスピーチ コントロール システム用のボイス コマンドを示します。

機能の前提条件

- Toyota Supra Command から、スピーチ コントロール システムに対応した言語を設定する必要があります。言語を設定します (52 ページ参照)。
- コマンドは、常に、スピーチ コントロール システムの言語で話してください。

ボイス コマンドを話す

スピーチ コントロールを作動させる

-  ステアリングのボタンを押します。
- 警告音を待ちます。
- ボイス コマンドを話します。

コントロール ディスプレイのシンボルは、スピーチ コントロール システムが作動していることを示します。

その他のコマンドが可能でない場合があります。その場合は、機能を Toyota Supra Command により操作します。

スピーチ コントロールを終了する

 ステアリングのボタンを押すか、または、キャンセル。

利用可能なボイス コマンド

一般事項

コントロール ディスプレイの多くのメニューは、ボイス コマンドで操作することができます。

他のメニューからのコマンドもボイス コマンドとして使用できます。

リスト エントリーの中には、例えば電話帳エントリーなど、同じくスピーチ コントロール システムで選択できるものがあります。その際、リストエントリーを各リストの表示どおりに正確に発音します。

可能なコマンドの表示

コントロール ディスプレイの上部領域に以下が表示されます：

- ・ 現在のメニューのいくつかの利用可能なコマンド
- ・ 他のメニューのいくつかの利用可能なコマンド
- ・ 音声認識のステータス
- ・  暗号化された接続が使用できません。

例：音量調節を呼び出す

コントローラーでも選択できるメニュー項目のコマンドを発音します。

- 1 必要に応じてオーディオの音声出力をオンにします。
- 2  ステアリングのボタンを押します。
- 3 マルチメディア、

4 サウンド、

スピーチ コントロール システムのヘルプ

- ・ 利用可能なボイス コマンドを読み上げさせます：、音声コマンド、。
- ・ スピーチ コントロール システムの基本機能に関する情報を読み上げさせます：、音声操作情報、。
- ・ 現在のメニューに関するヘルプを読み上げさせます：、ヘルプ、。

SOS コールに関する情報

緊急時の連絡にスピーチ コントロールを使用しないでください。
緊張した状態では、言葉や声の調子が変わることがあります。そのため、電話が接続されるまでに必要以上の遅れが生じます。

その代わりに、SOS ボタン (285 ページ参照) を使ってください。

設定

言語の設定

このシステムのスピーチ コントロールおよびアナウンスに使用する言語を設定することができます。

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「システム設定」
- 3 必要に応じて「言語 (Language)」

- 4 「言語 (Language):」**
5 希望の言語を選択します。

言語ダイアログの設定

システムが標準ダイアログまたはショートダイアログのどちらを使用するかを設定することができます。

ショートダイアログの場合は、システムの読み上げが短縮されて再生されます。

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「システム設定」
- 3 「言語 (Language)」
- 4 「音声操作 :」
- 5 希望する項目を選択します。

音声出力中に話す

スピーチコントロールシステムからの問い合わせの最中に答えることができます。背景の騒音や話し声などによって問い合わせが頻繁に中断される場合は、この機能を作動解除することができます。

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「システム設定」
- 3 「言語 (Language)」
- 4 「案内音声出力中の発話」

オンライン音声処理

オンライン音声処理によりディクテーション機能と話し言葉による目的地入力を行うことができ、ボイス検知の質が向上します。これ

を利用する場合は、データが暗号化された接続を介してサービス プロバイダーに伝送され、そこでローカルにメモリーされます。

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「システム設定」
- 3 「言語 (Language)」
- 4 「サーバー経由の音声認識」

音量を調節する

音声案内の再生中に、希望する音量に調節されるまで音量ボタンを操作します。

- ・ 音量は、他の音源の音量が変えられても、維持されます。
- ・ 現在使用しているドライバー プロファイルに対して、音量が記憶されます。

システムの限界

- ・ 特定のノイズが検知され、場合によっては問題になることがあります。ドア、ウィンドウおよびルーフトップを閉めた状態に維持します。
- ・ 助手席またはリアシートからのノイズにより、システムが破損するおそれがあります。話している間は、車内で音をたてないようにしてください。
- ・ 方言が強すぎる場合は、ボイス検知に問題が生じるおそれがあります。大きな声ではっきりと発音してください。

スマートフォンをスピーチ コントロールで操作する

車両と接続されているスマートフォンはスピーチコントロールで操作できます。

そのためには、スマートフォンの音声コントロールを起動します。

- 1** ステアリング ホイールの  ボタンを約 3 秒間押し続けます。

スマートフォンの音声コントロールが起動します。

- 2**  ボタンを放します。

正常に作動した場合は、コントロールディスプレイに確認が表示されます。

音声コントロールが作動しない場合は、Bluetooth 対応の機器リストがコントロール ディスプレイに表示されます。

一般設定

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、国別装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備や国別仕様などの理由により、お客様の車両では使用できない装備についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、各国の有効な法律と規定に従ってください。

言語

言語の設定

Toyota Supra Command から：

- 1** 「車両情報 / 設定」
- 2** 「システム設定」
- 3** 必要に応じて「言語 (Language)」
- 4** 「言語 (Language):」
- 5** 希望する項目を選択します。

現在使用しているドライバー プロファイルに対して、設定内容が記憶されます。

言語ダイアログの設定

スピーチ コントロール システム (50 ページ参照) 用音声ダイアログ。

時刻

時間帯を設定する

Toyota Supra Command から :

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「システム設定」
- 3 「日付と時刻」
- 4 「タイムゾーン :」
- 5 希望する項目を選択します。

現在使用しているドライバー プロファイルに対して、設定内容が記憶されます。

時刻設定

Toyota Supra Command から :

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「システム設定」
- 3 「日付と時刻」
- 4 「時刻 :」
- 5 希望する時間が表示されるまで、コントローラーを回します。
- 6 コントローラーを押します。
- 7 希望する分が表示されるまで、コントローラーを回します。
- 8 コントローラーを押します。

時刻表示方法を設定する

Toyota Supra Command から :

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「システム設定」
- 3 「日付と時刻」
- 4 「時間形式 :」
- 5 希望する項目を選択します。

現在使用しているドライバー プロファイルに対して、設定内容が記憶されます。

自動時間設定

装備に応じて、時刻、日付、必要に応じて時間帯が自動更新されます。

Toyota Supra Command から :

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「システム設定」
- 3 「日付と時刻」
- 4 「自動時刻設定」

現在使用しているドライバー プロファイルに対して、設定内容が記憶されます。

日付

日付設定

Toyota Supra Command から :

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「システム設定」
- 3 「日付と時刻」
- 4 「日付 :」
- 5 希望する日が表示されるまで、コントローラーを回します。
- 6 コントローラーを押します。
- 7 月と年の設定を行います。

日付表示方法の設定

Toyota Supra Command から :

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「システム設定」
- 3 「日付と時刻」

4 「日付表示」

5 希望する項目を選択します。

現在使用しているドライバー プロファイルに対して、設定内容が記憶されます。

表示単位の設定

装備に応じて、燃費、距離、温度などのさまざまな値の表示単位を設定できます。

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「システム設定」
- 3 「単位」
- 4 希望のメニュー項目を選択します。
- 5 希望する項目を選択します。

現在使用しているドライバー プロファイルに対して、設定内容が記憶されます。

現在の車両位置の表示を有効にする / 無効にする

原理

車両位置特定がオンになっている場合、現在の車両位置を Toyota Supra アプリに表示させることができます。

作動させる / 作動解除する

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「車両設定」
- 3 「車両位置測定」

4 「車両位置測定」

警告ウィンドウを作動 / 作動解除する

多くの機能に関して、警告ウィンドウが自動的にコントロール ディスプレイに表示されます。これらの警告ウィンドウの一部を作動または作動解除することができます。

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「システム設定」
- 3 「警告ウィンドウ」
- 4 希望する項目を選択します。

現在使用しているドライバー プロファイルに対して、設定内容が記憶されます。

コントロール ディスプレイ

明るさ

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「システム設定」
- 3 「ディスプレイ」
- 4 「コントロールディスプレイ」
- 5 「夜間の明るさ」
- 6 希望の明るさに達するまで、コントローラーを回します。
- 7 コントローラーを押します。

現在使用しているドライバー プロファイルに対して、設定内容が記憶されます。

光の条件によっては、明るさの調節が直接認識できません。

メイン メニューの内容を選択する

メイン メニューのいくつかのメニュー項目では、表示された内容を選択することができます。

- 1 **OPTION** ボタンを押します。
- 2 「メインメニュー」
- 3 希望のメニューと希望の内容を選択します。

現在使用しているドライバー プロファイルに対して、設定内容が記憶されます。

メッセージ

原理

このメニューは、車両で受信される全てのメッセージを、中央にリストで表示します。

一般事項

- 以下のメッセージを表示させることができます：
- ・ 交通情報
 - ・ 車両メッセージ
 - ・ コミュニケーション メッセージ (E メール、SMS、リマインダーなど)
 - ・ 必要なサービスについてのメッセージ

メッセージはさらにステータスバーにも表示されます。

メッセージを呼び出す

Toyota Supra Command から：

- 1 「通知」
- 2 希望のメッセージを選択します。

メッセージが表示されるメニューが開きます。

メッセージを削除する

車両メッセージ以外の全てのメッセージをリストから削除することができます。車両メッセージは、それが重要である間は残されます。

Toyota Supra Command から：

- 1 「通知」
- 2 必要に応じて希望のメッセージを選択します。
- 3 **OPTION** ボタンを押します。
- 4 「この通知を消去」または「全ての通知を消去」

設定

以下の設定を行うことができます：

- ・ メッセージの受信を許可するアプリケーションを選択する。
- ・ メッセージの順序を日付順または優先順に並べ替える。

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「システム設定」
- 3 「通知」
- 4 希望する項目を選択します。

個人設定

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、国別装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備や国別仕様などの理由により、お客様の車両では使用できない装備についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、各国の有効な法律と規定に従ってください。

データ保護

データ転送

原理

車両は、使用するためにサービスプロバイダーへのデータ転送が必要になる各種機能を提供します。一部の機能については、データ転送を無効にすることができます。

一般事項

データ転送を無効にすると、その機能は使用できません。

設定は、必ず車を止めた状態で行ってください。

作動させる / 作動解除する

コントロール ディスプレイに表示された指示に従ってください。

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「システム設定」
- 3 「データ保護」
- 4 希望する項目を選択します。

車両の個人データを削除する

原理

車両は利用に応じて個人データを保存します（ラジオ局の保存など）。これらの個人データは Toyota Supra Command で完全に削除することができます。

一般事項

装備に応じて以下のデータを削除することができます：

- ・ ドライバー プロファイルの設定
- ・ 保存されたラジオ局
- ・ 保存されたプログラマブル ボタン
- ・ トリップコンピューター データ
- ・ 音楽ハードディスク
- ・ ナビゲーション（保存された目的地など）
- ・ 電話帳
- ・ オンライン データ（お気に入り、クッキーなど）
- ・ Office データ、例えばメモなど
- ・ ログイン アカウント

データの削除は最大 15 分かかる場合があります。

作動条件

データは停車時にのみ削除できます。

データを削除する

コントロール ディスプレイの指示を確認し、それに従ってください。

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「システム設定」
- 3 「データ保護」
- 4 「個人データの削除」
- 5 「個人データ削除」
- 6 「OK」
- 7 車両を離れた後にロックします。

15 分後に削除プロセスが完全に終了します。

全てのデータが削除されていない場合は、必要に応じて削除を繰り返してください。

削除を中止する

データの削除を中止するには、走行スタンバイをオンにします。

ドライバープロファイル

原理

ドライバープロファイルに複数の運転者の個人設定をメモリーして、必要に応じて再び呼び出すことができます。

一般事項

3 つのドライバープロファイルを使用して、個人の車両設定を記憶します。各電子キーはこれらのドライバープロファイルのいずれか

に割り当てられています。

車両がいずれかの電子キーでロック解除されると、それに割り当てられているドライバープロファイルが有効になります。ドライバープロファイルに記憶されている全ての設定が自動的に実行されます。

複数の運転者がそれぞれ自分の電子キーを使用すると、ロック解除時に車両がその個人設定に適合します。途中で他の電子キーによって車両を使用した場合でも、これまでの個人設定を復元できます。

設定の変更は、現在使用されているドライバープロファイルに自動的に記憶されます。

Toyota Supra Command で他のドライバープロファイルが選択されると、そこに記憶されている設定が自動的に実行されます。新しいドライバープロファイルは、現在使用されている電子キーに割り当てられます。

さらに、電子キーに割り当てられないゲスト プロファイルを使用できます。これは、個人のドライバープロファイルを変更せずに車両で設定を行うために使用することができます。

機能の前提条件

特定の運転者専用のドライバープロファイルを設定できるようにするには、検知された電子キーと運転者の割当が明確でなければなりません。

この明確さは以下の条件により得られます：

- 運転者が自分の電子キーのみを携行している
- 運転者が車両をロック解除する
- 運転者が運転席ドアから車両に乗り込む

現在使用されているドライバー プロファイル

コントロール ディスプレイをオンにすると、現在使用されているドライバー プロファイルの名前が表示されます。

ドライバー プロファイルを選択します(58 ページ参照)。

エンジンをスタートするか、任意のボタンを押すと、最後に選択された表示がコントロール ディスプレイに示されます。

Toyota Supra Command でウェルカム画面を終了させるには：
「OK」

設定

以下のシステムおよび機能の設定が、現在使用しているドライバー プロファイルに記憶されます。記憶可能な設定の範囲は、国別仕様および装備によって異なります。

- ロック解除とロック
- ライト
- エアコンディショニング
- ラジオ
- メーターパネル
- プログラマブル ボタン
- 音量、音質
- コントロールディスプレイ
- ナビゲーション

- TV
- クリアランスソナー
- リアビューカメラ
- ヘッドアップディスプレイ
- スポーツモードスイッチ
- シート位置、ドアミラー位置

シートメモリーで保存したポジションおよび最後に設定したポジションが保存されます。

- クルーズコントロール
- Toyota Supra Safety

プロファイルの管理

ドライバー プロファイルを選択する

現在使用している電子キーに関係なく、他のドライバー プロファイルを呼び出すことができます。これにより、自分の電子キーでロック解除されなかった場合に、個人の車両設定を呼び出すことができます。

Toyota Supra Command から：

- 「車両情報 / 設定」
 - 「ドライバー プロファイル」
 - ドライバー プロファイルを選択します。
 - 「OK」
- 呼び出されたドライバー プロファイルに記憶されている設定が自動的に実行されます。
 - 呼び出されたドライバー プロファイルは、現在使用されている電子キーに割り当てられます。
 - ドライバー プロファイルがすでに他の電子キーのひとつに割り当てられている場合、このドライバー プロファイルが削除されます。

イバープロファイルは両方の電子キーに有効です。

ゲストプロファイル

ゲストプロファイルにより、3つの個人ドライバープロファイルのいずれにも保存されない個人設定を行うことができます。

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「ドライバープロファイル」
- 3 「ゲスト (プロファイルなし) 」
- 4 「OK」

ゲストプロファイルの名前を変更することはできません。ゲストプロファイルは現在使用中の電子キーには割り当てられません。

ドライバープロファイルの名前を変更する

ドライバープロファイルの混同を防ぐために、現在使用中のドライバープロファイルに個人的な名前を付けることができます。

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「ドライバープロファイル」
- 3 ドライバープロファイルを選択します。

 この記号の付いたドライバープロファイルの名前を変更することができます。

4 「ドライバープロファイル名の変更」

5 プロファイル名を入力します。

6 OK シンボルを選択します。

ドライバー プロファイルをリセットする

現在有効なドライバープロファイルの設定が初期設定にリセットされます。

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「ドライバープロファイル」
- 3 ドライバープロファイルを選択します。

 この記号の付いたドライバープロファイルをリセットすることができます。

- 4 「ドライバープロファイルのリセット」
- 5 「OK」

ドライバープロファイルをエクスポートする

現在使用されているドライバープロファイルの大部分の設定をエクスポートすることができます。

エクスポートは、例えばトヨタ販売店入庫前に個人設定をバックアップし、再び呼び出す際に便利です。保存されたドライバープロファイルは、他の車両に転送することができます。

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「ドライバープロファイル」
- 3 ドライバープロファイルを選択します。

 この記号の付いたドライバープロ

ファイルをエクスポートすることができます。

- 4 「ドライバープロファイルのエクスポート」
- 5 ドライバープロファイルのエクスポート用メディアを選択します。
 - ・「USB 機器」

必要に応じて USB メモリー (64 ページ参照) を選択します。

ドライバープロファイルをインポートする

現在使用されているドライバープロファイルの既存の設定に、インポートされたドライバープロファイルの設定が上書きされます。

Toyota Supra Command から :

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「ドライバープロファイル」
- 3 上書きするドライバープロファイルを選択します。

⚙ この記号の付いたドライバープロファイルを上書きすることができます。

- 4 「ドライバープロファイルのインポート」
- 5 ドライバープロファイルのインポート用メディアを選択します。
 - ・ USB メモリー : 「USB 機器」
- 必要に応じて USB メモリーを選択します。
- 6 インポートするドライバープロファイルを選択します。

システムの限界

電子キーと運転者の明確な割当て

は、例えば以下の場合には必ずしも可能ではありません。

- ・ 助手席乗員が自分の電子キーで車両をロック解除し、走行は別の者が行う場合。
- ・ 運転者がスマートキーシステムにより車両をロック解除し、その際に複数の電子キーを携行している場合。
- ・ 運転者を交代する際に、車両をロックおよびロック解除しなかった場合。
- ・ 車外に複数の電子キーがある場合。

接続

車両装備

この章では、モデルシリーズに提供される全ての標準装備、国別装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備や国別仕様などの理由により、お客様の車両では使用できない装備についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、各国の有効な法律と規定に従ってください。

原理

車内でモバイル機器を使用できるようにするために、さまざまな接続方法があります。適切な接続方法はモバイル機器および希望する機能によって異なります。

一般事項

次の概要は、使用可能な機能とそれに適した接続方法を示したもので、機能範囲はモバイル機器によって異なります。

機能	接続方法
ハンズフリー ユニット を使用した通話。	
電話機能を Toyota Supra Command で操作します。	Bluetooth
スマートフォンの Office 機能を利用します。	
スマートフォンまたは オーディオプレーヤーの 音楽を再生します。	Bluetooth または USB
互換性のあるアプリを Toyota Supra Command で操作しま す。	Bluetooth または USB
USB メモリー :	
ドライバー プロファイルのインポートおよびエクスポート。	
記憶されたルートのエクスポートおよびインポート。	USB
音楽の再生。	
スマートフォンまたは USB 機器のビデオを再生します。	USB
Apple CarPlay アプリ を Toyota Supra Command および音声 で操作します。	Bluetooth および WiFi
スクリーン ミラーリング :	
コントロール ディスプレイにスマートフォン画面を表示します。	無線 LAN (WLAN)
以下の接続方法の場合、車両に 1 回登録する必要があります：	

- ・ Bluetooth
- ・ Apple CarPlay
- ・ スクリーン ミラーリング

その後は、登録した機器は自動検知され、車両に接続されます。

安全に関する注意事項

⚠ 警告

走行中に統合インフォメーションシステムおよび通信機器を操作すると、交通状況から注意がそれるおそれや、車両を制御できなくなるおそれがあります。事故の危険があります。システムや装置の操作は、交通状況が許す場合にのみ行ってください。必要な場合は車両を止め、停止状態でシステムや装置を操作してください。

Bluetooth 接続

機器の前提条件

- ・ Bluetooth インターフェースと互換性のある機器
- ・ リモートコントロールが車内にあること
- ・ 機器が作動可能な状態
- ・ Bluetooth が機器と車両でオンになっている (62 ページ参照)
- ・ 場合によっては、検出可能など、機器側の Bluetooth を事前に設定する必要があります。機器の取扱説明書を参考してください。

Bluetooth をオンにする

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」

2 「システム設定」

3 「携帯機器」

4 「設定」

5 「Bluetooth」

電話機能を作動させる / 作動解除する

サポートされる全ての携帯電話機能を利用できるようにするには、携帯電話を車両に登録する前に以下の機能をオンにする必要があります。

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」

2 「システム設定」

3 「携帯機器」

4 「設定」

5 希望する設定を選択します： ・ 「Office」

ショートメッセージ、E メール、カレンダー、タスク、メモ、リマインダーを車両に送信するための機能をオンにします。全てのデータを車両に送信することにより、費用が発生することがあります。

6 コントローラーを左に傾けます。

モバイル機器を車両に登録する

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」

2 「システム設定」

3 「携帯機器」

4 「新規機器接続」

5 機能を選択します：

・ ☎「電話」

・ 🎵「Bluetooth オーディオ」

- 「Apps」
- ◎「Apple CarPlay」
- 「Screen Mirroring」

車両の Bluetooth 名がコントロールディスプレイに表示されます。

6 モバイル機器で周囲の Bluetooth 対応機器を検索します。

車両の Bluetooth 名がモバイル機器のディスプレイに表示されます。

車両の Bluetooth 名を選択します。

7 モバイル機器によっては、コントロール番号が表示されるか、コントロール番号を自ら入力する必要があります。

- コントロール ディスプレイに表示されたコントロール番号と、機器のディスプレイに表示されたコントロール番号を比較します。

機器とコントロール ディスプレイでコントロール番号を確定します。

- 機器と Toyota Supra Command で同一のコントロール番号を入力して、確定します。

機器が接続され、機器リストに表示されます (66 ページ参照)。

よくある質問

全ての前提条件が満たされており、全ての必要な手順が規定の順序で実施されました。しかしモバイル機器が期待どおりに機能しません。

この場合は以下の説明が役に立つ場合があります：

なぜ携帯電話を登録または接続することができなかったのですか？

- 携帯電話または車両と接続され

ている Bluetooth 機器の数が多すぎます。

車両で他の機器との Bluetooth 接続を解除してください。

全ての既知の Bluetooth 接続を携帯電話の機器リストから削除し、新たに機器検索を開始してください。

- 携帯電話が省電力モードになっているか、または充電池の残り容量がわずかしかありません。

携帯電話を充電してください。

なぜ携帯電話が応答しないのですか？

- 携帯電話のアプリケーションが正常に作動していません。

携帯電話のスイッチをオフにし、再びスイッチをオンにしてください。

- 携帯電話の作動にとって周囲の温度が高すぎます、または低すぎます。

携帯電話を極端な周辺環境にさらさないでください。

なぜ電話機能を Toyota Supra Command で操作できないのですか？

- 携帯電話が、例えば Bluetooth オーディオ機器として正しく設定されていない場合があります。

携帯電話を電話またはサブ電話の機能に接続します。

電話帳登録の全てまたは一部が表示されないか、不完全な状態で表示されるのはなぜですか？

- 電話帳登録の転送がまだ終了していません。
- 携帯電話または SIM カードの電

話帳登録だけが転送される場合があります。

- 電話帳に特殊記号が用いられている場合、表示することができないことがあります。
- ソーシャルネットワークの連絡先を伝送できないことがあります。
- 登録しようとする電話帳登録の数が多すぎます。
- 例えばメモなどの記憶された情報により、連絡先のデータ量が大きくなりすぎています。

連絡先のデータ量を減らしてください。

- 携帯電話はオーディオ音源または電話としてのみ接続できます。

携帯電話を設定し、電話またはサブ電話の機能に接続します。

電話接続の質を向上するにはどうしたらよいですか？

- 携帯電話によっては、Bluetooth 信号の強度を携帯電話で調整します。
- マイクおよびスピーカーの音量を音質設定で個別に調整します。

リストの全項目を点検した後でも希望の機能を実行することができない場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

USB ポート

一般事項

USB インターフェースには、USB ポート付きのモバイル機器を接続します。

- 携帯電話

- MP3 プレーヤーなどのオーディオ機器
- USB メモリー デバイス

一般的なファイルシステムに対応しています。FAT32 および exFAT のフォーマットを推奨します。

機器がサポートしていれば、接続されている USB 機器には USB インターフェースから充電電流が供給されます。USB インターフェースの最大充電電流値に注意してください。

データ転送用 USB インターフェースでは、以下を行うことができます：

- ドライバー プロファイル (57 ページ参照) のインポートおよびエクスポート
- 音楽ファイルをオーディオUSB を介して再生する
- ビデオをビデオ USB を介して再生する

接続の際は、次のことに注意してください：

- コネクターを USB インターフェースに無理やり差し込まないでください。
- 柔軟なアダプター ケーブルを使用してください。
- USB 機器を機械的な損傷から保護してください。
- 市場には無数の USB 機器が存在するため、どの機器 / 携帯電話に対しても、車両からの操作が保証されるものではありません。
- USB 機器を非常に高い温度など、極端な環境条件にさらさないでください。

いでください、機器の取扱説明書を参照してください。

- ・多数の異なる圧縮技術が使用されるため、USB 機器に記憶されているメディアの正常な再生が常に保証されるわけではありません。
- ・記憶されたデータを確実に伝送するため、USB 機器が USB インターフェースに接続されている場合は電源ソケットで充電しないでください。
- ・USB 機器の利用の仕方に応じて、USB 機器での設定が必要になる場合があります、機器の取扱説明書を参照してください。

不適切な USB 機器：

- ・USB ハードディスク
- ・USB ハブ
- ・複数のスロット付き USB メモリーカードリーダー
- ・HFS 形式の USB 機器
- ・ベンチレーターなどの装置やランプ

作動条件

USB インターフェースと互換性のある機器

機器を接続する

適切なアダプター ケーブルを用いて USB 機器と USB インターフェース (221 ページ参照) を接続します。

USB 機器が機器リスト (66 ページ参照) に表示されます。

Apple CarPlay の準備

原理

Apple CarPlay は、互換性のある Apple iPhone の特定の機能を Siri スピーチ コントロールおよび Toyota Supra Command で操作できるようにします。

設定方法はナビゲーションシステム取扱書を参照。

スクリーンミラーリング

一般事項

スクリーンミラーリングは、コントロールディスプレイでのスマートフォン画面の再生を可能にします。

機能の前提条件

- ・スクリーンミラーリングインターフェースと互換性のあるスマートフォン
- ・スマートフォンでスクリーンミラーリングがオンになっている
- ・車両で WiFi がオンになっている

WiFi のオン

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「システム設定」
- 3 「携帯機器」
- 4 「設定」
- 5 「車両 WiFi」

スクリーンミラーリング対応のスマートフォンを登録する

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
 - 2 「Toyota Supra Command 設定」
 - 3 「携帯機器」
 - 4 「新規機器接続」
 - 5  「Screen Mirroring」
- 車両の WiFi 名がコントロール ディスプレイに表示されます。
- 6 スマートフォンで周囲の WiFi 対応機器を検索します。

車両の WiFi 名が機器のディスプレイに表示されます。車両の WiFi 名を選択します。

- 7 接続を Toyota Supra Command で確定します。

機器が接続され、機器リストに表示されます(66 ページ参照)。

モバイル機器を管理する

一般事項

- 一度登録した後は、作動スタンバイがオンのときに機器が自動検知され、再び接続されます。
- 機器によっては、承認などの特定の設定が必要な場合があります、機器の取扱説明書を参照してください。

機器リストを表示する

車両に登録または接続されている全ての機器が機器リストに表示されます。

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「システム設定」
- 3 「携帯機器」

シンボルは、どの機能にどの機器が使用されるかを示します。

シンボル 機能



「電話」



「サブ電話」



「Bluetooth オーディオ」



「Apps」



「Apple CarPlay」



「Screen Mirroring」

機器を設定する

これらの機能は、機器が登録または接続されている場合にオンまたはオフにすることができます。

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「システム設定」
- 3 「携帯機器」
- 4 希望する機器を選択します。
- 5 希望する項目を選択します。

1 つの機器に機能が割り当てられると、すでに接続済みの機器の機能が必要に応じて作動解除され、切り離されます。

機器を切り離す

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「システム設定」

3 「携帯機器」

4 機器を選択します。

5 「機器の接続解除」

機器は登録された状態にあり、再び接続することができます(67ページ参照)。

能を交換することができます。

Toyota Supra Command から:

1 「車両情報 / 設定」

2 「システム設定」

3 「携帯機器」

4 「設定」

5 「メイン / サブ電話切替え」

機器を接続する

接続を解除した機器を再び接続することができます。

Toyota Supra Command から:

1 「車両情報 / 設定」

2 「システム設定」

3 「携帯機器」

4 機器を選択します。

5 「機器接続」

機器の切離し前に割り当てられた機能は、再接続の際に機器に割り当てられます。すでに接続済みの機器の場合、この機能は必要に応じて作動解除されます。

機器を削除する

Toyota Supra Command から:

1 「車両情報 / 設定」

2 「システム設定」

3 「携帯機器」

4 機器を選択します。

5 「機器の消去」

機器が接続解除され、機器リストから削除されます。

電話とサブ電話の交換

2 台の携帯電話が車両と接続されている場合、電話とサブ電話の機

取扱説明書のメディア

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、国別装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備や国別仕様などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、各国の有効な法律と規定に従ってください。

製本版の取扱説明書

原理

製本版の取扱説明書には、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、国別装備、オプション装備について記載されています。

操作方法

4

4-1. 操作方法

開閉.....	70
シート、ドア ミラーおよびステアリング ホイール	86
お子様の安全について	100
走行.....	109
表示.....	126
ライト.....	142
安全性.....	149
ドライビング スタビリティ コントロール	185
ドライバー アシスト システム	189
走行快適性	211
快適な温度調節	212
インテリア	220
小物入れ.....	222
ラゲッジ ルーム	224

開閉

車両装備

この章では、モデルシリーズに提供される全ての標準装備、国別装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備や国別仕様などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、各国の有効な法律と規定に従ってください。

電子キー

一般事項

お客様へお渡しのキーには、2個の内蔵キー付き電子キーが含まれています。

全ての電子キーに交換可能なバッテリーが入っています。バッテリーの交換(73ページ参照)。

装備と国別仕様に応じて、ボタンの機能を設定することができます。設定(81ページ参照)。

電子キーに、個人設定のあるドライバープロファイル(57ページ参照)を割り当てることができます。

電子キーの閉じ込めを防ぐため、車両を離れるときには電子キーを携行します。

安全に関する注意事項

警告

車内に残されたお子様やペットが、車内からドアをロックして、閉じ込められてしまうことがあります。この場合、車両を外側から開けることができません。けがをする危険があります。車両を外側から開けられるように、電子キーを携行してください。

警告

車内からロック解除ができない場合があるため、やむを得ず車内に同乗者を残される場合には、車外からロックしないでください。

同乗者が比較的長い間車両に残され、しかも極端な温度にさらされる場合は、けがをする危険または命に関わる危険が生じます。車内に乗員がいる場合は、車両を外側からロックしないでください。

警告

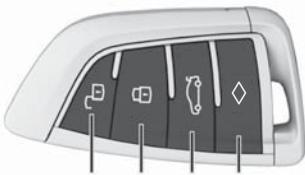
お子様やペットを車内に残したままにすると、以下の操作などが行われることにより、車両が動き出したり、お子様やペットがけがをしたり、他の道路利用者が危険にさらされるおそれがあります：

- ・ スタート / ストップボタンが押される
- ・ パーキングブレーキの解除
- ・ ドアやウィンドウの開閉
- ・ セレクターレバーがポジション N に入る
- ・ 車両装備の操作

⚠ 警告

事故の危険またはけがをする危険があります。お子様やペットを車内に残したままにしないでください。車両を離れるときは、電子キーを携行し、車両をロックしてください。

概要



- 1** ロック解除
- 2** ロック
- 3** トランクリッドロック解除
- 4** ホームライト

ロック解除

一般事項

電子キーでロック解除した場合の車両の動作は、ロック解除およびロック用の以下の設定(81ページ参照)により異なります:

- ・ 最初にボタンを押したときに、運転席ドアとフューエルリッドのみがロック解除されるか、または全てのドア/リッドがロック解除されるかの設定
- ・ 車両がロック解除されたときに確認のために、光信号が出力されるかの設定
- ・ ロック解除時にウェルカムライ

ト(144ページ参照)をオンにするかの設定

- ・ ロック解除およびロック時にドアミラーを自動的に開く/折りたたむかの設定
- ・ 乗車を容易にするため、ウィンドウをさらに下げるかどうかの設定

車両をロック解除する



電子キーのボタンを押します。

設定に基づいて、運転席ドアとフューエルリッドのみがロック解除された場合、電子キーのボタンを再び押すと、他の車両ドア/リッドがロック解除されます。

さらに以下の機能が実行されます:

- ・ 電子キーにドライバープロファイル(57ページ参照)が割り当てられている場合、そのドライバープロファイルが有効になり、そこに記憶されている設定が実行されます。
- ・ 手動でオフにされていない場合、ルームライトがオンになります。ルームライトを手動でオン/オフにします(149ページ参照)。
- ・ アラームシステム装備:アラームシステム(83ページ参照)がオフになります。



コンフォートエントリーを作動させるには、電子キーのボタンを2回連続で押します。

設定に応じて、ドアを開けるとウィンドウがさらに下がります。

フロントドアを開けると、車両が始動可能な状態(37ページ参照)

になります。

ライト機能は周囲の明るさによつて異なる場合があります。

コンフォートオープン

開ける



電子キーのボタンを押し続けます。

電子キーのボタンが押されている間、パワーウィンドウが開きます。コンフォートクローズで折りたたまれたドアミラーが展開します。

ロック

一般事項

電子キーによるロック時の車両の動作は、以下の設定(81ページ参照)により異なります：

- ・ 車両がロックされたときに確認のために、光信号が出力されるかの設定
- ・ ロックおよびロック解除時にドアミラーを自動的に折りたたむ/開くかどうかの設定
- ・ ロック時にホームライト(145ページ参照)がオンになるかの設定

車両をロックする

1 運転席ドアを閉じます。

2 電子キーのボタンを押し続けます。

以下の機能が実行されます：

- ・ 全てのドア、トランクリッド、フューエルリッドがロックされます。
- ・ アラームシステム装備：アラームシステム(83ページ参照)がオンになります。

ロック時に走行スタンバイがまだオンになっている場合は、車両のホーンが2回鳴ります。この場合は、走行スタンバイをスタート/ストップボタンでオフにします。

コンフォートクローズ

安全に関する注意事項



警告

コンフォートクローズの場合、身体の一部が挟まるおそれや、けがをする危険があります。コンフォートクローズ時には、動く範囲に身体の一部がないことを確認してください。

閉める



ロック後、電子キーのボタンを押し続けます。

電子キーのボタンが押されている間、パワーウィンドウが閉じます。ドアミラーが格納されます。

ハザードライトがオンの場合、ドアミラーは折りたたまれません。

ルームライトと車外ライトをオンにする



車両がロックされているときに、電子キーのボタンを押してください。

ロック後に最初の 10 秒が経過するまで、この機能は使用できません。

- 手動でオフにされていない場合、ルームライトがオンになります。ルームライトを手動でオン／オフにします（149 ページ参照）。
- 設定に応じて、車外ライト（144 ページ参照）がオンになります。

ライト機能は周囲の明るさによって異なる場合があります。

トランクリッド

一般事項

電子キーの閉じ込めを防ぐために、電子キーをラゲッジ ルーム内に置かないでください。

トランクリッドを電子キーで開く際にドアをロック解除するかを設定することができます。設定（81 ページ参照）。

安全に関する注意事項

警告

トランクリッドを操作する場合、身体の一部が挟まれるおそれや、けがをする危険があります。開閉時には、トランクリッドの動作範囲に遮るものがないことを確認してください。

注意

トランクリッドを開けるときは、後方および上方にスペースが必要です。損傷が発生するおそれがあります。開閉時には、トランクリッドの動作範囲に遮るものがないことを確認してください。

ロック解除



電子キーのボタンを約 1 秒間押し続けます。

ホームライトをオンにする

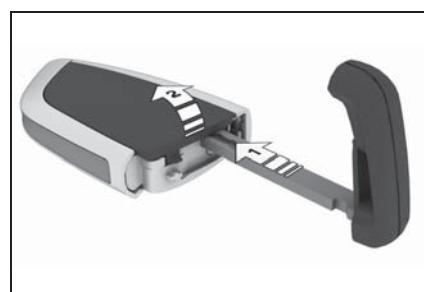


電子キーのボタンを約 1 秒間押し続けます。

時間を設定します（145 ページ参照）。

バッテリーの交換

- 内蔵キーを電子キーから取り出します（76 ページ参照）。
- バッテリーケースカバーの下部に内蔵キーを当て（矢印 1）、内蔵キーをテコにしてカバーを持ち上げます（矢印 2）。



- 3** 先の尖った物でバッテリーを矢印方向に押して、取り出します。



- 4** タイプCR2032のバッテリーを、プラス側を上にして入れます。
5 カバーを押して、元通りに閉めます。



使用済みの電池は、各自治体の定める取決めをご確認の上、廃棄してください。

追加の電子キー

追加の電子キーはトヨタ販売店でお求めいただけます。

電子キーの紛失

紛失した電子キーはトヨタ販売店でロックし、交換することができます。

紛失した電子キーにドライバープロファイル(57ページ参照)が割り当てられている場合、この電子キーへの接続を削除する必要があります。その後でドライバープロファイルを新しい電子キーに割り当てることができます。

故障

一般事項

車両メッセージ(126ページ参照)が表示されます。

車両の電子キー検知は、特に以下の状況で妨害される可能性があります：

- ・電子キーのバッテリーが放電している。バッテリーの交換(73ページ参照)
- ・電波塔や送信出力の大きい他の施設による無線接続の妨害
- ・金属性の物による電子キーの遮蔽

電子キーを金属性の物と一緒に運ばないでください。

- ・電子キーのすぐ近くにある携帯電話や電子機器による無線接続の妨害

電子キーを電子機器と一緒に運ばないでください。

- ・携帯電話の充電など、モバイル機器の充電動作による無線送信の障害

電子キーがワイヤレス充電トレイのすぐ近くにある
電子キーを別の場所に置いてください。

故障の場合は、内蔵キー(75ページ参照)で車両を外側からロック解除およびロックすることができます。

電子キーのエマージェンシー機能により走行スタンバイをオンにする



電子キーが検知されなかった場合は、走行スタンバイをオンにすることができません。

この場合は以下のように行います：

1 電子キーの裏面をステアリングコラムのマークのところで保持します。その際にはメーターパネルの表示に注意してください。

2 電子キーが検知された場合：10秒以内に走行スタンバイがオンになります。

電子キーが検知されない場合は、電子キーの位置を少し変更し、手順を繰り返してください。

よくある質問

誤って電子キーがロックされた場合でも車両を開けられるようにするために、どのような対策をとることができますか？

- Toyota Supra Conenct アプリのリモートサービスをご利用いただくことで、スマートフォンからドアロック / ドアロック

の解除が行えます。

詳細はナビゲーションシステム取扱書を参照。

内蔵キー

一般事項

内蔵キーで運転席ドアを電子キーを使わずにロック解除およびロックすることができます。

内蔵キーはさらにグローブボックスに適合しています。

内蔵キーで助手席エアバッグ用キースイッチ（159 ページ参照）を操作することができます。

安全に関する注意事項

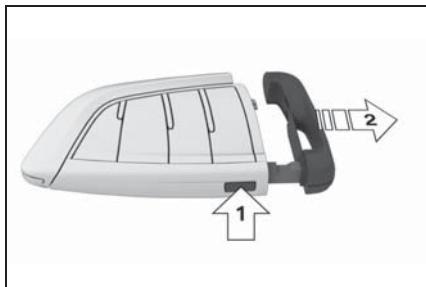
!**警告**

車内からロック解除ができない場合があるため、やむを得ず車内に同乗者を残される場合には、車外からロックしないでください。

同乗者が比較的長い間車両に残され、しかも極端な温度にさらされる場合は、けがをする危険または命に関わる危険が生じます。車内に乗員がいる場合は、車両を外側からロックしないでください。

!**注意**

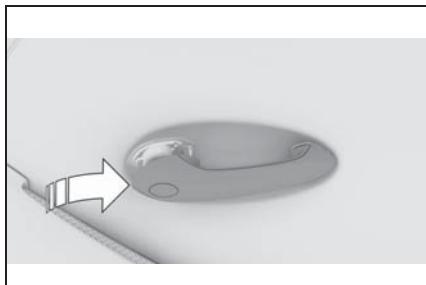
ドアのキーシリンダーはドアと固定接続されています。ドアハンドルは動かすことができます。内蔵キーを差し込んだ状態でドアハンドルを引くと、塗装または内蔵キーが損傷するおそれがあります。アウタードアハンドルを引く前に、内蔵キーを抜いてください。

取出し

ボタン、矢印 1、を押し、内蔵キーを引き抜きます、矢印 2。

ドアのキーシリンダーからのロック解除 / ロック

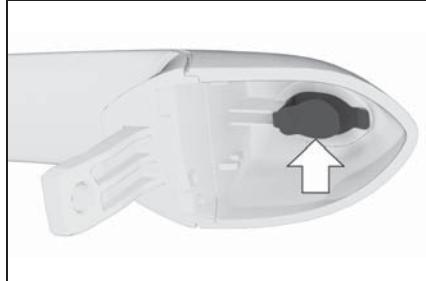
1 片方の手でドアハンドルを外側に引き、保持します。



2 もう片方の手の指を 1 本、後ろからカバーフラップの下に入れ、カバーフラップを外側に押します。

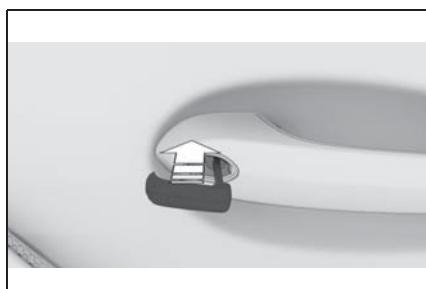
カバーフラップがドアハンドルから落ち

ないよう、親指で保持します。



3 カバーフラップを取り外します。

4 ドアのキーシリンダーを内蔵キーでロック解除またはロックします。



他のドアは内側からロック解除またはロックする必要があります。

アラーム システム

ドアのキーシリンダーを回してロック解除すると、ドアを開ける際にスタンバイ中のアラーム システムが作動します。

車両を内蔵キーでロックした場合、アラーム システムはオンになりません。

ドアロックスイッチ用ボタン

一般事項

重大な事故が起きた場合、車両は自動的にロック解除されます。ハザードフラッシュマークとルームライトのスイッチが入ります。

安全に関する注意事項

警告

ドアを開いたまま走行すると、乗員が車両から投げ出されるおそれがあります。また、不用意にドアを開くと、他の通行車などとぶつかる危険や、事故が発生するおそれがあります。ドアは必ず完全に閉じてください。ドアを開くときは、周囲の安全に注意してください。

概要



ドアロックスイッチ用ボタン。

ロック



フロントドアが閉まった状態でボタンを押します。

フューエルリッドは、ロック解除されたままです。

ロック解除



ボタンを押します。

開ける

- 「」ドアを一斉にロック解除するには、ボタンを押します。アームレスト上のドアオープナーを引きます。
- 開くドアのドアオープナーを引きます。他のドアはロックされたままです。

スマートキーシステム

原理

電子キーを操作しなくても、車両にアクセスすることができます。

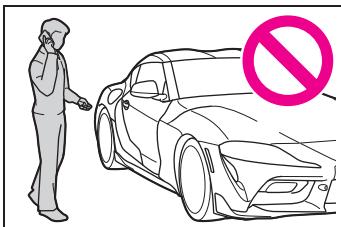
電子キーをズボンのポケットなどに入れて携行するだけで十分です。車両は自動的に、近くの、または車内の電子キーを検知します。

一般事項

スマートキーシステムでは、以下の操作ができます：

- ドアハンドルによる車両のロック解除とロック。

留意点



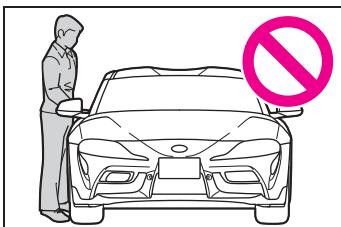
- 運転者は、常に電子キーを携帯し車内に電子キーを残したまま車両から離れないでください。
- 周辺の環境や電波状態などにより、正常に作動しないことがありますので、パソコンや携帯電話などと一緒に電子キーを携帯しないでください。
- 内蔵電池が消耗したときや故障したとき等を考慮して、車両から離れるときは必ず電子キーを携行してください。

植込み型の心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器等をご使用の方は、安全のため車両から約 22 cm 以上離れた位置からドアを開閉してください。また、ドアの開閉時には車両に寄りかかったり、窓から車内を覗き込まないようにしてください。

その他の医療用電子機器を使用している方は、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

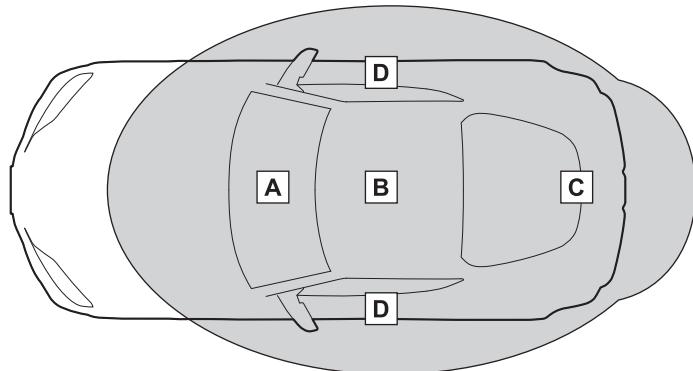
安全に関する注意事項

⚠ 警告



スマートキーシステムでは、ドアやトランクリッドをロック / ロック解除するときやエンジンスイッチを操作するときなどに、車両から電波が発信されます。その際、植込み型の心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器等の動作に影響を与える可能性があります。

スマートキーシステムの電波が発信される範囲



- A** センターコンソール前部周辺
- B** センターコンソール後部周辺
- C** ラゲッジルーム周辺、リアバンパー周辺
- D** ドアハンドルおよびドア周辺

機能の前提条件

- ・車両をロックするためには、電子キーが車外のドア付近にある必要があります。
- ・ロック解除およびロックを続けて行うときは、約 2 秒以上時間を開けてください。

ロック解除

一般事項

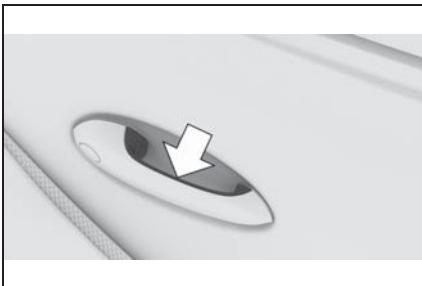
スマートキーシステムによるロック解除時の車両の動作は、以下の

設定(81 ページ参照)により異なります:

- ・車両がロック解除されたときに確認のために、光信号が出力されるかの設定。
- ・ロック解除時にウェルカムライト(144 ページ参照)をオンにするかの設定。
- ・ロック解除およびロック時にドアミラーを自動的に開く／折りたたむかの設定。

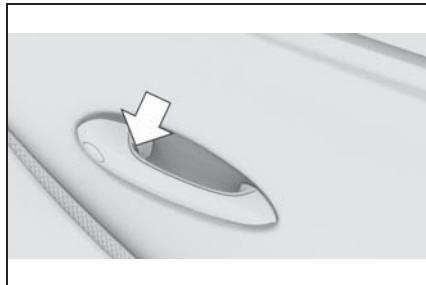
コンフォートクローズで折りたたまれたドアミラーはコンフォートオープンで展開する必要があります。

車両をロック解除する



車両ドアのハンドルを完全に握ります。

ロック



閉まっている車両ドアのドアハンドルをつかまずに、ドアハンドルの溝の部分に指で約1秒間触れます。

一般事項

スマートキーシステムによるロック時の車両の動作は、以下の設定(81ページ参照)により異なります:

- ・車両がロックされたときに確認のために、光信号が出力されるかの設定
- ・ロック解除およびロック時にドアミラーを自動的に開く／折りたたむかの設定
- ・ロック時にホームライト(145ページ参照)がオンになるかの設定

車両をロックする

運転席ドアを閉じます。

トランクリッド

一般事項

電子キーの閉じ込めを防ぐために、電子キーをラゲッジルーム内に置かないでください。

装備と国別仕様に応じて、ドアもロック解除するかどうかを設定することができます。設定(81ページ参照)。

安全に関する注意事項

⚠ 警告

トランクリッドを操作する場合、身体の一部が挟まれるおそれや、けがをする危険があります。開閉時には、トランクリッドの動作範囲に遮るものがないことを確認してください。

⚠ 注意

トランクリッドを開けるときは、後方および上方にスペースが必要です。損傷が発生するおそれがあります。開閉時には、トランクリッドの動作範囲に遮るものがないことを確認してください。

開閉

車外から開ける



電子キーのボタンを約 1 秒間押し続けます。

必要に応じてドアもロック解除されます。電子キーによるオーブン(73 ページ参照)。

車内から開ける



運転席ドアのトレイ内のボタンを押します。

閉める



トランクリッドのアウターハンドルをつかんで下に引きます。

設定

一般事項

装備と国別仕様に応じて、電子キー機能に対してさまざまな設定を行うことができます。

この設定は、そのとき使用しているドライバープロファイルに記憶されます。

ロック解除

ドア

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「車両設定」
- 3 「ドア / キー」
- 4 「運転席ドア」または「全てのドア」
- 5 希望する設定を選択します：
・「運転席ドアのみ」

ロック解除ボタンを押すと、運転席ドアとフューエルリッドのみがロック解除されます。もう 1 度押すと、車両全体のロックが解除されます。

- ・「全てのドア」

ロック解除ボタンを押すと、車両全体がロック解除されます。

トランク リッド

装備と国別仕様に応じて、この設定は提供されない場合があります。

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「車両設定」

3 「ドア / キー」

- 4 「テールゲート」または 「テールゲートおよびドア」

5 希望する設定を選択します：

- ・「テールゲート」

トランクリッドが開きます。

- ・「テールゲートおよびドア」

トランクリッドが開き、ドアがロック解除されます。

前回のシートおよびミラー位置を設定する

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」

2 「ドライバープロファイル」

3 ドライバープロファイルを選択します。

この記号の付いたドライバープロファイルに設定を行うことができます。

4 「前回のシートポジションに自動調節」

車両のロック解除時に、最後に設定された運転席シートとドアミラーの位置が設定されます。

前回のポジションはシートメモリーで保存したポジションに影響されません。

自動ロック

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」

2 「車両設定」

3 「ドア / キー」

4 希望する設定を選択します：

- ・「オート再ロック」

ロック解除後にどのドアも開けられない

場合は、一定時間経過後に自動的に再びロックされます。

・「車両感応オートロック」

発進後、自動的にロックされます。

自動ロック解除

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」

2 「車両設定」

3 「ドア / キー」

4 「走行終了後ロック解除」

スタート / ストップ ボタンを押すと、走行スタンバイがオフになった後に、ロックされている車両が自動的にロック解除されます。

車両の確認シグナル

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」

2 「車両設定」

3 「ドア / キー」

4 「ロック / ロック解除の確認点滅」

ロック解除の確認として 2 回の点滅が行われ、ロックの確認として 1 回の点滅が行われます。

フロント ドアを開けた後に停止状態にする

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」

2 「車両設定」

3 「ドア / キー」

4 「ドア開時に車両電源オフ」

フロントドアを開けるときに停止状態(36 ページ参照)にされます。

ミラーを自動で折りたたむ / 開く

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「車両設定」
- 3 「ドア / キー」
- 4 「ドアロック時にミラーを閉じる」

ロック時、ドアミラーは自動的に折りたたまれます。

アラームシステム

一般事項

車両がロックされている場合、アラームシステムは以下の変化に反応します：

- ・ ドア、ボンネット、トランクリッドのいずれかが開けられたとき
- ・ 車内の動き
- ・ 車両の傾きが変化したとき（ホイールが盗まれそうなときやけん引を行うとき）
- ・ バッテリー電圧が遮断されたとき
- ・ オンボード診断 OBD 用ソケットの不適切な使用

アラームシステムは以下の変化を表示と音によって知らせます：

- ・ 音によるアラーム：国の規定によつては、警告音がオフにされる場合があります。
- ・ 視覚的なアラーム：車外ライトの点滅によります。

オン / オフにする

電子キーまたはスマートキーシステムで車両をロック / ロック解除すると同時に、アラームシステムもオン / オフにされます。

アラームシステムがオンの状態でドアを開く

内蔵キーでドアのキーシリンダーを回してドアをロック解除した場合、ドアを開けるとアラームシステムが作動します。

警報アラームを止める（84 ページ参照）。

アラームシステムがオンの状態でトランクリッドを開く

トランクリッドはアラームシステムがオンのときでも開けることができます。

トランクリッドを閉めると、再びロックされ、ドアがロックされている間はアラームシステムがオンの状態になります。ハザードライトが 1 回点滅します。

ルームミラーについている表示灯



- 表示灯が2秒ごとに点滅する：アラームシステムがオンになっています。
- 表示灯が約10秒間点滅し、その後2秒間隔で点滅する：ドア、ボンネット、またはトランクリッドが正しく閉まっていないため、車内検知機能および傾斜センサーが作動していません。正しく閉められたドア／リッドにはロックがかかります。

まだ開いている部分が閉められると、車内検知機能および傾斜センサーがオンになります。

- ロック解除後に表示灯が消える：車両には、何も不正な操作はされませんでした。
- 表示灯が、ロック解除後に走行スタンバイがオンになるまで、最長約5分間点滅する：何らかの要因でアラームが作動しました。

傾斜センサー

車両の傾きを監視します。

例えばホイールを盗もうとしたり、けん引しようとしたりすると、アラームシステムが反応します。

車内検知機能

車内はシート面の高さまで監視されます。このため、ウィンドウが開いている場合でも、車内検知機能を含むアラームシステムはオンになります。例えば、木の葉などが入り込むことで、意図せずにアラームが作動することがあります。

意図しないアラームを防止する

一般事項

権限のない操作が行われていなくても、傾斜センサーおよび車内検知機能によってアラームが作動することがあります。

意図しないアラームの考えられる状況：

- 自動洗車機に入る場合
- 二段式ガレージ
- 自動車運搬専用の列車、船舶、またはトレーラーで輸送される場合
- 車内に動物がいる場合
- 給油が開始された後に車両がロックされる場合

このような状況では、傾斜センサーおよび車内検知機能をオフにすることができます。

傾斜センサーおよび車内検知機能をオフにする



車両をロックしてから10秒以内に電子キーのボタンを押します。

表示灯が約2秒間点灯してから、点滅します。

傾斜センサーと車内検知機能は、次にロックをかけるまで、スイッチがオフになっています。

警報アラームを止める

- 車両を電子キーでロック解除します。
- 車両を内蔵キーでロック解除し、

- 電子キーのエマージェンシー機能により走行スタンバイをオンにします(74 ページ参照)。
- ・電子キーを携行し、運転席ドアまたは助手席ドアのドアハンドルを完全に握ります。

パワーウィンドウ

安全に関する注意事項

!**警告**

ウィンドウを操作する場合は、身体の一部や物が挟まれるおそれや、けがを負ったり、損傷が発生するおそれがあります。開閉時には、ウィンドウが動く範囲に身体の一部がないことを確認してください。

概要



パワーウィンドウ

機能の前提条件

以下の前提条件が満たされている場合、ウィンドウを操作することができます。

- ・作動スタンバイが確立されていること
- ・走行スタンバイが確立されてい

ること

- ・停車状態が確立された後の特定の時間
- ・電子キーが車内にあること

開ける

- ・スイッチを軽く止まる位置まで押します。

ウィンドウは、スイッチが保持されている間、開きます。

- ・スイッチを軽く止まる位置を越えるまで押します。

ウィンドウは自動的に開きます。スイッチを再び押すと、動きが止まります。

閉める

- ・スイッチを軽く止まる位置まで引きます。

ウィンドウは、スイッチが保持されている間、閉まります。

- ・スイッチを軽く止まる位置を越えるまで引きます。

ドアが閉まっている場合、ウィンドウは自動的に閉まります。もう 1 度引くと、動きが止まります。

はさみ込み防止

一般事項

ウィンドウを閉めるときに、一定の力が加わると、閉まる動作が中断されます。

ウィンドウが少し開きます。

安全に関する注意事項

警告

ウィンドウにアンテナなどのアクセサリーを付けていると、はさみ込み防止機能が影響を受けるおそれや、けがをする危険があります。ウィンドウが動く範囲にはアクセサリーを付けないでください。

はさみ込み防止機能を作動させずに閉める

車外からの危険がある場合やウィンドウが凍り付いていて通常の閉め方ができない場合は、次のように操作してください：

- 1  スイッチを軽く止まる位置を越えるまで引き、保持します。

はさみ込み防止機能が制限されてウィンドウが閉まります。閉める力が特定の値を超えると、閉まる動作が中断されます。

- 2  スイッチを約 4 秒以内にもう 1 度、軽く止まる位置を越えるまで引き、保持します。

ウィンドウは、はさみ込み防止機能を作動させずに閉まります。

シート、ドア ミラーおよびステアリング ホイール

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、国別装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備や国別仕様などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、各国の有効な法律と規定に従ってください。

安全な座り方

乗員に最適なシート位置は、リラックスし疲労することなく運転するための前提条件といえます。

事故の際には、正しいシート位置が重要な役割を果たします。以下の章の注意事項を守ってください：

- ・ シート (87 ページ参照)
- ・ シートベルト (90 ページ参照)
- ・ ヘッドレスト (95 ページ参照)
- ・ エアバッグ (150 ページ参照)

シート

安全に関する注意事項

! 警告

走行中にシート調節を行うと、不意にシートが動くおそれや、車両を制御できなくなるおそれがあります。事故の危険があります。運転席シートは必ず車を止めた状態で調節してください。

! 警告

バックレストを後ろに傾けすぎることにより、シートベルトの保護効果が保証されなくなります。事故の際に体がシートベルトの下に滑り込んでしまう危険があります。けがをする危険または生命の危険があります。シートは走行前に調節してください。バックレストはできるだけ垂直の位置にして、走行中には変更しないでください。

! 警告

シートが動く際に挟まれる危険があります。けがを負ったり、損傷が発生するおそれがあります。設定の前に、シートが動く範囲に物がないことを確認してください。

手動調節シート

概要



1 バックレスト角度

2 高さ

3 バックレスト幅

4 ランバー サポート

5 前後

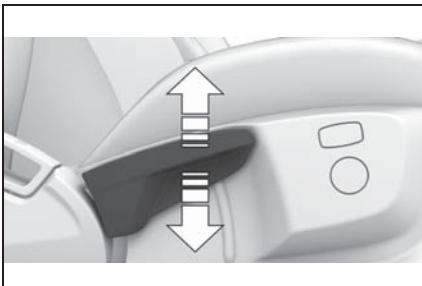
6 シート角度

バックレスト角度



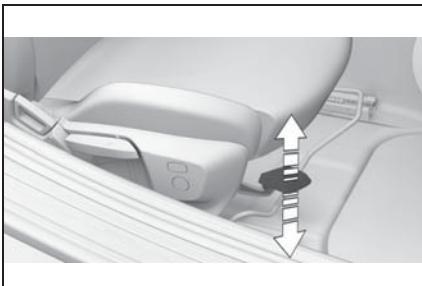
レバーを引き、必要に応じてバックレストに力を加えるか、力を抜くようにします。

高さ



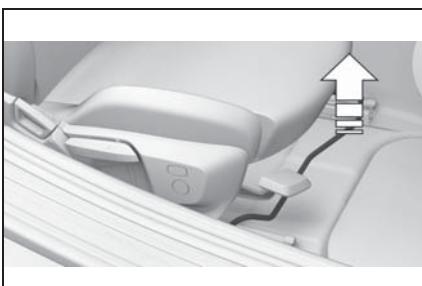
シートが希望の高さになるまで、レバーを何度も上に引くか、下に押します。

シート角度



シートが希望の傾きになるまで、レバーを何度も上に引くか、下に押します。

前後



レバーを引いて、シートを希望の方向に動かします。

レバーを放してから、シートを軽く前 / 後に動かして確実にロックします。

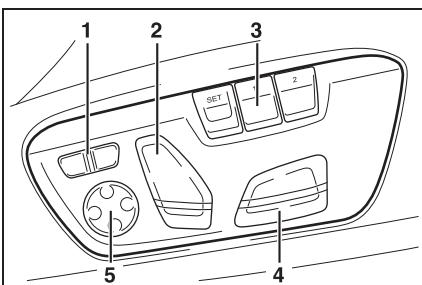
電動シート

一般事項

運転席のシート調節は、そのとき使用しているドライバー プロファイル (57 ページ参照) に記憶されます。ドライバー プロファイルを選択すると、記憶されている位置が自動的に呼び出されます。

現在のシート位置をメモリー機能 (98 ページ参照) で記憶させることができます。

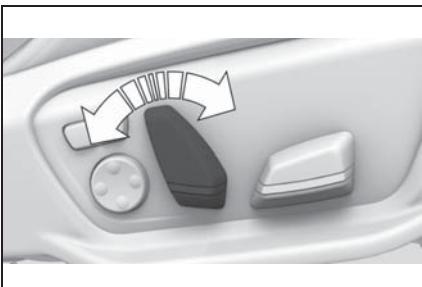
概要



1 バック レスト幅

- 2 バックレスト角度**
- 3 運転席シートメモリー**
- 4 前後方向、高さ、シート角度**
- 5 ランバー サポート**

バック レスト角度



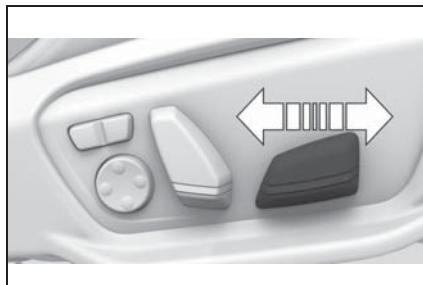
スイッチを前または後ろに動かします。

シート角度



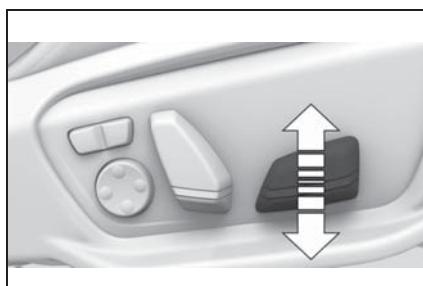
スイッチを上または下に押します。

前後



スイッチを前または後ろに押します。

高さ



スイッチを上または下に押します。

ランバー サポート

原理

バック レストの湾曲は、腰椎、脊椎前わんをサポートするように、変化させることができます。正しい乗車姿勢になるよう、骨盤の上縁と脊椎がまっすぐになるように支えます。

調節



- ・ フロント / リア ボタンを押します：湾曲が強く / 弱くなります。
- ・ ボタンの上 / 下を押します：湾曲が上に / 下に移動します。

バック レスト幅

原理

バック レスト幅を適切に調節することで、カーブ走行時に体の側面がより良く支えられるようになります。

一般事項

バック レスト幅を調節するためには、運転席側バック レストのサイド サポートを変更することができます。

調節



- ・ フロント ボタンを押します：バック レスト幅が小さくなります。
- ・ リア ボタンを押します：バック レスト幅が大きくなります。

シートベルト

シートベルトおよびベルトキャッチの数

同乗者の安全のために、車両には2つのシートベルトが装備されて

います。シートベルトは、正しく着用された場合にのみ保護機能を発揮します。

一般事項

走行を開始する前に、全ての乗員が必ずシートベルトを着用してください。エアバッグは補助的な安全装置としてシートベルトの機能を補助します。エアバッグはシートベルトに代わるものではありません。

シートを正しく調節すれば、シートベルトのアンカー部はどのような体型の成人に対しても適切な位置に調整されます。

安全に関する注意事項

⚠ 警告

1 本のシートベルトを2人以上の乗員が着用すると、シートベルトの保護効果が保証されなくなります。けがをする危険または生命の危険があります。必ず1本のシートベルトを1人が着用してください。乳児や子供は膝の上にのせないで、専用のチャイルドレストレインントシステムを使用して固定してください。

⚠ 警告

シートベルトを正しく着用していないと、シートベルトの保護効果が制限されるか、正常に働かないおそれがあります。シートベルトを正しく着用していないと、事故が起こったとき、あるいはブレーキ操作や障害物を回避するステアリング操作を行ったときなどにけがをするおそれがあります。けがをする危険または生命の危険があります。全ての乗員がシートベルトを正しく装着していることを確認してください。

⚠ 警告

以下のような状況では、シートベルトの保護効果が制限されるか、正常に働かないおそれがあります：

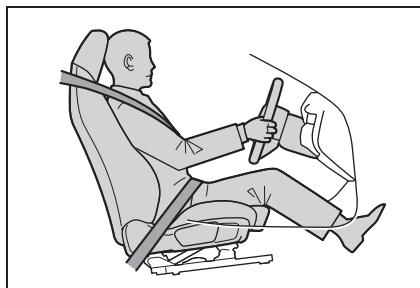
- ・ シートベルトまたはベルトキャッチが損傷している、汚れている、あるいは他の方法で改造されている
- ・ シートベルトテンショナーまたはシートベルトリトラクターが改造された

事故が起こった場合、シートベルトは気がつかない程度に損傷している場合があります。けがをする危険または生命の危険があります。シートベルト、ベルトキャッチ、シートベルトテンショナー、シートベルトリトラクター、ベルトアンカーは改造せずに、清潔に保ってください。事故後は、トヨタ販売店にシートベルトの点検を依頼してください。

深い位置に当てます。シートベルトが腹部を押さえつけないように注意してください。

- ・ シートベルトを鋭利なものでこすったり、硬いものや壊れやすい物の上にかけたり、それらの物を挟んだりしないでください。
- ・ かさのある厚手の衣服を避けてください。
- ・ 胸元部分のシートベルトをときどき上に引いて張り直してください。

正しい運転姿勢



安全運転の基本は、正しい運転姿勢です。運転姿勢を正しくすると、余分な疲れを減らすだけでなく、万一衝突したときでもシートベルトやエアバッグなどの乗員保護装置が適切に機能を発揮し、人体が受ける衝撃やけがを軽減することができます。

シートベルトの正しい使用

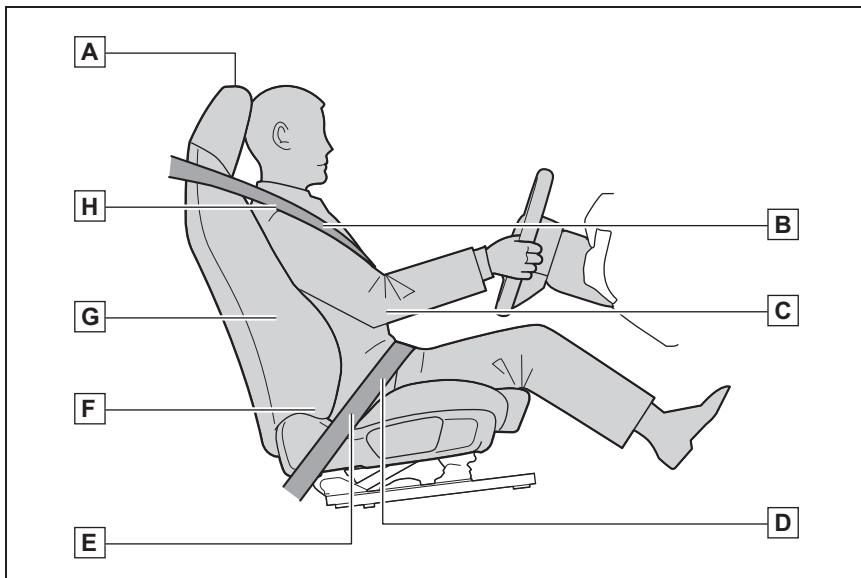
- ・ シートベルトはねじれないように、骨盤と肩にたるまないようにはかけ、体に密着するように着用します。
- ・ シートベルトを骨盤部分で腰の

シートベルトの正しい着用



乗員保護の基本はシートベルトであり、エアバッグはシートベルトの補助装置にすぎません。シートベルトを正しく着用すれば、万一衝撃を受けたときでも身体がシートに確実に固定されるので、身体を他の部分にぶつけたり、車外へ放り出されることもありません。そのため、全員がシートベルトを着用する必要があります。ただし、着用方法を間違えると、乗員保護機能が著しく損なわれます。以下の説明に従い、正しい乗車姿勢と正しいシートベルト着用方法を守ってください。

正しい乗車姿勢とシートベルトの着用方法



- A** ヘッドレストの中央部が耳の高さと同じ
- B** ベルトがねじれないように着用
- C** ひじを少し曲げ、ステアリング ホイールの最上部を握れること
- D** ゆるみがなく、締め上げた状態で着用
- E** 腰ベルトが腰骨に あたるように着用
- F** 深く座り、背もたれは寝かせすぎない
- G** 背中全体が背もたれに接すること
- H** 首にかかりず、肩から外れない高さにする

⚠️ 警告

走行中は背もたれを倒しすぎないでください。

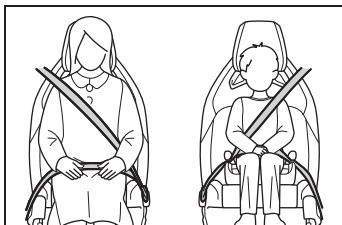
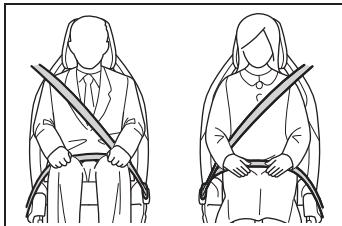


⚠ 警告

背もたれを倒しすぎていると、急ブレーキをかけたときや万一衝突したとき、シートベルトの乗員保護機能はまったく期待できません。また、身体が固定できないだけでなく、身体が前方へ滑り出して首などにシートベルトが巻き付くことがあり、非常に危険です。

⚠ 警告

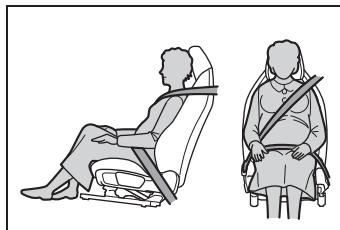
全員がシートベルトを正しく着用してください。



シートベルトの着用は法律で義務づけられています。シートベルトを正しく着用していないと、急ブレーキや万一の事故のときなどにシートから滑り落ちたり、車外へ放り出されてしまい、けがをしたり、死亡するおそれがあります。また、正しい姿勢で乗車していないと、エアバッグが作動しても乗員保護効果が得られないばかりか、エアバッグがふくらむときと思わぬけがをすることがあります。

⚠ 警告

妊娠中のシートベルト着用について：



妊娠中も、必ずシートベルトを着用してください。ただし、着用にあたっては、かかりつけの医師に相談し、その注意に従ってください。着用の際は、腰ベルトを下方にずらして腰骨の低い位置にかけ、肩ベルトは肩の中央から胸にかけるようにし、ベルトが腹部を圧迫しないようにしてください。

シートベルトを締める

- 1 シートベルトを着用する際は、肩と腰の上にゆっくりと伸ばします。
- 2 ベルトのプレートをシートベルトキャッチに差し込みます。ベルトキャッチからロックする音が聞こえます。



シートベルトを外す

- 1 シートベルトを保持します。

- 2 ベルトキャッチの赤いボタンを押します。
- 3 シートベルトを巻取装置に巻き取らせます。

運転席および助手席用シートベルト警告

一般事項

運転席側のシートベルトが着用されていない場合、シートベルト警告機能が作動します。

一部の国別仕様では、助手席シートベルトが着用されていないと助手席シートに重い物が置いてある場合にも、シートベルト警告が作動します。

メーター パネル内の表示



車両メッセージが表示されます。シートベルトが正しく着用されているか点検してください。

フロント ヘッドレスト

安全に関する注意事項

!**警告**

ヘッドレストに物を付けていると、頭部および頸部の保護効果が低下します。けがをする危険があります。

- ・シートカバーまたはヘッドレストカバーを使用しないでください。
- ・ハンガーなどをヘッドレストに直接掛けないでください。

- ・ヘッドレストに固定するのは、安全であることが確認されているアクセサリーのみを使用してください。
- ・走行中にはクッションなどのアクセサリーを使用しないでください。

高さ調整

ヘッドレストの高さは調節できません。

間隔の調節

バックレストの角度を調節して、後頭部との間隔を調節します。

ヘッドレストができるだけ後頭部に近づくように間隔を調節してください。

取り外す

ヘッドレストを取り外すことはできません。

ドアミラー

一般事項

現在使用しているドライバー プロファイル(57 ページ参照)に対して、ミラー設定がメモリーされます。ドライバー プロファイルを選択すると、記憶されている位置が自動的に呼び出されます。

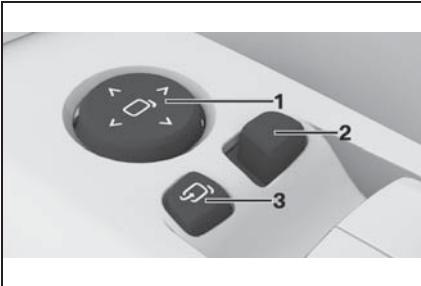
メモリー機能(98 ページ参照)で現在のドアミラー位置を記憶させることができます。

安全に関する注意事項

⚠ 警告

ミラーに映る対象物は、見た目よりも近くにあります。例えば車線変更の際に、後方の道路利用者との車間距離を正しく判断できない場合があります。事故の危険があります。後方の道路利用者との車間距離は、肩ごしに直接目で確かめてください。

概要



- 1 調節
- 2 ドアミラーの選択、リバース連動機能
- 3 折りたたみ

電動調節

Ⓐ ボタンを押します。

選択されたミラーはボタンの動きと同じように動きます。

ミラーの選択

Ⓑ 逆のミラーへの切換え：スイッチを操作します。

故障

電気系統の故障の場合は、ミラーガラスの縁を押してミラーを調節してください。

折りたたみ

⚠ 注意

車両の幅によっては、車両が自動洗車機で損傷する場合があります。損傷が発生するおそれがあります。洗車する前にドアミラーを手で、またはボタンで折りたたんでください。

Ⓑ ボタンを押します。

折りたたみは、約 20km/h 以下の速度のときに行なうことができます。

ドアミラーの折りたたみは以下の状況で便利です：

- ・ 自動洗車機に入る場合
- ・ 狹い道路に入る場合

折りたたまれたミラーは、速度が約 40km/h になると、自動的に開きます。

ドアミラーヒーター

左右のドアミラーは、必要時および走行スタンバイをオンにすると自動的に温められます。

自動防眩

運転席側のドアミラーは自動的に防眩されます。制御を行うのは、ルームミラー(97 ページ参照)のフォトセルです。

ドア ミラー下向き調節

原理

リバース ギアにシフトされている場合、助手席側のミラーが下方へ傾きます。これにより、駐車する際に縁石や路上近くの障害物が良く見えるようになります。

作動させる

- 1 スイッチを運転席側ドアミラー位置にします。
- 2 セレクター レバーをポジション R にシフトします。

作動解除する

スイッチを助手席側ドア ミラー位置にします。

ルーム ミラー、自動防眩

一般事項

ルーム ミラーが自動的に防眩されます。

制御用のフォト セルは以下に設置されています：

- ・ ミラー ガラス内
- ・ ミラーの裏側

概要



機能の前提条件

- ・ フォト セルを清潔に保ってください。
- ・ ルーム ミラーとフロント ウィンドウ間の領域が覆われることのないようにしてください。

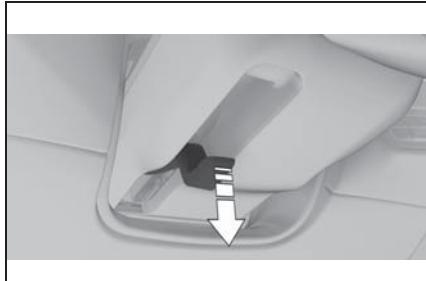
ステアリング ホイール

安全に関する注意事項

⚠ 警告

走行中にステアリング ホイール調整を行ふと、不意にステアリング ホイールが動くおそれがあり、車両を制御できなくなるおそれがあります。事故の危険があります。ステアリングホイールは、必ず車両を停止した状態で調整してください。

ステアリング ホイール調節



- 1 レバーを下に倒します。
- 2 シート位置に合わせてステアリング ホイールの前後方向と高さを調節します。
- 3 レバーを元に戻します。

メモリー機能

原理

メモリー機能により、以下の設定を記憶させ、必要に応じて呼び出すことができます：

- ・ シート位置
- ・ ドア ミラー位置
- ・ ヘッドアップ ディスプレイの高さ

一般事項

ひとつのドライバー プロファイル(57ページ参照)につき 2 つのメモリー場所が割り当てられ、そこに異なる設定を記憶させることができます。

以下の設定はメモリーできません：

- ・ バック レスト幅
- ・ ランバー サポート

安全に関する注意事項

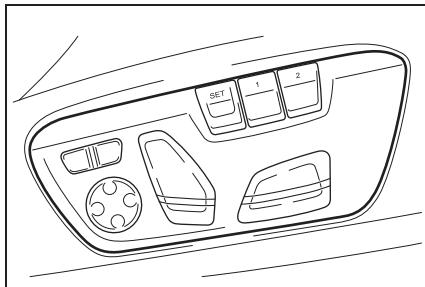
警告

走行中にメモリー機能を使用すると、不意にシートが動くおそれがあり、車両を制御できなくなるおそれがあります。事故の危険があります。メモリー機能は、必ず車両を停止した状態で呼び出してください。

警告

シートが動く際に挟まれる危険があります。けがを負ったり、損傷が発生するおそれがあります。設定の前に、シートが動く範囲に物がないことを確認してください。

概要



メモリー ボタンは運転席にあります。

登録

- 1 希望する位置に調節します。
- 2 **SET** ボタンを押します。ボタンの文字が点灯します。
- 3 文字が点灯している間に、希望するボタン 1 または 2 を押します。信号音が鳴ります。

シート位置の呼び出し

希望するボタン 1 または 2 を押します。

保存された位置が呼び出されます。

シート調節のスイッチを押した場合やいずれかのメモリー ボタンを再び押した場合、この動作は中止されます。

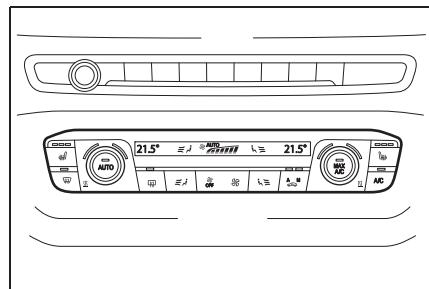
運転席側のシート位置の調節は、走行中しばらくすると中断します。

オフにする

  LED が消えるまでボタンを押し続けます。

シートヒーター

概要



シートヒーター

4

操作方法

オンにする



 ボタンを 1 回押す

ごとに温度が段階的に切り換わります。

最高温度では、3 個の LED が点灯します。

お子様の安全について

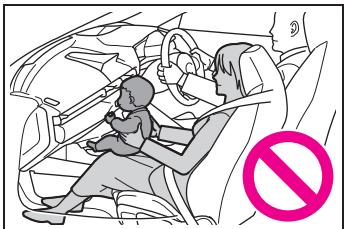
車両装備

この章では、モデルシリーズに提供される全ての標準装備、国別装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備や国別仕様などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、各国の有効な法律と規定に従ってください。

お子様を乗せるとき

⚠ 警告

保護者の責任でシートベルトを着用させてください。



お子様を抱きかかえたり、ひざに乗せたまま走行することは危険です。急ブレーキをかけたときや万一の衝突時、ダッシュボードやフロントウィンドウなどに頭や顔を打ちつけたり、最悪の場合は、お子様が車外へ放り出されることがあります。



シートベルトは、成人の身長や体重を前提に乗員の保護効果を発揮するように、設計されています。身長 150cm 以下の子供には適切なサイズのトヨタ純正チャイルドシートを使用してください。また、走行中に車内を移動することは、非常に危険です。

⚠ 警告

お子様だけを車内に残さないでください。

エンジンを止め、お子様も一緒に外に出て、ドアを施錠します。たとえ短時間であっても、以下のような場合がありますので、お子様だけを車内に残すことはたいへん危険です。

- 直射日光下では冬季でも車内温度が 50 ℃以上になることがあり、車内にいると熱射病や脱水症状を起こすことがあります。
- 操作スイッチなどをいたずらして、思わぬけがをするおそれがあります。
- ドアは大人が開閉し、ドアを閉めるときは、お子様の手や足がはさまれないように注意してください。
- ウィンドウの開口部から、お子様が顔や手足を出さないように注意し、パワーウィンドウの開閉スイッチに手を触れないようにしてください。

お子様の正しい乗車位置

安全に関する注意事項

⚠ 警告

お子様やペットを車内に残したままにすると、以下の操作などが行われることにより、車両が動き出したり、お子様やペットがけがをしたり、他の道路利用者が危険にさらされるおそれがあります：

- スタート/ストップボタンが押される
- パーキング ブレーキの解除
- ドアやウィンドウの開閉
- セレクター レバーがポジション N に入る
- 車両装備の操作

事故の危険またはけがをする危険があります。お子様やペットを車内に残したままにしないでください。車両を離れるときは、電子キーを携行し、車両をロックしてください。

助手席シート上のお子様

一般事項

助手席シートにチャイルド レストレイント システムを取り付ける前に、助手席側のフロントおよびサイド エアバッグが作動解除されていることを確認してください。助手席エアバッグは、助手席エアバッグ用キー スイッチ (→P.159) からのみ作動解除することができます。

安全に関する注意事項

⚠ 警告

助手席エアバッグがアクティブになっていると、エアバッグが作動した場合に、チャイルド レストレイント システムを使用しているお子様がけがをするおそれや危険があります。助手席エアバッグが作動解除され、PASSENGER AIRBAG OFF の警告灯が点灯していることを確認してください。

身長が 150cm 未満のお子様は、適切な補助チャイルド レストレイント システムを用いなければ、シートベルトを正しく着用することができません。シートベルトを正しく着用していないと、シートベルトの保護効果が制限されるか、正常に働かないおそれや、事故が起きたとき、あるいはブレーキ操作や障害物を回避するステアリング操作を行ったときなどにけがをするおそれがあります。けがをする危険または生命の危険があります。身長が 150cm 未満のお子様は適切なチャイルド レストレイント システムで固定してください。

チャイルド シートの取付け方法

一般事項

トヨタ販売店では、お子様の年齢や体重に合った適切なチャイルド レストレイント システムをご用意しています。

チャイルド レストレイント システムの選択、取付け、使用の際には、チャイルド レストレイント システムのメーカーの指示、使用上および安全上の注意事項を守ってください。

さい。

安全に関する注意事項

!**警告**

チャイルド レストレイント システムと固定システムが損傷した場合または事故により変形した場合は、保護効果が制限されたり、働くなくなるおそれがあります。事故が起ったとき、あるいはブレーキ操作や障害物を回避するステアリング操作を行ったときなどに、お子様を十分に拘束することができます。けがをする危険または生命の危険があります。

チャイルド レストレイント システムと固定システムが損傷した場合または事故により変形した場合は、引き続き使用しないでください。

固定システムが損傷または事故により変形した場合は、トヨタ販売店に点検および交換を依頼してください。

!**警告**

シート調節が正しくない場合やチャイルド シートの取付けが正しくない場合は、チャイルド レストレイント システムの安定性が制限されるか、損なわれます。けがをする危険または生命の危険があります。チャイルド レストレイント システムがバック レストにしっかりと固定されていることを確認してください。該当する全てのバック レストで、バック レスト角度をできるだけ適切に合わせ、シートを正しく調節してください。シートとバック レストが正しくかみ合っていること、またはロックされていることを確認してください。できればヘッドレストの高さを調節するか、ヘッドレストを取り外してください。

助手席シート上のお子様

エアバッグを作動解除する

!**警告**

助手席エアバッグがアクティブになっていると、エアバッグが作動した場合に、チャイルド レストレイント システムを使用しているお子様がけがをするおそれや危険があります。助手席エアバッグが作動解除され、PASSENGER AIRBAG OFF の警告灯が点灯していることを確認してください。

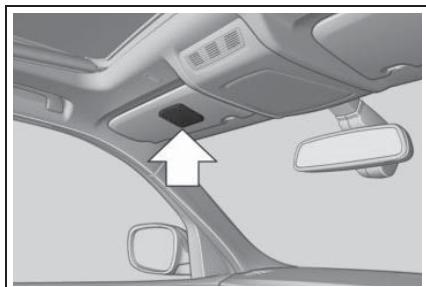
助手席シートにチャイルド レストレイント システムを取り付ける前に、助手席側のフロントおよびサイド エアバッグが作動しないようになっていることを確認してください。

助手席エアバッグをキー スイッチで作動解除します (→P.159)。

助手席へのチャイルド シート取付けに関する警告ラベル

!**警告**

助手席エアバッグの作動の際、後ろ向きのチャイルド レストレイント システムに着座している子供が致命的なけがを負うおそれがあります。けがの危険または生命の危険があります。助手席には後ろ向きにチャイルド シートを取り付けないでください。



助手席側のサンバイザーに警告ラベルが貼付されていますので、記載内容をご確認ください。



シート位置とシートの高さ

ユニバーサル チャイルド レストレイント システムを取り付ける前に、できるだけ助手席シートを最も後ろの位置に、また高さをいちばん高い位置に調節します。このシート位置と高さでは、事故が起きた場合にシートベルトが最適に伸びてお子様を効果的に保護できます。

シートベルトの上部固定ポイントがチャイルドシートのシートベルトガイドより前にある場合、助手席シートを慎重に前方にずらしながら、シートベルトガイドを最適な位置にします。

バック レスト幅

バック レスト幅が調整可能な場合：助手席シートにチャイルド レストレイント システムを取り付ける前に、バック レスト幅を完全に開いてください。この位置でバック レスト幅を変更しないでください、またメモリー ポジションを呼び出さないでください。

ISOFIX チャイルド シート マウント

一般事項

ISOFIX チャイルド レストレイント システムの選択、取付け、使用の際には、チャイルド レストレイント システムのメーカーの指示、使用上および安全上の注意事項を守ってください。

適切な ISOFIX チャイルド シート

特定の ISOFIX チャイルド シートのみ、それに適したシートで使用することができます。対応する体格クラスと体格カテゴリーは、チャイルド シートの注意書にアルファベットまたは ISO 表記で記されています。

チャイルド レストレイント システム (ISOFIX) に適しているまたは ISOFIX に準拠する場合の、各シートでのチャイルド レストレイント システムの使用についての情報：チャイルド レストレイント システムに適したシート (→P.105)

を参照。

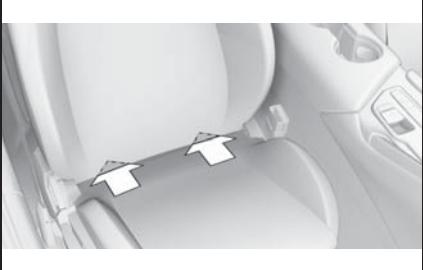
ISOFIX チャイルド シート用の下部マウント

安全に関する注意事項

⚠ 警告

ISOFIX チャイルド レストレイント システムが正しくロックされていないと、ISOFIX チャイルド レストレイント システムの保護効果が制限されるおそれがあり、けがをする危険または生命の危険があります。下部アンカーが正しくロックされていること、ISOFIX チャイルド レストレイント システムがバック レストにしっかりと固定されていることを確認してください。

位置



ISOFIX 下部アンカー用のマウントは、シートとバック レストの間の隙間にあります。

ISOFIX チャイルド レストレイント システムの取付け前

チャイルド シート マウントの領域からシート ベルトを引き出します。

ISOFIX チャイルド レストレイント システムの取付け

- チャイルド レストレイント システムを取り付けます。メーカーの注意事項を参照してください。
- ISOFIX の左右のマウントが正しく固定されていることを確認してください。

ISOFIX トップ テザー用マウント

安全に関する注意事項

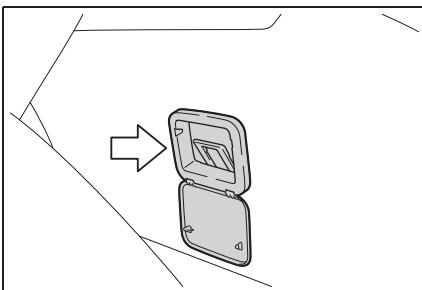
⚠ 警告

チャイルド レストレイント システムでトップ テザーを不適切に使用すると、保護効果が低下するおそれがあり、けがをする危険があります。トップ テザーが鋭いエッジの上を通らないよう、またねじれないようにして、トップ テザーを上部固定ベルトまで取り回すように注意してください。

⚠ 注意

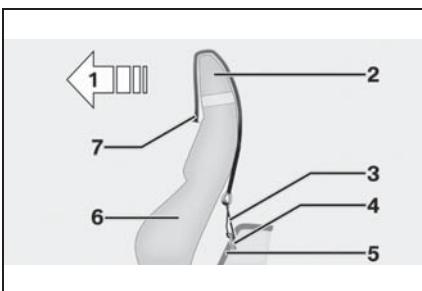
チャイルド レストレイント システムのトップ テザー固定ポイントはこの固定ベルト専用に設けてあります。他のものを固定すると、固定ポイントが損傷するおそれや、損傷が発生するおそれがあります。トップ テザーにはチャイルド レストレイント システムのみを固定してください。

固定ポイント	
シンボル	意味
	シンボルはトップ テザーの固定ポイントを示しています。



ISOFIX チャイルド レストレイント システムのトップ テザー用として、1 つの固定点があります。

トップ テザーの取り回し



- 1 走行方向
- 2 ヘッドレスト
- 3 トップ テザーのフック
- 4 固定ポイント / 固定用アイ
- 5 車両フロア
- 6 シート
- 7 トップ テザー

トップ テザーを固定ポイントに取り付ける

- 1 固定ポイントのカバーを開けます。
- 2 トップ テザーをヘッドレスト上から固定点に取り回します。
- 3 固定ベルトのフックを固定ポイントにかけます。
- 4 固定ベルトをたるみがないように締めます。

チャイルド レストレイント システムに適した座席

概要

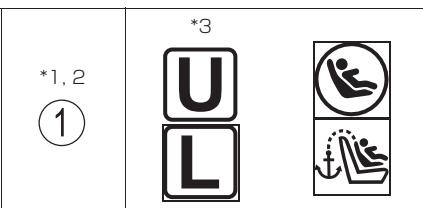
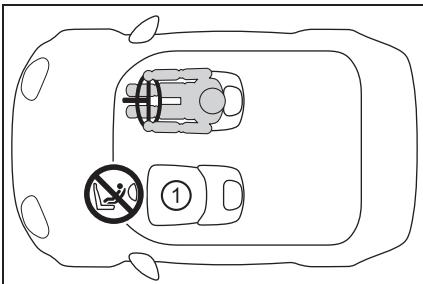
一般事項

法規定が定める各チャイルド シートの対象年齢や身長は、国によって異なる場合があります。各国の法規に注意してください。

詳しい情報はトヨタ販売店にお問い合わせください。

それぞれのシートにおけるチャイルド レストレイント システムの有効性についての情報、規格 ECE-R 16 および ECE-R 129 に準拠。

助手席におけるチャイルドシートの適合性



U 車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

L 推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→P.108）に記載されたチャイルドシートに適しています。

ISOFIX チャイルドシートに適しています。

トップテザーアンカレッジが装備されています。

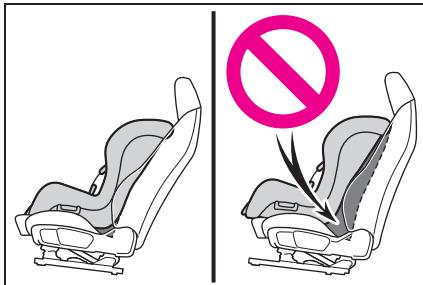
やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席エアバッグを作動解除してください。チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

*¹シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

*²背もたれを可能な限り起こしてください。

い。

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



*³助手席エアバッグが作動する場合は、チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置		
シート位置の番号	(1)	
	エアバッグ作動スイッチ	
	ON	OFF
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有／無）	有 前向きのみ	有
アイサイズ着座位置（有／無）	無	無
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1/L2）	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1/R2X/R2/R3/×）	×	R1, R2*
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X/F2/F3）	F2X, F2, F3	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2/B3）	B2, B3	B2, B3

* シート高さを一番低い位置に調整してください。

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にはない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

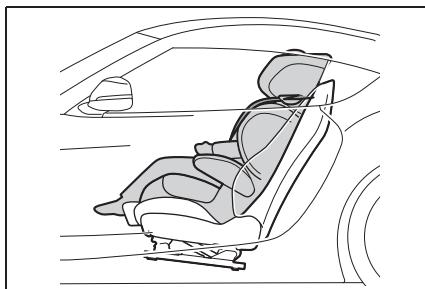
治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート

治具	使用の向き・形状・大きさ
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

推奨チャイルドシートと適合性一覧表

質量グループ	推奨チャイルドシート	着座位置	
		エアバッグ作動スイッチ	
		① ON	OFF
0、0+ (13kgまで)	トヨタ純正 NEO G-Child baby	×	○
I (9~18kg)	トヨタ純正 NEO G-Child baby	○ 前向き のみ	○

- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。
- サポートレッグ付きチャイルド

シートを使用する場合は、フロアマットを取り除いてください。

走行

車両装備

この章では、モデルシリーズに提供される全ての標準装備、国別装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備や国別仕様などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、各国の有効な法律と規定に従ってください。

4

操作方法

スタート / ストップボタン

原理



スタート / ストップボタンを押すことにより、走行スタンバイ (→P.36) をオンまたはオフにすることができます。

ブレーキを踏みながらスタート / ストップボタンを押すと、走行スタンバイがオンになります。

スタート / ストップボタンを再度押すと、走行スタンバイがオフになり、作動スタンバイ (→P.36) がオンになります。

アイドリングストップ機能

原理

アイドリングストップは燃料の節約に役立ちます。このシステムは、渋滞時や信号待ちなどの停車中にエンジンを停止します。走行スタンバイはオンのままで。発進するときに、エンジンが自動的に始動します。

一般事項

スタート / ストップボタンによるエンジンスタートのたびに、アイドリングストップが作動可能状態になります。この機能は、約5km/h以上で作動します。

選択した走行モード(→P.124)に応じて、システムは自動的に作動または作動解除されます。

エンジンストップ

機能の前提条件

以下の条件下では、停車中にエンジンが自動的に停止します：

- セレクター レバーがポジションD
- ブレーキ ペダルが車両停止状態の間、踏まれている
- 運転席シートベルトが締められている、または運転席ドアが閉じている

手動によるエンジンストップ

車両を停止させたときにエンジンが自動的にオフにならなかった場合は、エンジンを手動でオフにすることができます：

- ブレーキ ペダルを現在の位置から素早く踏み込みます。
- セレクター レバーをポジションPにシフトします。

全ての機能前提条件が満たされていれば、エンジンがオフになります。

エンジン停止時のエアコン

エンジンを停止した状態では、エアコンの風量が減少します。

メーター パネル内の表示

一般事項



タコメーターの表示は、オートスタートストップが自動エンジンスタートの準備を完了していることを示すものです。



この表示は、オートエンジンストップの条件が整っていないことを示すものです。

機能制限

以下の状況では、エンジンは自動的に停止しません：

- 急な下り坂の場合
- ブレーキが十分に強く踏まれていないとき

- 外気温度が高く、オートエアコンが作動している
- 車内がまだ希望の温度に暖められていない、または冷却されていない
- オートエアコンをオンにした状態でウィンドウが曇りそうなとき
- エンジンまたはその他の部品がまだ暖機状態に達していない
- エンジン冷却が必要
- ステアリング アングルが大きい、または急ハンドルが切られたとき
- 車両バッテリーが著しく放電している
- 標高が高い場合
- ボンネットがロック解除されている
- パーキング アシスタントが作動している
- 停止と発進を繰り返す渋滞
- セレクター レバー ポジションが N または R
- 後退走行の後
- エタノール濃度が高い燃料の使用

エンジン スタート

機能の前提条件

発進するときに、次の条件が満たされていればエンジンが自動的に始動します：

- ブレーキ ペダルを解除する

発進

エンジンを始動した後、通常通り加速します。

セーフティ機能

次の条件の一つに当てはまると、エンジンは自動停止後、自動的には始動しません：

- 運転席シートベルトが外れていて、運転席ドアが開いている
 - ボンネットがロック解除されたいくつかの警告灯の点灯時間は異なります
- スタート / ストップボタンでのみエンジンをスタートすることができます。

システムの限界

発進するつもりでない場合でも、停止したエンジンは以下の状況で自動的に始動します：

- 高温の車内で、エアコンをオンにしたとき
- 低温の車内で、ヒーターをオンにしたとき
- オートエアコンをオンにした状態でウィンドウが曇りそうなとき
- ステアリングを操作した場合
- セレクター レバーをポジション D から N または R にシフトしたとき
- セレクター レバーをポジション P から N、D または R にシフトしたとき

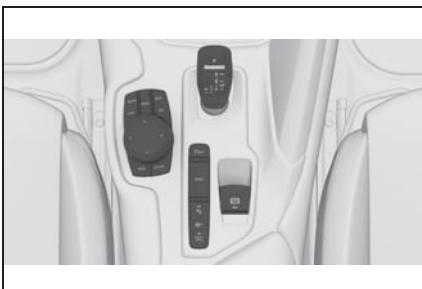
- 車両バッテリーが著しく放電している
- オイル レベル測定の開始

システムを手動で作動解除する / 作動させる

原理

エンジンは自動的に停止しません。オート ストップ中はエンジンが始動します。

ボタンによる



(Ⓐ) OFF ボタンを押します。

セレクター レバー ポジションから

アイドリングストップは、セレクター レバー ポジションが M のときにもオフになります。

スポーツモードスイッチ

アイドリングストップは、走行モード SPORT になっているときもオフになります。

オート エンジン ストップ中に車両を駐車させる

一般事項

オート ストップの際に、例えば車両を離れるために車両を確実に停止させることができます。

オートマチック トランスマッショ

- 1 スタート / ストップボタンを押します。
- 走行スタンバイがオフになるとき
- 作動スタンバイがオンになります
- セレクター レバーがポジション P に自動的にシフトされます。
- 2 パーキング ブレーキをかけます。

自動的作動解除

一般事項

ドライバー不在が検知されるなどの特定の状況では、安全を確保するためにアイドリングストップが自動的に作動解除されます。

故障

アイドリングストップは、エンジンを自動的に停止しなくなります。車両メッセージが表示されます。走行を続けることはできます。システムの点検をトヨタ販売店に依頼してください。

パーキング ブレーキ

原理

パーキング ブレーキは、停車中の車両が動き出さないようにするために使います。

安全に関する注意事項

⚠ 警告

固定されていない車両は自然に動き出してしまうなどの事故の危険があります。車両を離れる前に、車両が動き出さないように固定してください。

以下のようにして、車両が動き出さないように確実に固定してください：

- パーキング ブレーキをかける
- 上り坂または下り坂では、フロント ホイールを縁石の方向に向ける
- 上り坂または下り坂では、輪止めなどを使用して車両を補助的に固定する

⚠ 警告

お子様やペットを車内に残したままにすると、以下の操作などが行われることにより、車両が動き出したり、お子様やペットがけがをしたり、他の道路利用者が危険にさらされるおそれがあります：

- スタート/ストップボタンが押される
- パーキング ブレーキの解除
- ドアやウィンドウの開閉
- セレクター レバーがポジション N に入る
- 車両装備の操作

事故の危険またはけがをする危険があります。お子様やペットを車内に残したままにしないでください。車両を離れるときは、電子キーを携行し、車両をロックしてください。

概要



パーキング ブレーキ

ブレーキをかける

車両停止時



スイッチを引き上げます。
LED が点灯します。
メーター パネルの表示灯が
赤色に点灯します。パーク
ング ブレーキが作動してい
ます。

走行中

■ 一般事項

走行中に使用する場合は緊急ブ
レーキ機能として働きます。

スイッチを引き上げ、保持します。
車両は、スイッチが引かれている
間、強くブレーキをかけます。



メーター パネルの表示灯が赤色に点灯し、信号音が鳴り、ブレーキ ライトが点灯します。

車両メッセージが表示されます。
車両停止時にパーキング ブレーキがかかります。

解除する

手動で解除する

- 1 走行スタンバイをオンにします。
 - 2 ブレーキを踏んで、またはセレクター レバーをポジション Pにして、スイッチを押します。
- LED と表示灯が消えます。
パーキング ブレーキが解除されている。

自動解除

発進すると、パーキング ブレーキが自動的に解除されます。
LED と表示灯が消えます。

故障

パーキング ブレーキに故障または障害がある場合：
降車後、輪止めなどで車両を動き出さないように固定します。

電源が遮断した後

電源の遮断後にパーキング ブレーキの機能を回復させるため：

- 1 走行スタンバイをオンにします。
- 2 ブレーキを踏んで、またはセレクター レバーをポジション Pにして、 スイッチを引き、その後押します。

このプロセスは数秒かかる場合があります。場合により音がすることがありますが、異常ではありません。



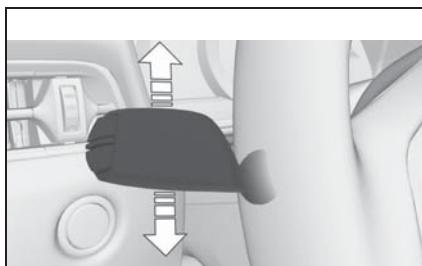
パーキング ブレーキが再び作動可能な状態になると、表示灯が消えます。

方向指示灯

ドアミラーの方向指示灯

ドアミラーの方向指示灯はよく見えるようにしておく必要があるので、走行時および方向指示灯またはハザード フラッシャーの作動中にドアミラーを折りたたまないでください。

方向指示灯を使う



レバーを上または下へ軽く止まる位置を越えるまで押します。

3 ターン シグナル

レバーを軽く上または下へ押します。

3 ターン シグナルの継続時間を設定することができます。

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
 - 2 「車両設定」
 - 3 「エクステリアライト」
 - 4 「ターンシグナル」
- 5 希望する項目を選択します。

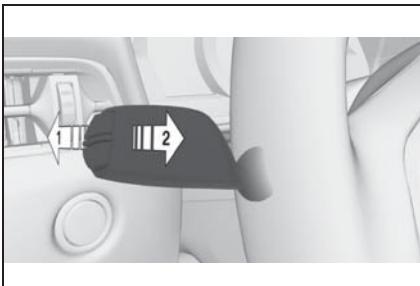
現在使用しているドライバー プロファイルに対して、設定内容が記憶されます。

短時間の点滅

レバーを上または下へ軽く止まる位置まで押し、点滅を続けたい間、保持します。

ヘッドライト、ハイビーム

レバーを前に押すか、後ろに引きます。



1 ヘッドライト オン (矢印 1)

ヘッドライトは、ロー ビームがオンのときに点灯します。

2 ヘッドライト オフ/ハイビーム

オン (矢印 2)

ワイパー

一般事項

ワイパー ブレードの摩耗が早まつたりワイパー ブレードが損傷するおそれがあるため、フロント ウィンドウが乾いているときにワイパーを使用しないでください。

安全に関する注意事項

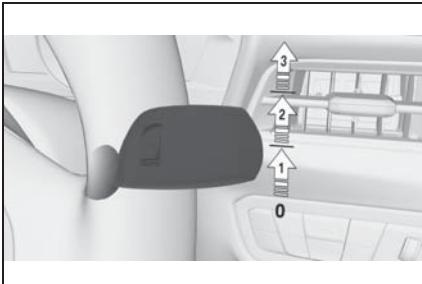
⚠ 警告

ワイパーを起こした状態で動かすと、身体の一部が挟まれたり、車両の一部が損傷するおそれや、けがを負ったり、損傷が発生するおそれがあります。ワイパーを起こすときにはイグニッションがオフになっていること、またイグニッションをオンにするときにはワイパーが折りたたまれていることを確認してください。

⚠ 注意

ワイパーが凍結している場合、ワイパーをオンにしたときにワイパー ブレードが裂けたり、ワイパー モーターが過熱したりするおそれや、損傷が発生するおそれがあります。ワイパーをオンにする前にウィンドウの霜取りをしてください。

オンにする



レバーを、希望する位置になるまで上方に押します。

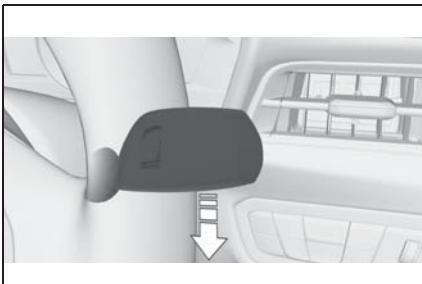
- ワイパーの停止位置、位置 **0**
- レイン センサー、位置 **1**
- 標準ワイパー スピード、位置 **2**

停車中は、間欠作動に切換えられます。

- 高速ワイパー スピード、位置 **3**
- 停車中は、標準ワイパー スピードに切り換わります。

ワイパー システムをオンにした状態で走行を中断した場合：走行が再開されると、ワイパーはあらかじめ設定されたレベルで動作します。

スイッチをオフ、ワンタッチ ワイパー



レバーを下に押します。

- オフ：レバーを、基本位置になるまで下に押します。
- ワンタッチ ワイパー：レバーを基本位置から下に押します。

手をはなすとレバーが元の位置に戻ります。

レイン センサー

原理

レイン センサーは、雨の強さに合わせてワイパー作動を自動的に制御します。

一般事項

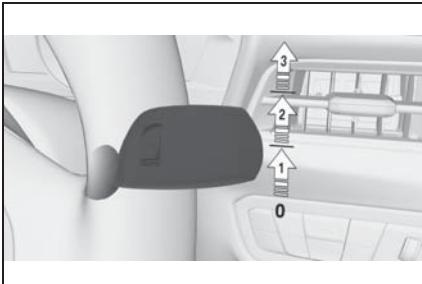
センサーは、フロント ウィンドウのルーム ミラーのすぐ前にあります。

安全に関する注意事項

注意

レイン センサーがオンになっていると、洗車機に入れたときにワイパーが不意に動き出すおそれや、損傷が発生するおそれがあります。洗車機ではレイン センサーを作動解除してください。

作動させる



レバーを基本位置から 1 回上方に押します、矢印 1。

ワイパー動作がスタートします。

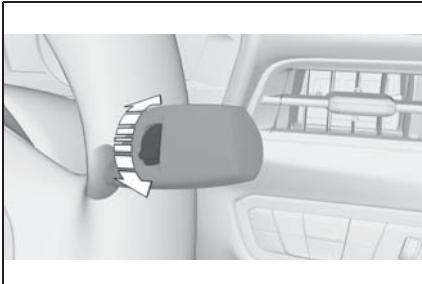
ワイパー レバーの LED が点灯します。

氷点下ではワイパー動作がスタートしない場合があります。

作動解除する

レバーを押して基本位置に戻します。

レイン センサー感度を設定する



レイン センサーの感度を調節するにはダイヤルを回します。

上に回す：レイン センサーの感度が上がります。

下に回す：レイン センサーの感度

が下がります。

ウィンドウ ウオッシャー

安全に関する注意事項

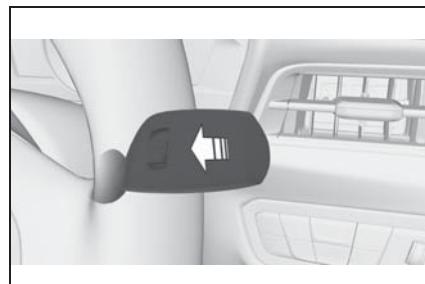
⚠ 警告

温度が低すぎる場合、ウォッシャー液がガラス上で凍って、視界が狭くなるおそれや、事故の危険があります。ウォッシャーは、ウォッシャー液が凍らないときにのみ使用してください。必要に応じて凍結防止剤を使用してください。

⚠ 注意

ウォッシャー タンクが空のときには、ウォッシャー ポンプが所定の作動を行えません。損傷が発生するおそれがあります。ウォッシャータンクが空のときにはワイパーを使用しないでください。

フロント ウィンドウを清掃する



レバーを引きます。

ウォッシャー液がフロント ウィンドウに吹き付けられ、ワイパーが短時間オンになります。

ウォッシャー ノズル

作動スタンバイをオンにすると、ウォッシャー ノズルが自動的に温められます。

ワイパー停止位置の切換え

原理

ワイパー停止位置ではワイパーをフロント ウィンドウから起こすことができます。

一般事項

ワイパー ブレードの交換や、または氷点下時にワイパーを起こす際に用います。

安全に関する注意事項

⚠ 警告

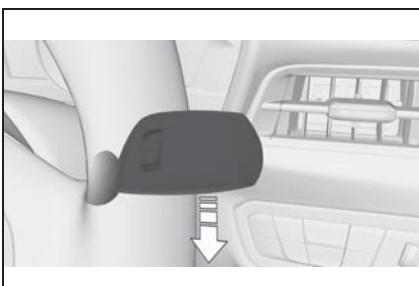
ワイパーを起こした状態で動かすと、身体の一部が挟まれたり、車両の一部が損傷するおそれや、けがを負ったり、損傷が発生するおそれがあります。ワイパーを起こすときにはイグニッションがオフになっていること、またイグニッションをオンにするときにはワイパーが折りたたまれていることを確認してください。

⚠ 注意

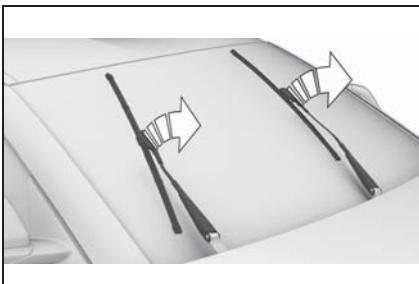
ワイパーが凍結している場合、ワイパーをオンにしたときにワイパー ブレードが裂けたり、ワイパー モーターが過熱したりするおそれや、損傷が発生するおそれがあります。ワイパーをオンにする前にウィンドウの霜取りをしてください。

ワイパーを起こす

- 1 作動スタンバイをオンにします。
- 2 ワイパーがほぼ垂直の位置で止まるまで、ワイパー レバーを下に押し続けます。



- 3 ワイパーを持ち上げて、フロント ウィンドウから完全に離します。



ワイパーを倒す

ワイパーを倒した後、ワイパー シ

ステムを再び作動させる必要があります。

- 1 ワイパーをフロント ウィンドウに完全に倒します。
- 2 作動スタンバイをオンにして、ワイパー レバーを再び下に押しつけます。
- 3 ワイパーが停止位置に戻り、再び作動可能な状態になります。

オートマチック トランスミッション

原理

オートマチック トランスミッションでは、必要に応じて手動でシフトできる機能が統合されています。

安全に関する注意事項

⚠ 警告

固定されていない車両は自然に動き出してしまうことがあります。事故の危険があります。車両を離れる前に、車両が動き出さないように固定します。例えばパーキング ブレーキをかけます。

セレクター レバー ポジション

D ドライブ ポジション

通常走行するときのセレクター レバー ポジションです。前進走行用の全てのギアに自動的にシフトされます。

R リバース（後退）

必ず停車している状態で、セレクター レバーをポジション R にします。

N ニュートラル

セレクター レバー ポジション N では、例えば自動洗車機で車両を移動させたり、またはエンジン パワーなしで動かす (→121) ことができます。

P パーキング

例えば車両を停止するとき用のセレクター レバー ポジションです。セレクター レバー ポジション P では、トランスミッションによって駆動輪がブロックされます。

必ず停車している状態で、セレクター レバーをポジション P にします。

■ Pへの自動シフト

例えば以下の状況のときに、セレクター レバーはポジション P に自動的にシフトされます：

- 走行スタンバイをオフにした後に、セレクター レバー ポジションが R、D または M になっているとき
- セレクター レバーがポジション N に入っているときに、作動スタンバイをオフにした後
- 停車時にセレクター レバーをポジション D、M または R にシフトした状態で運転席のシートベルトを外し、ブレーキを操作せ

ずに運転席ドアを開いた場合

セレクター レバー ポジション に入る

一般事項

ギアがドライブ ポジションに入っている場合は車両が動き出しますので、発進するまでの間はブレーキを踏んでいてください。

機能の前提条件

走行スタンバイがオンでブレーキを踏んでいる場合にのみ、セレクター レバー ポジション P から別のセレクター レバー ポジションへのシフトが行われます。

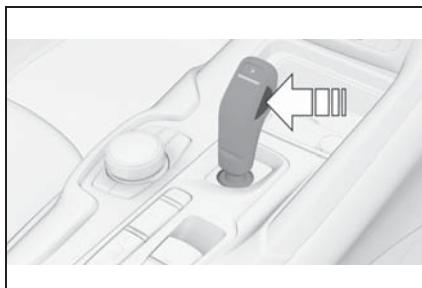
全ての技術的な前提条件が満たされている場合にのみセレクター レバー ポジション P を終了することができる場合があります。

セレクター レバーをポジション D、N、R にシフトする

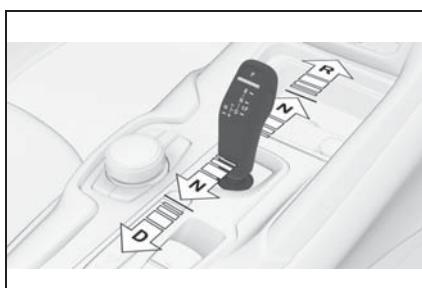
セレクター レバー ロックは、以下の誤操作を防止します：

- セレクター レバー ポジション R への間違ったシフト
 - セレクター レバー ポジション P から別のセレクター レバー ポジションへの間違ったシフト
- 1 運転席シートベルトを着用します。

2 セレクター レバー ロックを解除するには、ボタンを押して、そのまま押し続けます。



3 セレクター レバーを希望する方向に軽く押します。必要に応じて軽く止まる位置まで押します。手を離すと、セレクター レバーは中央位置に戻ります。



セレクター レバーをポジション P にする



P ボタンを押します。

車両を動かす / 移動する

一般事項

例えば自動洗車機や車両の移動などの状況で、車両をエンジンパワーなしで短い距離だけ動かさなければならぬことがあります。

セレクター レバー ポジション N にシフトする

- 1 ブレーキを踏みながら走行スタンバイをオンにします。
- 2 必要に応じてパークリング ブレーキを解除します。
- 3 ブレーキ ペダルを踏みます。
- 4 セレクター レバー ロックを操作し、ニュートラル ポジション N にします。
- 5 走行スタンバイをオフにします。

この方法で作動スタンバイはオンに維持され、車両メッセージが表示されます。

車輪がロックされないので、車両を移動させることができます。



注意

作動スタンバイがオフになると、自動的にセレクター レバー ポジションがPになります。損傷が発生するおそれがあります。自動洗車機では作動スタンバイをオフにしないでください。

作動スタンバイに関係なく、約35分後にセレクター レバーはポジション P に自動的にシフトされます。

故障の場合は、セレクター レバー

ポジションの切換えができないことがあります。

必要に応じてトランスミッションロックを電子的にロック解除します(→P.123)。

キック ダウン

キック ダウンにより、最大の走行能力が得られます。

アクセル ペダルを抵抗を超えて踏み込みます。

マニュアル モード

原理

マニュアル モードでは、手動でギアをシフトすることができます。

マニュアル モードを作動させる



セレクター レバーをセレクター レバー ポジション D から出して、左に押します。

メーター パネルには、シフトされているギアが表示されます(例: 1M)。

トランスミッションのスポーツ プログラムが作動しています。

切換え

- シフト ダウン：セレクター レバーを前方に押します。
- シフト アップ：セレクター レバーを後方に引きます。

マニュアル モードを終了する

セレクター レバーを右に押します。

メーター パネル内に、D が表示されます。

パドル スイッチ

原理

ステアリング ホイールのパドル スイッチを使用すると、手をステアリング ホイールから離さずにギアを素早くシフトすることができます。

一般事項

■ シフト動作

シフト動作は、回転数と速度が適切な場合にのみ行われます。

■ 短時間のマニュアル モード

セレクター レバー ポジション D では、パドル スイッチの操作後に一時的にマニュアル モードに切り換えられます。

マニュアル モード時に一定時間控えめに走行し、加速せず、パドル スイッチでシフトを行わなかった場合、トランスミッションは再びオートマチック モードに切り換わ

ります。

以下の手順でオートマチック モードへの切換えが行えます：

- 右のパドル スイッチを長く引きます。
- 右のパドル スイッチを短く引き、さらに左のパドル スイッチを短く引きます。

■ 繼続的なマニュアル モード

セレクター レバー ポジション M では、パドル スイッチの操作後に持続的にマニュアル モードに切り換えられます。

切換え



● シフト アップするときは、右のパドル スイッチを短く引きます。

● シフト ダウン：左のパドル スイッチを短く引きます。

● 左パドル スイッチを長く引くことにより、可能な限り低いギアにシフト ダウンされます。

メーター パネルには選択したギアが短時間表示され、その後、実際にシフトされているギアが表示されます。

メーター パネル内の表示



セレクター レバー ポジション（例えば P）が表示されます。

トランスミッション ロックを電子的にロック解除

一般事項

車両を危険領域から移動させるために、トランスミッション ロックを電子的にロック解除します。

始動装置がエンジンを回転させることができるように、ロック解除が可能です。

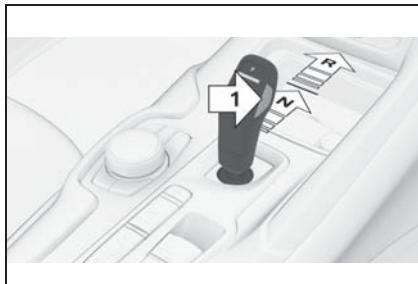
トランスミッション ロックを解除する前に、パーキング ブレーキをかけて、車両が動き出すのを防止してください。

セレクター レバー ポジション N にシフトする

- 1 ブレーキ ペダルを踏み、そのまま保持します。
- 2 スタート / ストップボタンを押します。始動装置の始動音が聞こえる必要があります。スタート / ストップボタンを押し続けます。
- 3 空いている手でセレクター レバーのボタンを押し、矢印 1、セレクター レバーをポジション N に押し、メーター パネルにセレクター レバー ポジション

N が表示されるまでそのまま維持します、矢印 N。

車両メッセージが表示されます。



4 スタート / ストップボタンおよびセレクター レバーを放します。

5 始動装置が止まつたらブレーキをゆるめます。

6 車両を危険領域から移動し、車両が動き出さないように固定します。

詳しい情報については、けん引（→P.287）の章を参照してください。

ローンチ コントロール

原理

乾燥した周囲条件の場合に、ローンチ コントロールはグリップの良い路面での最適な加速を実現します。

一般事項

ローンチ コントロール機能は車両に非常に高い負荷をかけるので、この機能の使用により構成部品の摩耗が早まります。

慣らし運転（→P.228）の期間中はローンチ コントロールを使用しないでください。

ローンチ コントロールを使用して発進する際には、ステアリングを切ってはなりません。

機能の前提条件

ローンチ コントロールは、エンジンが暖機状態になっているときに使用できます。エンジンは、10km 以上の距離を中断なく走行した後に暖機状態になります。

ローンチ コントロールによる発進

- 1 走行スタンバイをオンにします。
- 2 スポーツモードスイッチを押します。

メーター パネルに SPORT が表示され、スポーツモードが選択されます。

- 3  ボタンを押します。

メーター パネルに TRACTION が表示され、VSC OFF 表示灯が点灯します。

- 4 セレクターレバーをポジション D にシフトします。
- 5 左足でブレーキを強く踏みます。
- 6 アクセル ペダルを、フルロード ポイントでの抵抗を超えて踏み込み、維持します（キックダウン）。

メーター パネル内に、フラッグ シンボルが表示されます。

- 7 エンジンは発進回転数に制御されます。3 秒以内にブレーキをゆるめます。

1 回の走行での再使用

ローンチ コントロールの使用後は、再使用する前にトランスマッシュョンを約 5 分間冷ます必要があります。再使用する場合、ローンチ コントロールは周囲条件に適合するように調整されます。

ローンチ コントロールの使用後

走行安定性を高めるために、ビーグルスタビリティコントロールとトラクションコントロール、VSC をできるだけ早く再作動させてください。

システムの限界

熟練したドライバーは VSC OFF モードで、さらに高い加速度値を得られる場合があります。

スポーツモードスイッチ

原理

スポーツモードスイッチは車両の走行ダイナミクスを調整します。

一般事項

例えば、以下のシステムが調整されます：

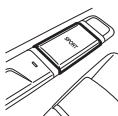
- エンジン特性曲線
- オートマチック トランスマッシュョン

ション

- アダプティブバリアブルサスペンション
- ステアリング
- メーター パネル内の表示
- レーダークルーズコントロール

概要**メーター パネル内の表示****SPORT**

メーター パネルに走行モードが表示されます。

走行モード

車両のスイッチ

ボタン	走行モード	設定
SPORT	SPORT	INDIVIDUAL

走行スタンバイをオンにしたときには、走行モード NORMAL が自

動的に選択されます。

走行モードの詳細**NORMAL****■ 原理**

ダイナミックな走行と燃費を重視した走行の間のつり合いの取れた調整です。

SPORT**■ 原理**

サスペンションの最適化により、俊敏性を高めた、ダイナミックな調整。

■ オンにする**SPORT**

スイッチを押して、SPORT を表示させます。

カスタマイズ設定**■ 原理**

走行モードカスタマイズ設定では個別の設定を行うことができます。

■ 設定

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「車両設定」
- 3 「SPORT INDIVIDUAL 設定」
- 4 「カスタマイズ設定」
- 5 希望する項目を選択します。

現在使用しているドライバー プロファイルに対して、設定内容が記憶されます。

カスタマイズ設定を標準設定にリ

セットする：「SPORT STANDARD にリセットします」。

表示

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、国別装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備や国別仕様などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、各国の有効な法律と規定に従ってください。

メーター パネル

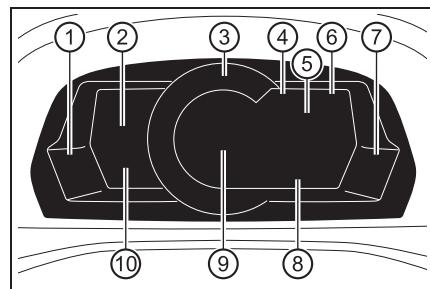
原理

メーター パネルは可変表示されます。スポーツモードスイッチによりプログラムを変更すると、メーター パネルの表示が走行モードに合ったものとなります。

一般事項

メーター パネルの表示の変更は Toyota Supra Command でオフにすることができます。

メーター パネルの表示は、この取扱説明書に示した表示と一部異なる場合があります。



概要

- 1 燃料計 (→P.132)
- 2 スピードメーター
- 3 タコメーター (→P.132)
スポーツモードスイッチステータス (→P.124)
- 4 時刻 (→P.53)
- 5 可変表示 (→P.127)
- 6 外気温度 (→P.133)
- 7 エンジン冷却水温度 (→P.133)
- 8 車両メッセージ (→P.127)
総航続可能距離 (→P.136)
- 9 セレクター レバー ポジション表示 (→P.119)
- 10 可変表示 (→P.127)

可変表示

メーター パネルの一部の領域に、レーダークルーズコントロールなどのさまざまなアシスタンス システムを表示させることができます。装備と国別仕様に応じて表示が異なる場合があります。

スポーツモード表示

原理

メーター パネルでは、表示をスポーツモードに変更することができます。

表示を変更する

SPORT

ボタンを押して SPORT を表示させます。

走行モードがスポーツモードに変更されます。

車両メッセージ

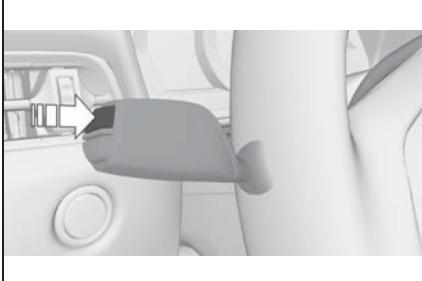
原理

車両メッセージは、車両の機能をモニターし、モニターされたシステムに故障がある場合、メッセージを出します。

一般事項

車両メッセージは、表示灯または警告灯とメーター パネル内のテキスト メッセージとを組み合わせて、また必要に応じてヘッドアップ ディスプレイに表示されます。さらに、必要に応じて信号音が出力され、コントロール ディスプレイにテキスト メッセージが表示されます。

車両メッセージの非表示



ターン インジケーター レバーのボタンを押します。

持続的な表示

いくつかの車両メッセージは持続的に表示され、故障が解消されるまで消えません。複数の故障がある場合、メッセージは順番に表示されます。

これらのメッセージは、約 8 秒間、非表示にすることができます。その後メッセージは再び自動的に表示されます。

一時的な表示

一部の車両メッセージは、約 20 秒後に自動的に非表示になります。これらの車両メッセージはメモリーされ、再び表示させることができます。

記憶された車両メッセージを表示する

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「車両ステータス」

3 △「車両メッセージ」

- 4 テキスト メッセージを選択する。

表示

車両メッセージ



車両メッセージが 1 件以上表示されるか、保存されています。

テキスト メッセージ

メーター パネル内のテキスト メッセージは、表示されるシンボルとの組み合わせにより、車両メッセージおよび表示灯や警告灯の意味を説明します。

補足情報の表示

故障の原因や、対応する操作の必要性などの補足情報を、車両メッセージによって呼び出すことができます。

緊急メッセージの場合、コントロール ディスプレイに自動的に補足テキストが表示されます。

車両メッセージに応じて、詳細なヘルプを選択することができます。

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「車両ステータス」
- 3 △「車両メッセージ」
- 4 希望するテキスト メッセージを選択します。
- 5 希望する設定を選択します

走行後のメッセージ表示

走行中に表示された特定のメッセージは、作動スタンバイをオフにした後に再表示されます。

表示灯と警告灯

原理

メーター パネルの表示灯と警告灯は、車両のいくつかの機能のステータスを示し、モニターされたシステムに故障がある場合に、そのことを伝えます。

一般事項

表示灯と警告灯は、異なった組み合わせと色で点灯します。

いくつかの表示灯 / 警告灯は、走行スタンバイがオンにされたときに機能点検が行われ、短時間点灯します。

赤色のライト

シートベルト警告



運転席側のシートベルトが着用されていません。一部の国別仕様の場合：助手席シートベルトが着用されていないか、または助手席シート上に物があることが検知されました。

シートベルトが正しく着用されているか点検してください。

エアバッグ システム



エアバッグ システムとシートベルト テンショナーが故障している可能性があります。

直ちに車両の点検をトヨタ販売店に依頼してください。

パーキング ブレーキ



パーキング ブレーキが作動しています。

パーキング ブレーキを解除します（→P.113）。

ブレーキ システム



ブレーキ システムに異常があります。穏やかに走行を継続します。

直ちに車両の点検をトヨタ販売店に依頼してください。

黄色のライト

アンチロック ブレーキ システム (ABS)



ブレーキ ブースターが故障している可能性があります。急ブレーキを回避します。通常より長い制動距離を考慮してください。

直ちにトヨタ販売店に点検を依頼してください。

ビーカルスタビリティコントロール

表示灯が点滅する：VSC が、駆動力と制動力を調節しています。車両が安定化されます。速度を落として、運転の仕方を道路の状況に合わせてください。



表示灯が点灯する：VSC が故障しています。

直ちにシステムの点検をトヨタ販売店に依頼してください。

VSC (→P.186)

ビーカルスタビリティコントロール（VSC）が作動解除またはトラクションモードが作動



VSC が作動解除されています、またはトラクションモードが作動しています。

VSC (→P.186) と トラクションモード (→P.187)

タイヤ空気圧警報 (TPM)

表示灯が点灯：タイヤ空気圧警報がタイヤ空気圧の低下またはタイヤパンクを知らせています。車両メッセージの情報を確認してください。



表示灯が点滅し、その後常時点灯：タイヤのパンクまたはタイヤ空気圧低下を検知できません。

- 同じ無線周波数を持つシステムや機器による障害：障害エリアから離れると、システムは自動的に再び作動します。

- TPM ホイール エレクトロニクスなしのホイールが取り付けられている：必要に応じてトヨタ販売店に点検を依頼してください。

- 機能障害：システムの点検をトヨタ販売店に依頼してください。

タイヤ空気圧警報
(→P.252)

ステアリング システム



ステアリング システムが故障している場合があります。

システムの点検をトヨタ販売店に依頼してください。

有害物質の放出



エンジン機能に異常があります。

車両の点検をトヨタ販売店に依頼してください。

リア フォグ ライト



リア フォグ ライトがオンになっています。

リア フォグ ライト
(→P.147)

緑色のライト



ターン インジケーターがオン。

表示灯の点滅や点滅作動音が通常よりも速い場合は、ターン インジケーターの箇所が故障しています。

ターン インジケーター
(→P.114)

スモール ライト



スモール ライトがオンになっています。

スモール ライト / ロービーム
(→P.143)

ロービーム



ロー ビームがオンになっています。

スモール ライト / ロービーム (→P.143)

レーン ディパーチャー ウオーニング



表示灯が点灯する：システムがオンになっています。少なくとも車両の片側に1本の車線が検知されたので、警告を発することができます。

レーン ディパーチャー ウオーニング (→P.173)

オートマチックハイビーム



オートマチックハイビームがオンになっています。

ヘッドライトは交通状況に応じて自動的にオンおよびオフにされます。

オートマチックハイビーム
(→P.146)

青色のライト



ヘッドライトがオンになっています。

ヘッドライト (→P.115)

燃料計

原理

燃料タンクの現在の充填レベルが表示されます。

一般事項

車両の傾きの結果、表示が変動することがあります。

給油のためのヒント (→P.239)

表示



給油シンボル横の矢印は、
フューエル リッドが車両の
どちら側にあるかを示すもの
です。

タコメーター

いかなる場合も、回転数が赤色の警告ゾーンまで上がらないようにしてください。警告ゾーンでは、エンジンを保護するために燃料供給が制限されます。

シフト ライト

原理

装備に応じて、タコメーターのシフト ライトは、最適な加速値が得られるシフトアップ タイミングを示します。

作動条件

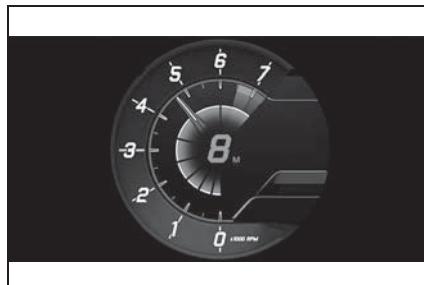
走行プログラムがスポーツモード

のとき、シフト ライトが表示されます。

シフト ライトをオンにする

- 1 スポーツモードスイッチで SPORT を選択します。
- 2 トランスミッションのマニュアル モードを作動させます。

表示



- セグメントが順にオレンジ色に点灯する場合は、シフトタイミングが目前であることを知らせています。
- セグメントが赤色点灯。遅くともここでシフトしてください。

最高回転数に達した場合、表示全体が赤で点滅し、エンジンを保護するために燃料供給が制限されます。

作動スタンバイと走行スタンバイ

OFF

タコメーターの文字 OFF は、走行スタンバイがオフで、作動スタンバイがオンの状態であることを示します。

READY

タコメーターの READY の文字は、エンジンを自動的にスタートさせるアイドリングストップがスタンバイしていることを示します。

詳しい情報は、停止状態、作動および走行スタンバイ (→P.36) を参照。

エンジン冷却水温度

表示

- エンジンが冷えている場合：セグメントは低温度値の範囲にあります。適度な回転数と速度で発進してください。

- 通常の作動温度の場合：セグメントは中央または下半分の範囲にあります。

- エンジンが高温の場合：セグメントは高温度値の範囲にあります。補助的に車両メッセージが表示されます。



冷却水レベルを点検する
(→P.268)

外気温度

一般事項

表示が +3 °C 以下に下がると、信号音が鳴ります。

車両メッセージが表示されます。

路面が凍結しているおそれがあります。

安全に関する注意事項

⚠ 警告

温度が +3 °C を超えた場合でも、橋の上や日陰の走行路面などでは凍結のおそれが高いことがあります。事故の危険があります。温度が低いときには、運転の仕方を天候の変化に合わせてください。

時刻

時刻はメーター パネルに表示されます。

時刻と時刻表示方法の設定 (53 ページ参照)

サービス時期の表示

原理

この機能は、必要なサービス時期と該当する点検整備項目を表示します。

一般事項

走行スタンバイをオンにすると、メーター パネルに次のサービスま

での走行距離または時間が短時間表示されます。

表示

必要なサービスについての詳細情報

メンテナンスについての詳しい情報は、コントロールディスプレイに表示することができます。

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
 - 2 「車両ステータス」
 - 3 「点検実施時期」
- 必要な点検整備項目、または法定点検が表示されます。
- 4 詳細情報を表示するには、項目を選択してください。

表示されるシンボル

表示されるシンボル	説明
	現時点での点検は不要です。
	点検整備または法定点検の実施時期が迫っています。
	点検すべき時期が過ぎていますので、直ちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

期日の入力

車両の法定点検の期日を入力します。

車両の日付と時刻が正しく設定さ

れていることを確認してください。

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「車両ステータス」
- 3 「点検実施時期」
- 4 「日付 :」
- 5 希望する項目を選択します。

シフトポジションインジケーター

原理

このシステムは、現在の走行条件に対して燃費が最良なギアを推奨します。

一般事項

シフトポジションインジケーターは装備と国別仕様に応じて、オートマチックトランスミッションのマニュアルモードで作動します。

表示

シフトアップまたはシフトダウンに関する注意事項は、メーターパネル内に表示されます。

シフトポジションインジケーター非装備車の場合は、シフトされているギアが表示されます。

例	説明
	燃費の向上に最適なギアに入っている
	燃費の良いギアにシフトします。

選択リスト

原理

必要に応じて操作することができます。

- エンターテイメントの音源
- 使用中のオーディオ音源
- 通話履歴リスト

必要に応じて、該当するメニューがコントロールディスプレイで開きます。

表示

装備に応じてリスト表示は異なります。

リストの表示および操作

ボタン	機能
	エンターテイメントの音源を切り替えます。 再度ボタンを押すと、現在表示されているリストが閉じます。
	通話履歴リストを表示します。
	ダイヤルを回して、希望の設定を選択します。 ダイヤルを押して、設定を確定します。 ダイヤルを回すと、現在選択されているリストをヘッドアップディスプレイに再び表示させることができます。

メーター パネルのボード コンピューター

原理

ボードコンピューターは、平均値などの車両のさまざまなデータをメーター パネルに表示します。

情報を呼び出す



ターンインジケーター レバーのボタンを押します。

情報はメーター パネルに表示されます。繰り返し押すと、その他の情報が表示されます。

インフォメーションの概要

ボードコンピューターから以下の情報を表示することができます：

- オドメーター／トリップメーター
- 総航続可能距離
- 燃費表示
- 平均燃費と平均速度

ボードコンピューターの情報を設定する

ボードコンピューターのいくつかの情報をメーターパネルで呼び出すことができるようになります。

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「システム 設定」
- 3 「ディスプレイ」
- 4 「メーターパネル」
- 5 「ボードコンピューター」
- 6 希望する項目を選択します。

現在使用しているドライバー プロファイルに対して、設定内容が記憶されます。

インフォメーションの詳細

オドメーター / トリップメーター

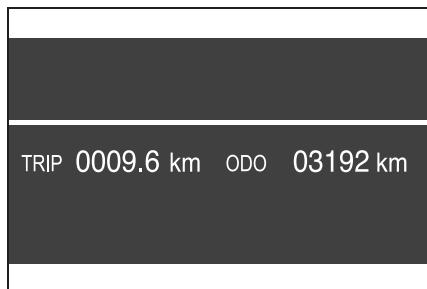
■ キロメートル表示 / リセット

- ・ トリップメーターを表示させるには、ボタンを押します。

走行スタンバイがオフのときに、オドメーターとトリップメーターが表示されます。

- ・ トリップメーターをリセットするには、ボタンを押し続けます。

■ 表示



総航続可能距離

■ 原理

総航続可能距離は、現在のタンク充填量でこの先走行できる距離を示します。

■ 一般事項

残りの燃料で走行可能な予測距離がメーターパネルに連続的に表示されます。

総航続可能距離がわずかになると、車両メッセージが短時間表示されます。例えば、すばやいコーナリングなどのダイナミックな走行の場合、エンジン機能は必ずしも保証されません。

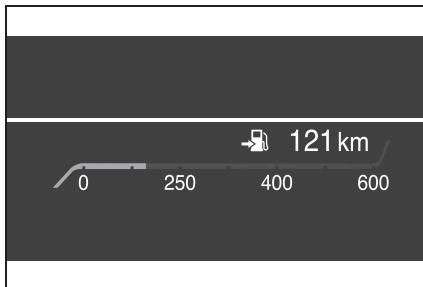
総航続可能距離が約 50km 以下になると、車両メッセージはそのまま表示され続けます。

■ 安全に関する注意事項

⚠ 注意

総航続可能距離が 50km 以下の場合は、エンジンに十分な燃料が供給されなくなるおそれがあります。エンジン機能が保証されなくなります。損傷が発生するおそれがあります。適切な時期に給油してください。

■ 表示



燃費表示

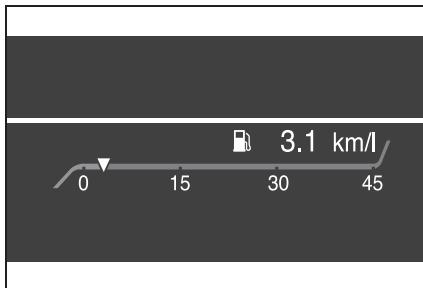
■ 原理

瞬間燃費はその瞬間の燃費を表示します。どれだけ経済的で、環境に優しい走行をしているかを確認することができます。

■ 一般事項

瞬間燃費をメーターパネルにバー表示で示すことができます。

■ 表示



平均速度と平均燃費

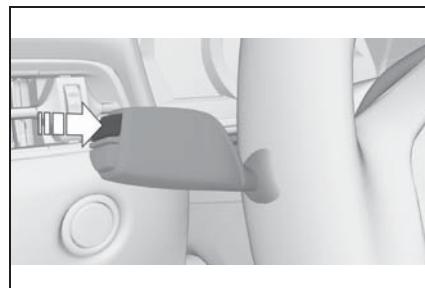
■ 一般事項

平均速度と平均燃費は、最後にリセットしてから走行した距離に基づいてボードコンピューターが計算します。

手動でエンジンを止めて停車した

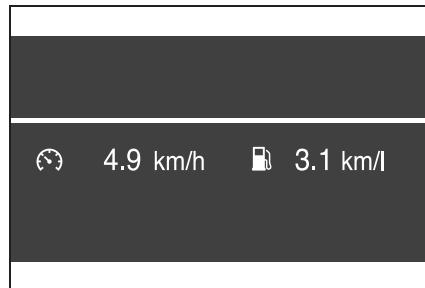
時間は、平均速度の計算には考慮されません。

■ 平均値のリセット



ターン インジケーター レバーのボタンを押し続けてください。

■ 表示



コントロール ディスプレイの ボード コンピューター

■ 原理

ボードコンピューターは、平均値などの車両のさまざまなデータをコントロールディスプレイに表示します。

■ 一般事項

コントロールディスプレイでは2種類のボードコンピューターが利用可能です：

- ・「ボードコンピューター」：燃費などの平均値が表示されます。値は個別にリセットすることができます。
- ・「トリップコンピューター」：値は特定の距離に関して概要を知らせるもので、自由に何度もリセットすることができます。

ボード コンピューターまたはトリップコンピューターを呼び出す

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「ドライブ情報」
- 3 「ボードコンピューター」または「トリップコンピューター」

ボード コンピューターをリセットする

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「ドライブ情報」
- 3 「ボードコンピューター」
- 4 「燃費」または「平均速度」
- 5 「OK」

トリップコンピューターをリセットする

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
 - 2 「ドライブ情報」
 - 3 「トリップコンピューター」
 - 4 必要に応じて、コントローラーを左に傾けます。
- ・ 「リセット」：全ての値がリセットされます。

リセットされます。

- ・ 「自動的にリセットする」：約4時間の車両停止状態後、全ての値がリセットされます。

5 必要に応じて「OK」

スポーツ表示

原理

装備に応じて、コントロールディスプレイに現在の出力とトルクが表示されます。

コントロール ディスプレイの表示

概要

以下の情報が表示されます：

- トルク
- 出力

表示

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「スポーツ表示」

速度警告

原理

速度制限を設定して、その速度に達したときに警告が出されるようにすることができます。

一般事項

設定した速度制限を 5km/h 下回った後に再び超過すると、再び警告が出されます。

速度警告の設定

Toyota Supra Command から :

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「車両設定」
- 3 「速度警告」
- 4 「警告速度 :」
- 5 希望する速度が表示されるまで、コントローラーを回します。
- 6 コントローラーを押します。

速度警告を作動させる / 作動解除する

Toyota Supra Command から :

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「車両設定」
- 3 「速度警告」
- 4 「速度警告」

現在の速度を警告速度に設定する

Toyota Supra Command から :

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「車両設定」
- 3 「速度警告」
- 4 「現在の速度を設定」

車両ステータス

一般事項

いくつかのシステムについて状態を表示したり、処置を実施したりすることができます。

車両ステータスを呼び出す

Toyota Supra Command から :

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「車両ステータス」

インフォメーションの概要

- 「タイヤ空気圧警告」: タイヤ空気圧警告システムのステータス (→P.252)
- 「エンジンオイルレベル」: 電子式エンジン オイル レベル 点検システム (→P.265)
- 「車両メッセージ」: 車両メッセージはバックグラウンドに記憶され、コントロール ディスプレイに表示させることができます。メモリーされている車両メッセージの表示 (→P.128)
- 「点検実施時期」: サービス時期の表示 (→P.133)
- 「リモートメンテナンスコール」

ヘッドアップディスプレイ (ヘッドアップディスプレイ装着車)

表示

原理

システムが運転者の視界内に速度などの重要な情報を投影します。

運転者は、路面から目を離さずに、このような情報を得ることができます。

一般事項

ヘッドアップディスプレイの清掃に関する情報に注意してください
(→P.296)。

概要



オン / オフにする

Toyota Supra Command から :

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「システム設定」
- 3 「ディスプレイ」
- 4 「ヘッドアップディスプレイ」
- 5 「ヘッドアップディスプレイ」

概要

ヘッドアップディスプレイには以下の情報が表示されます :

- 速度
- ナビゲーション情報
- 車両メッセージ
- メーター パネルの選択リスト
- ドライバー アシスト システム

これらの情報のいくつかは、必要に応じて短時間のみ表示されます。

画面を選択する

ヘッドアップディスプレイではさまざまな画面を利用できます。

Toyota Supra Command から :

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「システム設定」
- 3 「ディスプレイ」
- 4 「ヘッドアップディスプレイ」
- 5 希望する項目を選択します。

現在使用しているドライバー プロファイルに対して、設定内容が記憶されます。

明るさを調整する

表示の周囲の明るさに合わせて自動的に調整されます。

基本設定を手動で調整することができます。

Toyota Supra Command から :

- 1 「車両情報 / 設定」

- 2 「システム設定」
- 3 「ディスプレイ」
- 4 「ヘッドアップディスプレイ」
- 5 「明るさ」
- 6 希望の明るさに達するまで、コントローラーを回します。
- 7 コントローラーを押します。

ロービームがオンになっている場合、ヘッドアップディスプレイの明るさは、メーター パネル照明によってさらに影響を受けることがあります。

高さ調節

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「システム設定」
- 3 「ディスプレイ」
- 4 「ヘッドアップディスプレイ」
- 5 「高さ」
- 6 コントローラーを回して、希望の高さに設定します。
- 7 コントローラーを押します。

現在使用しているドライバー プロファイルに対して、設定内容が記憶されます。

ヘッドアップディスプレイの高さは、メモリー機能 (→P.98) でも記憶させることができます。

傾きの調整

ヘッドアップディスプレイの表示を回転させることができます。

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」

- 2 「システム設定」
- 3 「ディスプレイ」
- 4 「ヘッドアップディスプレイ」
- 5 「ローション」
- 6 コントローラーを回して、希望の設定にします。
- 7 コントローラーを押します。

表示の見やすさ

ヘッドアップディスプレイの表示の見やすさは、以下の影響を受けます：

- シート位置
- ヘッドアップディスプレイのカバー上の物
- 特定の偏光フィルター付きサングラス
- 濡れた路面
- 不適切な照明状況

画像がゆがんで表示される場合は、トヨタ販売店に基本設定の点検を依頼してください。

専用フロント ウィンドウ

フロント ウィンドウは、ヘッドアップディスプレイ用に専用部品を使用しています。

専用フロント ウィンドウの形状が、正確な画像投影を可能にしています。

フロント ウィンドウのフィルムは、画像が二重に見えるのを防ぎます。

このような理由から、専用フロント ウィンドウの交換は必要な場合

に、トヨタ販売店に依頼することを強く推奨します。

ライト

車両装備

この章では、モデルシリーズに提供される全ての標準装備、国別装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備や国別仕様などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、各国の有効な法律と規定に従ってください。

ライトと照明

車両のスイッチ



ランプスイッチはステアリングホイールの横にあります。

シンボル	機能
	リア フォグ ライト
	ライト オフ ディ ランニング ライト
	スマール ライト
	オート ライト コントロール アダプティブ ライト機能
	ロー ビーム
	メーター パネル 照明
	パーキング ライト (右)
	パーキング ライト (左)

オート ライト コントロール

原理

トンネルや夜明け前や日没時、また降水時など、周囲の明るさに合わせて、ロー ビームが自動的にオン／オフされます。

一般事項

晴天時、太陽が傾きかけている時
間帯などではライトが点灯するこ

とがあります。

ロー ビームを手動でオンになると、オート ライトコントロールがオフになります。

作動させる

AUTO

ランプスイッチのボタンを押します。

ボタンの LED が点灯します。



ロー ビーム オン時にメーター パネルの表示灯が点灯します。

システムの限界

オート ライト コントロールは、運転者に代わって明るさの状態を判断することはできません。

センサーは、霧やもやの立ち込めた天気などを検知できません。そのような状況では、ライトを手動でオンにしてください。

スマール ライト、ロー ビームおよびパーキング ライト

一般事項

走行スタンバイがオフの状態で運転席ドアを開くと、車外ライトが自動的に消灯します。

スマール ライト

一般事項

スマール ライトは低速範囲でのみオンにすることができます。

オンにする



ランプスイッチのボタンを押します。



メーター パネルの表示灯が点灯します。

車両の周囲が照らされます。

車両バッテリーが放電し、走行スタンバイをオンにできなくなるおそれがありますので、スマートライトのスイッチを長い間オンのままにしないでください。

オフにする



ランプスイッチのボタンを押すか、または走行スタンバイをオンにします。

走行スタンバイのオン後、オートライト コントロールがオンになります。

ロービーム

オンにする



ランプスイッチのボタンを押します。

ロー ビームは走行スタンバイがオノのときに点灯します。



メーター パネルの表示灯が点灯します。

作動スタンバイをオンにしたときにロー ビームを点灯させるには、ボタンを再び押します。

オフにする

国別仕様に応じて、ロー ビームは

低速域でオフにすることができます。



ランプスイッチのボタンを押します。

パーキング ライト

車両を駐車する際に、片側のパーキング ライトをオンにすることができます。

ボタン

機能



パーキング ライト (右)、
オン / オフ



パーキング ライト (左)、
オン / オフ

ウェルカム ライト

一般事項

装備に応じて、車両のエクステリア ライトを個別に調節することができます。

作動させる / 作動解除する

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」

2 「車両設定」

3 「エクステリアライト」

4 希望する設定を選択します：

●「ウェルカムライト」

車両をロック解除したときに、個別のライト機能が一定時間だけオンになります。

ホーム ライト

一般事項

作動スタンバイ オン時にヘッドライトをオンにすると、ロー ビームがさらに一定時間だけ点灯します。

点灯時間を設定する

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「車両設定」
- 3 「エクステリアライト」
- 4 「ホームライト」
- 5 希望する設定を選択します。

デイ ランニング ライト

一般事項

デイ ランニング ライトは走行スタンバイがオンのときに点灯します。

アダプティブ ライト機能

原理

アダプティブ ライト機能は路面をダイナミックに照明することができます。

一般事項

装備に応じて、アダプティブ ライト機能は 1 つまたは複数のシステムで構成されています：

- 可変の光分配 (145 ページ参照)

- コーナリング ライト (146 ページ参照)

作動させる

AUTO ランプスイッチのボタンを押します。

ボタンの LED が点灯します。

アダプティブ ライト機能は、走行スタンバイがオンのときに作動しています。

可変配光

原理

可変の光分配が、路面がさらに良く照明されるように配慮します。

一般事項

光分配は、自動的に速度に合わせられます。

ナビゲーション システム装備の場合、光分配はナビゲーション データと速度に応じて自動的に調整されます。

市街地走行用ライト

ロー ビームの照射範囲が左右両側で拡張されます。

高速走行用ライト

ロー ビームの照射幅が拡張されます。

コーナリング ライト

ヘアピン カーブなどの急カーブや右左折の場合、特定の速度まで、コーナリング ライトがオンになります。コーナリング ライトはステアリング アングルまたはターン インジケーターに応じて自動的にオンになります。

後退走行時、場合によってはステアリング アングルとは無関係にコーナリング ライトが自動的に点灯します。

オートマチックハイビーム

原理

オートマチックハイビームは早期に他の道路利用者を検知し、交通状況に応じて自動的に増光および減光します。

一般事項

オートマチックハイビームは、交通状況が許す限りヘッドライトがオンにされるように配慮します。低速時には、ヘッドライトはシステムによってオンにされません。

システムは、対向車や前走車の照明や、また町の中などの周囲の照明に反応します。

ヘッドライトは、いつでも手動でオン / オフすることができます。

防眩オートマチックハイビームを装備している車両の場合は、対向車または前走車があってもヘッドライトがオフにならず、対向車または前走車を眩惑させる範囲だけを減光します。この場合、青色の表示灯は継続して点灯します。

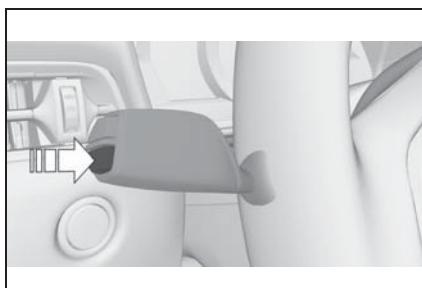
ヘッドライトが変更（148 ページ参照）されると、オートマチックハイビームの使用が制限される場合があります。

作動させる

1 ランプスイッチの **AUTO** ボタンを押します。

ボタンの LED が点灯します。

2 ターン インジケーター レバーのボタンを押します。



ロービーム オン時にメーターパネルの表示灯が点灯します。

ロービームとヘッドライトの切換えは自動的に行われます。



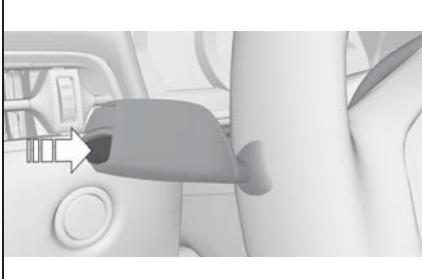
ヘッドライトがシステムによってオンにされると、メーターパネルの青色の表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームが作動した状態で走行を中断した場合：走行が再開されると、オートマチックハイビームは引き続き作動します。

手動で増光および減光（115 ページ参照）を行う場合は、オートマチックハイビームが作動解除されます。

オートマチックハイビームを再び作動させるには、ターン インジケーター レバーのボタンを押してください。

作動解除する



ターン インジケーター レバーのボタンを押します。

システムの限界

オートマチックハイビームは、運転者自身に代わってヘッドライトの使用 / 不使用を決定することはできません。そのため、必要な状況では手動でロー ビームに切り換えてください。

以下の状況では、システムは作動しないか、制限付きでのみ作動するので、運転者自身の反応が必要となります：

- 霧や激しい降水のような極端に不適切な天候条件の場合
- 道路利用者（歩行者、自転車、騎手、荷車）を照明不良の状態で確認する場合、道路に近い鉄

道や船舶交通の場合、野生動物の道路横断の場合

- 狹いカーブ、急な上り / 下り、十字交差点、高速道路上の半分隠れた対向車
- 照明の暗い集落、道路標識の反射が強い場合
- ルーム ミラー前の範囲のフロント ウィンドウに曇りや汚れがあるとき、フロント ウィンドウがラベルで覆われているとき

フォグ ライト

リア フォグ ライト

作動条件

リア フォグ ライトをオンにする前に、ロー ビームをオンにしてください。

オン / オフにする



ボタンを押します。



リア フォグ ライトをオンになると、メーター パネルの黄色の表示灯が点灯します。

オートライト コントロール（143 ページ参照）がオンになっている場合、リア フォグ ライトを点灯させると、ロー ビームが自動的に点灯します。

⚠ 警告

リア フォグ ライトは、霧などによる視界不良時の追突事故を防止するための灯火装置です。視界が良好なときには、このライトが後続車を眩惑する可能性があります。事故が発生するおそれがあります。視界が良好なときには、リア フォグ ライトを点灯しないでください。

右側通行 / 左側通行

右側通行帯での走行

日本とは通行帯が反対側の国等で走行する場合、走行する国の法規に従ってヘッドライトの眩惑作用を防止するための措置が必要となる場合があります。

ヘッドライトを変更する

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「設定」
- 3 「エクステリアライト」
- 4 「右側 / 左側通行」
- 5 希望する項目を選択します。

システムの限界

オートマチックハイビームの使用が制限される場合があります。

アダプティブ ライト機能の使用が制限される場合があります。

メーター パネル照明

作動条件

明るさを調節するには、スマートライトまたはロー ビームをオンにしてください。

調節



明るさは、ダイヤルで調節できます。

ルーム ライト

一般事項

装備に応じて、ルーム ライト、足元ライト、エントランス ライトが自動的に制御されます。

概要

車両のボタン



ルーム ライト



リーディング ライト

ルーム ライトをオン / オフにする



ボタンを押します。

常時オフにする：ボタンを約 3 秒間押し続けます。

リーディング ライトをオン / オフにする



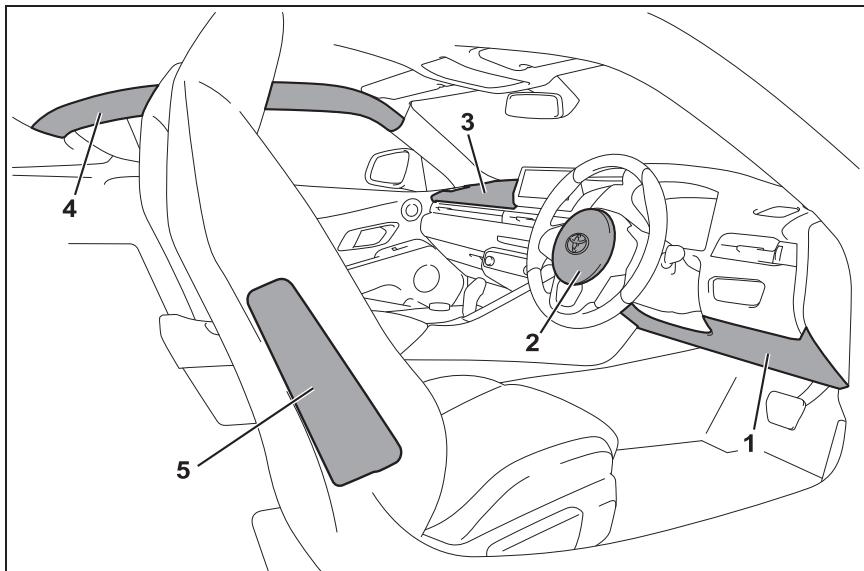
ボタンを押します。

安全性

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、国別装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備や国別仕様などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、各国の有効な法律と規定に従ってください。

エアバッグ



- 1 ニーエアバッグ**
- 2 フロント エアバッグ、運転席**
- 3 フロント エアバッグ、助手席**
- 4 カーテンシールドエアバッグ**
- 5 サイドエアバッグ**

フロント エアバッグ

フロント エアバッグは、シートベルトの保護効果だけでは十分でないような正面衝突の際、運転者および助手席同乗者を衝撃から保護するための装置です。

サイド エアバッグ

側面衝突の際、サイド エアバッグが身体の胸部、腰部および頭部領域の側面をサポートします。

ニーエアバッグ

ニーエアバッグは、正面衝突の際に脚部をサポートします。

カーテンシールドエアバッグ

カーテンシールドエアバッグは、側面衝突が起きたときに頭部を保護します。

保護効果

一般事項

エアバッグは、どの衝突状況でも作動するわけではなく、軽度の事故や追突などでは作動しません。

エアバッグの最適な保護効果のための注意事項

⚠ 警告

シート位置が正しくない場合やエアバッグの膨張範囲が妨げられている場合は、エアバッグが適切な保護効果を発揮できません、また作動によって負傷するおそれや、けがをする危険または生命の危険があります。エアバッグシステムの最適な保護効果のための注意事項を確認してください。

- エアバッグとの間隔を保ってください。
- 常にステアリング ホイールのグリップ部分を握ってください。手や腕にけがをする危険をできるだけ少なくするために、ステアリングホイールは常に両手を3時と9時の位置に保ってください。
- 助手席の同乗者が足 / 脚をダッシュボードの上に載せずに足元スペース内に置くなど、正しい座り方をするよう注意してください。
- 同乗者がサイド エアバッグに頭を近づけたままにしないように注意してください。
- エアバッグと乗員の間には、お

子様やペット、または物がないようにしてください。

- ダッシュボードやフロント ウィンドウの助手席側の部分は空けておき、シールやカバーなどで覆ったり、ナビゲーション機器や携帯電話のホルダーを取り付けたりしないでください。
- エアバッグ カバーの上にステッカー類を貼ったり、カバーをかけたり、その他どのような変更も行わないでください。
- 助手席側のフロント エアバッグのカバーに物を載せないでください。
- サイド エアバッグ内蔵シートに適合していないシート カバー、シート クッション、その他の物をフロント シートに取り付けないでください。
- 背広などの衣服をバック レストに掛けないでください。
- 各構成部品や配線などは、絶対に改造しないでください。これはステアリング ホイール カバー やダッシュボード、シートに対しても当てはまります。
- エアバッグ システムは取り外さないでください。

全ての注意事項を守っても、状況によっては、エアバッグとの接触により、けがをする危険があります。

同乗者によっては、エアバッグの点火音や膨張時の音により、一時的に聴覚が影響を受ける場合がありますが、通常、しばらく時間をおくことで回復します。

エアバッグ システムの機能ス タンバイ

安全に関する注意事項

⚠ 警告

エアバッグ システムの作動後は、個別の構成部品が高温になっている場合があります。けがをする危険があります。個別の構成部品に触れないでください。

⚠ 警告

不適切な作業を行うと、エアバッグ システムの故障や障害、または誤作動が発生するおそれがあります。障害が発生すると、事故の際、エアバッグ システムが作動すべき事故の程度であっても、予定どおりに作動しない可能性があります。けがをするおそれや命に関わる危険があります。エアバッグ システムの点検、修理、取外しおよびスクラップは、トヨタ販売店にご依頼ください。

その他の点検、修理、取外し、およびガス ジェネレーターの処理についても、トヨタ販売店へお問い合わせください。

メーター パネル内の表示



走行スタンバイをオンにする
と、メーターパネルの警告灯
が短時間点灯し、全エアバッ
グ システムおよびシートベル
トロックの機能が作動可能状
態であることを示します。

故障



- 走行スタンバイをオンにしたときに警告灯が点灯しない

- 警告灯が点灯し続ける
システムの点検を依頼してください。

SRS フロントエアバッグ / ニーエアバッグ

エアバッグは、シートベルトに代わるものではありません。

SRS フロントエアバッグとニーエアバッグは、シートベルトに代わるものではなくシートベルトによる乗員保護機能を補助する装置です。

SRS とは、Supplemental Restraint System の略称で、乗員保護補助装置を意味しています。

万一の衝突が起きたとき、シートベルトが乗員の身体をシートに拘束することで乗員を保護しようとしたが、衝突の衝撃が大きなときは上半身が倒れ、頭や胸がステアリング ホイールやダッシュボード、さらにはフロント ガラスにぶつかるおそれがあります。このようなときに SRS フロントエアバッグとニーエアバッグは、風船のようなエアクッションを瞬間にふくらませ、乗員の頭や胸や膝がステアリング ホイールなどにぶつかる衝撃を緩和させようとします。

SRS フロントエアバッグとニーエアバッグは、一定以上の衝撃を感じたときにだけ作動します。

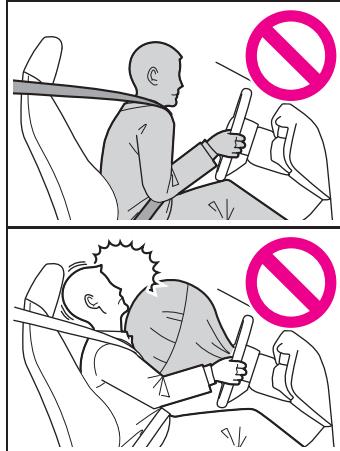
衝突後、ボディの変形や損傷具合の判断から、大きな衝撃を受けたと思えるときでも、衝撃が分散されたり、ボディの衝撃吸収構造により衝撃が段階的に吸収されたときは、エアバッグが作動しない場合があります。エアバッグが作動しないような衝撃を受けたときは、シートベルトが乗員を保護します。

エアバッグが瞬間に大きくふくらむため、エアバッグ自体の衝撃で負傷したり、エアバッグ点火時や膨張時の作動音で一時に耳が聞こえにくくなることがあります。また、エアバッグが作動した直後に各構成部品を触ると、やけどをするおそれがあります。そのため、エアバッグの作動による危険性も皆無ではありませんが、その危険性を差し引いても乗員に与える衝撃が軽減されるときに限り、エアバッグが作動するように設定されています。

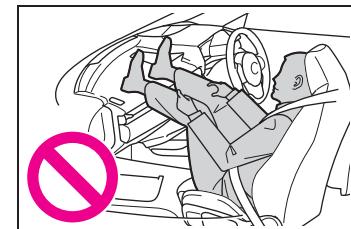
警告

正しい乗車姿勢で座り、シートベルトを正しく着用してください。

顔がステアリングホイールに近すぎると、エアバッグがふくらむときに余分な衝撃を受けることがあります。正しい運転姿勢でシートに座り、ステアリングホイールと適切な間隔を保ってください。



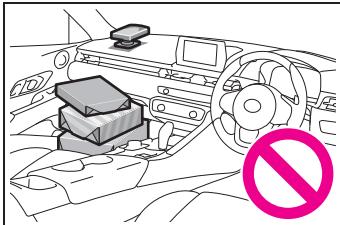
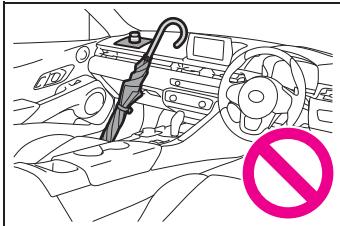
助手席シートがダッシュボードに近すぎたり、ダッシュボードに足をのせていると、エアバッグがふくらむときに思わぬけがをするおそれがあります。正しい乗車姿勢でシートに座り、ダッシュボードと適切な間隔を保ってください。



警告

エアバッグの近くにものを置いたり、ステッカーなどを貼り付けないでください。

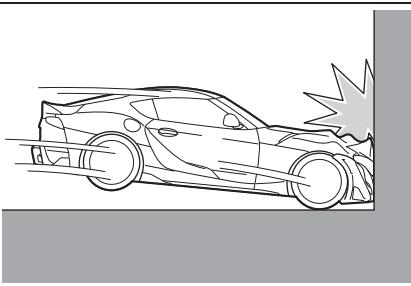
⚠ 警告



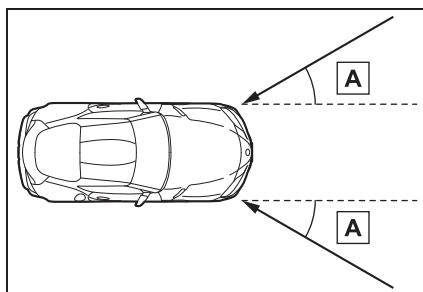
ステアリング ホイールのパッド部分やニーエアバッグの近くに、ステッカーなど、いかなるものも取り付けたり、貼り付けをしないでください。また、助手席エアバッグの近くに市販品アクセサリーや芳香剤などを置いたり足元に物を置かないでください。エアバッグが作動できなかったり、エアバッグがふくらむときに取り付けていたものが吹き飛ばされ、乗員の顔や体にぶつかりけがをするおそれがあります。

SRS フロントエアバッグ / ニーエアバッグが作動するとき

強固で衝突しても変形したり動いたりしないコンクリート壁などに前面衝突し、一定以上の衝撃を受けたとき

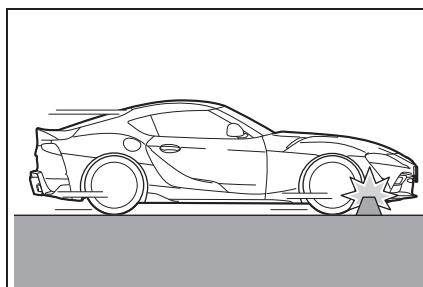


車の前方左右約30度以内(A)の角度から、一定以上の衝撃を受けたとき

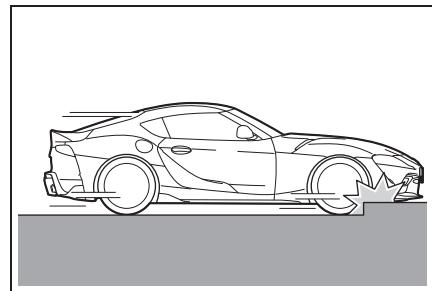


SRS フロントエアバッグ / ニーエアバッグが作動する可能性が高いとき

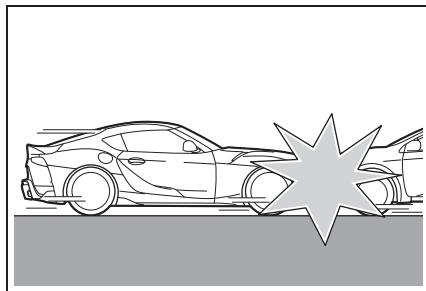
車の下側に一定以上の衝撃を受けたとき



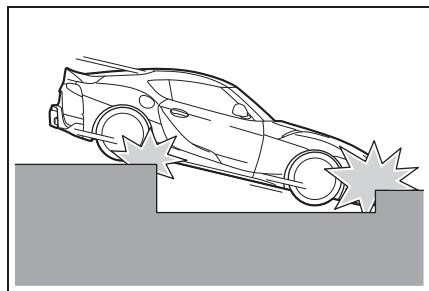
縁石などに衝突したとき



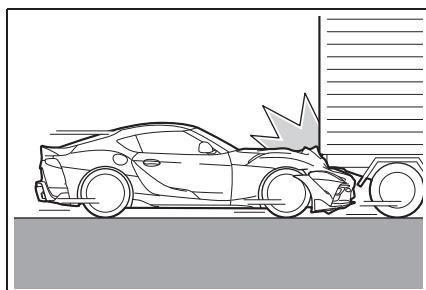
深い穴や溝に落ちたとき



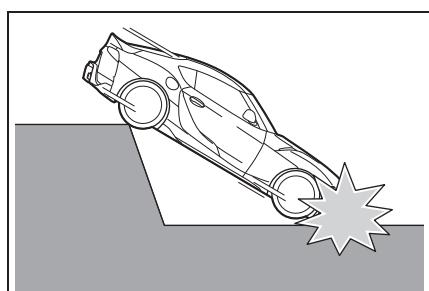
トラックなどの下にもぐり込んだ
ようなとき



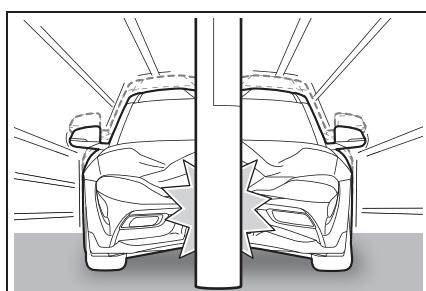
車がジャンプして硬い地面に着地
したとき



電柱や立木などに衝突したとき

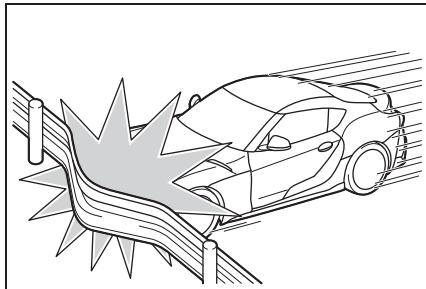


**SRS フロントエアバッグ / ニー
エアバッグが作動しない可能性が
高いとき**



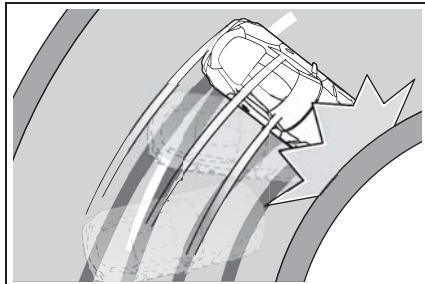
ガードレールなど変形しやすいも
のに衝突したとき

重量がほぼ同じ停車中の車に前面
衝突したとき

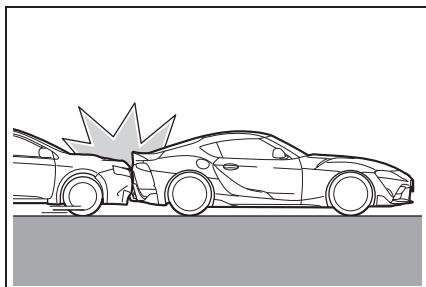


追突されたとき

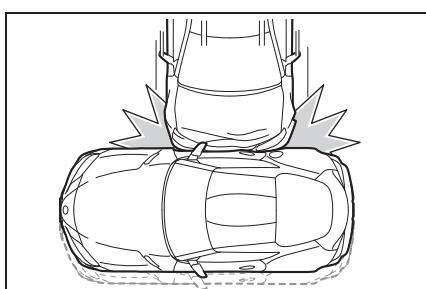
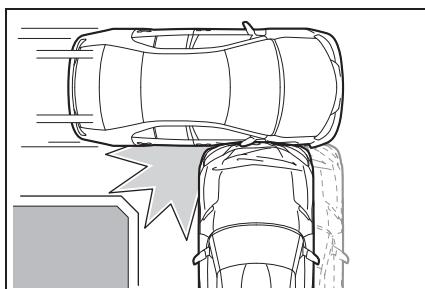
事故



前面大破事故でも、横方向から衝撃を受けた場合



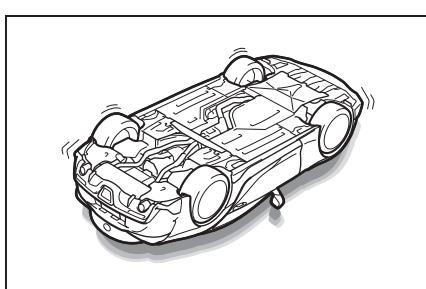
側面から衝撃を受けたとき



横転したり、転覆したとき

SRS フロントエアバッグ / ニーエアバッグが作動しないとき

- SRS フロントエアバッグ / ニーエアバッグが作動した後に衝撃を受けたとき
- 小さな衝撃で正面に衝突したとき
- SRS エアバッグ警告灯が点灯しているとき



スリップを伴った車両前面の大破

SRS サイドエアバッグ / カーテンシールドエアバッグ

エアバッグは、シートベルトに代わるものではありません。

SRS サイドエアバッグとカーテンシールドエアバッグは、側面か

らの大きな衝撃を受けたとき、乗員の胸部や頭部に対する衝撃を分散ならびに緩和しようとする乗員保護装置です。

万一側面衝突が起きたとき、SRS サイド エアバッグとカーテンシールドエアバッグが風船のようなエアクッションを乗員の側面へ瞬間にふくらませ、乗員の頭や胸がドア ガラスやドアなどにぶつかる衝撃を緩和しようとするものです。ただし、エアバッグが瞬間に大きくふくらむため、エアバッグ自体の衝撃で負傷したり、エアバッグ点火時や膨張時の作動音で一時的に耳が聞こえにくくなることがあります。また、エアバッグが作動した直後に各構成部品を触ると、やけどをするおそれがあります。そのため、エアバッグの作動による危険性も皆無ではありませんが、その危険性を差し引いても乗員に与える衝撃が軽減されるときに限り、エアバッグが作動するように設定されています。

このエアバッグが作動しないような衝撃を受けたときは、シートベルトが乗員を保護します。

⚠ 警告

承認されていないシート カバーやクッションその他アクセサリー類を取り付けたり、背もたれに上着をかけたりしないでください。シートの側面周囲にはものを置かないでください。SRS サイド エアバッグの取り付け位置については、150 ページをご覧ください。



⚠ 警告

ドアやサイド ウィンドウに寄りかからないでください。



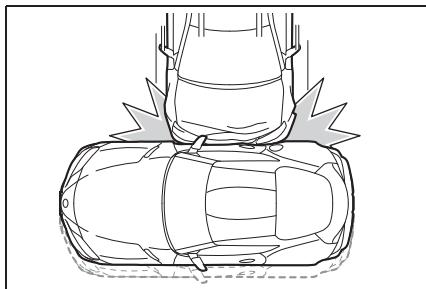
また SRS サイド エアバッグの近くにカップホルダーやアクセサリーを取り付けないでください。

SRS サイド エアバッグが作動できなかったり、SRS サイド エアバッグがふくらむとき、顔や頭、腕などにエアバッグの衝撃を受け、けがをするおそれがあります。また、SRS サイド エアバッグがふくらむときに取り付けていたものが吹き飛ばされ、乗員の顔などにぶつかりけがをするおそれがあります。

カップホルダーは、車内に備え付けのものをご使用ください。カップホルダーを使用する際は、ホルダーに合ったサイズの容器を使ってください。やけどや、けがの原因となりますので、熱い飲み物のやガラス製の容器は置かないでください。走行中は危険ですので、ご使用は控えてください。

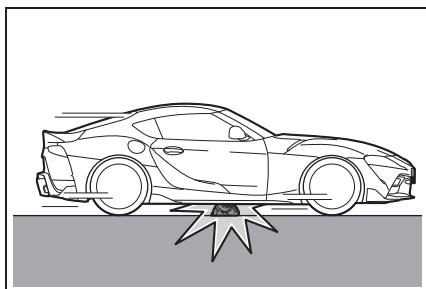
SRS サイドエアバッグ / カーテンシールドエアバッグが作動するとき

側面から大きな衝撃を受けたとき

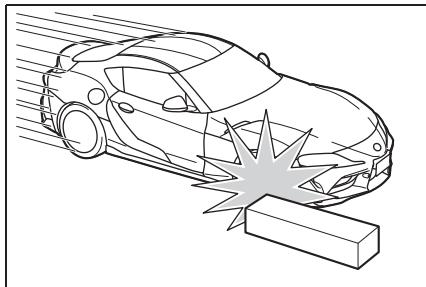


SRS サイドエアバッグ / カーテンシールドエアバッグが作動する可能性が高いとき

落下物を巻き込むなど、車の下側に大きな衝撃を受けたとき

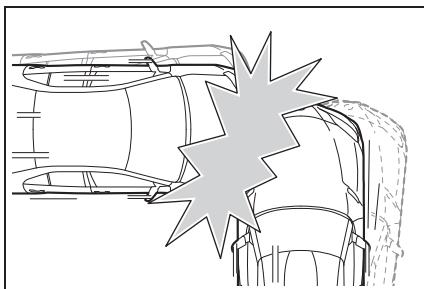


タイヤホイールや足回りに大きな衝撃を受けたとき

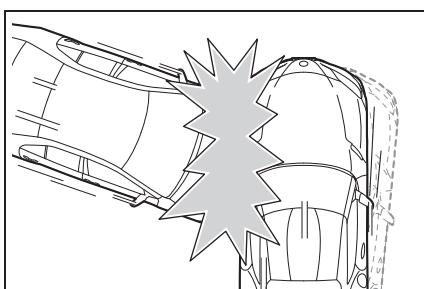


SRS サイドエアバッグ / カーテンシールドエアバッグが作動しない可能性が高いとき

乗車用スペース以外の部分（エンジンルームやラゲッジルームなど）に側面から衝撃を受けたとき



側面に斜め方向から衝撃を受けたとき



SRS サイドエアバッグ / カーテンシールドエアバッグが作動しないとき

- SRS サイドエアバッグ / カーテンシールドエアバッグが作動した後に衝撃を受けたとき
- 小さな衝撃で側面に衝突したとき
- SRS エアバッグ警告灯が点灯しているとき
- 初期衝撃がドアのみに大きく加

わる衝突を受けたとき

助手席エアバッグ用キー スイッチ

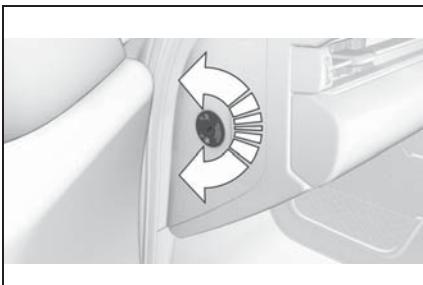
原理

助手席シートでチャイルドレストレイントシステムを使用する場合、助手席エアバッグ用キー スイッチで、助手席側のフロントおよびサイドエアバッグを作動解除することができます。

一般事項

助手席用フロントエアバッグおよびサイドエアバッグは、電子キーの内蔵キーにより作動解除したり、再び作動可能状態にすることができます。

概要



助手席エアバッグ用のキー スイッチはダッシュボードの外側にあります。

助手席エアバッグを作動解除する



- 1 キーを差し込み、必要に応じてさらに押します。
- 2 押したまま、OFF位置で止まるまで回します。止まった位置でキーを抜きます。
- 3 エアバッグが作動解除されるには、キー スイッチがエンドポジションにあることを確認してください。

助手席エアバッグが作動解除されます。運転席エアバッグは、引き続き作動可能な状態です。

助手席シートにチャイルドシートを取り付ける必要がなくなった際は、事故が起きた場合に適切に作動するよう、再び助手席エアバッグを作動可能な状態にします。

エアバッグの状態は、ルーフパネルの表示灯(160ページ参照)により示されます。

助手席エアバッグを作動させる



- 1 キーを差し込み、必要に応じてさらに押します。
 - 2 押したまま、ON 位置で止まるまで回します。止まった位置でキーを抜きます。
 - 3 エアバッグが作動可能な状態になるには、キー スイッチがエンドポジションにあることを確認してください。
- 助手席エアバッグは再び作動可能な状態になり、必要な状況になると作動します。

助手席エアバッグ警告灯

ルーフパネルの助手席エアバッグ警告灯は、助手席エアバッグの状態を表示します。

走行スタンバイをオンにした後、警告灯は短時間点灯し、その後エアバッグが作動可能な状態にあるのか、作動解除されているのかを示します。

表示	機能
PASSENGER ON AIR BAG	助手席エアバッグが作動可能な状態にある場合は、表示灯が短時間点灯し、その後消灯します。
PASSENGER AIR BAG OFF	助手席エアバッグが作動解除されていると、警告灯は常時点灯します。
ポップアップフード	
原理	
ポップアップフードにより、車両前部が歩行者と衝突した場合、ボンネットが持ち上げられます。検知には、バンパー下のセンサーを使用します。	
一般事項	
作動したポップアップフードは、歩行者の頭部が車両に衝突してしまう状況に備えて、ボンネットの下にクラッシュブルゾーンを生じさせます。	
安全に関する注意事項	
⚠ 警告 ヒンジやボンネットロックの個別部品に触れると、システムが不意に作動するおそれや、けがを負ったり、損傷が発生するおそれがあります。ヒンジやボンネットロックの個別部品に触れないでください。	

⚠ 警告

ポップアップフードを改造すると、故障や異常、または誤作動を招くおそれや、けがをする危険または生命の危険があります。ポップアップフードの各構成部品や配線は、絶対に改造しないでください。システムを取り外さないでください。

⚠ 警告

専門知識を欠いた不適切な作業を行うと、システムの故障や異常、または誤作動を招くおそれがあります。異常があると、事故の際に、該当する重度の事故であるにもかかわらずシステムが正常に作動しないおそれがあります。けがをする危険または生命の危険があります。システムの点検、修理、取外し、廃棄は、トヨタ販売店に依頼してください。

⚠ 警告

作動後や損傷した場合はシステムの機能性が制限されるか、または作動しなくなります。けがをする危険または生命の危険があります。

作動後や損傷した場合は、トヨタ販売店にシステムの点検と交換を依頼してください。

⚠ 注意

ポップアップフードが作動した状態でボンネットを開けると、ボンネットまたはシステムが損傷するおそれがあります。車両メッセージが表示された後にボンネットを開けないでください。トヨタ販売店に点検を依頼してください。

システムの限界

ポップアップフードは、速度が約30km/h～55km/hの範囲にあるときにのみ作動します。

安全上の理由から、次のような状況では、歩行者との衝突である可能性を考慮し、システムが作動する場合があります：

- ドラム缶やガードレールなどの物体への衝突の場合
- 動物との衝突の場合
- 飛石の衝突の場合
- 雪溜まりへの侵入の場合

故障

車両メッセージが表示されます。



システムが作動したか、または故障しています。

直ちにトヨタ販売店まで慎重に走行し、システムの点検と修理を依頼してください。

Toyota Supra Safety

原理

Toyota Supra Safety でドライバー アシスタンス システムを集中的に操作することができます。

一般事項

装備に応じて、Toyota Supra Safety は、衝突の危険回避をサポートする 1 個または複数のシステムから構成されています。

- プリクラッシュセーフティ（163 ページ参照）
- プリクラッシュセーフティ（対歩行者・自転車）（168 ページ参照）
- レーンディパーチャーウオーニング（173 ページ参照）
- ブラインドスポットモニター（177 ページ参照）

安全に関する注意事項

⚠ 警告

システムが作動していても、視界や交通状況を正しく判断するという運転者自身の責任からは免れられません。事故の危険があります。運転の仕方を道路状況に合わせてください。交通状況に注意し、状況によっては積極的に介入してください。

⚠ 警告

表示および警告が行われても、運転者自身の責任からは免れられません。システムには限界があるため、警告やシステムの反応が行われなかったり、遅れたり、不適正にまたは理由なく行われたりする可能性があります。事故の危険があります。運転の仕方を道路状況に合わせてください。交通状況に注意し、状況によっては積極的に介入してください。

⚠ 警告

Toyota Supra Safety システムをオンにした状態でけん引する場合、システムの限界により、個別の機能が誤作動するおそれや、事故の発生する危険があります。けん引を開始する前に、全ての Toyota Supra Safety システムをオフにしてください。

概要

車両のボタン



Toyota Supra Safety

オン / オフにする

Toyota Supra Safety システムの一部は、毎走行開始後に自動的にオンになります。いくつかの Toyota Supra Safety システムは、最新の設定に基づいて作動します。

ボタン	ステータス
	インジケーターが緑色に点灯：全ての Toyota Supra Safety システムがオンになっています。
	インジケーターがオレンジ色に点灯：いくつかの Toyota Supra Safety システムがオフになっているか、または現在使用することができます。
	インジケーターが点灯しない：全ての Toyota Supra Safety システムがオフになっています。

Toyota Supra Safety システムに関するメニューが表示されます。全ての Toyota Supra Safety システムがオンになっていた場合、ここで全てのシステムがオンになります。

「カスタマイズ設定」：装備に応じて、Toyota Supra Safety システムを個別に設定することができます。個別設定がオンにされ、そのとき使用しているドライバー プロファイルに記憶されます。メニューで 1 つの設定が変更されると、メニューの全ての設定がオンになります。

 ボタンを繰り返し押します。以下の設定を切り換えることができます：

「全てオン」：全ての Toyota Supra Safety システムがオンに

なります。警告タイミング設定などのサブ機能の場合は、基本設定がオンになります。

「カスタマイズ」：個別の設定に応じて、Toyota Supra Safety システムがオンになります。

いくつかの Toyota Supra Safety システムは個別にオフにすることができません。



ボタンを押し続けます：

全ての Toyota Supra Safety システムがオフになります。

プリクラッシュセーフティ

原理

このシステムは、事故を防ぐためのサポートを行います。事故を避けることができない場合、システムは衝突速度を抑えるように努めます。

このシステムは、追突の危険がある場合に警告を発し、必要に応じて自動的にブレーキをかけます。

一般事項

装備に応じてシステムは以下のセンサーにより制御されます：

- ルーム ミラー 領域のカメラ
- フロント バンパーのレーダー センサー

プリクラッシュセーフティは、クルーズ コントロールが作動解除されている場合も利用可能です。

意識的にある車両に向かって近づくときは、不適切なシステム反応を避けるために、遅れて後方車両への接近警報とブレーキ介入が行われます。

このシステムは、約 5km/h 以上から、車両との衝突の危険がある場合に 2 段階で警告を出します。その時の走行状況によって警告を出すタイミングが決まります。

安全に関する注意事項

⚠ 警告

システムが作動していても、視界や交通状況を正しく判断するという運転者自身の責任からは免れられません。事故の危険があります。運転の仕方を道路状況に合わせてください。交通状況に注意し、状況によっては積極的に介入してください。

⚠ 警告

表示および警告が行われても、運転者自身の責任からは免れられません。システムには限界があるため、警告やシステムの反応が行われなかったり、遅れたり、不適正にまたは理由なく行われたりする可能性があります。事故の危険があります。運転の仕方を道路状況に合わせてください。交通状況に注意し、状況によっては積極的に介入してください。

⚠ 警告

Toyota Supra Safety システムをオンにした状態でけん引する場合、システムの限界により、個別の機能が誤作動するおそれや、事故の発生する危険があります。けん引を開始する前に、全ての Toyota Supra Safety システムをオフにしてください。

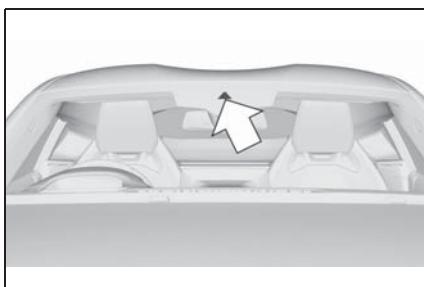
概要

車両のボタン



Toyota Supra Safety

カメラ

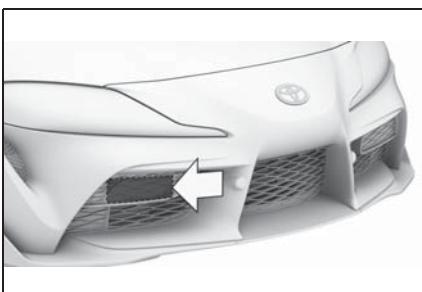


カメラはルームミラー付近に取り付けられています。

ルームミラー前方には障害物を置

かず、フロント ウィンドウをきれいに保ってください。

レーダー センサー付き



レーダー センサーはフロント バンパーの下部領域にあります。
レーダー センサーは清潔に保ち、
遮るものがないようにしてください。

オン / オフにする

自動的にセンサーをオンにする

システムは毎発進後に自動的にオンになります。

手動でオン / オフにする



ボタンを押します。

Toyota Supra Safety システムに関するメニューが表示されます。

全ての Toyota Supra Safety システムがオンになっていた場合、
ここで全てのシステムがオンになります。

「カスタマイズ設定」：装備に応じ

て、Toyota Supra Safety システムを個別に設定することができます。個別設定がオンにされ、そのとき使用しているドライバー プロファイルに記憶されます。メニューで 1 つの設定が変更されると、メニューの全ての設定がオンになります。



ボタンを繰り返し押します。

以下の設定を切り換えることができます：

「全てオン」：全ての Toyota Supra Safety システムがオンになります。サブ機能用に基本設定がオンになります。

「カスタマイズ」：個別の設定に応じて、Toyota Supra Safety システムがオンになります。

いくつかの Toyota Supra Safety システムは個別にオフにすることができません。



ボタンを押し続けます。

全ての Toyota Supra Safety システムがオフになります。

ボタン	ステータス
	インジケーターが緑色に点灯：全ての Toyota Supra Safety システムがオンになっています。
	インジケーターがオレンジ色に点灯：いくつかの Toyota Supra Safety システムがオフになっているか、または現在使用することができません。
	インジケーターが点灯しない：全ての Toyota Supra Safety システムがオフになっています。

警告タイミングの設定

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「車両設定」
- 3 「Toyota Supra Safety」
- 4 「正面衝突警告」
- 5 希望する設定を選択します：
 - 「早めに」
 - 「中」
 - 「遅めに」：緊急警告のみが表示されます。

選択したタイミングが現在使用しているドライバー プロファイルに記憶されます。

ブレーキ機能付き警告

表示

検知された車両に衝突する危険がせまっている場合、メーター パネ

ルと必要に応じてヘッドアップディスプレイに警告シンボルが表示されます。

シンボル	対応
	シンボルが赤色に点灯：予備警告 ブレーキをかけ、車間距離を拡げてください。
	シンボルが赤で点滅し、信号音が鳴る：緊急警告 ブレーキを踏み、必要に応じて障害物を回避します。

予備警告

予備警告は、衝突の危険がある場合、または前走車との車間距離が短すぎる場合などに表示されます。

予備警告の場合は、運転者が自ら介入操作を行います。

ブレーキ機能付き緊急警告

緊急警告は、車両が大きい速度差で他の物体に近づいていて、衝突が避けられない危険がある場合に表示されます。

緊急警告の場合は、運転者が自ら介入操作を行います。走行状況に応じて、緊急警告は短時間の制動によってサポートされます。

警告タイミング設定の場合、「遅めに」 制動は行われません。

衝突の危険がある場合は、必要に応じてシステムがさらに自動ブレーキ介入によってサポートします。

予備警告がなくても緊急警告が作

動することがあります。

ブレーキ介入

警告は自身で制御することを要求します。警告中には、ブレーキを操作した場合に必要な最大の制動力が働きます。前提条件は、ブレーキを十分に速く、また強く踏むことです。

さらにシステムは、衝突の危険がある場合、必要に応じて自動ブレーキ介入によってサポートすることができます。

低速の場合は、車両が停止するまで制動することができます。

City ブレーキ機能：ブレーキ介入は約 85km/h 以下の速度で行われます。

レーダー センサー付き：ブレーキ介入は約 250km/h 以下の速度で行われます。

速度が約 210km/h を上回ると、短時間の制動としてブレーキ介入が行われます。自動的な減速は行われません。

ビークルスタビリティコントロール (VSC) のオフなどによってドライビング スタビリティが制限されていない場合のみ、ブレーキ制御が行われます。

ブレーキ介入は、アクセル ペダルを踏むか、自分でステアリングを動かすことにより中止することができます。

物体の検知が制限されることがあります。検知範囲には境界および機能制限のあることに注意してください。

ださい。

システムの限界

安全に関する注意事項

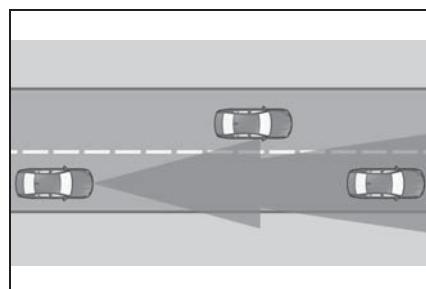
▲ 警告

システムには限界があるため、システムの反応が行われなかったり、遅れたり、不適正にまたは理由なく行われたりする可能性があります。事故の危険や損傷が発生するおそれがあります。システムの限界についての注意事項を確認し、必要に応じて積極的に介入してください。

速度上限

速度が約 250km/h を超えると、システムは一時的に作動解除されます。速度がこの値を下回ると、システムは再び設定にしたがって反応します。

検知範囲



システムによって検知される物体が考慮されます。

システムの検知性能には限界があります。

システムによって検知される物体

が考慮されます。

そのため、システムの反応が行われなかつたり、遅れたりする可能性があります。

例えば以下が検知されない場合があります：

- 低速走行の前走車両に高速で接近している状況
- 突然割り込んでくる車両または急激に減速する車両
- 後部外観が異様な車両
- 前走する 2 輪車

速度上限

速度が約 250km/h を超えると、システムは一時的に作動解除されます。速度がこの値を下回ると、システムは再び設定にしたがって反応します。

機能制限

以下のような状況では、機能が制限されている可能性があります：

- 濃い霧、激しい雨や降雪のとき
- 急カーブ
- ドライビング スタビリティ コントロール システムが制限されている場合またはオフになっている場合、例えば VSC OFF
- カメラの撮影範囲またはルームミラー前のフロント ウィンドウ部分が汚れているか、覆われている場合
- 高温のためにカメラが過熱し、一時的にオフになっている場合

- 装備に応じて：レーダー センサーが汚れているか、覆われてしたりする場合
- 装備に応じて：車両塗装に対し専門知識を欠いた不適切な作業
- レーダーセンサー範囲での車両塗装に対し専門知識を欠いた不適切な作業
- スタート/ストップボタンでエンジンを始動してから 10 秒以内
- 納車直後でカメラが補正されている間
- 低い位置にある太陽などにより、逆光が常時当たっている場合

同様に、レーダー センサーの検知範囲にラベルやフォイルなどの物を取り付けると、機能が制限されたり、場合によってはレーダー センサーが機能停止することがあります。

警告の感度

警告タイミングなど、警告の感度を上げるほど、より多くの警告が表示されます。しかしこれにより、警告や反応が早すぎる、または理由なく行われることが多くなることもあります。

プリクラッシュセーフティ（対歩行者・自転車）

原理

このシステムは、歩行者および自転車との事故を防ぐためのサポートを行うことができます。事故を避けることができない場合、シス

システムは衝突速度を抑えるように努めます。

このシステムは、市街走行の速度域で追突の危険がある場合に警告を発し、必要に応じて自動的にブレーキをかけます。

一般事項

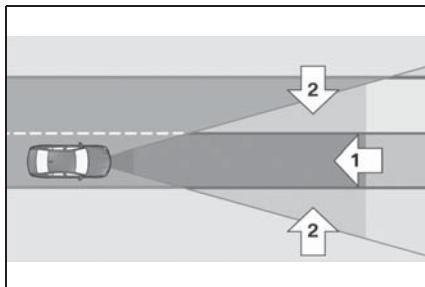
このシステムは、約 5km/h 以上の速度のとき、歩行者および自転車との衝突の危険がある場合に警告を出します。

システムの検知範囲内にある歩行者および自転車が検知されます。

装備に応じてシステムは以下のセンサーにより制御されます：

- ルーム ミラー領域のカメラ
- フロント バンパーのレーダー センサー

検知範囲



車両前の検知範囲は次の 2 つの部分に分ることができます：

- 中央範囲（矢印 1）、車両のまっすぐ前方
- 拡張範囲、矢印 2、中央範囲の右側と左側

歩行者が中央範囲にいる場合、衝

突の危険があります。拡張範囲にいる歩行者については、中央範囲に向かって動く場合にのみ警告が出されます。

安全に関する注意事項

⚠ 警告

システムが作動していても、視界や交通状況を正しく判断するという運転者自身の責任からは免れられません。事故の危険があります。運転の仕方を道路状況に合わせてください。交通状況に注意し、状況によっては積極的に介入してください。

⚠ 警告

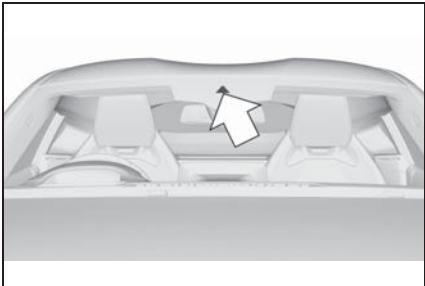
表示および警告が行われても、運転者自身の責任からは免れられません。システムには限界があるため、警告やシステムの反応が行われなかったり、遅れたり、不適正にまたは理由なく行われたりする可能性があります。事故の危険があります。運転の仕方を道路状況に合わせてください。交通状況に注意し、状況によっては積極的に介入してください。

⚠ 警告

Toyota Supra Safety システムをオフにした状態でけん引する場合、システムの限界により、個別の機能が誤作動するおそれや、事故の発生する危険があります。けん引を開始する前に、全ての Toyota Supra Safety システムをオフにしてください。

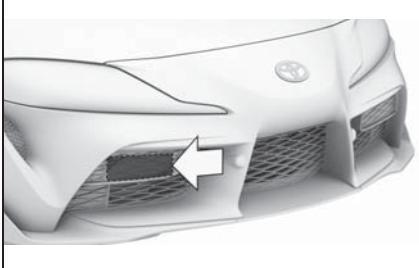
概要**車両のボタン**

Toyota Supra Safety

カメラ

カメラはルームミラー付近に取り付けられています。

ルームミラー前方には障害物を置かず、フロントウィンドウをきれいに保ってください。

レーダー センサー付き

レーダー センサーはフロントバンパーの下部領域にあります。

レーダー センサーは清潔に保ち、遮るものがないようにしてください。

オン / オフにする**自動的にセンサーをオンにする**

システムは毎発進後に自動的にオンになります。

手動でオン / オフにする

ボタンを押します。

Toyota Supra Safety システムに関するメニューが表示されます。

全ての Toyota Supra Safety システムがオンになっていた場合、ここで全てのシステムがオンになります。

「カスタマイズ設定」：装備に応じて、Toyota Supra Safety システムを個別に設定することができます。個別設定がオンにされ、そ

のとき使用しているドライバー プロファイルに記憶されます。メニューで 1 つの設定が変更されると、メニューの全ての設定がオンになります。



ボタンを繰り返し押します。

以下の設定を切り換えることができます：

「全てオン」：全ての Toyota Supra Safety がオンになります。サブ機能用に基本設定がオンになります。

「カスタマイズ」：個別の設定に応じて、Toyota Supra Safety システムがオンになります。

いくつかの Toyota Supra Safety システムは個別にオフにすることができません。



ボタンを押し続けます。

全ての Toyota Supra Safety システムがオフになります。

ボタン

ステータス



インジケーターが緑色に点灯：全ての Toyota Supra Safety システムがオンになっています。

ボタン	ステータス
	インジケーターがオレンジ色に点灯：いくつかの Toyota Supra Safety システムがオフになっているか、または現在使用することができます。

	インジケーターが点灯しない：全ての Toyota Supra Safety システムがオフになっています。
--	---

ブレーキ機能付き警告

表示

検知された歩行者または自転車に衝突する危険がせまっている場合、メーター パネルと必要に応じてヘッドアップ ディスプレイに警告シンボルが表示されます。



赤色のシンボルが表示されて、信号音が鳴ります。



装備に応じて、代わりにメーター パネルで赤色の非常停止表示板が点灯します。

直ちにブレーキ操作や障害物を回避する操作を行ってください。

ブレーキ介入

警告は自身で制御することを要求します。警告中には、ブレーキ システムは最大の制動力が働きます。制動力サポートの前提条件は、ブレーキを十分に速く、また強く踏むことです。

さらにシステムは、衝突の危険がある場合、ブレーキ介入によって

サポートすることができます。

低速の場合は、車両が停止するまで制動することができます。

ビークルスタビリティコントロールとトラクションコントロール(VSC)のオフなどによってドライビングスタビリティが制限されていない場合のみ、ブレーキ制御が行われます。

ブレーキ介入は、アクセルペダルを踏むか、自分でステアリングを動かすことにより中止することができます。

物体の検知が制限されることがあります。検知範囲には境界および機能制限のあることに注意してください。

システムの限界

安全に関する注意事項

⚠ 警告

システムには限界があるため、システムの反応が行われなかったり、遅れたり、不適正にまたは理由なく行われたりする可能性があります。事故の危険や損傷が発生するおそれがあります。システムの限界についての注意事項を確認し、必要に応じて積極的に介入してください。

速度上限

自車の速度が約85km/h以下の場合、システムは歩行者および自転車に反応します。

検知範囲

カメラの検知性能には限界があります。

そのため、警告がされなかったり、遅れたりする可能性があります。

例えば以下が検知されない場合があります：

- 一部が隠れた歩行者
- カメラ アンギュルまたは輪郭によって、正しく検知されない歩行者
- 検知範囲外の歩行者
- 身長が約80cm未満の歩行者

機能制限

以下のような状況では、機能が制限されている可能性があります：

- 濃い霧、激しい雨や降雪のとき
- 急カーブ
- ドライビングスタビリティコントロールシステムがオフになっている場合、例えばVSC OFF
- カメラの撮影範囲またはルームミラー前のフロント ウィンドウ部分が汚れているか、覆われている場合
- 高温のためにカメラが過熱し、一時的にオフになっている場合
- 装備に応じて：レーダー センサーが汚れているか、覆われてたりする場合
- 装備に応じて：車両塗装に対し専門知識を欠いた不適切な作業

- スタート/ストップボタンでエンジンを始動してから 10 秒以内
- 納車直後でカメラが補正されている間
- 低い位置にある太陽などにより、逆光が常時当たっている場合
- 暗がり

レーン ディパーチャー ウオーニング

原理

レーン ディパーチャー ウオーニングは、車両が車道からそれたり車線からはみ出ようとする場合に警告を発します。

一般事項

このカメラベースのシステムは、最低速度を超えると警告を発します。

最低速度は国によって異なり、Toyota Supra Safety システムに関するメニューに表示されます。

ステアリング ホイールの振動により警告が出されます。ステアリング ホイールの振動の強さは調節できます。

車線を出る前にターン インジケーターを作動させると、システムは警告しません。

速度範囲 210km/h 以下のときに車線境界線を超えた場合は、システムがステアリング ホイールの振動に加えて、短時間アクティブにステアリング介入制御を行います。

このシステムは、車両を車線内に維持するように運転者をサポートします。

安全に関する注意事項

⚠ 警告

システムが作動していても、通行するコースや交通状況を正しく判断するという運転者自身の責任からは免れられません。事故の危険があります。運転の仕方を道路状況に合わせてください。交通状況に注意し、状況によっては積極的に介入してください。警告が出た際に、ステアリング ホイールを必要に激しく動かさないでください。

⚠ 警告

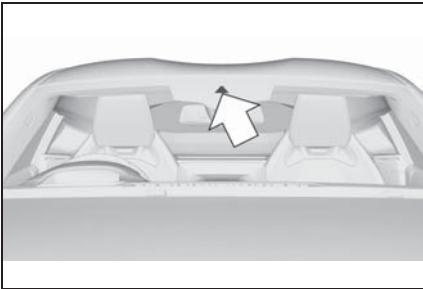
表示および警告が行われても、運転者自身の責任からは免れられません。システムには限界があるため、警告やシステムの反応が行われなかつたり、遅れたり、不適正にまたは理由なく行われたりする可能性があります。事故の危険があります。運転の仕方を道路状況に合わせてください。交通状況に注意し、状況によっては積極的に介入してください。

機能の前提条件

レーン ディパーチャー ウオーニングが作動するには、車線境界線がカメラによって検知されなければなりません。

概要**車両のボタン**

Toyota Supra Safety

カメラ

カメラはルームミラー付近に取り付けられています。

ルームミラー前方には障害物を置かず、フロント ウィンドウをきれいに保ってください。

オン / オフにする**自動的にセンサーをオンにする**

前回走行を終了した際にレーンディバーチャーウオーニング機能

がオンになっていた場合、走行開始後にこれが自動的にオンになります。

手動でオン / オフにする

ボタンを押します。

Toyota Supra Safety システムに関するメニューが表示されます。全ての Toyota Supra Safety システムがオンになっていた場合、ここで全てのシステムがオンになります。

「カスタマイズ設定」：装備に応じて、Toyota Supra Safety システムを個別に設定することができます。個別設定がオンにされ、そのとき使用しているドライバー プロファイルに記憶されます。メニューで 1 つの設定が変更されると、メニューの全ての設定がオンになります。



ボタンを繰り返し押します。

以下の設定を切り換えることができます：

「全てオン」：全ての Toyota Supra Safety システムがオンになります。サブ機能用に基本設定がオンになります。

「カスタマイズ」：個別の設定に応じて、Toyota Supra Safety システムがオンになります。

いくつかの Toyota Supra Safety システムは個別にオフにす

ることができません。



ボタンを押し続けます。

全ての Toyota Supra Safety システムがオフになります。

ボタン	ステータス
-----	-------



インジケーターが緑色に点灯：全ての Toyota Supra Safety システムがオンになっています。



インジケーターがオレンジ色に点灯：いくつかの Toyota Supra Safety システムがオフになっているか、または現在使用することができます。



インジケーターが点灯しない：全ての Toyota Supra Safety システムがオフになっています。

警告タイミングの設定

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
 - 2 「車両設定」
 - 3 「Toyota Supra Safety」
 - 4 「車線逸脱警告」
 - 5 希望する設定を選択します：
- 「早め」：危険な状況が検知された場合に毎回システムが早期に警告します。
 - 「標準」：システムは標準的な安全要求に応えます。
 - 「弱」：状況に応じて、いくつかの警告が抑制されます。例えばターン インジケーターを出さないで追越しを行う場合やカーブで車線を超える場合など。

● 「オフ」：警告は行われません。現在使用しているドライバー プロファイルに対して、選択された設定内容が記憶されます。

ステアリング ホイール振動の強さを設定する

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「車両設定」
- 3 「ステアリング振動」
- 4 希望する設定を選択します：

選択した設定は全ての Toyota Supra Safety システムに引き継がれ、現在使用しているドライバー プロファイルに記憶されます。

ステアリング介入制御をオン / オフにする

ステアリング介入制御は、レーン チェンジ ウォーニングまたはレーン ディパーチャーウォーニング用に別々にオン / オフすることができます。

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「車両設定」
- 3 「Toyota Supra Safety」
- 4 「ステアリングサポート」

現在使用しているドライバー プロファイルに対して、選択された設定内容が記憶されます。

メーター パネル内の表示



シンボルが緑色に点灯：少なくとも車両の片側で車線境界線を1本検知したため、警告を発することができます。

警告機能

車線からはみ出た場合

車線からはみ出て、車線境界線が検知されると、ステアリングホイール振動の設定に基づいてステアリング ホイールが振動します。車線変更の前にターン インジケーターをオンにすると、システムは警告を発しません。

ステアリング介入制御

速度範囲 210km/h 以下とのときに車線境界線を超えた場合は、必要に応じてシステムがステアリング ホイールの振動に加えて、短時間アクティブにステアリング介入制御を行います。ステアリング介入制御は、車両を車線内に維持するように運転者をサポートします。ステアリング介入制御はステアリング ホイールで感知され、いつでも手動で制御を引き受けることができます。アクティブ ステアリング介入がオンになっている場合、メーター パネルでその表示が点滅します。

警告音

運転者がステアリング ホイールを操作せず、3分以内にシステムに

よってアクティブなステアリング介入が何度か行われる場合、警告音が鳴ります。2回目のステアリング介入時には短い警告音が鳴ります。3回目以降のステアリング介入時には長い警告音が鳴ります。補助的に車両メッセージが表示されます。

警告音と車両メッセージは、車線にもっと厳密に注意が払われるまで継続します。

警告の中断

以下の状況では警告が中断されます：

- 自動的に約3秒後
- 自車の車線に戻ったとき
- 強いブレーキのとき
- ターン インジケーターを点滅させたとき
- ビーカルスタビリティコントロール VSC が制御を行っているとき

システムの限界

安全に関する注意事項

!**警告**

システムには限界があるため、システムの反応が行われなかったり、遅れたり、不適正にまたは理由なく行われたりする可能性があります。事故の危険や損傷が発生するおそれがあります。システムの限界についての注意事項を確認し、必要に応じて積極的に介入してください。

機能制限

以下のような状況では、機能が制限されている可能性があります：

- 濃い霧、激しい雨や降雪のとき
- 車線が欠けていたり、擦り減っていたり、見えにくかったり、合流または分離していたりする場合や、工事現場付近など車線の境界が明確に定められない場合
- 車線の境界が雪、氷、汚れ、水で覆われている場合
- 急カーブや狭い路面
- 車線の境界が白線でない場合
- 車線の境界が物体で覆われている場合
- 前走車との車間距離を詰めすぎているとき
- 低い位置にある太陽などにより、逆光が常時当たっている場合
- カメラの撮影範囲またはルームミラー前のフロント ウィンドウ部分が汚れているか、覆われている場合
- 高温のためにカメラが過熱し、一時的にオフになっている場合
- スタート/ストップボタンでエンジンを始動してから 10 秒以内
- 納車直後でカメラが補正されている間

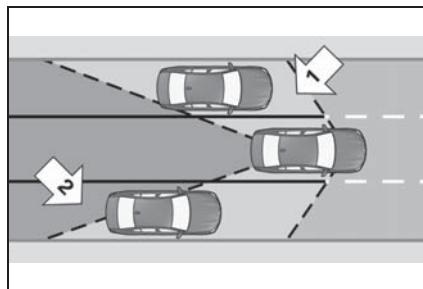
機能が制限されている場合、必要に応じて車両メッセージが表示されます。

ブラインドスポットモニター

原理

ブラインドスポットモニターは、死角にある車両や、隣の車線で後ろから近づいてくる車両を検知します。これらの状況では、さまざまな段階で警告が行われます。

一般事項



最低速度以上になると、リア バンパー内にある 2 個のレーダー センサーが車両の後方および横の空間をモニターします。

Toyota Supra Safety システムに関するメニューに最低速度が表示されます。

このシステムは、死角となるエリアに他の車両がある場合（矢印 1）、または隣の車線で車両が後ろから近づいてくる場合（矢印 2）、これを運転者に知らせます。

ドア ミラーのライトが弱く点灯します。

ターン インジケーターを作動させて車線変更を行う場合、上記にあげられた状況の際に、システムは警告を発します。

ドアミラーのライトが点滅し、ステアリングホイールが振動します。



Toyota Supra Safety

安全に関する注意事項

⚠ 警告

システムが作動していても、視界や交通状況を正しく判断するという運転者自身の責任からは免れられません。事故の危険があります。運転の仕方を道路状況に合わせてください。交通状況に注意し、状況によっては積極的に介入してください。

⚠ 警告

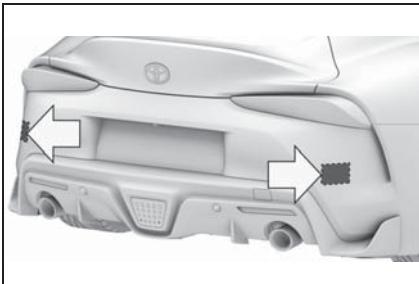
表示および警告が行われても、運転者自身の責任からは免れられません。システムには限界があるため、警告やシステムの反応が行われなかったり、遅れたり、不適正にまたは理由なく行われたりする可能性があります。事故の危険があります。運転の仕方を道路状況に合わせてください。交通状況に注意し、状況によっては積極的に介入してください。

概要

車両のボタン



レーダー センサー



レーダー センサーはリア バンパーに取り付けられています。

レーダー センサー領域のバンパーは清潔に保ち、遮るものがないようにしてください。

オン / オフにする

自動的にセンサーをオンにする

前回の走行終了時にブラインドスポットモニター機能がオンになっていた場合、走行開始後にこれが自動的に再びオンになります。

手動でオン / オフにする



ボタンを押します。

Toyota Supra Safety システムに関するメニューが表示されます。全ての Toyota Supra Safety システムがオンになっていた場合、ここで全てのシステムがオンにな

ります。

「カスタマイズ設定」：装備に応じて、Toyota Supra Safety システムを個別に設定することができます。個別設定がオンにされ、そのとき使用しているドライバー プロファイルに記憶されます。メニューで 1 つの設定が変更されると、メニューの全ての設定がオンになります。



ボタンを繰り返し押します。

以下の設定を切り換えることができます：

「全てオン」：全ての Toyota Supra Safety システムがオンになります。サブ機能用に基本設定がオンになります。

「カスタマイズ」：個別の設定に応じて、Toyota Supra Safety システムがオンになります。

いくつかの Toyota Supra Safety システムは個別にオフにすることができません。



ボタンを押し続けます。

全ての Toyota Supra Safety システムがオフになります。

ボタン	ステータス
	インジケーターが緑色に点灯：全ての Toyota Supra Safety システムがオンになっています。
	インジケーターがオレンジ色に点灯：いくつかの Toyota Supra Safety システムがオフになっているか、または現在使用することができません。
	インジケーターが点灯しない：全ての Toyota Supra Safety システムがオフになっています。

警告タイミングの設定

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「車両設定」
- 3 「Toyota Supra Safety」
- 4 「アラートスポットモード」
- 5 希望する設定を選択します。

「オフ」：この設定の場合、警告は出力されません。

現在使用しているドライバー プロファイルに対して、設定内容が記憶されます。

ステアリング ホイール振動の強さを設定する

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「車両設定」
- 3 「ステアリング振動」
- 4 希望する設定を選択します：

選択した設定は全ての Toyota Supra Safety システムに引き継がれ、現在使用しているドライバー プロファイルに記憶されます。

警告機能

ドア ミラーのランプ



予備警告

他の車両が死角にいるか、または後ろから近づいている場合、ドアミラーのライトが弱く点灯してそれを知らせます。

緊急警告

車両が危険な領域にある間にターン インジケーターをオンすると、ステアリング ホイールが短く振動し、ドア ミラーのライトが明るく点滅します。

他の車両が危険な領域から離れた場合またはターン インジケーターを止めた後に警告が終了します。

ライトの点滅

車両のロック解除時のライトの点

滅はシステムのセルフ テストに使用されます。

システムの限界

安全に関する注意事項

⚠ 警告

システムには限界があるため、システムの反応が行われなかつたり、遅れたり、不適正にまたは理由なく行われたりする可能性があります。事故の危険や損傷が発生するおそれがあります。

システムの限界についての注意事項を確認し、必要に応じて積極的に介入してください。

速度上限

速度が約 250km/h を超えると、システムは一時的に作動解除されます。

速度が約 250km/h を下回ると、システムは再び設定通りに反応します。

機能制限

以下のような状況では、機能が制限されている可能性があります：

- 接近する車両の速度が自車の速度より著しく速い場合
- 濃い霧、激しい雨や降雪のとき
- 急カーブや狭い路面
- バンパーが汚れている、氷結している、またはステッカーなどで覆われている場合
- 突き出している荷物

機能が制限されている場合、車両メッセージが表示されます。

警告の表示

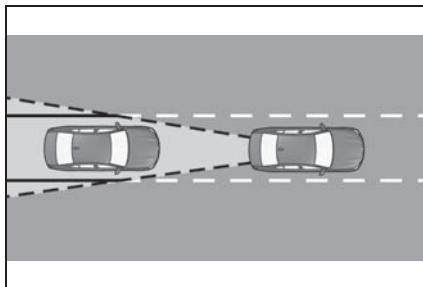
警告タイミングなど、選択した警告の設定に応じて、より多くの警告が表示されることがあります。しかしこれにより、危険な状況に対する反応が増加することもあります。

後方車両への接近警報

原理

このシステムは後ろから近づいてくる車両に反応します。

一般事項



リアバンパー内にある2個のレーダー センサーが車両後方の空間をモニターします。

後方から車両が該当する速度で近づいてくる場合、システムが以下のように反応します：

- 後面衝突の危険が迫っている場合、後続の車両への警告のためにハザード フラッシャーがオンになります。

安全に関する注意事項

警告

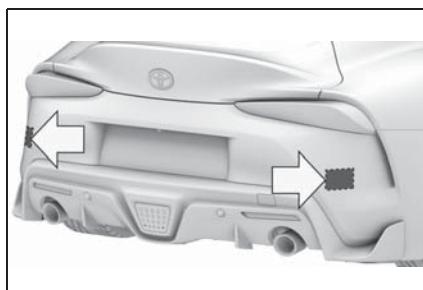
システムが作動していても、視界や交通状況を正しく判断するという運転者自身の責任からは免れられません。事故の危険があります。運転の仕方を道路状況に合わせてください。交通状況に注意し、状況によっては積極的に介入してください。

警告

表示および警告が行われても、運転者自身の責任からは免れられません。システムには限界があるため、警告やシステムの反応が行われなかったり、遅れたり、不適正にまたは理由なく行われたりする可能性があります。事故の危険があります。運転の仕方を道路状況に合わせてください。交通状況に注意し、状況によっては積極的に介入してください。

概要

レーダー センサー



レーダー センサーはリアバンパーに取り付けられています。

レーダー センサー領域のバンパーは清潔に保ち、遮るものがないよ

うにしてください。

オン / オフにする

システムは毎発進後に自動的にオフになります。

システムは以下の状況で作動解除されます：

- 後進走行時

システムの限界

以下のような状況では、機能が制限されている可能性があります：

- 接近する車両の速度が自車の速度より著しく速い場合
- 接近してくる車両がごくゆっくりと近づく場合
- 濃い霧、激しい雨や降雪のとき
- 急カーブや狭い路面
- バンパーが汚れている、氷結している、またはステッカーなどで覆われている場合
- ガレージ壁、生け垣、雪溜めなどでセンサーの検知範囲が隠れている場合
- 突き出ている荷物

緊急ブレーキシグナル

原理

ブレーキ ライトの点滅によって、後続の道路利用者に緊急ブレーキを知らせます。それにより、追突事故の危険を低減することができます。

一般事項



- 通常のブレーキ：ブレーキ ライトが点灯します。
 - 急ブレーキ：ブレーキ ライトが点滅します。
- 停止状態になる直前に、ハザード フラッシャーがオンになります。
- ハザード フラッシャーをオフにする：
- 加速する
 - ガレージ壁、生け垣、雪溜めなどでセンサーの検知範囲が隠れている場合
 - ハザード フラッシャー ボタンを押す。

衝突被害軽減ブレーキ

原理

このシステムは特定の事故状況で、運転者の操作なしに自動的に車両を停止状態にします。これにより、その後の衝突の危険とその影響を低減することができます。

停止状態

停止状態になった後、ブレーキは

自動的に解除されます。

車両により強くブレーキをかける

特定の状況では、車両をより素早く停止状態にする必要があります。このためには、ブレーキペダルを短時間踏み込んで、自動ブレーキ機能によって得られるブレーキ圧よりも高いブレーキ圧を生み出す必要があります。このとき自動制動は中止されます。

自動ブレーキを中止する

特定の状況では、回避操作などのために自動ブレーキの中止が必要になることがあります。

自動ブレーキを中止する：

- ブレーキペダルを踏みます。
- アクセルペダルを踏みます。

注意喚起アシスタント

一般事項

このシステムは、例えば高速道路などでの長時間の単調な走行の場合に、運転者の注意力の低下や疲労の増加を検知することができます。このような状況のときには休憩を入れるようにしてください。

安全に関する注意事項

警告

システムが作動していても、体調を正しく判断するという運転者自身の責任からは免れられません。システムは注意力の低下や疲労の増加を適時に検知するものではありません、または検知が行われないこともあります。事故の危険があります。運転者は十分に休憩を取って注意して走行するように気をつけてください。運転の仕方を道路状況に合わせてください。

機能

このシステムは、走行スタンバイをオンにするとオンになります。

走行開始後、システムは運転者を学習し、注意力の低下や疲労の増加を検知できるようにします。

この動作は以下の基準を考慮します：

- 運転者の運転の仕方、例えばハンドル操作など
- 走行条件、例えば時刻、走行継続時間など

このシステムは、約 70km/h 以上でオンになり、さらに休憩の勧めを表示することができます。

休憩の勧め

調節

注意喚起アシスタントは、走行スタンバイをオンにするたびに自動的にオンになり、休憩の勧めを表示することができます。

休憩の勧めは Toyota Supra Command でもオン / オフおよび設定することができます。

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「車両設定」
- 3 「注意喚起アシスタント」
- 4 希望する設定を選択します：
 - 「感度低め」：定義された値で休憩の勧めが表示されます。
 - 「感度高め」：休憩の勧めが早期に表示されます。
 - 「オフ」：休憩の勧めは表示されません。

表示

運転者の注意力が低下したり、疲労が増してくると、休憩を取るよう勧めるメッセージがコントロール ディスプレイに表示されます。

表示中に以下の設定を選択することができます：

- 「これ以上表示しない」
- 「立ち寄り地点」
- 「後で通知する」

休憩の勧めは 20 分後に繰り返されます。

1 回休憩を取った後は、次の休憩を勧める表示は早く約 45 分後となります。

システムの限界

この機能は、例えば次の状況では制限されている可能性があり、警

告が出なかつたり、間違った警告が出されます：

- 時刻が間違って設定されている場合
- 走行速度がおおむね約 70km/h を下回っている場合
- スポーティな運転の仕方、例えば強い加速や高速でのカーブ走行の場合
- 活発な走行状況、例えば頻繁な車線変更の場合
- 路面の状態が悪い場合
- 強い横風の場合

長時間の高速道路走行での休憩時など、システムは車両停止から約 45 分後にリセットされます。

ドライビングスタビリティコントロール

車両装備

この章では、モデルシリーズに提供される全ての標準装備、国別装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備や国別仕様などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、各国の有効な法律と規定に従ってください。

アンチロック ブレーキ システム(ABS)

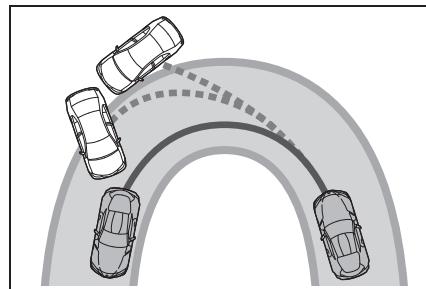
ABSは、ブレーキをかけるときに、車輪がロックするのを防ぎます。

フルブレーキ時であっても操縦性が維持されるので、アクティブセーフティが高まります。

エンジンをスタートすると、ABSは作動可能な状態になります。

ABSが作動しても避けられないとき：

- カーブへの進入速度が速すぎるとき



これらの補助装置が作動しても危険な状況を避けられません。路面の状況に応じた安全な速度で運転することは、運転者の義務です。

ブレーキアシスト

ブレーキを素早く踏むと、このシステムは自動的にできるだけ大きな制動力を発生させます。これにより、フルブレーキ時の制動距離が最大限短くなります。その際、アンチロック ブレーキ システム ABS の優れた効果も発揮されます。

フルブレーキが必要な間は、ブレーキペダルへの圧力を弱めないでください。

アダクティブ ブレーキ アシスト

レーダークルーズコントロールと一緒に、このシステムは、危険な状況でブレーキをかける場合も、ブレーキがもっと素早く応答するように配慮します。

ヒルスタートアシスト

原理

このシステムは、坂道で発進するときに運転をサポートします。

発進

- 1 ブレーキを踏んで、車両を停止させます。
- 2 ブレーキをはなし、素早く発進させます。

ブレーキをはなした後、車両は約2秒間、停止した状態を維持します。

積載重量によっては、車両が少し後方へ動く場合があります。

ビークルスタビリティコントロール

原理

このシステムは、物理的な限界内で、エンジン出力の低減や個々の車輪へのブレーキ制御により、車両を安全なコースに保つサポートをします。

一般事項

VSC は例えば以下のような不安定な走行状態を検知します：

- 車両後部が振られてオーバーステアになる可能性
- 前輪のグリップ力が失われてアンダーステアになる可能性

安全に関する注意事項

警告

システムが作動していても、交通状況を正しく判断するという運転者自身の責任からは免れられません。システムには限界があるため、あらゆる交通状況でシステムが自動的に適切に反応できるわけではありません。事故の危険があります。運転の仕方を道路状況に合わせてください。交通状況に注意し、状況によっては積極的に介入してください。

警告

ルーフラックなどを使用してルーフに荷物を載せて走行する場合、重心が高くなつたことで、危険な走行状況のときに走行安全性を維持できなくなります。事故の危険や損傷が発生するおそれがあります。ルーフ上に荷物を載せて走行する場合は、ビークルスタビリティコントロール（VSC）をオフにしてください。

概要

車両のボタン



OFF VSC OFF

VSC をオフ / オンにする

一般事項

VSC の作動解除により、加速時やコーナリング時の走行安定性が制限されます。

走行安定性を高めるために、VSC をできるだけ早く再作動させてください。

VSC を作動解除する



メーター パネルに VSC OFF が表示され、VSC OFF 表示灯が点灯するまでボタンを押し続けます。

VSC を作動させる



ボタンを押します。

VSC OFF と VSC OFF の表示灯が消えます。

表示

メーター パネル内

VSC がオフになると、メーター パネルに VSC OFF が表示されます。

表示灯と警告灯



表示灯が点灯する：VSC は、作動解除されています。

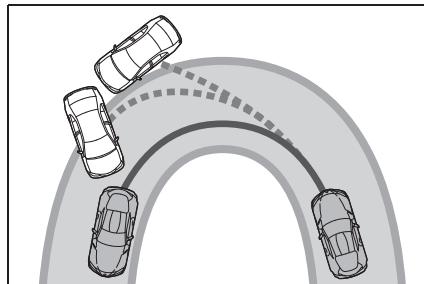


表示灯が点滅する：VSC が、駆動力と制動力を調節しています。

表示灯が点灯する：VSC が故障しています。

VSC が作動しても避けられないとき

- カーブへの進入速度が速すぎるとき



これらの補助装置が作動しても危険な状況を避けられません。路面の状況に応じた安全な速度で運転することは、運転者の義務です。

トラクションモード

原理

トラクションモードは、駆動力を最適化するビーグルスタビリティコントロールのバリエーションです。

このシステムは、除雪されていない道路やぬかるんだ地面などの特別な道路状況で、走行安定性を制限することで最大の駆動力を保証します。

一般事項

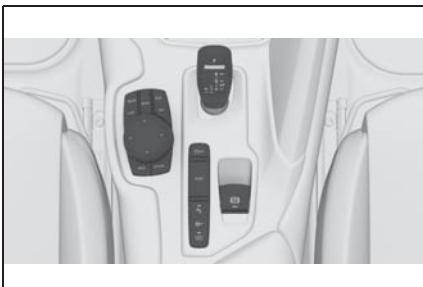
トラクションモードが作動している場合、最大の駆動力が発揮されます。加速時やコーナリング時の走行安定性が制限されます。

以下のような状況では、必要に応じてトラクションモードを一時的にオンにしてください：

- 雪泥の走行または除雪されていない路面の走行
- 深い雪やぬかるみからの発進
- スノーチェーンを装着した走行

概要

車両のボタン



VSC OFF

トラクションモードを作動させる / 作動解除する

トラクションモードを作動させる

ボタンを押します。



メーター パネルに TRACTION が表示され、VSC OFF 表示灯が点灯します。

トラクションモードを作動解除する

ボタンをもう一度押します。



TRACTION と VSC OFF の表示灯が消えます。

表示

メーター パネル内の表示

トラクションモードが作動している場合、メーター パネルに、TRACTION が表示されます。

表示灯と警告灯



表示灯が点灯する：トラクションモードが作動しています。

プログラムの自動切換え

特定の状況のとき、自動的に VSC に切り換わります：

- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）がオンになるとき
- Toyota Supra Safetyシステム

- によるブレーキ介入時
- タイヤ パンクの場合

アクティブ ディファレンシャル

アクティブ ディファレンシャルは走行状況に応じてファイナル ドライブを無段階でロックします。これにより、個々のリア ホイールの空転が回避され、あらゆる走行状況で最適な駆動力が供給されます。運転者には状況に合った運転をする責任があります。

ドライバー アシスト システム

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、国別装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備や国別仕様などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、各国の有効な法律と規定に従ってください。

マニュアルスピードリミッター

原理

このシステムにより、例えば速度制限を超えないように速度制限を設定することができます。

一般事項

このシステムにより、30km/h 以上の速度を制限することができます。設定された速度リミットを下回る場合は、制限なく走行できます。

概要**ステアリング ホイールのボタン**

ボタン	機能
LIM	システムのオン / オフ (190 ページ参照)
SET	現在の速度を記憶します。
	タンブラー スイッチ： 速度制限を変更します (190 ページ参照)。

操作方法**オンにする**

 ステアリングのボタンを押します。

現在の走行速度が速度リミットとして設定されます。

停止状態でオンにした場合または低速のときは、速度制限が 30km/h に設定されます。

速度制限をオンにすると、必要に応じてビークルスタビリティコントロール (VSC) がオンになり、状況に応じて走行モードが NORMAL に切り換わります。

オフにする

 ステアリングのボタンを押します。

以下のような状況では、システムが自動的にオフになります：

- エンジンを停止した場合

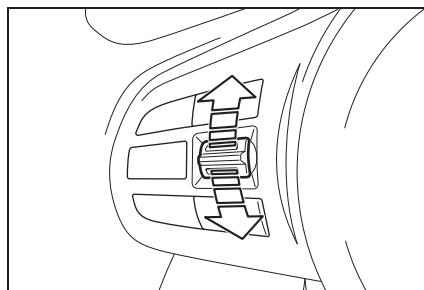
- レーダークルーズコントロールをオンにした場合

- スポーツモードスイッチでスポーツプログラムをオンにした場合

表示が消えます。

中断

リバース ギアまたはニュートラルにシフトされた場合、システムは中断されます。

速度リミットを変更する

希望の速度リミットが設定されるまで、タンブラー スイッチを何度も上か下に押してください。

- タンブラー スイッチを軽く止まる位置まで押すたびに、速度制限が 1km/h ずつ上下します。
- タンブラー スイッチを軽く止まる位置を越えるまで押すたびに、スピードメーター内の速度制限が 10km/h ずつ変化します。

設定された速度リミットに達した場合や無意識のうちに超過した（下り坂走行など）場合、アクティブな制動は行われません。

走行中に、走行速度を下回る速度

制限を設定すると、設定された速度制限になるまで車両が惰性で走行します。

ボタンを押すことによっても、現在の速度を記憶することができます：

SET

ステアリングのボタンを押します。

速度リミットの超過

走行速度が設定された速度リミットを超過すると、警告が出されます。

速度リミットを意識的に超過させることができます。このような状況では、警告はありません。

設定された速度制限を意識的に超過させるには、アクセルペダルを下までいっぱいに踏み込んでください。

現在の走行速度が設定された速度制限を下回ると、制限が自動的に再び有効になります。

速度制限を超過したときの警告

LIMIT 速度リミットを超過した場合： 設定された速度リミット以上で走行している間、メーター パネルの表示灯が点滅します。

音による警告

- 設定された速度制限を無意識に超過すると、信号音が鳴ります。

- 走行中に速度リミットを走行速度よりも下げると、少し経つてから信号音が鳴ります。

- アクセルペダルをいっぱいまで踏み込むことによって意識的に速度リミットを超過した場合は、信号音は鳴りません。

メーター パネル内の表示

表示灯

- 表示灯が点灯する：システムがオンになっています。
- 表示灯が点滅する：設定された速度リミットを超過しています。
- 表示灯が灰色：システムは中断されています。

ステータス表示

装備に応じて、設定された速度制限の値が表示されます。

レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き)

原理

このシステムでは、ステアリングホイールのボタンにより希望速度および前走車との車間距離を設定することができます。

道路が混んでいないときは、希望速度がシステムにより保たれ、車両の加速やブレーキを自動的に行います。

前走車との車間距離が狭すぎる場

合、システムは自車の速度を、設定した前走車との車間距離に合わせて調整します。速度の調整は、与えられた可能性の範囲内で行われます。

一般事項

前走車の検知のために、フロントバンパーのレーダー センサーとルーム ミラーのカメラがあります。

車両設定に応じて、レーダークルーズコントロールの特性が特定領域で変化する場合があります。

車間距離はさまざまなレベルで設定可能で、安全上の理由から速度に左右されます。

前走車がブレーキをかけて停止し、再びすぐ発進した場合、システムは規定の範囲内でこれに対応します。

安全に関する注意事項

⚠ 警告

システムが作動していても、交通状況を正しく判断するという運転者自身の責任からは免れられません。システムには限界があるため、あらゆる交通状況でシステムが自動的に適切に反応できるわけではありません。事故の危険があります。運転の仕方を道路状況に合わせてください。交通状況に注意し、状況によっては積極的に介入してください。

⚠ 警告

固定されていない車両は自然に動き出してしまうことがあります。事故の危険があります。車両を離れる前に、車両が動き出さないように固定してください。

車両から離れない

以下のようにして、車両が動き出さないように確実に固定してください：

- パーキング ブレーキをかけます。
- 上り坂または下り坂では、フロント ホイールを縁石の方向に向けます。
- 上り坂または下り坂では、例えば輪止めなどで車両を補助的に固定してください。

⚠ 警告

希望速度が間違って設定されたり、呼び出されることがあります。事故の危険があります。希望速度を道路状況に合わせてください。交通状況に注意し、状況によっては積極的に介入してください。

⚠ 警告

例えば以下の状況で、他の車両との速度差が非常に大きい場合は事故の危険があります：

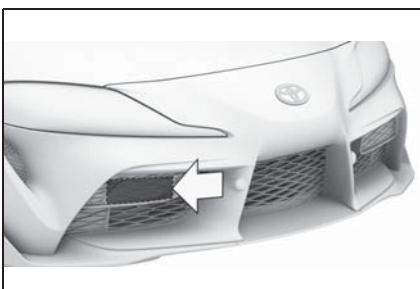
- 低速で走行中の車両に高速で近づく場合
- 他の車両が自車の車線に突然割り込んでくる場合
- 静止している車両に高速で迫る場合
けがをする危険または生命の危険があります。交通状況に注意し、状況によっては積極的に介入してください。

概要

ステアリング ホイールのボタン

ボタン	機能
	レーダークルーズコントロール オン / オフ (194 ページ参照)
	現在の速度を記憶します。
	作動状態で、ボタンを押します：レーダークルーズコントロールを中断する (194 ページ参照)。 システム中断時にボタンを押します：前回の設定でレーダークルーズコントロールを続行する (196 ページ参照)。
	車間距離を設定する (196 ページ参照)。
	タンブラー スイッチ： 速度を設定します (195 ページ参照)。

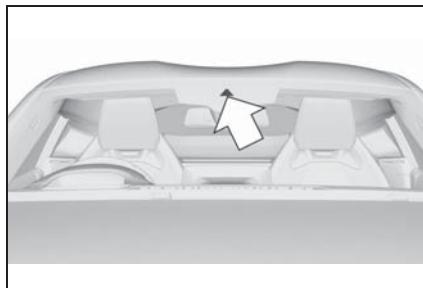
レーダー センサー



レーダー センサーはフロントバンパー内にあります。

レーダー センサーは清潔に保ち、遮るものがないようにしてください。

カメラ



カメラはルームミラー付近に取り付けられています。

ルームミラー前方には障害物を置かず、フロント ウィンドウをきれいに保ってください。

使用領域

システムの使用は、よく整備された道路での走行に最適です。

設定可能な最低速度は 30km/h です。

設定可能な最高速度は 160km/h です。

車間距離コントロールなしのレーダークルーズコントロールに切り換えることにより、さらに高い希望速度を選択することもできます。

システムは停車時にも作動させることができます。

レーダークルーズコントロールのオン / オフと中断

オンにする



ステアリングのボタンを押します。

メーター パネル内の表示灯が点灯します。

レーダークルーズコントロールが作動中。走行速度が維持され、希望速度として記憶されます。

必要に応じてビーカルスタビリティコントロール (VSC) がオンになります。

オフにする

停車中にシステムをオフにする場合、同時にブレーキを踏みます。

ステアリング ホイールの以下のボタンを再度押します：



ステアリングのボタンを押します。

表示が消えます。保存された設定速度が消去されます。

手動中断

作動状態で、ステアリング ホイールの以下のボタンを押します：



ステアリングのボタンを押します。

停車中にシステムを中断する場合、同時にブレーキを踏みます。

自動中断

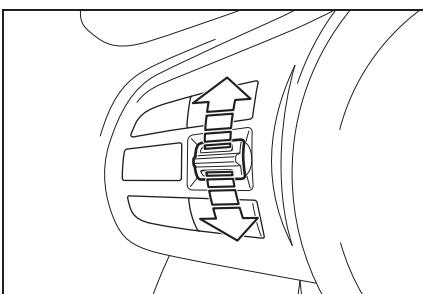
システムは次の状況で、自動的に

中断します：

- 運転者がブレーキを操作したとき
- セレクター レバー ポジションが D から切り換わった場合
- トランクションモードがオンにされたとき、またはビーカルスタビリティコントロールとトランクションコントロール VSC がオフにされたとき
- ビーカルスタビリティコントロールとトランクションコントロール VSC が制御を行っているとき
- 車両停車時にシートベルトが外され、運転席ドアが開けられた場合
- システムが比較的長い間物体を検知しなかった場合、例えば交通量が極端に少なく、縁石のない道路の走行など
- レーダーの検知範囲が汚れや激しい降水などにより遮られている場合
- システムにより停止するまでブレーキをかけ、比較的長い時間停車した後

速度の設定

速度の維持と記憶



中断した状態でタンブラー スイッチを上または下に 1 回押します。システムがオンになります。

現在の走行速度が維持され、希望速度として記憶されます。

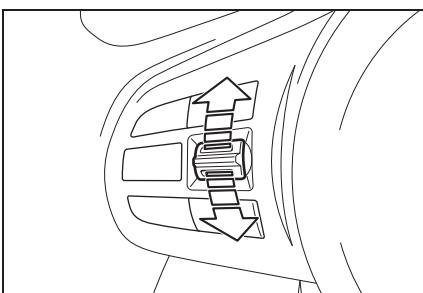
記憶されている速度がスピードメーターに表示されます。

必要に応じてビークルスタビリティコントロールとトラクションコントロール VSC がオンになります。

ボタンを押しても速度を記憶することができます。

SET ボタンを押します。

速度の変更



希望速度が設定されるまで、タンブラー スイッチを何度も上か下に押してください。

作動状態では、表示された車速が記憶され、前走車がない場合はその速度が維持されます。

- タンブラー スイッチを軽く止まる位置まで押すたびに、設定速度が 1km/h ずつ上下します。
- タンブラー スイッチを軽く止まる位置を越えるまで押すたびに、スピードメーター内の設定速度が 10km/h ずつ変化します。

タンブラー スイッチを押した状態で保持すると、設定速度が連続して変わります。

車間距離の設定

一般事項

現在使用しているドライバー プロファイルに対して、距離の設定が記憶されます。

安全に関する注意事項

⚠ 警告

システムが作動していても、運転者自身の責任からは免れられません。システムには限界があるため、ブレーキが遅れてしまうおそれがあります。事故の危険や損傷が発生するおそれがあります。常に交通状況に十分注意してください。車間距離を交通や天候状態に合わせ、必要に応じてブレーキ操作により規定の安全車間距離を維持してください。

車間距離を設定する



希望の車間距離がセットされるまで、繰り返しボタンを押してください。

レーダークルーズコントロールを続行する

記憶された速度を呼び出すことで、中断されたレーダークルーズコントロールを続行することができます。

記憶された速度を呼び出す前に、現在の速度と記憶された速度の間に大きな差がないことを確認してください。この差が大きすぎると、意図しないブレーキや加速が起こるおそれがあります。



システム中断時にボタンを押します。

レーダークルーズコントロールが、記憶されている値で続行されます。

以下の場合には、記憶された速度が消去され、呼び出すことができなくなります：

- システムをオフにしたとき
- 走行スタンバイをオフにしたとき

レーダークルーズコントロールの車間距離調節付き／無しの切換え

安全に関する注意事項

⚠️ 警告

このシステムは前走車に対して反応するものではなく、記憶されている速度を維持するものです。事故の危険や損傷が発生するおそれがあります。希望速度を道路状況に合わせ、必要に応じてブレーキを操作してください。

車間距離コントロールなしのクルーズ コントロールに切り換える

クルーズ コントロールをオンにして走行しているときに、車間距離コントロールをオン / オフにすることができます。



ボタンを押し続けます。

車間距離コントロール付きクルーズ コントロールに切り換えるには、ボタンを再度押してください。切り換わった後に車両メッセージが表示されます。

メーター パネル内の表示

ステータス表示

設定された速度の値が表示されます。

車間距離

選択されている前走車との車間距

離レベルが表示されます。

シンボル	説明
	車間距離レベル 1
	車間距離レベル 2
	車間距離レベル 3 km/h 表示の値の約半分（メートル）に相当します。システムを最初にオンにしたときに設定されています。
	車間距離レベル 4
	システムは中断しています。
	アクセルペダルが踏まれたので、車間距離コントロールは表示されません。

検知された車両

シンボル	説明
	シンボルが緑色：前走車が検知されています。システムは設定された前走車との車間距離を維持します。
	検知された車両が発進するとすぐに、距離表示の中の車両シンボルが動き去ります。
	加速するには、例えばアクセルペダルを短く踏むか、タンブラー スイッチを操作して、ACC をオンにします。
表示灯と警告灯	
シンボル	説明
	表示灯が緑色：システムが作動中です。
	表示灯なし：システムはオフになっています。
	車両シンボルが点滅：システムの作動のための前提条件が満たされていません。
	システムが作動解除されましたが、ブレーキまたはアクセルペダルを踏んで積極的に介入するまで制動されます。
	車両シンボルと距離バーが赤で点滅し、信号音が鳴る：ブレーキを踏み、必要に応じて障害物を回避します。

ヘッドアップ ディスプレイの表示

希望速度

システムのいくつかの情報はヘッドアップ ディスプレイにも表示することができます。



設定された希望速度に達する
と、シンボルが表示されます。

車間距離情報



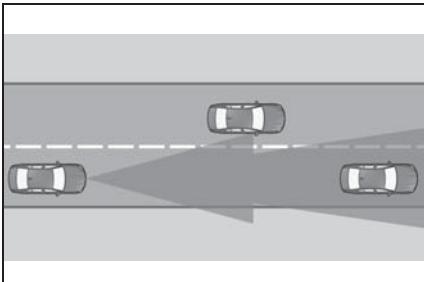
前走車との車間距離が短すぎ
る場合、このシンボルが表示
されます。

以下の状況では車間距離情報が有効です：

- レーダークルーズコントロール
がオフ
- ヘッドアップ ディスプレイの表
示が選択されている（140 ペー
ジ参照）
- 車間距離が短すぎる
- 速度が約 70km/h 以上

システムの限界

検知範囲



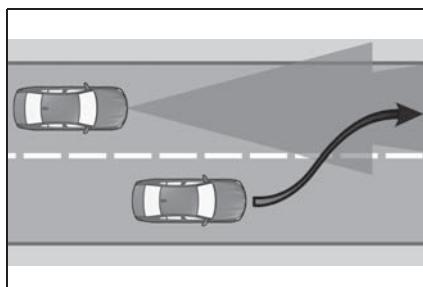
システムの検知機能および自動ブ
レーキ制御には限界があります。
例えば 2 輪車は検知できないこと
があります。

減速

システムは以下の状況のときに減
速しません：

- 歩行者または歩行者と同じくら
いの速さの道路利用者の場合
- 赤信号の場合
- 交差する道路の場合
- 対向車の場合

車両の割り込み

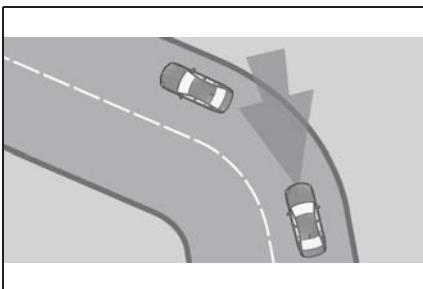


他の車線から割り込んできた前走
車は、同一車線上に完全に移動して
からでないと検知されません。

自車の車線に前走車が突然割り込
んできた場合、状況によってはシ
ステムは選択されている車間距離を
自動的に確保できないことがあります。
選択された車間距離は、状況によ
っては、トラックに近く近づく場合など、
前走車との速度の違いが大きい場合に
も確立できません。前走車を確実に検知し
ている場合、システムは運転者に対

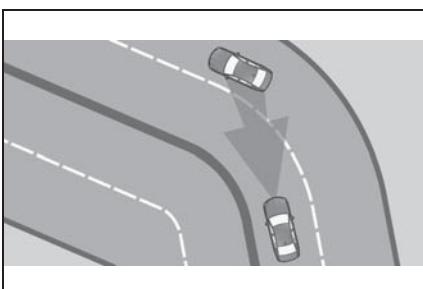
してブレーキ操作または危険回避動作を要求します。

コーナリング



カーブに対して設定速度が高すぎの場合、カーブ走行時の速度が少し減速しますが、カーブは前もって検知されません。そのため、適切な速度でカーブに入ってください。

システムの検知範囲が制限されます。急カーブの場合には、前走車を検知できなくなったり、または検知が大幅に遅れてしまうことがあります。



カーブにさしかかったとき、カーブの大きさによっては、一時的にシステムが隣の車線の車両に反応する場合があります。このようなときは、短時間加速することで車両の減速を補整することができます

す。アクセルペダルをはなすと、システムは再び作動状態となり速度を自動制御します。

発進

例えば以下の状況では、車両が自動的に発進できない場合があります：

- きつい上り坂
- 路面の隆起の前

これらの場合はアクセルペダルを踏みます。

天候

天候や光の条件が良くない状況では、以下の制限が生じる場合があります：

- 車両が検知しにくくなる
- すでに検知された車両が一時的に見えなくなる

天候や光の条件が良くない状況の例：

- 濡れた路面
- 降雪
- 雪泥
- 霧
- 逆光

注意して走行し、現在の交通状況に自ら対応してください。必要に応じてブレーキ、ステアリングや回避操作などにより積極的に介入を行ってください。

エンジン出力

急勾配の道でも希望速度が維持されます。上り坂ではエンジン出力が不十分な場合に、その速度を下回ることがあります。

故障

レーダー センサー

駐車時の損傷などが原因でレーダー センサーが正しく調整されていないとき、システムを作動させることはできません。

システムが故障すると、車両メッセージが表示されます。

システムの点検をトヨタ販売店に依頼してください。

レーダー センサーの検知範囲の一部がライセンス プレート ベースなどで隠れている場合、システムが制限される可能性があります。

カメラ

静止している車両への接近を検知し、反応する機能は、以下の状況では制限されることがあります：

- 納車直後でカメラが補正されている間
- カメラに不具合または汚れがある場合。車両メッセージが表示されます。

クリアランスソナー

原理

クリアランスソナーは駐車の際に運転者をサポートします。車両の前後にいる物体に低速で接近すると、信号音とコントロール ディスプレイの表示で知らせます。

装備バージョンに応じて：サイドの超音波センサーが車両横側で障害物を検知すると、必要に応じてサイド プロテクター（204 ページ参照）機能により通知されます。

一般事項

距離測定用の超音波センサーは、バンパー内および必要に応じて車両の側面にあります。

検知可能距離は、障害物と環境に応じて、約 2m です。

対象物までの距離が約 70cm で衝突の危険がある場合、警告音が出されます。

車両の後方に障害物がある場合は、距離が約 1.50m になった時点ですでに警告音が出されます。

安全に関する注意事項

⚠ 警告

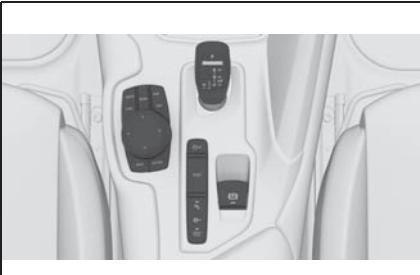
システムが作動していても、交通状況を正しく判断するという運転者自身の責任からは免れられません。システムには限界があるため、あらゆる交通状況でシステムが自動的に適切に反応できるわけではありません。事故の危険があります。運転の仕方を道路状況に合わせてください。交通状況に注意し、状況によっては積極的に介入してください。

⚠ 警告

クリアランスソナーがオンのときに速度が速いと、物理的な条件のために警告が遅れて発せられることがあります。けがを負ったり、損傷が発生するおそれがあります。高速で障害物に向かうような運転は避けてください。クリアランスソナーがまだ作動していない間は、速い速度で発進しないでください。

概要

車両のボタン



パーキング アシスタント ボタン

超音波センサー



クリアランスソナーの超音波センサーはバンパー内などにあります。

機能の前提条件

機能を最大限活用するために：

- センサーをステッカーや自転車キャリアなどで覆わないでください。
- センサーは清潔に保ち、遮るものがないようにしてください。

オン / オフにする

自動的にセンサーをオンにする

システムは以下の状況で、自動的にオンになります：

- エンジン作動時にセレクター レバーをポジション R に入れたとき。
- 装備バージョンに応じて：速度が約 4km/h より遅いときに、検知された障害物に近づく場合。オンになるときの距離はそれぞれの状況に左右されます。

障害物を検知した場合の自動スイッチ オンはオン / オフにすることができます。

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「車両設定」
- 3 「パーキング」

4 必要に応じて：「クリアランスソナー自動起動」

5 「クリアランスソナー自動起動」

現在使用しているドライバー プロファイルに対して、設定内容が記憶されます。

装備に応じて、さらに該当するカメラ ビューがオンになります。

前進走行時の自動スイッチ オフ

特定の走行距離または速度を超えると、システムはオフに切り換わります。

必要な場合はシステムを再作動させてください。

手動でオン / オフにする



パーキング アシスタント ボタンを押します。

● オン：LED が点灯します。

● オフ：LED が消灯します。

パーキング アシスタント ボタンを押したときにリバース ギアにシフトされている場合、リア ビューカメラの画像が表示されます。

警告

警告音

一般事項

障害物に近づくと、位置に応じて、断続音による警告が行われます。例えば車両の左後方に物体が検知された場合、左リアのスピーカーから警告音が鳴ります。

障害物との距離が近ければ近いほど、間隔が短くなります。

検知された障害物との距離が約 25cm 未満になると、連続音が鳴ります。

車両の前と後ろに同時に障害物があり、その距離が約 25cm 未満になると、交替で連続音が鳴ります。

断続音と連続音は、セレクター レバーをポジション P にシフトするとオフになります。

車両を停止すると、しばらくして断続音はオフになります。

■ 音量調節

クリアランスソナー信号音の音量を調節することができます。

Toyota Supra Command から：

1 「車両情報 / 設定」

2 「システム設定」

3 「サウンド」

4 「音量設定」

5 「クリアランスソナー」

6 希望する値を設定します。

現在使用しているドライバー プロファイルに対して、設定内容が記憶されます。

視覚的な警告



障害物への接近は、コントロールディスプレイに表示されます。さらに遠くの障害物は、信号音が鳴るよりも前の時点でそこに表示されます。

クリアランスソナーを作動させると、すぐにイラストが表示されます。

センサーの検知範囲で障害物が検知された場合、検知範囲は緑、黄、赤で表示されます。

駐車に必要なスペースをより良く判断できるように、車幅確認線が表示されます。

リア ビュー カメラの画像が表示されると、クリアランスソナーまたは障害物マーク付きの他の画面に切り換えることができます：

- 1 必要に応じて、コントローラーを左に押します。
- 2 例えば、「クリアランスソナーのみ」

リヤクロストラフィックアラート（209 ページ参照）：装備に応じて、クリアランスソナーの表示では、車両の前側または後側に横方向から近づいてくる車両も警告されます。

緊急ブレーキ機能（クリアランスソナー）

原理

クリアランスソナーの緊急ブレーキ機能は、衝突の危険が迫っているときに緊急ブレーキを開始します。

一般事項

システムには限界があるので、あらゆる状況で衝突を回避できるわけではありません。

この機能は、徐行速度以下で後進走行する場合に使用できます。

アクセル ペダルを操作すると、ブレーキ介入が中止されます。

緊急ブレーキの作動により車両が停止した後は、障害物に当たらないようにさらに接近することができます。接近するにはアクセルペダルを軽く操作してから、再び放します。

アクセル ペダルの踏み方が強いと、車両は通常の発進を行います。手動ブレーキはいつでも可能です。

このシステムはクリアランスソナーとパーク アシスタントの超音波センサーを使用します。

安全に関する注意事項

⚠ 警告

システムが作動していても、交通状況を正しく判断するという運転者自身の責任からは免れられません。事故の危険があります。運転の仕方を道路状況に合わせてください。交通状況と車両の周囲を直接見て補足的なチェックを行い、状況によっては積極的に介入してください。

システムを作動させる / 作動解除する

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」

2 「車両設定」

3 「パーキング」

4 必要に応じて「クリアランスソナー 緊急ブレーキ」

5 「クリアランスソナー 緊急ブレーキ」

現在使用しているドライバー プロファイルに対して、設定内容が記憶されます。

装備バージョンに応じて：サイド プロテクター

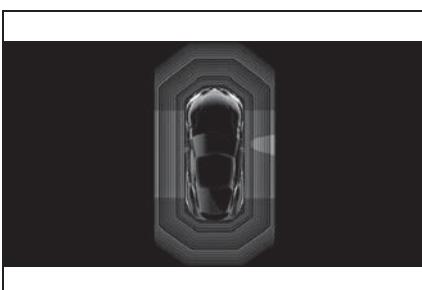
原理

このシステムは車両の側面に障害物がある場合に警告を発します。

一般事項

このシステムはクリアランスソナーとパーク アシスタントの超音波センサーを使用します。

表示



車両のサイド部を保護するために、車両の横側に障害物マークが表示されます。

- カラーのマーク：検知された障害物があることを警告しています。

す。

- 灰色のマーク、斜線が入った面：障害物は検知されませんでした。

- マークなし、黒い面：車両の横の領域がまだ検知されていません。

サイド プロテクターの限界

このシステムは、通過する際にあらかじめセンサーによって検知された静止状態の障害物のみを表示します。

障害物が後で動くかどうかを検知することはできません。マークは、停車時にしばらく経った後で黒色の表示になります。この場合は、車両付近の領域をあらためて検知する必要があります。

システムの限界

安全に関する注意事項

⚠ 警告

システムには限界があるため、システムの反応が行われなかったり、遅れたり、不適正にまたは理由なく行われたりする可能性があります。事故の危険や損傷が発生するおそれがあります。システムの限界についての注意事項を確認し、必要に応じて積極的に介入してください。

超音波による測定の限界

以下のような状況では、超音波測定の物理的限界により、物体を検知できないことがあります：

- 小さい子供や動物の場合
- コートなどの特定の衣服を着用している歩行者
- 横を通り過ぎる車両や音のやかましい機械などにより、超音波が外的干渉を受ける場合
- センサーが汚れていたり、氷結していたり、損傷があったり、調整がずれている場合
- 高い湿度、降雨、降雪、異常高温、激しい風など、特定の気象条件の場合
- 他の車両のけん引バーとけん引フック
- 薄い物体またはくさび形の物体
- 動く物体
- 高い位置で突出した物体、例えば壁の盛り上がりなどの場合
- 角があり、先が尖り、表面がつるつるした物体
- 細かい表面や構造を持った物体、例えば垣根などの場合
- 表面に穴がたくさんあいている物体
- 小さくて低い物体の場合、箱など
- 車線の縁部の障害物と人の場合
- 柔らかい障害物またはスポンジ材で覆われた障害物の場合
- 植物や茂みの場合
- すでに検知していた低い位置の物体（縁石など）は、連続音が鳴る前後にセンサーの死角にくることがあります。
- 車両から飛び出している荷物は、

システムでは考慮されません。

警告の誤作動

このシステムは次の条件の場合、検知範囲内に障害物がなくても、警告を発することがあります：

- 激しい雨の場合
- センサーの激しい汚れや氷結
- センサーが雪で覆われている場合
- 路面に凹凸がある場合
- 例えば速度を抑制するために施された不均一な路面
- つるつるした壁に囲まれた大きな四角形の建物内（地下ガレージなど）
- 自動洗車機に入れる場合
- 排気ガスがひどい場合
- 道路清掃車、スチームクリーナー、ネオン灯などの他の超音波源がある場合

警告の誤作動を低減するため、例えば自動洗車機などで障害物が検知される場合は、クリアランスソナーの自動オンを必要に応じてオフにします（201 ページ参照）。

故障

車両メッセージが表示されます。



白色のシンボルが表示され、センサーの検知範囲がコントロールディスプレイに暗く表示されます。

クリアランスソナーが故障しています。システムの点検をトヨタ販

売店に依頼してください。

リア ビュー カメラ

原理

リア ビュー カメラは、バックで駐車するときや操車するときにサポートします。このために、車両後方領域がコントロール ディスプレイに表示されます。

安全に関する注意事項

⚠ 警告

システムが作動していても、交通状況を正しく判断するという運転者自身の責任からは免れられません。事故の危険があります。運転の仕方を道路状況に合わせてください。交通状況と車両の周囲を直接見て補足的なチェックを行い、状況によっては積極的に介入してください。

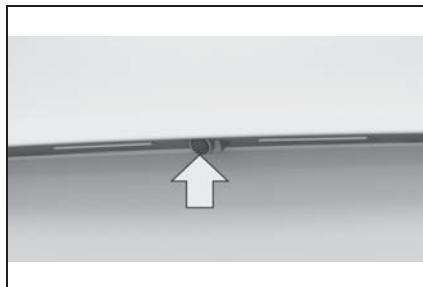
概要

装備に応じて：車両のボタン



パーキング アシスタント ボタン

カメラ



カメラのレンズは、ライセンスプレートランプの近くにあります。

汚れにより画質が影響を受けることがあります。必要な場合は、カメラ レンズを清掃します。

オン / オフにする

自動的にセンサーをオンにする

エンジン作動時にセレクター レバーをポジション R に入れると、このシステムは自動的にオンになります。

前進走行時の自動スイッチ オフ

特定の走行距離または速度を超えると、システムはオフに切り換わります。

必要な場合はシステムを再作動させてください。

装備に応じて：手動でオン / オフする



パーキング アシスタント ボタンを押します。

- オン：LED が点灯します。

- オフ：LED が消灯します。
コントロール ディスプレイにパー
キング アシスタント機能が表示さ
れます。

画面を Toyota Supra Command で切り換える

リア ビュー カメラの画面が表示さ
れない場合は、Toyota Supra
Command で画面を切り替えま
す：

- 1 必要に応じてコントローラーを
横に傾けます。

2 「リヤビューカメラ」

リア ビューカメラの画像が表示さ
れます。

機能の前提条件

- リア ビューカメラがオンになっ
ている
- トランク リッドが完全に閉まっ
ている
- カメラの検知範囲に物がないよ
うにします。突き出している荷物
により、カメラの検知範囲が制
限されることがあります。

アシスタント機能

一般事項

複数のアシスタント機能を同時に
作動させることができます。

アシスタント機能は手動でオンに
することができます。

- 1 必要に応じて、コントローラー
を右に傾けます。

- 2 該当する装備の場合：「カメ
ラ画像」

3

● 「駐車案内線」

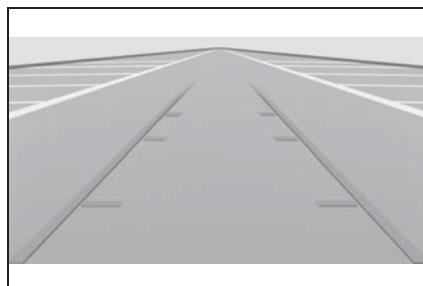
車幅確認線と旋回予想線が表示さ
れます（207 ページ参照）。

● 「障害物マーク」

装備に応じて、クリアランスソ
ナーによって検知された障害物は
マークで表示されます（208 ペー
ジ参照）。

駐車補助線

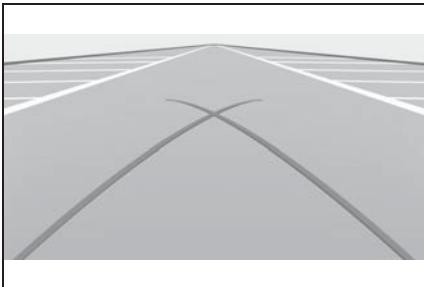
■ 車幅確認線



平坦な路面で駐車や車両の入れ換
えをするとき に、車幅確認線は必
要なスペースを予測するの に役立
ちます。

車幅確認線はそのときのステアリ
ング切れ角に応じて、連続的に調
整されます。

■ 旋回予想線



旋回予想線は車幅確認線と一緒にのみ、カメラの画像の中に表示させることができます。

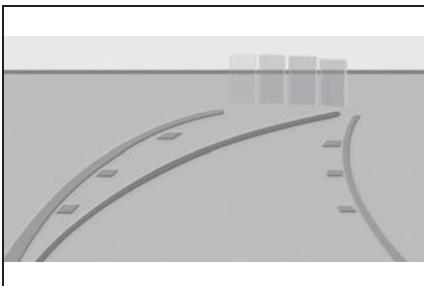
旋回予想線は、平坦な路面上での最小旋回予測コースを示します。

ステアリング ホイールの角度が一定以上になると、旋回予想線は 1 本しか表示されません。

■ 車幅確認線と旋回予想線による駐車サポート

- 1 赤色の旋回予想線が駐車スペースの境界と合致するように、車両を移動します。
- 2 緑色の車幅確認線が旋回予想線に重なるようにステアリング ホイールを切ります。

検知物表示



装備に応じて、車両後方の障害物

は、クリアランスソナーセンサーによって検知されます。

障害物マークをリア ビュー カメラの画像の中に表示することができます。

障害物マークの色の段階は、クリアランスソナーのマーキングに対応しています。

明るさとコントラストを Toyota Supra Command で調節する

リア ビュー カメラがオンになっている場合：

- 1 必要に応じて、コントローラーを右に傾けます。
- 2 「カメラ画像」
- 3
- 「明るさ」
- 「コントラスト」
- 4 希望する値を設定します。

システムの限界

カメラの作動解除

例えばトランク リッドが開けられたりカメラが作動解除された場合、カメラ画像は灰色の斜線付きで示されます。

障害物の検知

非常に低い位置の障害物や高い位置で突出した物体（壁の盛り上がりなど）は、システムによって検知できません。

装備に応じて、いくつかのアシスタンント機能はクリアランスソナーのデータも考慮します。

クリアランスソナーの章の注意事項を参照してください。

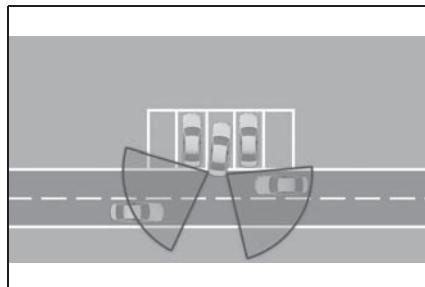
コントロール ディスプレイに表示される物体は、場合によっては、見た目よりも近くにあります。物体との距離をディスプレイで判断しないでください。

リヤクロストラフィックアラート

原理

見通しの悪い所から出る場合や並列駐車スペースから出る場合、横方向から接近してくる道路利用者があれば、運転席から確認できるようになる前に、システムがいち早くこれを検知します。

一般事項



リアバンパー内にある 2 個のレーダー センサーが車両後方の空間をモニターします。

他の道路利用者が接近してくる場合、システムがこれを表示します。

安全に関する注意事項

警告

システムが作動していても、視界や交通状況を正しく判断するという運転者自身の責任からは免れられません。事故の危険があります。運転の仕方を道路状況に合わせてください。交通状況に注意し、状況によっては積極的に介入してください。

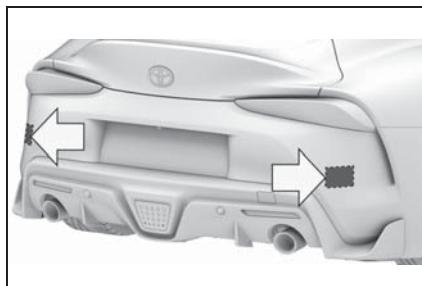
概要

車両のボタン



パーキング アシスタント ボタン

レーダー センサー



レーダー センサーはリアバンパーに取り付けられています。

レーダー センサー領域のバンパー

は清潔に保ち、遮るものがないようにしてください。

オン / オフにする

システムを作動させる / 作動解除する

- 1  パーキング アシスタント ボタンを押します。
 - 2 コントローラーを右に傾けます。
 - 3  「設定」
 - 4 「クロストラフィックアラート」
 - 5 「クロストラフィックアラート」
- または Toyota Supra Command から：
- 1 「車両情報 / 設定」
 - 2 「車両設定」
 - 3 「パーキング」
 - 4 「クロストラフィックアラート」
 - 5 「クロストラフィックアラート」

自動的にセンサーをオンにする

システムがコントロール ディスプレイでオンにされた場合、クリアランスソナーまたはパノラマビューがオンにされ、いずれかのギアにシフトされると、システムが自動的にオンになります。

リバース ギアに入れると、リアのシステムがオンになります。

自動スイッチ オフ

システムは以下の状況で、自動的にオフになります：

- 徐行速度を上回った場合
- 特定の走行距離を超えた場合
- パーキング アシスタントの駐車動作が作動した場合

警告

一般事項

コントロール ディスプレイに該当する表示が呼び出され、必要に応じて警告音を発し、ドアミラーのランプが点滅します。

ドアミラーのランプ



リア センサーによって車両が検知され、自車が後進すると、ドアミラーのランプが点滅します。

クリアランスソナーの画面での表示



センサーによって車両が検知されると、クリアランスソナーの画面の縁の部分が赤く点滅します。

音による警告

自車が該当する方向に動くと、視覚的な表示に加えて警告音が鳴ります。

システムの限界

以下のような状況では、機能が制限されている可能性があります：

- 接近する車両の速度が著しく速い場合
- 濃い霧、激しい雨や降雪のとき
- 急カーブ
- バンパーが汚れている、氷結している、またはステッカーなどで覆われている場合
- ガレージ壁、生け垣、雪溜めなどでセンサーの検知範囲が隠れている場合
- 突き出ている荷物
- 横方向に動く物体が非常に遅く移動する場合
- センサーの検知領域に、横方向交通を覆い隠す他の物体がある場合

走行快適性

車両装備

この章では、モデルシリーズに提供される全ての標準装備、国別装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備や国別仕様などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、各国の有効な法律と規定に従ってください。

アダプティブバリアブルサスペンション

原理

アダプティブバリアブルサスペンションは制御式のスポーツサスペンションです。システムは、ダイナミックなドライビングスタイルや、または平坦でない路面の場合に、望ましくない車両の動きを減少させます。

路面状態やドライビングスタイル次第で、走行ダイナミクスと走行快適性が高められます。

一般事項

このシステムはさまざまなダンパー調整を提供します。

ダンパー調整はスポーツモードスイッチ(124ページ参照)のさま

さまざまな走行モードに割り当てられています。

走行モード	ダンパー調整
NORMAL	バランス重視
SPORT	ハード

快適な温度調節

車両装備

この章では、モデルシリーズに提供される全ての標準装備、国別装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備や国別仕様などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、各国の有効な法律と規定に従ってください。

車内の空気

車内の空気は以下の構成要素により改善されます：

- 車内への排気ガス侵入防止
- マイクロ フィルター
- エアコンシステムの温度調整、風量、内気循環機能
- 自動内気循環コントロール AUC
- パーキング ベンチレーション

安全に関する注意事項

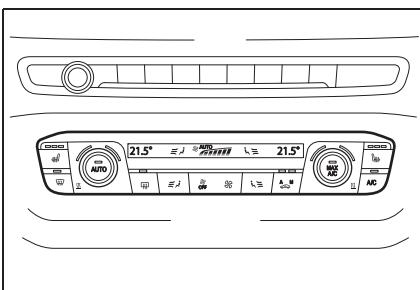
⚠ 警告

エアコンやシートヒーター等を長時間使用したり、エアコンの送風口に身体を近づけすぎると、やけどや、しもやけなどを起こすことがあります。使用中に異常を感じたときは、使用を中止するか設定を変更してください。

オートエアコン

概要

車両のボタン



エアコン機能

ボタン	機能
	温度 (214 ページ参照)
	エアコン モード (213 ページ参照)
	最大冷房 (214 ページ参照)
	AUTO プログラム (215 ページ参照)
	内気循環機能 (215 ページ参照)

ボタン	機能
	オフにする (213 ページ参照)
	送風口の手動調節 (216 ページ参照)
	フロント ウィンドウの結露と曇りを取り除く (216 ページ参照)
	リア デフォッガー (217 ページ参照)
	シートヒーター (99 ページ参照)
	風量の手動調節 (216 ページ参照)。

オン / オフにする

オンにする

希望のボタンを押します。ただし以下を除きます：

- オフ
- リア デフォッガー
- シートヒーター

オフにする

運転席および助手席側：



ボタンを長押しします。

温度

原理

オートエアコンは、必要に応じて最大の冷房または暖房能力を使い、設定された温度にできるだけ早く調節し、これを一定に保ちます。

調節



温度を上げるときは右へまわし、下げるときは左へまわします。

- Toyota Supra Command から :
- 1 「車両情報 / 設定」
 - 2 「車両設定」
 - 3 「エアコン」
 - 4 「上半身の温度調整」
 - 5 希望の温度に設定します。

温度設定は、短時間に何度も変更しないでください。オートエアコンが、設定された温度に制御するための十分な時間を取ることができなくなります。

エアコンディショナー

原理

車内の空気が冷却および除湿されて、設定温度に応じて再度温めら

れます。

車内の冷房は、走行スタンバイがオンになっている場合にのみ可能です。

オン / オフにする



ボタンを押します。

エアコンディショナーはエンジン作動時にオンになっています。

空気を乾燥させ、ウィンドウの曇りを防ぐために、内気循環機能ではエアコンディショナーも自動的にオンになります。

走行スタンバイをオンにした後、天候によってはフロント ウィンドウおよびサイド ウィンドウが一時的に曇る場合があります。

AUTO プログラムを使用すると、エアコンディショナーも自動的にオンになります。

エアコンディショナーの中に凝縮した水が生じ、車両の下に出てきます。

最大冷房

原理

走行スタンバイがオンになっている場合、システムは最低温度、最適な風量および内気循環機能に設定されます。

一般事項

この機能は、外気温度が約 0 ℃以

上で走行スタンバイがオンになっている場合に使用できます。

オン / オフにする



ボタンを押します。

システムがオンになっている場合、LED が点灯します。

胸元用送風口から送風されます。そのため吹出口を開いておきます。作動しているプログラムの風量は、調整することができます。

AUTO プログラム

原理

AUTO プログラムは車内を自動的に冷房、換気または暖房します。

その際は車内温度と設定された希望温度に応じて、風量、送風口、温度が自動制御されます。

オン / オフにする



ボタンを押します。

AUTO プログラムがオンになっている場合、LED が点灯します。

選択された温度、車外の状況などに応じて、エアがフロント ウィンドウ、サイド ウィンドウ、胸元方向、または足元に送風されます。

AUTO プログラムでは、自動的に

エアコンディショナー（214 ページ参照）もオンになります。

手動の送風口調節が設定されると、AUTO プログラムは自動的にオフになります。

内気循環モード

原理

外気に臭いや有害物質が含まれている場合、外気導入を一時的に遮断することができます。この場合、車内の空気が循環されます。

操作方法



ボタンを何度か押して、作動モードを呼び出します。

内気循環機能をオンにすると、LED が点灯します。

左の LED が点灯しているとき：自動内気循環モード

センサーが外気中の汚染物質を感じし、自動で侵入を遮断します。

右の LED が点灯しているとき：内気循環モード

外気の侵入を常に遮断します。

ウィンドウの曇りを防ぐために、エアコンディショナーも自動的にオンになります。

内気循環機能を長時間使用すると、車内の空気が次第に悪くなり、ウィンドウの曇りが増加します。

ウィンドウが曇る場合、内気循環機能をオフにするか、曇りを取り除いてください（216 ページ参照）

)。

風量を手動で調節する

原理

エアコンディショニング用の風量を手動で調整することができます。

一般事項

風量を手動で調節するために、先に AUTO プログラムをオフにします。

操作方法



ボタンの左側または右側を押す：風量が弱くなるか、または強くなります。

選択した風量がエアコンディスプレイに表示されます。

バッテリーの消耗を抑えるため、風量が減少する場合があります。

エア配分を手動で調節する

原理

エアコンディショニング用の送风口調節を手動で調整することができます。

操作方法



ボタンを何度か押して、以下のいずれかのプログラムを選択します：

- ウィンドウガラス、胸元と足元。

- 胸元と足元。

- 足元。

- ウィンドウガラスと足元。

- ウィンドウガラス。

- ウィンドウガラスと胸元。

- 胸元。

選択した送风口がエアコンディスプレイに表示されます。

ウィンドウが曇っている場合に曇りを取り除く(216ページ参照)。

フロント ウィンドウの結露および曇りを取り除く

原理

フロント ウィンドウや前席のサイド ウィンドウから、氷と曇りが素早く除去されます。

オン / オフにする



ボタンを押します。

システムがオンになっている場合、LEDが点灯します。

システムがオンになっている場合、風量を手動で調整することができます。



ウィンドウが曇る場合は、運転席側のボタンを押すか、エアコンをオンにします。エアがフロント ウィンドウに当たることを確認してください。

リア デフォッガー



ボタンを押します。LED が点灯します。

機能は、エンジン作動時に使用可能です。

リア デフォッガーは、一定時間経過後に自動的にオフになります。

マイクロ フィルター

マイクロ フィルターは、車内に取り入れる外気のちりや花粉を除去します。

このフィルターは、車両のメンテナンス(270 ページ参照)の際に交換してください。

送風口

原理

送風方向を個別に調整することができます。

送風の調節

一般事項

送風方向を直接送風または間接的 な送風に調整することができます。

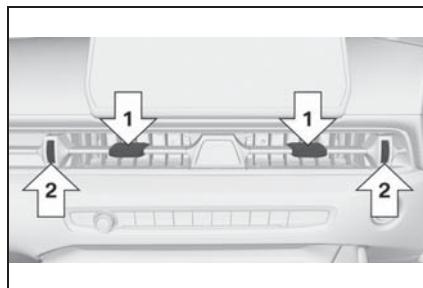
直接送風

直接乗員に向かって風が送られます。設定された温度に応じて、送られてくる風が暖かく、または冷たく感じられます。

間接的な送風

直接乗員に風が当たらないように送風の向きを調整してください。設定された温度に応じて、車内が間接的に暖房されるか、冷房されます。

フロント用送風口



- 送風の向きを調節するレバー(矢印 1)。
- 送風口を無段階に開閉するダイヤル(矢印 2)。

パーキング ベンチレーション

原理

パーキング ベンチレーションにより、走行開始前に車内の温度を調整することができます。設定された温度と周囲温度に応じて、車内が換気されるか、またはエンジン余熱がある場合は余熱暖房によって暖められます。

一般事項

システムは直接オン / オフにするか、または、あらかじめ設定した出発時刻に合わせてオン / オフに

することができます。

スイッチ オン時刻は外気温度に基づいて計算されます。システムは、あらかじめ設定された出発時刻前の適切な頃合いにオンになります。

機能の前提条件

- 車両が停止状態であるか、作動スタンバイ状態であり、走行スタンバイ状態ではない。
- バッテリーが十分に充電されている。

パーキング ベンチレーションがオンのときには、車両バッテリーが放電されます。そのため、車両バッテリーを節約するために最大オン時間が制限されています。エンジン スタート後または短距離の走行後、システムは再び使用できるようになります。

- 車両の日付と時刻が正しく設定されていることを確認してください。
- 換気できるようにエアコンの送風口を開けておきます。

直接オン / オフにする

一般事項

システムは、さまざまな方法で直接オン / オフにすることができます。

システムは、一定時間経過後に自動的にオフになります。システムはオフにされた後、さらに少しの間作動し続けます。

ボタンによる

車両が作動スタンバイ状態のとき、パーキングベンチレーションをオートエアコンのボタンでオン / オフにすることができます。

■ オンにする

希望のボタンを押します。ただし以下を除きます：

- リア デフォッガー
- シート ヒーター
- メニュー

■ オフにする

車両をロックして車両から離れるとき、システムはオフになります。

Toyota Supra Command からの操作

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「車両設定」
- 3 「エアコン」
- 4 「パーキングベンチレーション」
- 5 「即起動」

表示

シンボル	説明
※	システムがオンになると、オートエアコンのシンボルがこれを知らせます。 オートエアコンに REST が表示されます。エンジンの余熱が利用されます。

出発時刻

原理

すでに走行開始時に車内の温度を快適にしておくために、異なる出発時刻を設定することができます。

- 1回の出発時刻：時刻を設定できます。

システムが1回オンになります。

- 曜日と出発時刻：時刻と曜日を設定できます。

システムは、希望の曜日のあらかじめ設定された出発時刻前の適切な頃合いにオンになります。

出発時刻の事前設定は2ステップで行います：

- 出発時刻を設定します。
- 出発時刻を有効にします。

出発時刻の設定／スタンバイと予定された出発時刻の間は、エアコンディショニングのための十分な時間を確保するため、10分以上あける必要があります。

出発時刻を設定する

Toyota Supra Commandからの操作

- 1 「車両情報／設定」
- 2 「車両設定」
- 3 「エアコン」
- 4 「パーキングベンチレーション」
- 5 希望の出発時刻を選択します。
- 6 出発時刻を設定します。
- 7 必要に応じて曜日を選択します。

出発時刻を有効にする

作動条件

出発時刻がパーキングベンチレーションのオンに作用するようにしたい場合は、該当する出発時刻を事前に有効にしてください。

Toyota Supra Commandからの操作

- 1 「車両情報／設定」
- 2 「車両設定」
- 3 「エアコン」
- 4 「パーキングベンチレーション」
- 5 「一回限りの出発時刻」または「出発時刻」
- 6 希望の出発時刻を有効にします。

表示

エアコンディスプレイのシンボルにより、出発時刻が有効になったことが通知されます。

インテリア

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、国別装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備や国別仕様などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、各国の有効な法律と規定に従ってください。

サンバイザー

日よけ

サンバイザーを下方または上方に開きます。

バニティミラー

バニティミラーはサンバイザーのカバーの裏側にあります。カバーを開くと、ミラー照明がオンになります。

ソケット

原理

ソケットは、作動スタンバイまたは走行スタンバイがオンになっているときに、電気装置用の電源として使用することができます。

一般事項

電源ソケットの全負荷が 12V で 140W を超えないようにしてください。

規格に合わないプラグを電源ソケットに差し込んで損傷させないようにしてください。

安全に関する注意事項

⚠️ 警告

エアバッグの膨張範囲の装置とケーブル、例えばポータブル ナビゲーション機器などが、エアバッグの膨張を妨げたり、膨張時に車内に飛び出るおそれがあります。けがをする危険があります。機器やケーブルがエアバッグの膨張範囲にないことを確認してください。

⚠️ 注意

車両バッテリー用のバッテリー充電装置は高い電圧と大きな電流で作動することができる所以、12V バッテリー回路が過負荷になったり、損傷するおそれがあります。車両バッテリー用のバッテリー充電装置は、必ずエンジンルーム内のジャンプ スタートケーブル接続部に接続してください。

⚠️ 注意

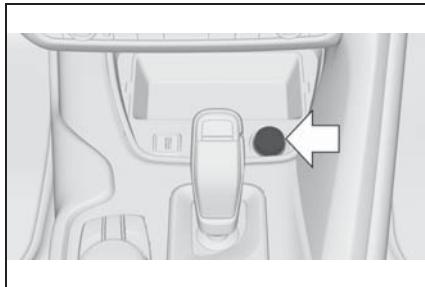
金属製の物体をソケット内に落とすと、ショートを引き起こすおそれや、損傷が発生するおそれがあります。ソケットを使用した後は、ソケット カバーを再び挿入してください。

⚠ 注意

電源プラグを接続した機器（携帯電話など）によりバッテリーが放電するおそれや、車両損傷の危険があります。車両を離れるときは、使用中の電子機器（携帯電話など）の電源プラグを抜いてください。

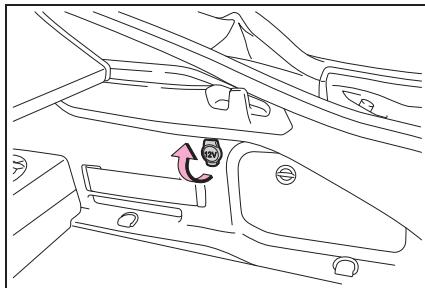
センター トレイ

カバーを引いて外します。



ラゲッジルーム

カバーを開けます。

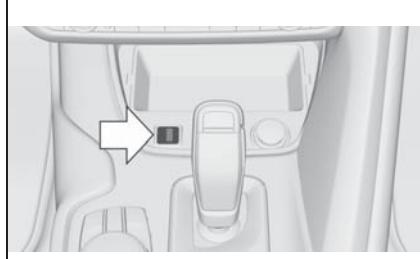


USB インターフェース

一般事項

USB 接続（64 ページ参照）のセクションの USB インターフェースへのモバイル機器の接続に関する注意事項を確認してください。

センター トレイ



USB インターフェースはセンター トレイにあります。

特徴：

- USB コネクター タイプ A
- 外部デバイスの充電用
- 充電電流：最大 1.5A
- データ転送用

小物入れ

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、国別装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備や国別仕様などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、各国の有効な法律と規定に従ってください。

収納場所

一般事項

次の収納場所が車内にあります：

- グローブ ボックス (222 ページ参照)
- ドア ポケット (223 ページ参照)
- 助手席足元スペースのネット

安全に関する注意事項

警告

車内で固定されていない物または車両とケーブルで接続されている携帯電話などの機器は、走行中、事故が起こったとき、あるいはブレーキ操作や障害物を回避するステアリング操作を行ったときなどに車内に投げ出されるおそれや、けがをする危険があります。車内で固定されていない物または車両とケーブルで接続されている機器は確実に固定してください。

注意

滑り止めマットなどの滑り止め付きの敷物はダッシュボードを傷つけるおそれや、損傷が発生するおそれがあります。滑り止め付きの敷物は使用しないでください。

グローブ ボックス

安全に関する注意事項

警告

グローブ ボックスは、開いた状態のとき車内に突き出ます。グローブ ボックス内で固定されていない物は、走行中、事故が起こったとき、あるいはブレーキ操作や障害物を回避するステアリング操作を行ったときなどに車内に投げ出されるおそれや、けがをする危険があります。グローブ ボックスを使用した後は、すぐに閉じてください。

開ける

ハンドルを引きます。

グローブ ボックス内の照明が点灯します。

閉める

カバーを閉じます。

ロック

グローブ ボックスは内蔵キーでロックできます。そうすることで、グローブ ボックスを開けることはできなくなります。

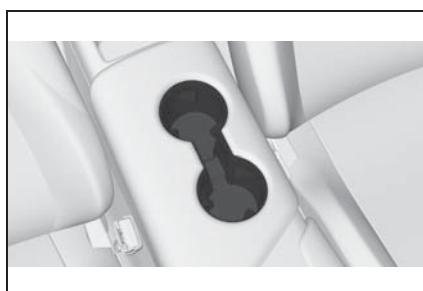
車両の駐車をパーキング サービスに依頼する場合などに、グローブ ボックスのロック後、内蔵キーなしで電子キーを手渡すことができます。

ドア ポケット**一般事項**

ドアには収納ボックスがあります。

安全に関する注意事項**警告**

ガラス瓶やグラスなどの割れやすい物は、例えば事故が起きたとき、ブレーキをかけたとき、または障害物を回避するステアリング操作を行ったときなどに破損するおそれや、破片が車内に飛び散るおそれがあります。けがを負ったり、損傷が発生するおそれがあります。走行中には割れやすい物を使用しないでください。割れやすい物は、必ず閉められる収納ボックスに入れてください。

ドリンク ホルダー

安全に関する注意事項

⚠ 警告

ドリンク ホルダーに不適切な容器があると、ドリンク ホルダーが損傷したり、事故が起こったとき、あるいはブレーキ操作や障害物を回避するステアリング操作を行ったときなどに車内で容器や液体が飛び出しがあります。液体が溢れると交通状況から注意がそれ、事故を起こすおそれや、熱い飲み物でドリンク ホルダーが損傷したり、火傷をするおそれがあります。けがを負ったり、損傷が発生するおそれがあります。ドリンク ホルダーに物を無理に押し込まないでください。軽くて破損しにくい、ふた付きの容器を使用してください。熱い飲み物は置かないようにしてください。

ラゲッジ ルーム

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、国別装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備や国別仕様などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、各国の有効な法律と規定に従ってください。

積載荷重

安全に関する注意事項

安全な走行を心がけ、交通法規を遵守してください。

⚠ 警告

総重量が重くなるとタイヤが過熱し、内部が損傷してタイヤ空気圧の損失を招くおそれがあります。方向安定性が低下したり、制動距離が長くなったり、ステアリング特性が変化したりして、走行特性に悪影響を及ぼす可能性があります。事故の危険があります。タイヤの許容耐荷重に注意し、許容車両重量を超過しないでください。

⚠ 警告

車内で固定されていない物または車両とケーブルで接続されている携帯電話などの機器は、走行中、事故が起こったとき、あるいはブレーキ操作や障害物を回避するステアリング操作を行ったときなどに車内に投げ出されるおそれや、けがをする危険があります。車内で固定されていない物または車両とケーブルで接続されている機器は確実に固定してください。

⚠ 警告

不適切に積まれた物は、事故が起こったとき、あるいはブレーキ操作や障害物を回避するステアリング操作を行ったときなどに車内に滑り込んだり、飛び出ることにより同乗者にぶつかったり、けがをするおそれがあります。けがをする危険があります。物や荷物は正しく積んで、固定してください。

⚠ 注意

ラゲッジ ルームの液体漏れは損傷が発生するおそれがあります。ラゲッジ ルームに液体が漏れ出ないように注意してください。

荷物を積んで固定する

- 荷物の先の鋭い部分や角のとがった部分は、カバーで覆います。
- 重量物：できるだけ前方、ラゲッジ ルームパーティション真後ろの下部に積み込みます。
- 小さい荷物や軽い荷物：固定バンド、ラゲッジ ルーム ネットまたはストラップで固定します。

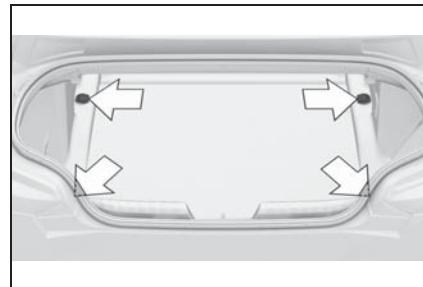
- 大きい荷物や重い荷物：固定用ツールで固定します。

ラゲッジ ルーム内の固定用フック

一般事項

荷物の固定には、固定ツール、固定バンド、ストラップまたはラゲッジ ルーム ネットなどの補助具をラゲッジ ルームのフックに固定します。

フック



ラゲッジ ルームには、荷物を固定するためのフックが 4 個あります。

バッグ用フック

一般事項

ラゲッジ ルームの左側と右側にバッグ用フックがあります。

安全に関する注意事項

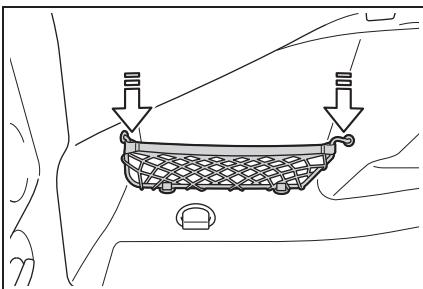
警告

バッグ用フックが正しく使用されていない場合、ブレーキ操作や障害物を回避する操作などを行った際に、物が飛んできて危険な状態となることがあります。けがを負ったり、損傷が発生するおそれがあります。バッグ用フックには買い物袋などの軽い物のみを掛けしてください。重い荷物は必ずラゲッジルームに適切に固定して運んでください。

固定バンド

右側のサイド トリム パネルには小物を固定するための固定バンドがあります。

ネット



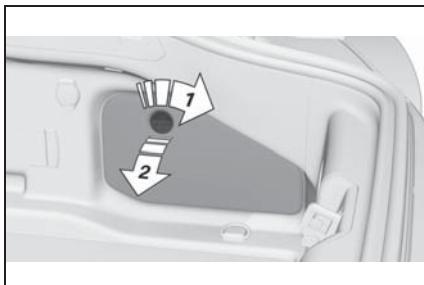
小物は左側のネットに収納できます。比較的大きな物を運ぶ場合は、ネットを下方に移動します。そのために、ネットの端をできる限りの側、ホルダー脇でつかみます。抵抗に逆らって動かすとスタートします。

右サイド収納ボックス

一般事項

ラゲッジ ルームの右側には収納ボックスが 1 つあります。

開ける



右サイド トリム パネルのカバーをロック解除し（矢印 1）、開けます（矢印 2）。

ドライブのヒント

5

5-1. ドライブのヒント

ドライブ時に覚えておきたいこと 228

燃料の節約 233

5

ドライブのヒント

ドライブ時に覚えておきたいこと

車両装備

この章では、モデルシリーズに提供される全ての標準装備、国別装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備や国別仕様などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、各国の有効な法律と規定に従ってください。

慣らし運転

一般事項

可動部品は互いになじませる必要があります。

以下の注意事項は、車両の最適な耐用年数と経済性を得るために役立ちます。

慣らし運転中はローンチコントロール(123ページ参照)を使用しないでください。

安全に関する注意事項

警告

新しい部品および構成部品によりセーフティシステムおよびドライバー アシストシステムが遅れて反応する場合があります。事故の危険があります。新しい部品を取り付けた後または新車の場合は、控えめに走行し、必要に応じて早期に介入してください。部品および構成部品の慣らし運転の注意事項を確認してください。

エンジン、トランスミッションとファイナルドライブ

2000km 以下

最高エンジン回転数を超えないようにしてください：

4500rpm。

アクセルペダルをいっぱいまで踏み込んだり、キックダウンを行ったりすることは控えてください。

2000km 以降

エンジン回転数と速度を徐々に上げてください。

タイヤ

新しいタイヤのグリップ力は、製造上の理由から、まだ最適な状態にはなっていません。

最初の300kmは控えめに走行してください。

ブレーキ システム

ブレーキ ディスクとブレーキ パッドは、約 500km 走行後に最高の性能を発揮できるようになります。この慣らし運転の間は、控えめに走行してください。

部品交換後

前述の部品を交換した場合、改めて慣らし運転を行ってください。

一般的な運転ガイド

ドアを閉める

⚠ 警告

ドアを開いたまま走行すると、乗員が車両から投げ出されるおそれがあります。また、不用意にドアを開くと、他の通行車などとぶつかる危険などの事故が発生するおそれがあります。ドアは必ず完全に閉じてください。ドアを開くときは、周囲の安全に注意してください。

トランク リッドを閉める

安全に関する注意事項

⚠ 警告

開いたトランク リッドは車両の上に突き出た状態となり、事故の際やブレーキを踏んだとき、急なハンドル操作を行ったときに、乗員や他の道路利用者に危険が及んだり、車両が損傷するおそれがあります。さらに、排気ガスが車内に入り込む可能性があります。けがを負ったり、損傷が発生するおそれがあります。トランクリッドを開けた状態で走行しないでください。

高温になる排気装置

⚠ 警告

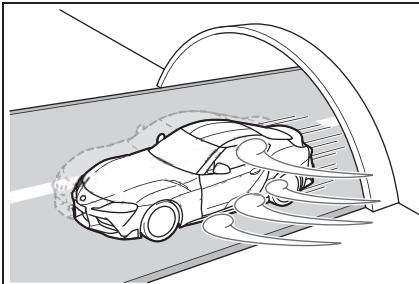
走行中に排気装置などによってボディ下が高温になることがあります。落葉、芝などの燃えやすいものが排気装置の熱くなった部分に触れると、燃え出すおそれや、けがを負ったり、損傷が発生するおそれがあります。排気装置に取り付けられた遮熱板を取り外したり、アンダーコーティングを施したりしないでください。走行中、アイドリング中、また駐車時に、燃えやすいものが熱くなった車両部分に触れないように注意してください。高温になった排気装置に触れないでください。

車内の通信機器

警告

電気系統と携帯通信機器は互いに影響する可能性があります。携帯通信機器の送信動作によって電磁波が発生します。けがをしたり、車両が損傷するおそれがあります。携帯電話などの携帯通信機器を車内で使用するときは、できる限り外部アンテナに直接接続して使用し、互いに妨害せず、車内に電磁波が発生しないようにしてください。

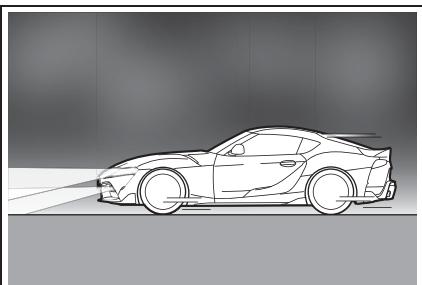
風が強いとき



風を受けて車が横に流されるようなときは、速度を下げてステアリング ホイールを、いつもよりしっかりと握って運転してください。

天気が悪いときの走行

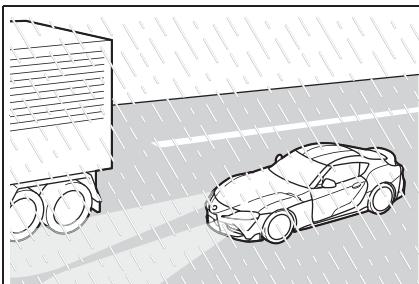
霧で見えにくいとき



霧で視界が悪いときは、昼間でもヘッドライトを下向きで点灯し、周囲の車などに自分の存在を知らせてください。センター ラインやガード レール、前車のテール ライトなどを目安に走行し、速度を下げるごとに運転してください。

トンネルの出口や切り通し、橋や堤防の上を走行するときや、大型車を追い越したり、追い越されたりするときは、特に横風の影響を受けやすくなります。

雨が降っているとき



● 雨天時や路面が濡れているときは、路面が滑りやすく、視界も悪くなりがちです。状況に応じ、ヘッドライトを下向きで点灯すると、周囲の車に自分の存在を知らせる有効な手段です。いつもより車間距離を長めに確保し、安全に支障がない限り急加速や急ブレーキ、急なステアリング

操作を控え、速度を下げる運転してください。

- ウィンドウ デフロスター や エアコン を 使用し、 ウィンドウ ガラス の 曇り を 預防 して ください。
- わだちや深い水たまりでは、ハイドロプレーニング 現象が起こりやすくなります。

ハイドロプレーニング

濡れた路面やぬかるみを走行すると、タイヤと道路の間に水の膜が発生することがあります。

この現象は、ハイドロプレーニングといい、路面に対するタイヤのグリップ力が完全に失われ、車両のコントロールや正常なブレーキ制動力が得られなくなり、場合によっては全く利かなくなります。

水中を通過する

一般事項

水たまりのある路面を走行するときは以下に注意してください：

- 流れのない水たまりのみを通過してください。
- 最高水位が 25cm 以下の水たまりのみを通過してください。
- 水たまりは、5km/h 以下の徐行速度で通過してください。

安全に関する注意事項

注意

かなり水位のある水たまりを高速で通過する場合、水がエンジン ルーム、電装品、トランスミッションに浸入するおそれがあり、損傷が発生するおそれがあります。水たまりのある路面を走行するときは、規定の最高水位と水たまりを通過する際の最高速度を超えないようにしてください。

安全にブレーキをかける

一般事項

車両にはアンチロック ブレーキ システム ABS が標準装備されています。

必要な状況ではフル ブレーキを行ってください。

その後も車両は、操縦可能な状態を維持します。落ち着いてステアリング操作することにより、障害物を回避し易くなります。

ペダルが振動し、油圧の制御音が聞こえたら、アンチロック ブレーキ システム ABS が作動しています。

特定のブレーキ状況下では、穴あきブレーキディスクがノイズの原因になることがあります。ただし、機能上の異音によりブレーキの性能や作動安全性が損なわれることはありません。

ペダルの動作範囲に物を置かない

⚠ 警告

運転席足元スペースに物があると、ペダルストロークが制限されたり、ペダルを床まで踏み込むことが阻止されたりするおそれや、事故の危険があります。車内では物を固定して、運転席足元スペースに入り込まないように収納してください。ご使用の車両に適切な、フロアに確実に固定することのできるフロアマットを使用してください。ずれやすいフロアマットを使用しないでください、フロアマットを複数重ねないでください。ペダル用のスペースが十分空いていることを確認してください。フロアマットは、清掃などで取り外した後、再び確実に取り付けるよう注意してください。

濡れた路面

濡れた路面、または融雪塩の撒かれた路面や強い雨の中を走行するときは、数キロメートル毎に、短時間軽くブレーキを踏みます。

その際、他の車の妨げにならないよう注意してください。

ブレーキをかけたときに発生する熱により、ブレーキディスクとブレーキパッドが乾かされて、腐食から保護されます。

必要なときに必要なブレーキ制動力を得ることができます。

下り坂

一般事項

長い、または険しい急勾配の道は、ブレーキをかける必要が最も少な

いギアで運転してください。そうしないと、ブレーキシステムが異常過熱し、ブレーキの制動力が低下するおそれがあります。

必要に応じて1速まで手動でシフトダウンすることによって、エンジンのブレーキ作用をさらに強めることができます。

■ 安全に関する注意事項

⚠ 警告

たとえわずかな踏力であってもブレーキペダルに踏力を加え続けると、ブレーキ系統が過熱して、ブレーキパッドの摩耗またはブレーキシステムの故障を引き起こす場合があります。事故の危険があります。ブレーキの過剰な負荷を回避してください。

⚠ 警告

アイドリング状態やエンジンオフ時には、安全関連の機能が制限されたり、エンジンブレーキまたはブレーキブースターやパワーステアリングなどが使用できません。事故の危険があります。アイドリング状態やエンジンをオフにした状態で走行しないでください。

ブレーキディスクの腐食

ブレーキディスクの腐食とブレーキパッドの汚れは、以下の状況で起こりやすくなります：

- 使用程度が低い場合
- 停車期間が長い場合
- 負荷が小さい場合
- 刺激性、酸性またはアルカリ性のクリーニング剤

ブレーキディスクが腐食している

と、ブレーキを踏む際に振動がおこることがあり、それは修理では改善できない場合があります。

停車した車両下の凝縮水

エアコンの中に凝縮した水が生じ、車両の下に出てきます。

レースコースの走行

レースコース走行における機械的および熱的な大きな負荷により摩耗が早まります。したがってこの場合の摩耗は保証の対象とはなりません。車両はモータースポーツのレース用として設計されています。

レースコースでの走行の前後に、車両の点検をトヨタ販売店に依頼してください。

燃料の節約

車両装備

この章では、モデルシリーズに提供される全ての標準装備、国別装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備や国別仕様などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、各国の有効な法律と規定に従ってください。

燃料消費量の低減

一般事項

車両には、燃費向上および排ガス値低減のために総合的な技術が導入されています。

燃費は、さまざまな要因により変わります。

適切な運転の仕方などのいくつかの処置や定期的なメンテナンスによって、燃費を改善し、環境への負荷を軽減させることができます。

不要な積載物を降ろす

積載物の重量が増えると、燃費も悪化します。

使用後は取付けパーツを取り外す

車両に取り付けたパーツは、エアロダイナミクスに影響を及ぼし、燃費を悪化させます。

ウィンドウを閉める

ウィンドウを開けていると、空気抵抗が増加し、燃費を悪化させます。

タイヤ

一般事項

タイヤは燃費にさまざまな影響を及ぼすことがあります。例えばタイヤサイズにより燃費が変わることがあります。

タイヤ空気圧を定期的に点検する

タイヤ空気圧は少なくとも月2回、また長距離の運転を始める前に点検し、必要に応じて調整してください。

タイヤ空気圧が低すぎると、走行中のころがり抵抗が増加してエネルギー消費量を悪化させ、さらにタイヤの摩耗も増えます。

すぐに発進する

停車したままエンジンの暖機運転を行わず、極端にエンジン回転数を上げないようにしながら、発進してください。

これにより、冷間時のエンジンを

最も効率よく作動温度にすることができます。

先を見越して運転する

先読みする運転スタイルを心がけ、安定した走行を維持することで燃費が向上します。

不必要的加速やブレーキングを行わないでください。

そのためには、前を走る車と自車との間に適切な車間距離を保ってください。

高い回転数を避ける

低いエンジン回転数で走行すると、燃費が向上し、摩耗も少なくなります。

必要に応じて車両のシフトポジションインジケーターを確認します(134ページ参照)。

惰性走行を利用する

赤信号に接近する際は、アクセルペダルを戻して、車両の惰性を利用してください。

急勾配の下り坂ではアクセルペダルを戻し、惰性で走行してください。

惰性走行中は、燃料供給がカットされます。

長い時間停車する際はエンジンをオフにする

エンジンをストップする

信号や踏み切り、または渋滞など、長い時間停車する際は、エンジンをオフにしてください。

点検整備を実施する

車両の経済性を適切に維持し、車両の寿命を最大限に確保するため、定期的に車両のメンテナンスを実施してください。点検整備は、トヨタ販売店にご依頼ください。

アイドリングストップ

車両のアイドリングストップは停車中、エンジンを自動的に停止します。

エンジンを停止し、再びスタートすると、常にエンジンをかけ続ける場合よりも燃料が節約され、排気ガスが低減されます。エンジンをわずか数秒停止させるだけでも節約効果が表れます。

燃費は上述以外にも、運転の仕方、道路の状態、点検整備あるいは環境などの要因によっても変動します。

現在必要でない機能のスイッチをオフにする

シートヒーター やリア デフォッガーなどの機能は多くのエネルギーを必要とし、燃料消費量を増加させます。市街地走行や何度も停止を繰り返す渋滞運転の場合は特にそうです。

必要な場合以外では、これらの機能のスイッチを切っておくようにしてください。

メンテナンス

6

6-1. メンテナンス

給油.....	238
ホイールとタイヤ	240
エンジンルーム	261
燃料・油脂類	263
メンテナンス	270
部品の交換	272
いざというときに	281
お手入れ	290

給油

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、国別装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備や国別仕様などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、各国の有効な法律と規定に従ってください。

給油について

一般事項

給油前に、燃料の種類についての注意事項(263 ページ参照)を確認してください。

ノズルが給油を最初にストップしたとき、燃料タンクは満タンになっています。

給油の途中で給油ノズルを持ち上げないでください。そうしないと、給油が中断されてしまうことがあります。

ガソリンスタンドに掲示されている安全規定を遵守してください。

安全に関する注意事項

警告

ガソリンは危険物です。強燃性で、場合によっては爆発します。火災ややけどの危険があります。次の注意事項を守ってください。

- 給油時はエンジンをストップしてください。
- ガソリンを扱っているときや周囲でガソリンの匂いがするときは、絶対に火気を近づけないでください。
- ガソリンがこぼれたときは、ふき取ってください。
- セルフ給油式のガソリン スタンドでは、掲示されている給油時の注意に従ってください。
- フューエル キャップを開ける前に車両の金属部分に手を触れ、身体に帯電している静電気を逃がしてください。これにより、放電の火花を防ぎます。
- 給油しない人は給油口には近づかず、給油する人は、給油が終わるまで車内シートに座らないでください。給油の途中でシートに座ると、再び静電気を帯びることがあります。
- 給油中、携帯電話など、電波を発生するものは携行しないでください。気化したガソリンとの間に火花が発生し、爆発、引火する危険があります。
- 給油口からガソリンの蒸気を吸い込まないでください。ガソリンの蒸気は有毒です。

⚠ 警告

- 車両の周囲や車内でガソリンの臭いを感じたときは、直ちにトヨタ販売店で点検を受けてください。放置すると思わぬ火災の原因になるおそれがあります。

⚠ 注意

走行可能距離が 50km 以下 の場合は、エンジンに十分な燃料が供給されなくなるおそれがあります。エンジン機能が保証されなくなります。損傷が発生するおそれがあります。適切な時期に給油してください。

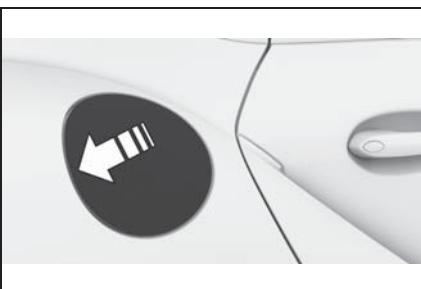
⚠ 注意

燃料は有毒で刺激性があります。燃料タンクから燃料があふれ出ると、燃料システムが損傷するおそれがあります。塗装済みの表面と接触した場合は、表面が損傷するおそれがあります。環境が汚染されます。損傷が発生するおそれがあります。過度な給油を避けてください。

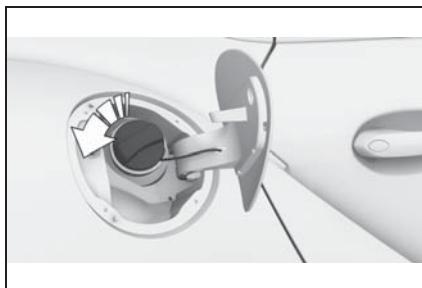
給油口

開ける

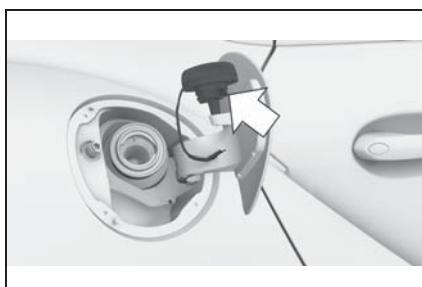
- フューエル リッドの後端を軽く押します。



- フューエル キャップを反時計回りに回します。



- フューエル キャップは、フューエル リッド裏のホルダーに差し込みます。



閉める

⚠ 警告

キャップを回して閉める際にフューエル キャップのストラップが挟まれたり、押しつぶされるおそれがあります。その場合、キャップを正しく閉めることができません。燃料や燃料の蒸気が漏れる可能性があります。けがを負ったり、損傷が発生するおそれがあります。キャップを回して閉める際には、ストラップが挟められたり、押しつぶされたりしないように注意してください。

- キャップを給油口にはめて、時計回りに「カチッ」という音が

はっきり聞こえるまで回します。

2 フューエル リッドを閉じます。

フューエル リッドの手動ロック解除

電気故障時などの特定の状況では、フューエルリッドを手動でロック解除する必要があります。

トヨタ販売店にフューエル リッドのロック解除を依頼してください。

ホイールとタイヤ

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、国別装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備や国別仕様などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、各国の有効な法律と規定に従ってください。

タイヤ空気圧

一般事項

タイヤの状態とタイヤ空気圧は以下に影響を及ぼします：

- ・ タイヤの寿命
- ・ 走行安全性
- ・ 走行快適性
- ・ 燃費

安全に関する注意事項

⚠ 警告

タイヤ空気圧が低くなりすぎた場合や空気が抜けてしまった場合は、タイヤが非常に熱くなつて損傷するおそれがあります。ステアリング動作やブレーキ動作などの走行特性が損なわれます。事故の危険があります。タイヤ空気圧を定期的に点検し、必要に応じて、例えば少なくとも月2回、または長距離ドライブの前などに調整してください。

タイヤ空気圧の記載

ドア ピラー上



タイヤ空気圧規定値は運転席ドアのドア ピラーに記載されています。

タイヤ空気圧規定値は、車両メーカーによって該当車両タイプ用に適切であると認められたタイヤ サイズおよび推奨されたタイヤ銘柄に有効です。

タイヤの速度文字が見つからない場合は、対応するタイヤ サイズのタイヤ空気圧が適用されます。

車両の積載荷重に応じて、それぞれの積載荷重に規定されたタイヤ空気圧が適用されます。例：部分

的な積載荷重の車両の場合、規定のタイヤ空気圧は部分的な積載荷重の車両に対して最適なタイヤ空気圧です。

ホイールとタイヤに関する詳細は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

コントロール ディスプレイ上

装着されているタイヤについて、現在のタイヤ空気圧をコントロール ディスプレイに表示させることができます。

正しい表示のためには、タイヤ サイズがシステムに保存され、装着されているタイヤ用に設定されている(252 ページ参照)必要があります。

現在のタイヤ空気圧の値はそれぞれのタイヤに示されています。

タイヤ空気圧の点検

一般事項

タイヤは走行時に温まります。タイヤ空気圧はタイヤの温度とともに上昇します。

タイヤ空気圧は自然に一定の量が減ります。

空気圧測定装置は、最大で 0.1 bar 低い値を表示することができます。

ドア ピラーのタイヤ空気圧規定値による点検

ドア ピラーのタイヤ空気圧ラベルのタイヤ空気圧規定値は、冷えて

いるときのタイヤまたは周囲温度と同じ温度のタイヤのみに関するものです。

タイヤ空気圧は、必ずタイヤが冷えているときに点検してください、つまり：

- ・ 走行距離が最大 2km を超えていないとき
 - ・ 走行後に最低 2 時間車両を動かしていないとき
- 1** 装着されているタイヤ用の規定タイヤ空気圧を確認します（240 ページ参照）。
 - 2** 空気圧測定装置などを使用して、4 本全てのタイヤでタイヤ空気圧を点検します。
 - 3** 現在のタイヤ空気圧と規定タイヤ空気圧の間に値のずれが生じている場合は、該当するタイヤのタイヤ空気圧を修正してください。
 - 4** タイヤバルブに全てのバルブキャップが取り付けられているかを点検してください。

コントロール ディスプレイのタイヤ空気圧規定値による点検

Toyota Supra Command から：

- 1** 「車両情報 / 設定」
- 2** 「車両ステータス」
- 3** (1)「タイヤ空気圧警報」
- 4** 現在のタイヤ空気圧が規定タイヤ空気圧からずれていないか点検します。
- 5** 現在のタイヤ空気圧と規定タイヤ空気圧の間に値のずれが生じている場合は、該当するタイヤ

のタイヤ空気圧を修正してください。

タイヤ空気圧の調整後

タイヤ空気圧警報 (TPM) の場合：

コントロール ディスプレイでタイヤ空気圧規定値を確認することができないタイヤの場合、タイヤ空気圧警報 (TPM) のリセットを行います。

速度記号

Q = 160km/h 以下

R = 170km/h 以下

S = 180km/h 以下

T = 190km/h 以下

H = 210km/h 以下

V = 240km/h 以下

W = 270km/h 以下

Y = 300km/h 以下

タイヤのトレッド

サマー タイヤ

タイヤ トレッド深さが 3mm 以下にならないようにしてください。この値以下の場合は、ハイドロプレーニングが発生するおそれがあります。

ウィンター タイヤ

タイヤ トレッド深さが 4mm 以下にならないようにしてください。

この値以下になると 冬期適合性が制限されます。

タイヤの使用限界



ウェア インジケーターはタイヤのトレッド面全体に配置されており、最低深さは法規定の 1.6mm です。

ウェア インジケーターは、タイヤ側面部分の TWI、トレッド ウェア インジケーターの略語、と刻印された位置にあります。

タイヤの損傷

一般事項

定期的にタイヤに傷、異物、摩耗がないか点検してください。

タイヤ損傷またはその他の車両故障の兆候：

- ・ 異常な振動
- ・ 異常な回転音または走行音
- ・ 左や右に強く引っ張られるような異常な走行特性

例えば以下の状況によって損傷が生じことがあります：

- ・ 縁石の角を乗り越える
- ・ 道路の損傷
- ・ タイヤ空気圧が低すぎる
- ・ 車両の積載超過

- ・ 不適切なタイヤ保管

安全に関する注意事項警告

警告

損傷したタイヤではタイヤ空気圧が低下し、車両を制御できなくなるおそれや、事故の危険があります。走行中にタイヤ損傷に関する注意が表示された場合は、速やかに減速して停車してください。ホイールとタイヤの点検を依頼してください。そのためにトヨタ販売店まで慎重に走行してください。必要に応じて車両をけん引または搬送してもらってください。損傷したタイヤは修理しないで交換してください。

警告

例えば、縁石の角や道路の損傷など、障害物を高速で乗り越えることによって、タイヤが損傷することがあります。タイヤが大きいほど、タイヤ断面は小さくなります。タイヤ断面が小さいほど、タイヤ損傷の危険は増します。事故の危険や物的損害の危険が生じます。障害物はできるだけ回避するか、または低速で慎重に乗り越えてください。

タイヤの寿命

推奨

タイヤは、タイヤ トレッド深さに関わらず、少なくとも 6 年毎に交換してください。

製造時期

タイヤの製造時期はタイヤ サイドウォールにあります。

記号	製造時期
DOT…38 18	2018年第38週

ホイールとタイヤの交換

取付けとバランス調整

タイヤの取付けとバランス調整は、トヨタ販売店に依頼してください。

ホイールとタイヤの組み合わせ

一般事項

お客様の車両のホイールとタイヤの正しい組み合わせやリム仕様は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

安全に関する注意事項

⚠ 警告

車両に適切でないホイールとタイヤは、例えば規格サイズが同じでも許容誤差があるため、ボディと接触することによって車両の部品を損傷するおそれや、事故の危険があります。車両メーカーは、該当車両タイプに適切であることが確認されているホイールとタイヤを使用することを推奨しています。

⚠ 警告

スチール タイヤを取り付けると、ホイール ボルトが自然にゆるんだり、ブレーキ ディスクが損傷するなど、技術的な問題が発生するおそれや、事故の危険があります。スチールタイヤを取り付けないでください。

⚠ 警告

ホイールとタイヤの組み合わせが正しくないと、車両の走行特性とアンチロック ブレーキ システムやピークルストアビリティコントロールとトラクションコントロールなどの各種システムの機能が影響を受けます。事故の危険があります。走行特性を良好に保つため、必ず、同一メーカーの同じトレッドパターンのものを使用してください。車両メーカーは、該当車両タイプに適切であることが確認されているホイールとタイヤを使用することを推奨しています。タイヤが損傷した場合は、元のホイールとタイヤの組み合わせとなるようなタイヤを取り付けてください。

推奨タイヤ



車両のメーカーは、タイヤ サイズに応じて特定のタイヤ銘柄を推奨しています。タイヤ銘柄は、タイヤのサイド ウォールに星印が付いていることで見分けられます。

新しいタイヤ

新しいタイヤのグリップ力は、製造上の理由から、まだ最適な状態にはなっていません。

最初の 300km は控えめに走行してください。

再生タイヤ

⚠️ 警告

再生タイヤは、タイヤの内部構造が異なることがあります。劣化の進行とともに耐久性が損なわれるおそれや、事故の危険があります。再生タイヤを使用しないでください。

お客様の車両のメーカーは、再生タイヤの使用をお勧めしていません。

ウィンター タイヤ

一般事項

冬期の路面の走行には、ウィンター タイヤの使用をお勧めします。

M+S マークのついたいわゆるオールシーズン タイヤは、サマータイヤよりもより良い冬期用性能特性を有していますが、通常、ウィンター タイヤの性能に達しません。

ウィンター タイヤの速度制限

ウィンター タイヤを取り付けた場合は、タイヤの許容最高速度を必ず守って、制限を超えないでくだ

さい。

ランフラット タイヤの交換

安全のために必ずランフラット タイヤを使用してください。タイヤパンク時のためのスペア タイヤは用意されていません。詳しい情報はトヨタ販売店にお問い合わせください。

⚠️ 警告

損傷したタイヤではタイヤ空気圧が低下し、車両を制御できなくなるおそれや、事故の危険があります。損傷したタイヤは修理しないで交換してください。

アクスル間のホイール交換

フロント アクスルとリア アクスルで寸法の異なるタイヤまたはホイールを装着している車両の場合、フロント ホイールからリア ホイールへの交換やその逆の交換は許可されません。

タイヤを保管する

タイヤ空気圧

タイヤのサイド ウォールに表示されている最大タイヤ空気圧を超過しないようにしてください。

保管

取り外したホイールやタイヤは、乾燥した冷暗所に保管してください。

オイル、グリース、溶剤がタイヤ

に付着しないように注意してください。

タイヤをプラスチック袋に入れたままにしないでください。

ホイールまたはタイヤから汚れを取り除いてください。

ランフラット タイヤについて

原理

ランフラット タイヤでは、タイヤ空気圧が完全に低下した場合でも、制限付きで走行を続けることができます。

一般事項

ランフラット タイヤは、セルフ サポートティング タイヤと、場合によっては追加の特殊リムで構成されています。

サイド ウォールの強化により、タイヤ空気圧が低下した状態でも制限付きでさらに走行を続けることができます。

タイヤ パンク時の走行に関する注意事項を守ってください。

安全に関する注意事項

警告

ランフラット タイヤで空気が抜けている場合またはタイヤ空気圧が非常に低い場合は走行特性が変化し、例えばブレーキ時の方向安定性が低下したり、制動距離が長くなったり、セルフステア特性が変化したりします。事故の危険があります。慎重に走行し、速度が80km/h を超えないようにしてください。

識別表示



タイヤ側面部分に RSC-Runflat System Component と刻印されています。

警告

タイヤが損傷しているとタイヤ空気圧が失われ、車両をコントロールできなくなるおそれや、事故の危険があります。損傷したタイヤは修理せず、新しいタイヤに交換してください。

タイヤのパンクを修理する

安全対策

- ・ 車両をできる限り交通の往来のある場所から遠ざけ、堅い地面

に停車します。

- ・ハザード フラッシャーをオンにします。
- ・パーキング ブレーキをかけて、車両が動き出さないように車輪を固定します。
- ・ホイールを直進位置にして、ステアリングロックをロックさせます。
- ・全ての搭乗者を降車させて、ガードレールの内側などの危険領域の外に移動させます。
- ・必要があれば適切な距離をあけて非常停止表示板を置きます。

タイヤパンク応急修理キット

原理

タイヤパンク応急修理キットにより、比較的小さなタイヤ損傷を短時間シールして、走行を続けることができます。これには液体状のシール剤をタイヤに注入します。シール剤が硬化することにより、損傷が内側からシールされます。

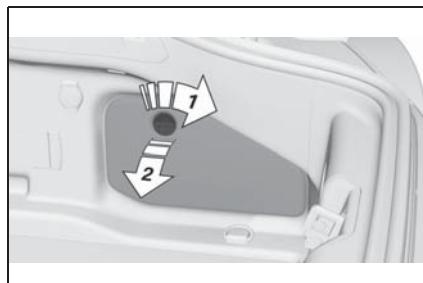
一般事項

- ・コンプレッサーおよびシール剤容器に記載のタイヤパンク応急修理キットの使用に関する注意事項を守ってください。
- ・タイヤパンク応急修理キットの使用は、タイヤの損傷が約4mmを超える場合には効果がない可能性があります。
- ・タイヤを走行可能な状態にできない場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。

- ・入り込んだ異物は、タイヤに入ったままにしてください。タイヤから異物が突出していることが確認できる場合のみ、異物を取り除いてください。
- ・シール剤容器から速度制限に関するラベルを剥がし、ステアリング ホイールに貼り付けてください。
- ・シール剤を使用すると、TPM ホイール エレクトロニクスが損傷することがあります。その場合はエレクトロニクスができるだけ早く交換してください。
- ・コンプレッサーはタイヤ空気圧の点検に使用できます。

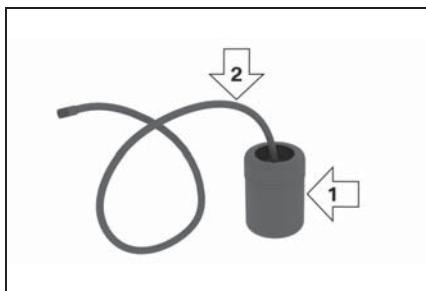
概要

収納



タイヤパンク応急修理キットはラゲッジルームの右収納ボックス内にあります。

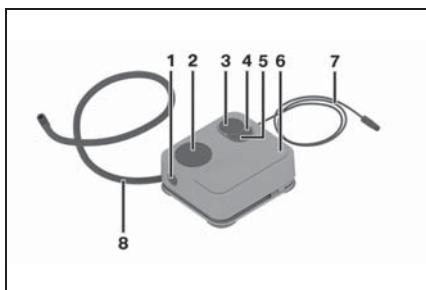
シール剤容器



- ・ シール剤容器（矢印 1）
- ・ 充填ホース（矢印 2）

シール剤容器に記載された使用期限に注意してください。

コンプレッサー



- 1 シール剤容器のロック解除
- 2 シール剤容器ホルダー
- 3 タイヤ空気圧インジケーター
- 4 タイヤ空気圧低下ボタン
- 5 オン／オフ スイッチ
- 6 コンプレッサー
- 7 電源ソケット用コネクター／ケーブル
- 8 接続ホース

安全対策

- ・ 車両をできる限り交通の往来の

ある場所から遠ざけ、堅い地面に停車します。

- ・ ハザード フラッシュャーをオンにします。
- ・ パーキング ブレーキをかけて、車両が動き出さないように車輪を固定します。
- ・ ホイールを直進位置にして、ステアリングロックをロックさせます。
- ・ 全ての搭乗者を降車させて、ガードレールの内側などの危険領域の外に移動させます。
- ・ 必要があれば適切な距離をあけて非常停止表示板を置きます。

シール剤を充填する

安全に関する注意事項

⚠️ 警告

エキゾーストパイプが塞がれている場合や換気が十分でない場合は、有害な排気ガスが車内に侵入するおそれがあります。排気ガスは無色で無臭の有害物質を含んでいます。閉じられた空間では、車両の外側にも排気ガスが溜まるおそれや、事故の危険があります。エキゾースト パイプが塞がないよう、また十分に換気するように注意してください。

⚠️ 注意

作動が長すぎると、コンプレッサーが過熱するおそれがあり、損傷が発生するおそれがあります。コンプレッサーを 10 分以上作動させないでください。

充填

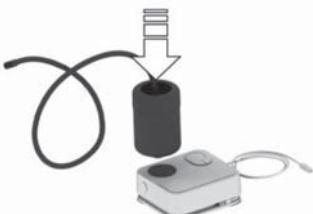
1 シール剤容器を振ります。



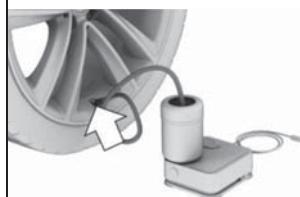
2 注入ホースをシール剤容器のバーから完全に引きます。ホースを曲げないでください。



3 シール剤容器を、かみ合う音が聞こえるまでコンプレッサーのハウジングのマウントにはめ込みます。



4 シール剤容器の充填ホースを異常のあるホイールのタイヤバルブにねじ込みます。



5 コンプレッサーをオフにした状態で、コネクターを車内の電源ソケットに差し込みます。



6 作動スタンバイがオンの時、またはエンジン回転中にコンプレッサーをオンにします。



コンプレッサーを最長 10 分間作動させて、シール剤が充填され、タイヤ空気圧が約 2.0 バールに達するようにします。

シール剤の充填時に、タイヤ空気圧が一時的に約 5 バールまで上昇する場合があります。この段階ではコンプレッサーをオフにしないでください。

タイヤ空気圧を点検および調整する

タイヤ空気圧を点検および調整する

- 1 コンプレッサーをオフにします。
- 2 タイヤ空気圧インジケーターのタイヤ空気圧を読み取ります。
走行を続けるには、タイヤ空気圧が 2bar 以上でなければなりません。

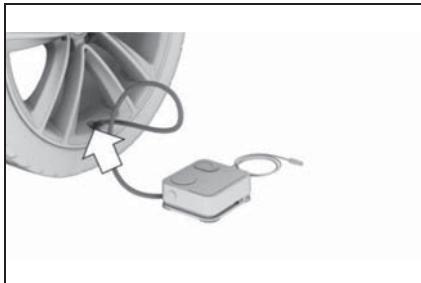
シール剤容器を取り外して収納する

- 1 シール剤容器の充填ホースをタイヤバルブから外します。
- 2 赤色のロック解除を押します。
- 3 シール剤容器をコンプレッサーから取り外します。
- 4 ラゲッジルームが汚れないように、シール剤容器を梱包して収納します。

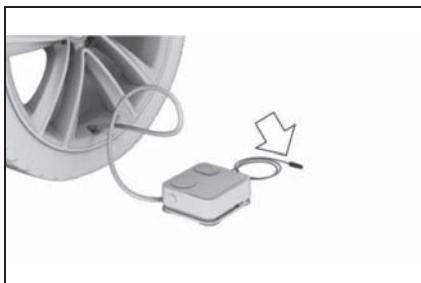
最低タイヤ空気圧に達していない

- 1 車内のソケットからプラグを引き抜きます。
- 2 タイヤ内にシール剤を分散させるため、前後に 10m 走行させます。

- 3 コンプレッサーの接続ホースを直接タイヤバルブにねじ込みます。



- 4 コネクターを車内の電源ソケットに差し込みます。



- 5 作動スタンバイがオンの時、またはエンジン回転中にコンプレッサーをオンにします。

タイヤ空気圧が最低 2 バールに達しない場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。
タイヤ空気圧が最低 2 バールに達している場合は、最低タイヤ空気圧に達しているを参照してください。

- 6 コンプレッサーの接続ホースをタイヤバルブから外します。
- 7 車内のソケットからプラグを引き抜きます。
- 8 タイヤパンク応急修理キットを車両に積みます。

最低タイヤ空気圧に達している

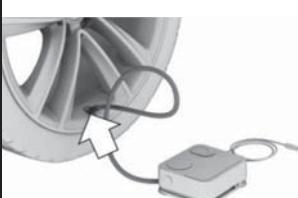
- 1 コンプレッサーの接続ホースをタイヤバルブから外します。
- 2 車内のソケットからプラグを引き抜きます。
- 3 タイヤパンク応急修理キットを車両に積みます。
- 4 すぐに約 10km 走行し、タイヤ内でシール剤を均等に分散させます。

速度が 80km/h を超えないようにしてください。

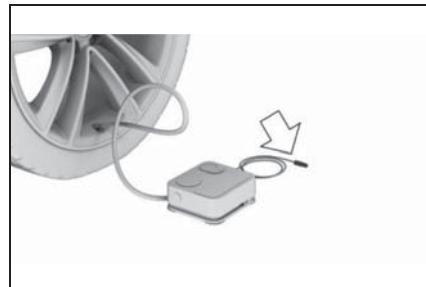
できれば、20km/h を下回らないようにしてください。

調整

- 1 適切な場所で停車します。
- 2 コンプレッサーの接続ホースを直接タイヤバルブにねじ込みます。



- 3 コネクターを車内の電源ソケットに差し込みます。



- 4 タイヤ空気圧を 2.0bar 以上に修正します。

- ・ タイヤ空気圧を上げる：作動スタンバイがオンの時、またはエンジン回転中にコンプレッサーをオンにします。
- ・ タイヤ空気圧を下げる：コンプレッサーのボタンを押します。

- 5 コンプレッサーの接続ホースをタイヤバルブから外します。

- 6 車内のソケットからプラグを引き抜きます。

- 7 タイヤパンク応急修理キットを車両に積みます。

走行を続ける

許容最高速度の 80km/h を超えないでください。

タイヤ空気圧警報 (252 ページ参照) のリセットを行います。

すぐに異常のあるタイヤとタイヤパンク応急修理キットのシール剤容器の交換を依頼してください。

スノーチェーン

スノーチェーンについて

スノーチェーンを装着できません。スノーチェーンについてはトヨタ販売店にお問い合わせください。



注意

■スノーチェーンの使用について

スノーチェーンを装着しないでください。スノーチェーンが車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

タイヤ空気圧警報 (TPM)

原理

このシステムは、取り付けられている4つのタイヤ空気圧をモニターします。このシステムは、1個または複数のタイヤでタイヤ空気圧が低下した場合に警告を出します。

一般事項

エアバルブ内のセンサーがタイヤ空気圧とタイヤ温度を測定します。このシステムは取り付けられたタイヤを自動的に検知します。このシステムはコントロールディスプレイで規定圧を表示し、実際のタイヤ空気圧と比較します。

車両のタイヤ空気圧規定値(240ページ参照)に記載がないタイヤ、例えば特殊用途のタイヤなどの場

合は、リセットによりシステムを強制リセットする必要があります。これにより現在のタイヤ空気圧が規定圧として適用されます。

システムの操作については、タイヤ空気圧(240ページ参照)の章のその他の情報や注意事項も参照してください。

安全に関する注意事項



警告

規定圧の表示は、車両のタイヤ空気圧規定値に代わるものではありません。タイヤ設定における間違ったデータは、正しくない規定圧の原因となります。タイヤ空気圧の低下を正確に検知して通知することができなくなります。けがを負ったり、損傷が発生するおそれがあります。取り付けられているタイヤのタイヤサイズが正しく表示され、タイヤに記載されているデータとタイヤ空気圧規定値が一致していることを確認してください。

機能の前提条件

タイヤ空気圧の低下を正確に検知して通知することができなくなるおそれがあるので、システムは以下の前提条件を満たしていないければなりません:

- ・タイヤ交換またはホイール交換の後、タイヤの取り付けがシステムによって検知、更新され、少し走行するとコントロールディスプレイに表示されます。

タイヤがシステムによって自動的に検知されない場合は、タイヤ設定で取り付けたタイヤのデータを入力します。

- ・特殊用途のタイヤの場合:

- ・ タイヤ交換またはホイール交換の後、正しいタイヤ空気圧の状態でリセットを行うこと
- ・ タイヤ空気圧を新しい値に調整した後、リセットを行うこと
- ・ TPM ホイール エレクトロニクス付きタイヤ

タイヤ設定

一般事項

タイヤがシステムによって自動的に検知されない場合は、タイヤ設定で取り付けたタイヤのデータを入力することができます。

取り付けられているタイヤについてのタイヤ サイズは、車両のタイヤ空気圧規定値から、または直接タイヤから読み取ることができます(240 ページ参照)。

タイヤ空気圧を修正する場合は、タイヤ空気圧規定値を再度入力する必要はありません。

サマーおよびウインター タイヤに対しても、それぞれ前回入力したタイヤ データが保存されています。これにより、タイヤ交換またはホイール交換後、前回使用したタイヤ セットの設定を選択することができます。

メニューを呼び出す

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「車両ステータス」
- 3 (4)「タイヤ空気圧警報」

設定を行う

Toyota Supra Command から：

- 1 「タイヤ設定」
- 2 タイヤを選択する：
 - ・ 「サマータイヤ」
 - ・ 「スノータイヤ / オールシーズン タイヤ」
- 3 「現在のサイズ」
- 4 リア アクスルに取り付けられているタイヤ タイプを選択する：
 - ・ タイヤ サイズ、例えば
245/45 R18 96 Y
 - ・ 特殊用途のタイヤの場合：「その他のタイヤ」
- 5 タイヤ サイズを選択した場合、車両の積載状態を選択します。
- 6 「設定を確定」

現在のタイヤ空気圧の測定が開始されます。測定の進捗状況が表示されます。

ステータス表示

現在のステータス

システムが作動しているかどうかなど、システムのステータスをコントロール ディスプレイに表示させることができます。

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「車両ステータス」
- 3 (4)「タイヤ空気圧警報」

現在のステータスが表示されます。

現在のタイヤ空気圧

各タイヤについて、現在のタイヤ空気圧が表示されます。

現在のタイヤ空気圧は、走行モードまたは外気温度によって変わることがあります。

現在のタイヤ温度

モデルに応じて、現在のタイヤ温度が表示されます。

現在のタイヤ温度は、走行モードまたは外気温度によって変わることがあります。

タイヤの状態

一般事項

コントロール ディスプレイには、タイヤおよびシステムの状態がホイールの色とテキストによって表示されます。

タイヤ空気圧の修正の際に、表示された規定タイヤ空気圧に達しない場合は、既存のメッセージが削除されないことがあります。

全てのホイールが緑色

- ・ システムが作動しており、表示された規定タイヤ空気圧に基づいて警告を行います。
- ・ 特殊用途のタイヤの場合：システムが作動しており、最後のリセット時に保存されたタイヤ空気圧に基づいて警告を行います。

1 個～4 個のホイールが黄色

表示されているタイヤがパンクしているか、タイヤ空気圧が大きく低下しています。

ホイールが灰色

タイヤ空気圧の低下を検知できない可能性があります。

考えられる原因：

- ・ 故障
- ・ タイヤ空気圧測定中、タイヤ設定の確定後
- ・ 特殊用途のタイヤの場合：システムのリセットが実施されている

タイヤ空気圧をリセットする

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「車両ステータス」
- 3 「タイヤ空気圧警報」
- 4 「タイヤ設定」
- 「その他のタイヤ」以外を選択している場合：
- 5 「設定を確定」
- 6 発進します。
- 「その他のタイヤ」を選択している場合：
- 7 「タイヤ設定」
- 8 走行スタンバイをオンにします。ただし発進させないでください。
- 9 タイヤ空気圧をリセットする：「リセット実行」。
- 10 発進します。

ホイールが赤色に表示されて、以下が表示されます：「タイヤ空気圧警報リセット実行中…」。

30km/h 以上での短時間の走行後に、設定したタイヤ空気圧が基準タイヤ空気圧として適用されます。リセットは走行中に自動的に終了します。

リセットが無事に終了すると、コントロール ディスプレイではホイールが緑に表示され、以下が表示されます：「タイヤ空気圧警報有効。設定圧力は充填圧力ラベルを参照して下さい。」。

走行はいつでも中断することができます。走行を再開すると、リセットが自動的に再開されます。

メッセージ：特殊用途以外のタイヤの場合

一般事項

タイヤ空気圧低下のメッセージが表示された場合、必要に応じてビークルスタビリティコントロールとトラクションコントロール(VSC) がオンになります。

安全に関する注意事項

警告

標準タイヤが損傷してタイヤ空気圧が低くなりすぎたり、空気が抜けてしまうと、ステアリングおよびブレーキ動作などの走行特性が損なわれます。ランフラット タイヤは制限付きで安定性を維持することができます。事故の危険があります。車両に標準タイヤが装備されている場合は、これ以上走行を続けないでください。ランフラット タイヤとランフラット タイヤでの継続走行に関する注意事項を守ってください。

タイヤ空気圧点検が必要な場合

通知

コントロール ディスプレイにシンボルと車両メッセージが表示されます。

シンボル	考えられる原因
	空気注入が規定に従って行われなかつた。例えば充填した空気が不十分な場合や自然にタイヤ空気圧が一定の量が減った場合。

対応

タイヤ空気圧を点検し、必要に応じて調整します。

タイヤ空気圧が低すぎる場合

通知

コントロール ディスプレイにシンボルと車両メッセージが表示されます。



メーター パネルで黄色の警告灯が点灯します。

さらにコントロール ディスプレイにシンボルと車両メッセージが表示されます。

シンボル	考えられる原因
	タイヤ空気圧が低下しています。

■ 対応

- 速度を下げます。速度が 130km/h を超えないようにしてください。
- できるだけ早く、ガソリン スタンドなどで 4 本全てのタイヤ空気圧を点検し、必要に応じて修正してください。

タイヤ空気圧が大きく低下した場合

■ 通知



メーター パネルで黄色の警告灯が点灯します。

さらにコントロール ディスプレイにシンボルと該当するタイヤの車両メッセージが表示されます。

シンボル	考えられる原因
	タイヤがパンクしているか、タイヤ空気圧が大きく低下しています。

■ 対応

- 速度を落として、慎重に停車してください。急なブレーキ操作

やステアリング操作は行わないでください。

- 車両にノーマル タイヤまたはランフラット タイヤのどちらが装備されているか確認します。

ランフラット タイヤ (258 ページ参照) のサイド ウォールには円形シンボルと RSC の文字が付いています。

通知：特殊用途のタイヤの場合

一般事項

タイヤ空気圧低下のメッセージが表示された場合、必要に応じてビーコルスタビリティコントロールとトラクションコントロール (VSC) がオンになります。

安全に関する注意事項



警告

標準タイヤが損傷してタイヤ空気圧が低くなりすぎたり、空気が抜けてしまうと、ステアリングおよびブレーキ動作などの走行特性が損なわれます。ランフラット タイヤは制限付きで安定性を維持することができます。事故の危険があります。車両に標準タイヤが装備されている場合は、これ以上走行を続けないでください。ランフラット タイヤとランフラット タイヤでの継続走行に関する注意事項を守ってください。

タイヤ空気圧点検が必要な場合

■ 通知

コントロール ディスプレイにシンボルと車両メッセージが表示され

ます。

シンボル	考えられる原因
	<p>空気注入が規定に従って行われなかった、例えば充填した空気が不十分な場合。</p> <p>システムがホイール交換を検知したが、リセットが行われなかった。</p> <p>タイヤ空気圧が前回のリセット値を下回った。</p> <p>システムのリセットが実行されなかった。システムは最後のリセット時に保存されたタイヤ空気圧を基準にして警告を出します。</p>

■ 対応

- 1 タイヤ空気圧を点検し、必要に応じて調整します。
- 2 システムのリセットを実施します。

タイヤ空気圧が低すぎる場合

■ 通知



メーター パネルで黄色の警告灯が点灯します。

さらにコントロール ディスプレイにシンボルと車両メッセージが表示されます。

シンボル	考えられる原因
	<p>タイヤ空気圧が低下しています。</p> <p>システムのリセットが実行されませんでした。システムは最後のリセット時に保存されたタイヤ空気圧を基準にして警告を出します。</p>

■ 対応

- 1 速度を下げます。速度が 130km/h を超えないようにしてください。
- 2 できるだけ早く、ガソリンスタンドなどで 4 本全てのタイヤ空気圧を点検し、必要に応じて修正してください。
- 3 システムのリセットを実施します。

タイヤ空気圧が大きく低下した場合

■ 通知



メーター パネルで黄色の警告灯が点灯します。

さらにコントロール ディスプレイにシンボルと該当するタイヤの車両メッセージが表示されます。

シンボル	考えられる原因
	<p>タイヤがパンクしているか、タイヤ空気圧が大きく低下しています。</p> <p>システムのリセットが実行されませんでした。システムは最後のリセット時に保存されたタイヤ空気圧を基準にして警告を出します。</p>

■ 対応

- 1 速度を落として、慎重に停車してください。急なブレーキ操作やステアリング操作は行わないでください。
- 2 車両にノーマル タイヤまたはランフラット タイヤのどちらが装備されているか確認します。
ランフラット タイヤ (258 ページ参照) のサイド ウォールには円形シンボルと RSC の文字が付いています。

タイヤ パンク時の処置

ノーマル タイヤ

- 1 損傷したタイヤを特定します。
タイヤ リペア セットのタイヤ空気圧インジケーターなどを使用して、4つ全てのタイヤの空気圧を点検します。
特殊用途のタイヤの場合：4つ全てのタイヤの空気圧が正常な場合は、TPM がリセットされなかった可能性が考えられます。その場合はリセットを実行してください。
- 2 タイヤ損傷を特定できない場合は、トヨタ販売店に連絡してください。
- 2 タイヤ リペア セットを使用するか、ホイールを交換してタイヤパンクを修理します。
タイヤ リペア セットなどのシール剤を使用すると、TPM ホイールエレクトロニクスが損傷することがあります。その場合はエレクトロニクスができるだけ早く交換してください。

ランフラット タイヤについて

■ 安全に関する注意事項

⚠️ 警告

ランフラット タイヤで空気が抜けている場合またはタイヤ空気圧が非常に低い場合は走行特性が変化し、例えばブレーキ時の方向安定性が低下したり、制動距離が長くなったり、セルフステア特性が変化したりします。事故の危険があります。慎重に走行し、速度が 80km/h を超えないようにしてください。

■ 最高速度

損傷したタイヤでは、最高速度 80km/h 以下で走行することができます。

■ タイヤ パンク時の走行について

損傷したタイヤでの走行時は、以下の点に注意してください：

- 1 急なブレーキ操作やステアリング操作は行わないでください。
- 2 速度が 80km/h を超えないようにしてください。
- 3 次の機会に 4 本全てのタイヤ空気圧を点検してください。

特殊用途のタイヤの場合：4 つ全てのタイヤの空気圧が正常な場合は、タイヤ空気圧警報がリセットされなかった可能性が考えられます。その場合はリセットを実行してください。

■ 空気の抜けたタイヤで可能な走行距離

積載重量および速度、路面の舗装状態、外気温度などの車両の負荷に応じて、総航続可能距離が変化します。可能な走行距離はより短くなったり、控え目に運転すること

とで、さらに長くなったりすることがあります。

中程度の積載状態で負荷が小さい場合の可能な走行距離は 80km 以下です。

■ 損傷したタイヤでの走行特性

傷したタイヤで走行すると、走行特性が変化し、例えば以下のようないくつかの状況を招くおそれがあります：

- ・ 車両が急に振られる
- ・ 制動距離が長くなる
- ・ セルフ ステア特性が変化する

運転の仕方を状況に合わせてください。急ハンドル、縁石や路面の穴などを踏み越えるような走行は避けてください。

■ 空気の抜けたタイヤで可能な走行距離

走行中に振動や異音が発生する場合、タイヤが今後完全に使用できなくなるおそれがあります。

速度を落として停車してください。タイヤ部品が外れて事故が起こるおそれがあります。

これ以上走行を続けるのを止め、トヨタ販売店に連絡してください。

システムの限界

温度

タイヤ空気圧は、タイヤの温度に左右されます。

例えば走行中に、または直射日光によってタイヤの温度が上昇することによりタイヤ空気圧は上昇します。

タイヤ空気圧は、タイヤ温度が低下すると減少します。

この特性によって、急激な温度低下の場合は、警告限界があるために警告が発せられることがあります。

温度条件による警告の後は、短時間の走行後に規定タイヤ空気圧がコントロール ディスプレイに再び表示されます。

突然のタイヤ空気圧の低下

外的な要因により突然タイヤが深刻な損傷を受けた場合、システムは警告を発することができません。

リセットが実施されなかった

特殊用途のタイヤ：リセットが実施されないと、システムは正しく機能しません。例えば、タイヤ空気圧は正常であるにもかかわらず、タイヤのパンクが通知されます。

故障

通知



黄色の警告灯が点滅し、その後点灯し続けます。車両メッセージが表示されます。タイヤ空気圧の低下を検知できない可能性があります。

対応

- ・ エマージェンシー ホイールなどの TPM ホイール エレクトロニ

クスなしのホイールが取り付けられている：必要に応じてホイールの点検を依頼してください。

- ・機能障害：システムの点検を依頼してください。
- ・同じ無線周波数を持つシステムや機器による障害：障害エリアから離れると、システムは自動的に再び作動します。
- ・特殊用途のタイヤの場合：システムがリセットを終了できませんでした。システムのリセットを再度実施します。

ホイールの交換

一般事項

ランフラット タイヤまたはタイヤリペア セットを使用する場合、故障時のタイヤ空気圧低下時に必ずしも直ちにホイールの交換を行う必要はありません。

必要な場合、タイヤ交換用の適切な工具はアクセサリーとして、トヨタ販売店でお求めいただけます。

盗難防止用ホイール ボルト

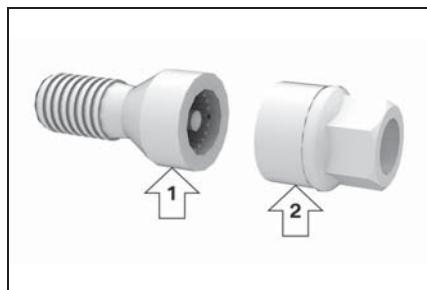
原理

ホイール固定ボルトは特殊コーディングされています。ボルトは、コーディングに適したアダプターでのみ開くことができます。

概要

盗難防止用ホイール ボルトのアダ

プターはツール キットの中またはツール キット付近の小物入れの中に入ります。



- ・ホイール ボルト（矢印 1）
- ・アダプター（矢印 2）

ボルトを外す

- 1 アダプターをホイール ボルトに差し込んでください。
- 2 ホイール ボルトを取り外してください。
- 3 ボルトを外した後はアダプターを取り外してください。

ボルトを締め付ける

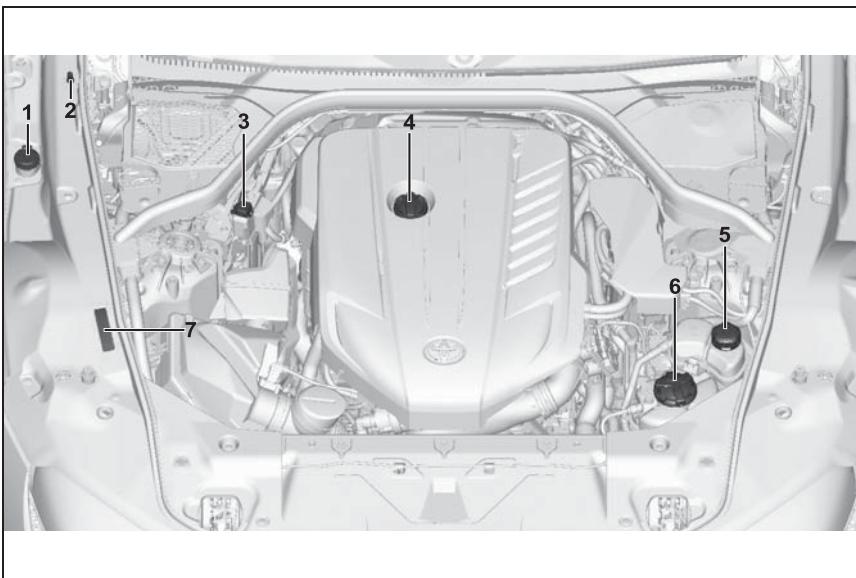
- 1 アダプターをホイール ボルトに差し込んでください。必要に応じて、アダプターがホイールボルトに合うまでアダプターを回してください。
- 2 ホイール ボルトを締め付けます。締付けトルクは 140Nm です。
- 3 ボルトを締め付けた後はアダプターを取り外し、収納してください。

エンジンルーム

車両装備

この章では、モデルシリーズに提供される全ての標準装備、国別装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備や国別仕様などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、各国の有効な法律と規定に従ってください。

概要



- 1 ウオッシャー液のフィラーキャップ
- 2 ジャンプスタート、バッテリーマイナス端子
- 3 ジャンプスタート、バッテリープラス端子
- 4 エンジンオイルフィラーキャップ
- 5 補助冷却用冷却水タンク
- 6 エンジン冷却水タンク
- 7 車台番号

ボンネット

安全に関する注意事項

!**警告**

エンジンルーム内で不適切な作業を行うと、構成部品が損傷し、安全性に問題が生じるおそれや、事故の危険や損傷が発生するおそれがあります。エンジンルーム内の作業はトヨタ販売店に依頼してください。

!**警告**

エンジンルーム内には可動構成部品があります。ラジエターファンなど、エンジンルーム内の特定の構成部品は、車両停止時にも動くことがあります。けがをする危険があります。可動部品の領域に手を差し入れないでください。衣服や髪の毛を可動部品に近づけないでください。

!**警告**

ボンネットには、ロックフックなど、内側に突き出している部品があります。けがをする危険があります。ボンネットが開いている場合、突き出している部品に注意し、この部分を空けておいてください。

!**警告**

ボンネットが正しくロックされていないと、走行中に開いて、視界を遮るおそれがあり、事故の危険があります。ただちに停車して、ボンネットを正しくロックしてください。

!**警告**

ボンネットを開閉する場合、身体の一部が挟まれるおそれや、けがをする危険があります。開閉時には、ボンネットが動く範囲に身体の一部がないことを確認してください。

!**注意**

ボンネットを開く場合、起こされているワイヤーが挟まれるおそれや、損傷が発生するおそれがあります。ボンネットを開ける前に、ワイヤーブレードが取り付けられた状態でワイヤーがフロントウィンドウガラス上に載っていることを確認してください。

!**注意**

ボンネットを閉めるときには、両側でかみ合わなければなりません。強く押さえつけると、ボンネットが損傷するおそれがあります。ボンネットを再び開けて、一気に閉めてください。強く押さえつけないでください。

開ける

- 1 レバーを引きます（矢印1）。
- ボンネットがロック解除されます。



- 2 レバーを一旦戻し、レバーをもう1度引きます（矢印2）。
- ボンネットが開きます。

- ③ ボンネットの突き出している部品に注意してください。

閉める



ボンネットは、約 50cm の高さから一気に閉めます。

ボンネットは、両側を確実に口ツクする必要があります。

燃料・油脂類

車両装備

この章では、モデルシリーズに提供される全ての標準装備、国別装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備や国別仕様などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、各国の有効な法律と規定に従ってください。

燃料の種類

一般事項

地域によりますが、多くの給油所では冬期または夏期の条件に適合した燃料が販売されています。冬期に提供される燃料はコールドスタートなどの負担を軽減します。

ガソリン

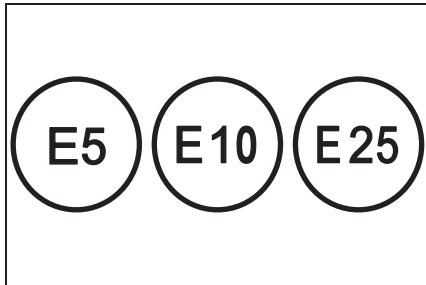
一般事項

最適な燃費を得るために、ガソリンは無硫黄または硫黄分の少ないものを使用してください。

給油機に金属添加物の表示のある燃料を使用しないでください。

エタノール成分が 25% 以下の燃料 (E10 または E25 など) を給

油することができます。



エンジンは、アンチノック コントロールを装備しています。そのため、さまざまな品質のガソリンを給油することができます。

安全に関する注意事項

⚠ 注意

少量でも不適切な燃料や不適切な燃料添加剤を使用すると、フューエルシステムおよびエンジンが損傷するおそれがあります。さらにキャタライザーに継続的な損傷が生じます。損傷が発生するおそれがあります。ガソリンエンジンの場合、以下を給油または混合しないでください：

- ・ 有鉛ガソリン

不適切な燃料を給油した後は、スタート/ストップボタンを押さないでください。トヨタ販売店に連絡します。

- ・ マンガンや鉄などの金属添加物

⚠ 注意

不適切な燃料を給油すると、フューエルシステムおよびエンジンに損傷が発生するおそれがあります。推奨値より高いエタノール成分を含む燃料を給油しないでください。M5～M100などのメタノールを含んだ燃料を給油しないでください。

⚠ 注意

以下の最低品質に満たない燃料はエンジン機能を低下させたり、エンジン損傷を引き起こすおそれがあります。以下の最低品質に満たないガソリンを給油しないでください。

ガソリンの種類

95 オクタン（リサーチ法）以上の無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）を使用してください。

最低品質

無鉛レギュラー ガソリン (RON 91)

エンジン オイル

一般事項

エンジン オイル消費量は運転スタイルと使用条件により異なります。そのため定期的に、給油のたびに詳細計測によりエンジン オイル レベルを点検してください。

エンジン オイルの消費量は以下の状況で増えることがあります：

- ・ スポーティな運転の仕方の場合
- ・ エンジンの慣らし運転の場合
- ・ エンジンのアイドリングの場合
- ・ 不適切なクラス・等級のエンジン オイルを使用した場合

エンジン オイル レベルに応じて、コントロールディスプレイに異なる車両メッセージが表示されます。

安全に関する注意事項

⚠ 注意

エンジン オイル量が不足するとエンジン損傷を引き起こします。損傷が発生するおそれがあります。直ちにエンジン オイルを補給してください。

⚠ 注意

エンジン オイルを入れすぎると、エンジンまたはキャタライザーに悪影響を及ぼし、損傷が発生するおそれがあります。過剰な量のエンジン オイルを充填しないでください。エンジン オイル量が多すぎる場合は、エンジン オイルレベルの修正をトヨタ販売店に依頼してください。

電子的なオイル計測

一般事項

電子機器によるオイル計測は 2 つの計測原理を用いています：

- ・ モニター
- ・ 詳細計測

頻繁に短距離走行を行う場合やすばやいコーナリング走行などのダイナミックな運転の仕方の場合は、定期的に詳細計測を行ってください。

モニター

■ 原理

走行中はエンジン オイル レベルを電子モニターで監視し、コントロール ディスプレイに表示することができます。

エンジン オイル レベルが許容作動範囲以下になると、車両メッセージが表示されます。

■ 機能の前提条件

最新の計測値は、約 30 分の通常走行後に提供されます。

■ エンジン オイル レベルの表示

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「車両ステータス」
- 3  「エンジンオイルレベル」

エンジン オイル レベルが表示されます。

■ システムの限界

頻繁な短距離走行またはダイナミックな運転の仕方の場合は、計測値が算出されないことがあります。この場合は、最後に十分な時間を走行したときの計測値が表示されます。

詳細計測

■ 原理

エンジン オイル レベルは停止時に点検され、目盛りで表示されます。エンジン オイル レベルが許容作動範囲以下になると、車両メッセージが表示されます。

■ 一般事項

計測中はアイドリング回転数が若干上昇します。

■ 機能の前提条件

- ・ 車両が平らな面に止まっていること
- ・ セレクター レバーを N または P に入れ、アクセルペダルから足を離している

- ・ エンジンが作動し、暖機状態であること

■ 詳細計測を実行する

Toyota Supra Command から：

- 1 「車両情報 / 設定」
- 2 「車両ステータス」
- 3 「エンジンオイルレベル」
- 4 「オイルレベル測定」
- 5 「測定開始」

エンジン オイル レベルを点検し、目盛りで表示します。

エンジン オイルの補給

一般事項

エンジン オイルは、メーター パネルにメッセージが表示されてから補給してください。補充量はコントロール ディスプレイにメッセージで示されています。

必ず補給に適したエンジン オイルの種類 (267 ページ参照) を使用してください。

エンジン オイルを補給する前に、車両を確実に停止し、走行スタンバイをオフにします。

過剰な量のエンジン オイルを充填しないように注意します。

安全に関する注意事項

⚠ 警告

オイル、グリース、クーラント、燃料などの燃料・油脂類は健康に有害な成分を含んでいる場合があります。けがをする危険または生命の危険があります。容器に記載された注意事項を遵守してください。衣服、皮膚、目が燃料・油脂類に触れないように注意してください。燃料・油脂類を別の容器に入れ替えないでください。燃料・油脂類は子供の手が届かない場所に保管してください。

⚠ 注意

エンジン オイル量が不足するとエンジン損傷を引き起こします。損傷が発生するおそれがあります。直ちにエンジン オイルを補給してください。

⚠ 注意

エンジン オイルを入れすぎると、エンジンまたはキャタライザーに悪影響を及ぼし、損傷が発生するおそれがあります。過剰な量のエンジン オイルを充填しないでください。エンジン オイル量が多すぎる場合は、エンジン オイルレベルの修正をトヨタ販売店に依頼してください。

概要

エンジン オイル フィラー キャップはエンジンルーム (261 ページ参照) 内にあります。

エンジン オイルの補給

- 1 ボンネットを開けます (262 ページ参照)。

- 2 キャップを反時計回りに回してゆるめます。**



- 3 エンジン オイルを補給します。
4 キャップを閉めます。**

補給するエンジン オイルの種類

一般事項

エンジンオイルの品質は、エンジンの耐用年数に大きく影響します。記載された種類のエンジン オイルは、補給専用に使用してください。国によっては、入手できないエンジン オイルがあります。

安全に関する注意事項

⚠ 注意

オイル添加剤はエンジンを損傷するおそれがあります。オイル添加剤を使用しないでください。

⚠ 注意

不適切なエンジン オイルはエンジンの機能障害を招いたり、エンジンを損傷するおそれがあります。エンジン オイルを選択する際には、エンジンオイルのオイル仕様が適切であることを確認してください。

適切なエンジン オイル種類

次の仕様のエンジン オイルを補給することができます：

ガソリン エンジン

TOYOTA GENUINE MOTOR OIL SN
OW-20 C5 for TOYOTA Supra

代替エンジン オイル

適切なエンジン オイルが入手できない場合は、1 リットル以内であれば、次の仕様のエンジン オイルを補給できます：

ガソリン エンジン

ACEA A3/B4

ACEA C2

ACEA C3

粘度クラス

エンジン オイルを選択する際には、エンジン オイルの粘度クラスが以下のものであることを確認してください：

粘度クラス

SAE OW-20

SAE 5W-20

SAE OW-30

粘度クラス
SAE 5W-30
SAE 0W-40
SAE 5W-40

粘度が高い粘度クラスの場合、燃費が増えることがあります。

エンジン オイルの適切なオイル仕様および粘度クラスに関する詳細は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

オイル交換



注意

適切な時期に交換されなかったエンジン オイルは、激しいエンジン摩耗、さらにはその結果としてエンジン損傷を招くおそれがあります。車両で表示されるサービス時期までに交換してください。

車両メーカーは、エンジン オイルの交換をトヨタ販売店に依頼することを推奨しています。

冷却水

一般事項

冷却水は、水と添加剤から構成されています。

市販されている全ての添加剤がお客様の車両に適しているとは限りません。適切な添加剤についての情報は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

安全に関する注意事項



警告

エンジンが熱い状態で冷却システムを開くと、クーラントが漏れ出て、火傷の原因となるおそれがあり、けがをする危険があります。冷却システムは、必ずエンジンが冷えた状態で開いてください。



警告

添加剤は健康に有害で、不適切な添加剤はエンジンを損傷するおそれや、けがを負ったり、損傷が発生するおそれがあります。衣服、皮膚、目が添加剤に触れないよう、また添加剤を誤飲しないように注意してください。適切な添加剤のみを使用してください。

冷却水量の確認

一般事項

ガソリン エンジン車は 2 つの冷却回路を使用します。常に両方の冷却水タンク内の冷却水量を点検し、必要に応じて補充してください。

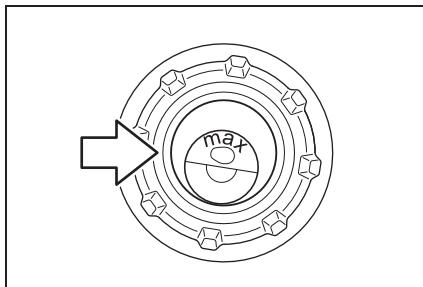
冷却水レベルは冷却水タンクのフィラー ネックに max マークで示されます。

エンジンに応じて、冷却水タンクはエンジン ルーム (261 ページ参照) の右側または左側にあります。

冷却水量の点検

- 1 エンジンを冷ましてください。
- 2 ボンネットを開けます (262 ページ参照)。

- 3 冷却水タンクのキャップをわずかに反時計回りに回して、余分な圧力を抜いてください。
- 4 冷却水タンクのキャップを開けます。
- 5 液面がフィラー ネックの max マークまであれば、冷却水量は正常です。



- 6 キャップを閉めます。

補給

- 1 エンジンを冷ましてください。
- 2 ボンネットを開けます (262 ページ参照)。
- 3 冷却水タンクのキャップをわずかに反時計回りに回して、余分な圧力を抜いてください。
- 4 冷却水タンクのキャップを開けます。
- 5 冷却水を補給する場合には、適正レベルまでゆっくりと注入します。入れすぎないように注意してください。
- 6 キャップを閉めます。
- 7 冷却水不足の原因を、できるだけ早く解決してください。

ウォッシャー液

一般事項

このウォッシャー タンクから、全てのウォッシャー ノズルにウォッシャー液を供給します。

水道水とウィンドウ クリーナー濃縮液の混合液を使用し、また、必要に応じてウィンドウウォッシャー用の凍結防止剤を添加して使用します。

推奨する最小充填量：1 リットル

安全に関する注意事項

警告

いくつかの凍結防止剤は健康に有害な成分を含んでいることがあります。引火性です。火災の危険およびけがをする危険があります。容器に記載された注意事項を遵守してください。凍結防止剤は火元から離してください。燃料・油脂類を別の容器に入れ替えないでください。燃料・油脂類は子供の手が届かない場所に保管してください。

警告

ウォッシャー液が熱くなったエンジン部品に触れた場合、発火して火災が発生するおそれや、けがを負ったり、損傷が発生するおそれがあります。ウォッシャー液は必ずエンジンが冷えた状態で充填してください。充填後はウォッシャー タンクのふたを完全に閉めてください。

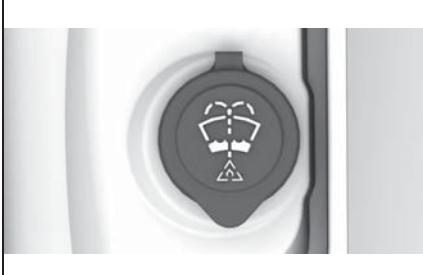
⚠ 注意

ウィンドウ上での撥水効果を得るためにシリコンを含んだ添加剤を使用すると、ウィンドウウォッシャーが損傷するおそれがあります。シリコンを含んだ添加剤をウォッシャー液に混ぜないでください。

⚠ 注意

異なる種類のウィンドウ クリーナー濃縮液または凍結防止剤を混合すると、ウィンドウ ウォッシャーが損傷するおそれがあります。異なる種類のウィンドウ クリーナー濃縮液または凍結防止剤は混合しないでください。容器に記載された注意事項と混合比を遵守してください。

概要



ウォッシャー液タンクはエンジンルーム内にあります。

故障

アルコール系のウィンドウ クリーナー濃縮液または凍結防止剤を薄めずに使用した場合、温度が -15 °C 以下になると誤った警告が表示されるおそれがあります。

メンテナンス

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、国別装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備や国別仕様などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、各国の有効な法律と規定に従ってください。

点検整備システム

点検整備システムは、お客様に必要な点検整備についてお知らせし、車両の走行安全性および作動安全性を適切に維持できるようにサポートします。

国別仕様に応じて、点検整備システムの項目および間隔が異なる場合があります。交換作業、交換部品、燃料油脂、摩耗素材は別料金となります。詳しい情報はトヨタ販売店にお問い合わせください。

コンディション ベースド サービス (CBS)

原理

センサーと専用のプログラムが、お客様の車両の使用状況を分析します。これに基づいて CBS が点

検査時期を割り出します。
これにより、システムは、点検整備の内容をお客様の車両使用状況にあわせることができます。

一般事項

サービス時期（133 ページ参照）についての情報をコントロールディスプレイに表示できます。

サービス インターバル

車両バッテリーを取り外している間は、サービスインターバルの演算は行われません。

ブレーキ液や、必要に応じてエンジンオイルとマイクロフィルター／チャコールフィルターなどの時間に基づくサービス範囲の更新は、トヨタ販売店に依頼してください。

サービス履歴

点検整備および修理

点検整備と修理はトヨタ販売店に依頼してください。

登録

実施された点検整備は、点検整備証明書と車両データに記録されます。この登録内容は、メンテナスノートと同様に、定期点検整備の証明になります。

表示

登録された点検整備内容をコント

ロールディスプレイに表示します（133 ページ参照）。

法定点検整備

日本では道路運送車両法に基づき、1 年毎に行う定期点検が義務づけられています。

トヨタ販売店では、お客様の車両の状態に合わせた法定定期点検整備を実施しています。是非、トヨタ販売店に作業をご依頼ください。

法定定期点検と車両点検整備システムの実施に関する詳細については、別冊の「メンテナスノート」をご覧ください。

エンジン警告灯

・ 警告灯が点滅した場合：

エンジンが故障している可能性があり、触媒装置の損傷を引き起こすことがあります。緩やかに走行を続けることが出来ます。直ちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

・ 警告灯が点灯した場合：

排気ガスの値が高くなっています。走行を続けることができます。トヨタ販売店で点検を受けてください。

Recycling

お客様の車両は、その生産方法から使用する原材料の選択にいたるまで、将来のリサイクル性を考慮して開発されています。

使用済自動車のリサイクルは、日

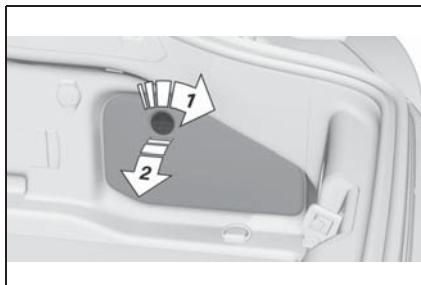
本国内の法律により定められています。法に定められた適正なりサイクル処理を行うため、お乗りになられた車両を廃棄される場合は、各自治体に登録されている引取業者へご連絡ください。

部品の交換

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、国別装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備や国別仕様などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、各国の有効な法律と規定に従ってください。

ツール キット



ツール キットはラゲッジルーム内の右カバーの下にあります。

右サイド トリム パネルのカバーをロック解除し（矢印 1）、開けます（矢印 2）。

ワイパー ブレード

安全に関する注意事項

! 注意

ワイパー ブレードが付いていないワイパー アームがフロント ウィンドウに倒れると、ウィンドウが損傷する可能性があります。車両が損傷するおそれがあります。ワイパー ブレードの交換時は、ワイパー アームを固定して、ワイパー ブレードが付いていない状態でワイパーを倒さないようにしてください。

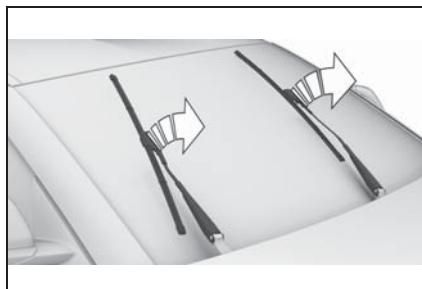
! 注意

ボンネットを開く場合、起こされているワイパーが挟まれるおそれや、損傷が発生するおそれがあります。ボンネットを開ける前に、ワイパー ブレードが取り付けられた状態でワイパーがフロント ウィンドウ ガラス上に載っていることを確認してください。

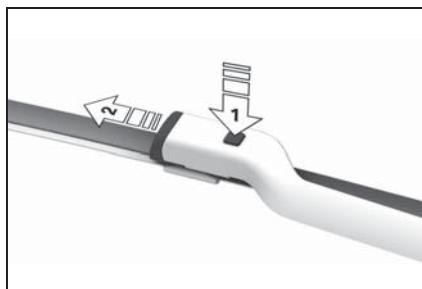
フロント ワイパー ブレードの交換

- 1 交換を行うためにワイパーを起こした状態(118 ページ参照)にします。

- 2 ワイパーを持ち上げて、フロント ウィンドウから完全に離します。



- 3 ボタンを押し(矢印 1)、ワイパー ブレードを引き抜きます(矢印 2)。



- 4 新しいワイパー ブレードをはめ込み、かみ合う音がするまでホルダーに押し付けます。

- 5 ワイパーを倒します。

ランプとライト

一般事項

ライト類は、自動車の保安部品の一部です。

全てのヘッドライトとライト類には、LED 技術が採用されています。

いくつかの装備品のカバー内には、

光源として発光ダイオードを使用しています。これらのLEDは「クラス1 発光ダイオード」の規格に分類されていて、一般的なレーザー光に似た性質を持っています。そのため車両メーカーは、故障の場合は該当する作業をトヨタ販売店に依頼することを推奨しています。

安全に関する注意事項

⚠ 警告

レーザービーム光は目の網膜を刺激したり、連続的に傷つけるおそれがあります。けがをする危険があります。車両メーカーは、ランプの交換を含む照明装置の作業をトヨタ販売店に依頼することを推奨しています。

⚠ 警告

明るすぎると、目の網膜が刺激されたり、傷つくおそれや、けがをする危険があります。ヘッドライトやその他の光源を直接見ないでください。LEDのカバーを外さないでください。

ヘッドライトガラス

気温が低い場合や湿気がある場合は、ヘッドライトガラスの内側がくもることがあります。ライトをオンにして走行すると、曇りは短時間で消えます。ヘッドライトガラスを交換する必要はありません。ヘッドライトをオンにしていても湿気が増す場合は（ライト内部の水滴など）、ヘッドライトの点検を依頼してください。

車両バッテリー

一般事項

ラゲッジルームに搭載されているバッテリーは、メンテナンスが不要です。

バッテリーに関する詳細はトヨタ販売店にお問い合わせください。

バッテリーの点検方法については、別冊の「メンテナンスノート」をご覧ください。

バッテリーの耐用年数は、十分に充電されている場合に限り保証されます。短い距離を走行することが多い場合には、充電状態を頻繁に点検してください。

お客様の車両のメーカーは、トヨタ販売店に、交換後の車両バッテリーの登録を依頼することをお勧めしています。新たに登録することにより、全てのコンフォート機能を制限なしで使用できるようになり、コンフォート機能の車両メッセージが表示されている場合はそれが解除されます。

バッテリーを交換するときは

装着されているバッテリーは、本車両の専用品です。適切なバッテリーをご使用いただかない場合、バッテリー保護のためにアイドリングストップの作動が制限されます。さらにバッテリーの早期劣化や、最悪の場合にはエンジンが再始動しなくなるおそれがあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

安全に関する注意事項

⚠ 警告

適切であることが確認されていない車両バッテリーを使用すると、システムが損傷したり、機能が実行されなくなるおそれや、けがを負ったり、損傷が発生するおそれがあります。車両メーカーによって適切であることが確認されている車両バッテリーのみを使用してください。

バッテリーを充電する

一般事項

バッテリーの寿命をできるだけ延ばすためには、バッテリーを常に十分な充電状態に保つように注意してください。

次のような場合、バッテリーの充電が必要となることがあります：

- 頻繁な短距離走行の場合
- 1ヶ月以上の駐車の場合

安全に関する注意事項

⚠ 警告

バッテリー上面の点検窓の色が黄色のときに充電すると、バッテリーが破裂（爆発）するおそれや、けがをしたり、車両が損傷するおそれがあります。点検窓付きのバッテリー搭載車の場合、充電する前に必ずバッテリー上面の点検窓の色を確認してください。点検窓の色が黄色の場合は、バッテリーの交換が必要です。

点検窓がないシールドタイプ（密閉型）バッテリー搭載車の場合、充電する際に 14.8 ボルト (V) 以上の電圧がかからないようにしてください。

⚠ 警告

電気系統の作業を行う際に、電圧が印加されていると、ショートが発生したり、火災につながるおそれやけがをするおそれがあります。電気系統の作業を行う場合は、バッテリーのマイナス側の配線を外してから行ってください。

⚠ 注意

エンジン回転中にバッテリー配線を外すと、過電圧が発生するおそれや、車両損傷の危険があります。エンジン回転中はバッテリー配線を外さないでください。

⚠ 注意

車両バッテリー用のバッテリー充電装置は高い電圧と大きな電流で作動することができるので、12V バッテリー回路が過負荷になったり、損傷するおそれがあります。車両バッテリー用のバッテリー充電装置は、必ずエンジンルーム内のジャンプ スタート ケーブル接続部に接続してください。

ジャンプ スタート ケーブル接続部

必ずエンジンを止めて、エンジンルームのジャンプ スタート ケーブル接続部(285 ページ参照)から充電してください。

電源の遮断

電源の遮断が回復した後、一部の装備は新しく初期化または個別設定を更新する必要があります、例えば：

- メモリー機能：位置を新たにメモリーします。
- 時刻：更新します。
- 日付：更新します。

バッテリーの廃棄



交換後の古いバッテリーの処理方法については、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

内部はバッテリー液で満たされているため、バッテリーを運搬、保管する際には、必ず端子面を上にして直立させておいてください。運搬時にバッテリーが倒れないよ

うに注意してください。

フューズ

一般事項

フューズは車内のある箇所にあります。

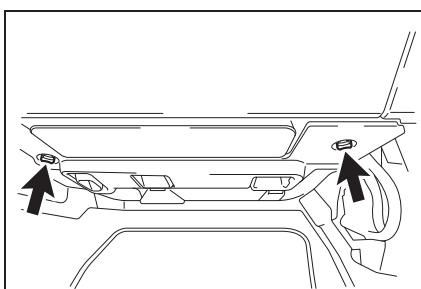
安全に関する注意事項

⚠ 警告

不適切なフューズや修理されたフューズを使用すると、電気ケーブルと構成部品に過大な負荷がかかるおそれあり、火災の危険があります。切れたフューズは絶対に修理しないでください。また、色や容量(アンペア)が異なるフューズで代用しないでください。

車内

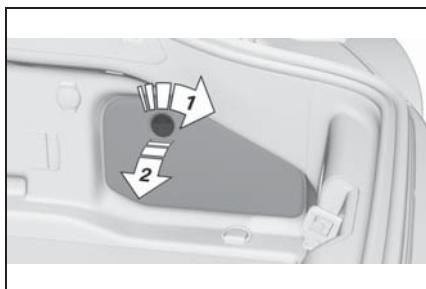
車内では、フューズが助手席足元スペース内のカバーの裏にあります。



固定具を外し(矢印)、カバーを開けます。

ラゲッジ ルーム内

ラゲッジ ルーム内の右側カバーを外すと、フューズがあります。



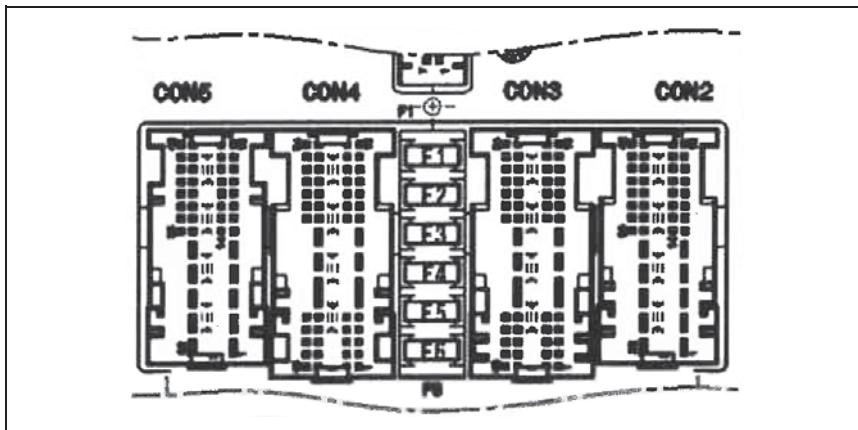
右サイド トリム パネルのカバーをロック解除し(矢印 1)、開けます(矢印 2)。

フューズの交換

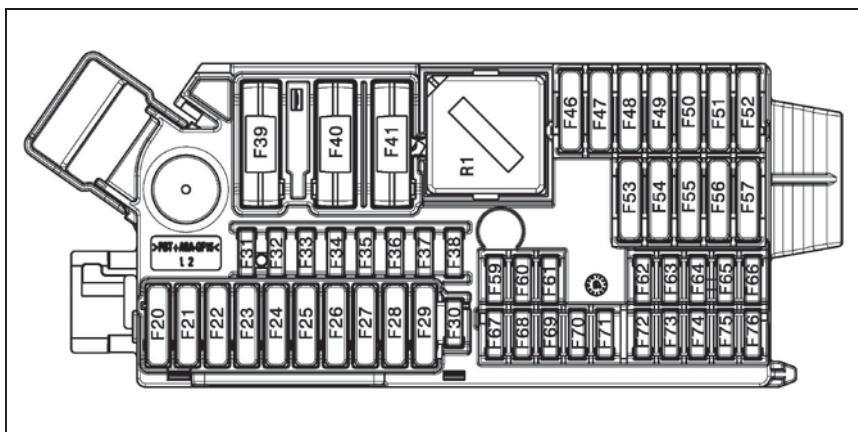
車両メーカーは、フューズの交換をトヨタ販売店に依頼することを推奨しています。

フューズの配置

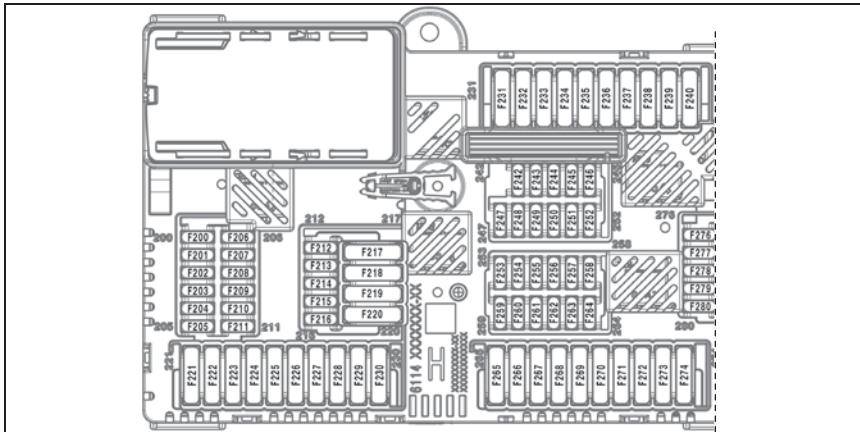
- BDC



- フロント



- リヤ



	F28		F206, F244, F271		F46, F273
	F28, F32		F20, F21		F3, F254
	F3, F40, F204		F3		F4, F5, F6, F244
		OBD	F2		F51
	F40		F254		F4
	F231		F2		F70
	F48, F52, F269		F2, F29		F203, F206, F209, F271
	F55, F56, F64, F65, F67, F68		F2		F1, F3, F39
	F75	DRIVING ASSISTANCE	F1, F59, F60, F76, F204, F208, F209, F255		F36, F61, F62, F67, F68, F71
	F1, F57, F210		F212		F4
	F215, F217	MEDIA	F1, F32, F59, F212, F214, F215, F216, F217, F218, F220		F67, F68
	F59		F214		
	F36, F244	BDC	F25, F39		
	F34, F73		F252		
	F36, F63		F32, F70, F209		

シンボル	意味	シンボル	意味
 	Vehicle Stability Control (VSC)		Fuel pump control electronics, Natural Vacuum Leak Detection,
	Parking brake		Gas generator for battery safety terminal, Remote control receiver
	Air conditioning		Electric window opener
	Blower motor, Interior ventilation		Heating and air-conditioning system
	Rear window heating		Vehicle's diagnostic port (interface)
	Seat heating		Interior lights in the boot
	Seat setting		Vertical Dynamic platform
	Crash-security module		Vertical Dynamic platform
	Switching center column, Light switch element, steering Operating panel Audio		Vertical Dynamic platform
	HiFi amplifier, Video module TV		Mono Camera (Kafas)
	Rear-view mirror		Head Unit
	Overhead function center, Exterior door handle electronics		Active Sound Design
	Instrument cluster		USB Hub
	Additional battery: Dual Accumulator System (DSS)		Body Domain Controller
			Controller (Toyota Supra Command)

シンボル	意味	シンボル	意味
	Electric fan (air cooler), Controlled differential lock		Telematic Communication Box, Exterior door handle electronics passenger side
	12 V socket, Cigarette lighter		Switcher block driver's door, Exterior mirror
	Interior lights in the boot		
	Door lock, Exterior door handle electronics,		
	Telematic		
	Communication Box		
	Electronic gear box control		
	Telematic		
	Communication Box,		
	Exterior door handle electronics		
	Electric fan, Rear Power distributor		
	Engine control		
	Switching center column,		
	Light switch element,		
	Body Domain Controller		
	Control panels centre console,		
	Interior light in the glove box,		
	Interior light, Interior light in the sunvisor,		
	Exterior mirror,		
	Selector lever		

いざというときに

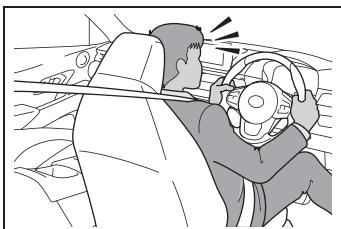
車両装備

この章では、モデルシリーズに提供される全ての標準装備、国別装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備や国別仕様などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、各国の有効な法律と規定に従ってください。

走行中に異常を感じたとき

警告

走行中に異常を感じたときは、ただちに安全な場所に停車してください。



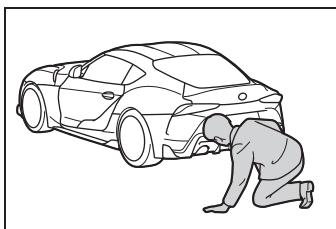
表示灯や警告灯が点灯や点滅したり、ディスプレイにメッセージが表示される場合等は、ただちに安全な場所に停車してください。蒸気でやけどを負うなど、思わぬ事故に繋がるおそれがありますので、ポンネットを開け点検することは避けてください。ディスプレイに表示されているメッセージを読む、または、取扱説明書の該当する説明をお読みになり、適切に対処してください。

これらの表示は、車の機能やシステムに異常が発生したことを警告しています。そのまま走行を続けると、突然エンジンが止まったり、思わぬ故障や事故の原因になるおそれがあります。また、警告灯などが点灯しなくとも、いつもと異なる音やにおい、振動などを感じ緊急停車したときも同様に、ポンネットを開け点検することは避け、トヨタ販売店へご相談ください。

警告

走行中に床下で大きな音や衝撃を感じたときは、ただちに安全な場所に停車してください。

安全な場所に停車後、車の下側をのぞき込み、ブレーキ液等の油脂類や燃料が漏れていないか点検してください。液体が漏れているときは、運転を中止して最寄りのトヨタ販売店へご相談ください。

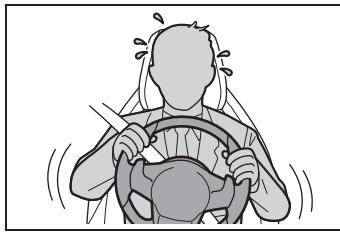


⚠ 警告

床下にはブレーキ液や燃料などの配管があります。これらを損傷するとブレーキが効かなくなったり、燃料が漏れて火災が起きるおそれがあります。

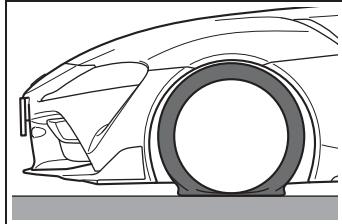
⚠ 警告

走行中にエンストすると、複数の警告灯が同時に点灯します。一部の車種を除き、ブレーキの倍力装置やパワーステアリングのアシストが作動しなくなり、ブレーキの効きが悪くなったり、ステアリング操作が重くなったりします。ブレーキが効かなくなったり、ステアリング操作ができなくなったわけではありませんので、あわてずに通常より強い力で確実に操作して、安全な場所に駐車してください。



⚠ 警告

走行中にタイヤがパンクしたり破裂したときは、あわてずにステアリングホイールをしっかりと支え、ゆっくり減速して安全な場所に停車してください。急なステアリング操作や急ブレーキ操作は、車のコントロールを失うおそれがあり、危険です。ゆっくり減速すれば、安全に停車できます。



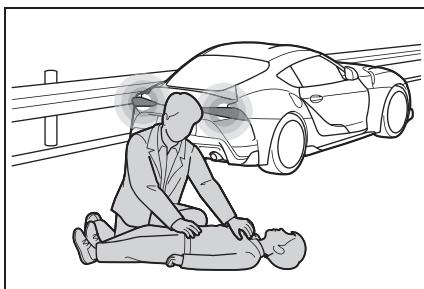
ランフラット タイヤ装備車の場合：

ランフラット タイヤは、タイヤの側面が補強されているため、タイヤ空気圧が急激に減少したり、タイヤがパンクしても、体感しにくい場合があります。また、目視しても異常がわかりにくいことがあります。

タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合は、急なステアリング操作や急ブレーキを避け、80km/h 以下で安全な場所まで慎重に走行してください。安全な場所に停車してから、各タイヤの状態ができるだけ速やかにチェックしてください。詳細については、240 ページをご覧ください。タイヤが損傷している場合は、最寄りのトヨタ販売店にご連絡ください。

また、タイヤがバーストするなど、急激に空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警告灯が点灯しません。

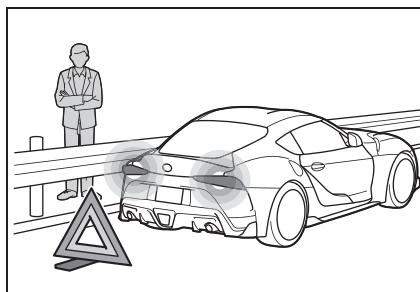
事故が起きたとき



事故が起きたときは、あわてずに以下の処置に従ってください。

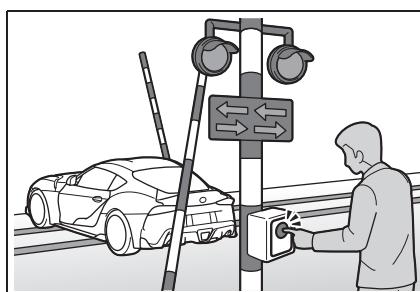
- 1 ただちに乗員を安全な場所へ避難させて二次災害を防ぎ、エンジンを止めて車両火災を予防します。エアバッグが作動したときは、エアバッグ関連部品が熱くなっていますので、手など身体を触れないようにしてください。
- 2 けが人がいるときは、救急車を要請すると共に、けが人を救護してください。ただし、外傷がなくても頭部にけがを負っていると思われるときは、安易にけが人を動かさずに気道を確保してください。二次災害のおそれがある状況では、けが人を水平に保ちながら安全な場所へ避難させます。
- 3 警察に連絡します。事故の発生場所や事故状況、けが人の有無やけがの程度などをできるだけ詳しく伝えてください。
- 4 事故の相手があるときは、相手の氏名や住所、電話番号、加入保険会社などを互いに確かめます。
- 5 お買い求めになられた販売店と加入保険会社に、事故の状況を連絡します。

路上で故障したとき



- 1 安全な場所へ車を移動し、ハザードフラッシャー（非常点滅灯）を点滅させてください。
- 2 高速道路や自動車専用道路では、非常停車時には後続車によくわかるように停止表示板を車の後方に置くことが義務づけられています。また、後続車に追突されるおそれがありますので、車内の乗員を安全な場所に避難させてください。

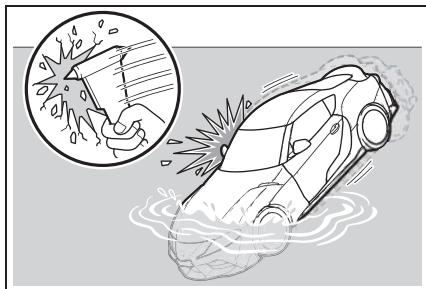
踏切内で動けなくなったとき



同乗者や付近の人に対応を求めて安全な場所まで車を押してもらいます。車を移動できないときは、ただちに乗員を安全な場所へ避難させます。踏切警報機に設置してある非常ボタンを押すか、発炎筒を点火して、近づいてくる列車に踏切内で車が止まっていることを知らせます。発炎筒を使用するときは、製品に記載されている取扱方法に従い、点火した発炎

箇を高く持ちながら、踏切から列車が来る方向に数百メートル移動して列車に知らせてください。

車両が水没したとき



川や海に転落したり、洪水などで車両が水没しても、窓が完全に閉まっている場合は、しばらくは完全に水没しません。落ち着いてシートベルトを外し、上着や靴を脱いで身軽になります。水没すると、水圧によりドアが開かなくなります。パワー ウィンドウが作動している間は、窓を開けて車内に水を侵入させると、水圧が均等になり、ドアを開けやすくなります。パワー ウィンドウが作動しない場合は、ドアウィンドウを割って水を侵入させます。ドアウィンドウは、脱出用の特殊ハンマーを使うと簡単に割れます。

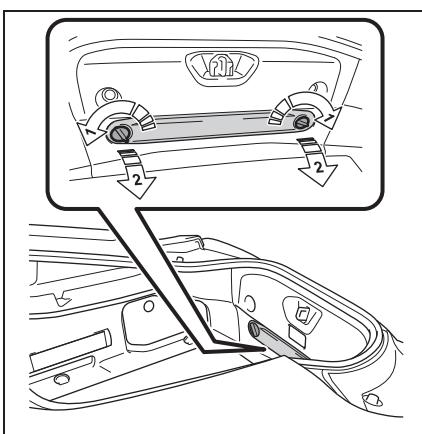
ハザード フラッシャー



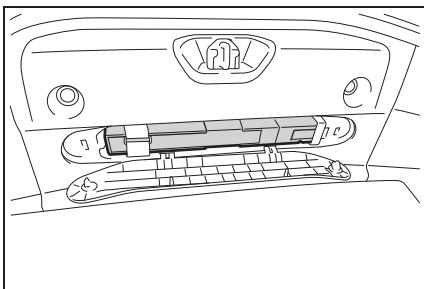
ボタンはセンター コンソールにあります。

非常停止表示板

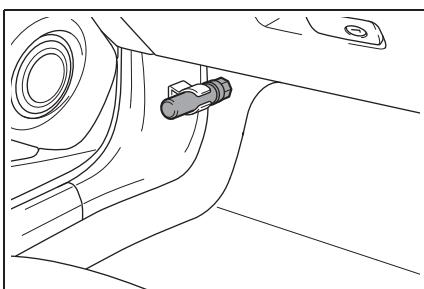
- カバーのロックを解除し（矢印①）、開けます（矢印②）。



2 非常停止表示板を取り出します。



発炎筒



助手席側ダッシュボード下に収納されています。取扱いについては、本体に記載されている説明を参照してください。

ロードサイドアシスト

原理

車両トラブルが発生した時に、レッカーカーなどの救援車両を手配するサービスです。

※ 上記サービス利用にかかる 料金はお客様のご負担となります。

詳細はナビゲーションシステム取扱書を参照。

ジャンプスタート

一般事項

バッテリーがあがった場合は、他の車両のバッテリーに2本のジャンプスタートケーブルを接続して、エンジンをスタートさせることができます。必ず完全に絶縁されたクリップ付きのジャンプスタートケーブルを使用してください。

安全に関する注意事項

警告

電圧のかかっている構成部品に触ると、感電のおそれがあります。けがをする危険または生命の危険があります。電圧のかかる可能性のある構成部品には触れないでください。

警告

ジャンプスタートケーブルを端子に接続する場合、手順を間違うとスパークが発生するおそれや、けがをする危険があります。端子に接続する際には正しい手順を守ってください。

注意

ジャンプスタートを行っている最中に両方の車両の車体が触れると、ショートが発生するおそれや、損傷が発生するおそれがあります。車体が触れないように注意してください。

準備作業

- 接続する他の車両のバッテリー電圧が12ボルト(V)であるか

確認します。電圧値はバッテリーに記載されています。

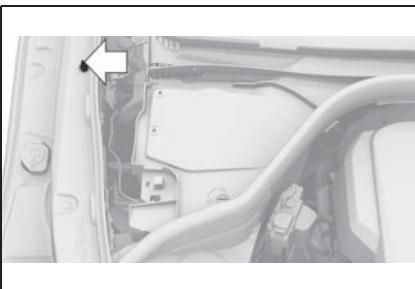
- 2 電源供給する車両のエンジンをストップさせておきます。
- 3 両方の車両の電装品のスイッチを、全てオフにします。

ジャンプ スタート ケーブル接続部



消火器を使用する際は、消火器に表示されたメーカーの指示および添付情報に注意します。

ジャンプ スタート ケーブル接続部のカバーを開けます。



バッテリー マイナス端子としてボディの専用接続部を使用します。

ジャンプ スタート ケーブルを端子に接続する

ジャンプ スタートを開始する前

に、電源を供給する側の車両と電源を供給される側の車両でラジオなどの不必要的電装品を全てスイッチ オフにしてください。

- 1 ジャンプ スタート ケーブル接続部のカバーを開けます。
- 2 ブースター ケーブルのプラス側クリップ（赤色）を、供給側の車両のバッテリー プラス端子、またはブースター ケーブル接続用のプラス端子に接続します。
- 3 ジャンプ スタート ケーブルのもう一方のプラス側クリップを、バッテリーがあがった車両のバッテリー プラス端子、またはジャンプ スタート ケーブル接続用のプラス端子に接続します。
- 4 ジャンプ スタート ケーブルのマイナス側クリップを、供給側の車両のバッテリー マイナス端子、または適切なエンジン グラウンドかボディ グラウンドに接続します。
- 5 ジャンプ スタート ケーブルのもう一方のマイナス側クリップを、バッテリーがあがった車両のバッテリー マイナス端子、または適切なエンジン グラウンドかボディ グラウンドに接続します。

エンジン スタート

エンジンをスタートさせる際に、エンジン始動補助用スプレー剤などを使用しないでください。

- 1 供給側の車両のエンジンをスタートさせ、アイドリング回転

数を少し高めにして、数分間作動させておきます。

- 2** スタートさせる車両のエンジンを、通常の要領でスタートさせます。

エンジンがかからなかった場合は、ジャンプスタートケーブルを接続したまま数分間待って、放電したバッテリーにある程度充電させてからもう1度エンジンをスタートさせます。

- 3** 両方の車両のエンジンを数分間作動させておきます。

- 4** 接続したときと逆の手順（マイナス側から）でジャンプスタートケーブルを外します。

これは応急処置ですので、トヨタ販売店でバッテリーの点検を受けていただき、必要に応じて再充電を行ってください。

けん引

一般事項

けん引中は2台の車両の車間距離を一定（5m以内）に保ち、口一ブ中央に白い布（30×30cm以上）を付けて、速度30km/h以下で走行してください。

けん引に関する法規を遵守してください。

安全に関する注意事項

!**警告**

Toyota Supra Safetyシステムをオフにした状態でけん引する場合、システムの限界により、個別の機能が誤作動するおそれがあります。事故の危険があります。けん引を開始する前に、全てのToyota Supra Safetyシステムをオフにしてください。

車両を搬送する

一般事項

車両をけん引してもらうことはできません。

安全に関する注意事項

!**注意**

片方のアクスルを持ち上げて車両をけん引すると、車両が損傷するおそれがあります。車両は必ず荷台に載せて移動してください。

!**注意**

車両を持ち上げて固定する際に、車両を損傷するおそれがあります。

- 車両は適切な装置で持ち上げてください。
- けん引フック、ボディ部分またはシャシー部分を使って車両を持ち上げたり、固定したりしないでください。

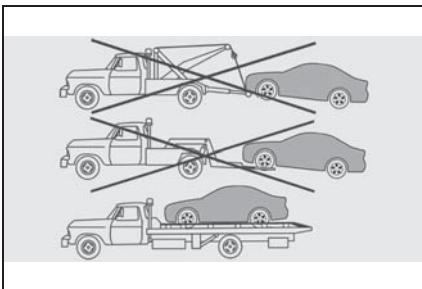
車両を動かす

路上で動かなくなつた車両を危険領域から遠ざけるために、短い距

離だけ移動させることができます。

車両を動かすか、移動させます
(121 ページ参照)。

レッカー車



車両は必ず荷台に載せて移動してください。

他の車両のけん引

一般事項

必要に応じてハザード フラッシュャーを点滅させます。

安全に関する注意事項

!**警告**

けん引する車両の許容総重量がけん引される車両の許容総重量より軽い場合は、けん引フックが破損したり、走行動作を制御できなくなるおそれがあり、事故の危険があります。けん引する車両の許容総重量がけん引される車両の許容総重量より重いことを確認してください。

!**注意**

けん引バーやけん引ロープを間違って固定した場合、他の車両部分が損傷するおそれがあります。けん引バー／けん引ロープはけん引フックに正しく固定してください。

けん引バー

けん引される車両とけん引する車両のけん引フックは、同じ側に取り付けてください。

やむを得ずバーに角度が付いた状態で使用するときは、次の点に注意してください：

- カーブを曲がるときに、動きが制限されます。
- けん引バーに角度がつくことにより、車両に横方向の力が加わります。

けん引ロープ

けん引車両が発進するときには、けん引ロープがピンと張った状態になるようにしてください。

スムーズなけん引を可能にするナイロン製ロープまたはナイロン製ベルトを使用してください。

けん引フック

一般事項



ねじ込み式のけん引フックは、常に車両に載せておいてください。

けん引フックは車両の前後どちらにも取り付けることができます。

けん引フックは、ツール キット(272 ページ参照)の中にあります。

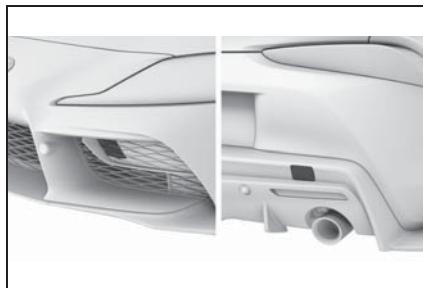
- 必ず車両に付属のけん引フックを使用するようにしてください。けん引フックは必ずストップ位置まで完全にねじ込んでから使用してください。
- けん引フックは固い路面でのけん引にのみ使用してください。
- 車両をけん引フックで持ち上げるなど、けん引フック側面に高い負荷がかからないようにしてください。

安全に関する注意事項

! 注意

けん引フックを指示に従って使用しなければ、車両またはけん引フックが損傷するおそれがあります。けん引フックの使用上の注意に従ってください。

けん引フックのネジ



取付け口を出すために、カバーの縁のマーク部分を押してください。

マークの代わりに開口部があるカバーの場合、開口部からカバーを引き出します。

けん引によるエンジン スタート

車両のけん引によるエンジンスタートをしないでください。

必要に応じてエンジンをジャンプスタートで始動してください(285 ページ参照)。

始動不良の原因と修理については、トヨタ販売店にご依頼ください。

お手入れ

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、国別装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備や国別仕様などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、各国の有効な法律と規定に従ってください。

洗車

一般事項

ボンネットを開けてフロント ウィンドウの下部領域から異物（木の葉など）を定期的に取り除いてください。

特に冬期はこまめに洗車してください。しつこい汚れや路面にまかれた塩などが付着するため、車体の損傷を引き起こす可能性があります。

スチーム ジェット クリーナーと高压洗浄水

安全に関する注意事項

⚠ 注意

高压洗浄水を使用して清掃する場合は、圧力が高くなりすぎたり、温度が高くなりすぎたりすると、さまざまな構成部品が損傷するおそれがあります。十分な間隔を取り、洗浄水を一箇所に長く当てないように注意してください。高压洗浄水に対する操作注意事項を守ってください。

間隔と温度

- 最高温度：60 °C
- センサー、カメラ、シールとの最小間隔：30cm

自動洗車機

安全に関する注意事項

⚠ 注意

高压洗車機により、ガラス領域に水が浸入することがあります。損傷が発生するおそれがあります。高压洗車機を使用しないでください。

⚠ 注意

自動洗車機の不適切な利用の場合、車両に損傷が発生するおそれがあります。以下の注意事項に注意してください：

- 塗装の損傷を防止するため、布製ブラシの洗車機、または柔らかい素材のブラシ付きの洗車機を使用してください。

注意

- ボディの損傷を防止するため、ガイドレールの高さが10cmより高い自動洗車機は使用しないでください。
- タイヤおよびリムの損傷を防止するため、ガイドレールの最大タイヤ幅を確認してください。
- ドアミラーの損傷を防止するため、ドアミラーを折りたたんでください。
- ワイパー システムの損傷を防止するため、ワイパーおよび必要に応じてレインセンサーを作動解除してください。

自動洗車機に入る

■ 安全に関する注意事項

注意

作動スタンバイがオフになると、自動的にセレクター レバー ポジションがPになります。損傷が発生するおそれがあります。自動洗車機では作動スタンバイをオフにしないでください。

■ 一般事項

自動洗車機では車両が自由に動けることが必要です。

車両を動かすか、移動させます(121ページ参照)。

一部の自動洗車機では、車両から離れる必要があります。セレクター レバー ポジションがNのとき、車両を車外からロックすることはできません。車両をロックしようとすると、ブザーが鳴ります。

自動洗車機から出す

電子キーが車内にあることを確認します。

走行スタンバイ(37ページ参照)をオンにします。

ヘッドライト

濡れたヘッドライトを乾いた布でこすらないでください、また研磨剤や溶剤を含むクリーナーを使用しないでください。

昆虫などの汚れは、洗剤で洗って水で流します。

凍結している場合は、解凍スプレーなどで溶かしてください。アイススクレーパーなどの鋭利な器具は使用しないでください。

洗車後

洗車後は、ブレーキの制動力が一時的に低下している可能性があるため、軽くブレーキをかけて乾かしてください。ブレーキをかけたときに発生する熱により、ブレーキディスクとブレーキパッドが乾かされて、腐食から保護されます。

条痕による視認性の低下を防ぎ、ワイパー異音やワイパー ブレードの摩耗を低減するために、ウインドウ上の残留物は完全に取り除いてください。

車両のお手入れ

カー ケア製品

安全に関する注意事項

⚠ 警告

クリーナーには、人体に悪影響を与えるおそれのある成分が含まれている場合があります。けがをする危険があります。車内の清掃の際は、ドアまたはウィンドウを開けてください。車両洗浄用以外のクリーナーは使用しないでください。容器に記載された注意事項を遵守してください。

塗装

一般事項

定期的なお手入れは、安全性およびお客様のお車の価値を維持することにつながります。空気汚染または樹木のヤニや花粉などの自然による汚れが目立つ周辺環境では、車両の塗装に悪影響が及ぶおそれがあります。お手入れの頻度と程度を環境条件に合わせて調整してください。

あふれ出た燃料、オイル、グリースまたは鳥の糞などの腐食性物質が付着した場合は、塗装の侵食や変色を防止するために、すぐに取り除いてください。

安全に関する注意事項

⚠ 警告

車両塗装に対し専門知識を欠いた不適切な作業を行うと、レーダー センサーの故障や異常を招き、安全性に問題が生じるおそれや、事故の危険や損傷が発生するおそれがあります。レーダー センサー装備車の場合、バンパーの塗装または塗装の補修は、必ずトヨタ販売店に依頼してください。

⚠ 注意

■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

次のことをお守りください。

- 次のような場合は、ただちに洗車する
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール・花粉・樹液・鳥の糞・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの落下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修する
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管する

つや消し塗装

つや消し塗装が施された車両に合ったクリーナーやカー ケア製品

を使用してください。

お手入れは、次の項目を実施ください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗う
- 汚れがひどいときは中性洗剤を使用し、水で十分洗い流す
- 水を拭き取る
- ワックスや研磨剤などは絶対に使用しない

注意

■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

次のことをお守りください。

- 次のような場合は、ただちに洗車する
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修する
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管する

- 塗装への付着物はできるだけ早く拭き取る

ウォッシャー液やアルカリ性の液体などが付着したまま放置すると、付着部分の塗装が変質し、跡が残るおそれがあります。

- ワックスかけやボデーコートをしない

ボデーの質感が変化したり、塗装にムラができるおそれがあります。

レザーのお手入れ

定期的に布や掃除機でレザーのほこりを取り除いてください。

そうしないと、ほこりやちりがレザーの細かい孔やしわをこすり、表面を激しく摩耗させたり、通常より早めに傷つけたりします。

衣服などによる色移りを防ぐために、レザーは約2ヶ月ごとにクリーニングおよびお手入れしてください。

明るい色のレザーは汚れが目立つため、頻繁に汚れを落としてください。

汚れや油分が付着すると、徐々にレザー表面の保護膜を傷める場合があるので、レザー保護剤を使用してください。

布製部品のお手入れ

一般事項

定期的に掃除機でクッション部分のほこりを取り除いてください。

飲み物のしみなどのしつこい汚れ

は、柔らかいスポンジまたはマイクロファイバー製の布と適切なインテリアクリーナーをご使用ください。

クッション部分は、縫い目を含め全体の表面を掃除するようにしてください。強くこすらないようにしてください。

安全に関する注意事項

! 注意

衣服などのマジックテープが外れると、シートカバーを傷つけるおそれや、損傷が発生するおそれがあります。マジックテープが閉じられているか確認してください。

専用部品のお手入れ

アルミホイール

車両の清掃には、必ずpH値5～9の中性のホイールクリーナーを使用してください。粗いクリーニング剤や60℃以上のスチームジェットクリーナーを使用しないでください。メーカーの注意事項を遵守してください。

腐食性、酸性、アルカリ性のクリーニング剤は、ブレーキディスクなどの隣接する構成部品の保護コーティングを損なうおそれがあります。

清掃後、軽くブレーキをかけて乾かしてください。ブレーキをかけたときに発生する熱により、ブレーキディスクとブレーキパッドが乾かされて、腐食から保護され

ます。

クロムメッキの表面

特に融雪塩がかかった場合には、クロムメッキの表面をたっぷりの水で、必要があれば洗剤を混ぜて丁寧に洗浄します。

ラバー製部品

周辺環境の影響により、ラバー製部品の表面が汚れたり、光沢が失われたりすることがあります。清掃する場合は、必ず水と適切なカーケア製品を使用してください。

特に負荷にさらされているラバーディケーション部品は、定期的にラバーケア剤でお手入れしてください。ラバーシールのお手入れには、シリコンを含んだカーケア製品は使用しないでください。異音が発生したり、損傷するおそれがあります。

プラスチック部品

! 注意

シンナー、コールドクリーナー、燃料などのアルコールまたは溶剤を含むクリーナーを使用すると、表面が損傷するおそれがあります。手入れには、マイクロファイバー製の布をご使用ください。必要に応じて布を軽く水で湿らせてください。

手入れには、マイクロファイバー製の布をご使用ください。必要に応じて布を軽く水で湿らせてください。

ルーフ内張りを濡らさないでください。

シートベルト

⚠ 警告

合成洗剤はシートベルトの素材を傷つけるおそれがあります。シートベルトの保護効果が低下します。けがをする危険または生命の危険があります。シートベルトの清掃には、薄い石けん水のみを使用してください。

シートベルトが汚れていると巻き取りに支障をきたし、事故の際に十分な効果が発揮できず、非常に危険です。

必ず薄い石けん水で、シートベルトを取り付けたままの状態で清掃します。

シートベルトは必ず乾いた状態で巻き取ってください。

カーペット / フロアマット

⚠ 警告

運転席足元スペースに物があると、ペダルストロークが制限されたり、ペダルを床まで踏み込むことが阻止されたりするおそれがあります。事故の危険があります。車内では物を固定して、運転席足元スペースに入り込まないように収納してください。ご使用の車両に適切であり、フロアに確実に固定することのできるフロアマットを使用してください。それやすいフロアマットを使用しないでください、フロアマットを複数重ねないでください。ペダル用のスペースが十分空いていることを確認してください。フロアマットは、清掃などで取り外した後、再び確実に取り付けるよう注意してください。

車内を清掃する際は、フロアマットを取り外してください。

フロアマットの汚れがひどい場合には、マイクロファイバー製の布と水か、繊維用クリーナーで汚れを落とします。フロアカーペットが毛玉になってしまふおそれがあるので、走行方向に向かって前後にこすってください。

センサー / カメラレンズ

センサーまたはカメラレンズを掃除をする際は、ガラスクリーナーで少し湿らせた布を使ってください。

ディスプレイ、画面およびヘッドアップディスプレイの保護スクリーン

⚠ 注意

合成洗剤、液体や水気のあるものは、種類を問わずディスプレイおよび画面を損傷するおそれがあります。損傷が発生するおそれがあります。手入れには、清潔な、帯電防止のマイクロファイバー製の布をご使用ください。

⚠ 注意

ディスプレイの表面は、不適切な清掃により傷つくおそれがあります。損傷が発生するおそれがあります。あまり強く力を入れないでください。また傷が付きやすい素材のものは使用しないでください。

手入れには、清潔な、帯電防止のマイクロファイバー製の布をご使用ください。

ヘッドアップディスプレイの保護スクリーン(140ページ参照)はマイクロファイバー製の布と市販の家庭用洗剤で清掃してください。

長期保管

車両を3ヶ月以上使用せずに長期保管する場合は、特別な処置が必要となります。詳しい情報はトヨタ販売店にお問い合わせください。

参考情報

7

7-1. 参考情報

- メンテナンスデータ 298
認証情報 299

7

参考情報

メンテナンスデータ

車両装備

この章では、モデル シリーズに提供される全ての標準装備、国別装備、オプション装備について説明しています。従って、選択されたオプション装備や国別仕様などの理由により、お客様の車両では使用することができない装備および機能についての説明も含まれています。このことは、安全関連の機能とシステムにも当てはまります。該当する機能とシステムを使用する場合は、各国の有効な法律と規定に従ってください。

一般事項

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L] (参考値)
・ 無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）	52

エンジンオイル

指定銘柄
TOYOTA GENUINE MOTOR OIL SN OW-20 C5 for TOYOTA Supra

ウォッシャータンク

容量 [L] (参考値)
1.0

認証情報

情報

次の注記は、車両に搭載されている無線通信機、車両情報統合システムおよび通信デバイスに関するものです。

この車両の無線通信機は RE 指令 2014/53/EU の基本要件と関連条項に適合しています。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

Car-Sharing Module

Japan



中央レーダーセンサー

Japan

ID n°:202-LSF030

This device is granted pursuant to the Japanese Radio Law (電波法) =本製品は、電波法に基づく特定無線設備の技術基準適合証明などを受けております。

This device should not be modified (otherwise the granted designation number will become invalid) 本製品の改造は禁止されています。適合証明番号などが無効となります

電子キー

Japan



Model: ID21A

本製品は、電波法に基づく特定無線設備の技術基準適合証明などを受けております。

本製品本体のネジを外して内部の改造を行った場合、技術基準適合証明などが無効となります。技術基準適合証明などが無効となった状態での使用は電波法で禁止されております。

This device is granted pursuant to the Japanese Radio Law (電波法)

This device should not be modified (otherwise the granted designation number will become invalid)

側方レーダーセンサー

Japan



203-JN0746

スマートキーシステム

Japan

The BMW G3x NFC radio product fulfils the electric field intensity requirements for extremely low power and therefore is placed on the market without licence.

タイヤ空気圧警報 (TPM)**Japan**

TSSRE3A:



203-JN0732

Headunit**Japan**

さくいん

五十音順さくいん **302**

五十音順さくいん

あ

RSC ランフラット タイヤ システム コンポーネント、ランフラット タイヤを参照	246
ISOFIX チャイルド シート マウント	103
アイドリングストップ	110
明るさ、コントロール ディスプレイ	54
明るさ調節、メーターパネル	148
アクセサリーおよび部品	5
アクティブ ボンネット、ポップアップ フードを参照	160
アクティブディファレンシャル	189
ASSIST ボタン、レーダークルーズコントロールを参照	191
足元マットのお手入れ	295
アダプティブ ブレーキ アシスト	185
アダプティブ ヘッドライト	145
アダプティブバリアルサスペンション	211
新しいホイールとタイヤ	244
Apple CarPlay、車両との接続	65
圧力、タイヤ	240
アラーム システム	83
アラーム、意図しない	84
アルミホイール、お手入れ	294
安全な座り方	86
安全なブレーキ操作	231
アンチロック ブレーキ システム ABS	185

い

イグニッション キー、電子キーを参照	70
いざというときに	281
位置測定、車両位置	54
一般設定	52

一般的な運転ガイド	229
意図しないアラームを防止する	84
インテリア	220
インテリアライト	148
インテリジェントキー	77

う

ウィンター タイヤ	245
ウィンター タイヤの速度制限	245
ウィンター タイヤのトレッド	242
ウインドウ	85
ウインドウ ウオッシャー、ワイパーシステムを参照	115
ウインドウ ウオッシャー液、ウォッシャー液を参照	269
ウインドウの曇り	216
ウインドウの結露	216
ウインドウの結露および曇りを取り除く	216
ウェルカム ライト	144
ウォッシャー	
タンク容量	298
ウォッシャー タンク	269
ウォッシャー ノズル	118
ウォッシャー液	269
ウォッシャー液、ウォッシャー液を参照	269
運転席および助手席用シートベルト警告	95

え

エア コンディショナー	214
エアバッグ	150
エアバッグ作動	159
エアバッグ作動解除	159
ACC、レーダー クルーズ コントロールを参照	191

ABS アンチロック ブレーキ システム	185	オートライト コントロール	143
越冬、車両の長期保管を参照	296	オートエアコン	213
LED の交換、ランプとライトを参照	273	オートマチック クルーズ コントロール、 レーダークルーズコントロールを参照	191
LED ヘッドライトの交換、ランプとライ トを参照	273	オートマチックトランスマッision	119
エンジン オイル フィラー キャップ	266	オートマチックハイビーム	146
エンジン オイル温度	133	オートロック	82
エンジン オイル交換	268	オールシーズン タイヤ、ウィンタータ イヤを参照	245
エンジン オイルの補給	266	お客様の安全のために	5
エンジン スタート、ジャンプ スタート	285	オクタン価、ガソリンのグレードを参照	264
エンジン スタート、走行スタンバイを参 照	37	お子様の安全について	100
エンジン ルーム	261	お子様の正しい乗車位置	101
エンジン、アイドリングストップ ...	110	お手入れ、洗車を参照	290
エンジンオイル メンテナンスデータ	298	お手入れ、ヘッドアップ ディスプレイ	296
エンジンのスタート、走行スタンバイを 参照	37	オプション装備、車両装備を参照	4
エンジンのストップ、走行スタンバイを 参照	37	重い荷物を積む	225
エンジン冷却水	268	音声入力システム	49
エンジン冷却水温度	133	音声認識システム	49
エンジンを切る、走行スタンバイを参照	37	温度、エンジン オイル	133

お

オイル レベルの電子的な点検	265
オイル（エンジンオイル）	298
オイル交換	268
オイル交換周期、サービス時期の表示を 参照	133
オイルの補給	266
AUTO プログラム、オートエアコン	215

か

カー ケア	292
カー ケア製品	292
CarPlay、車両との接続	65
カーペットのお手入れ	295
外気温度	133
快適な温度調節	212
開閉	70
鏡	95
角度、バックレスト	89

カスタマイズ設定、スポーツモードスイッチを参照	124
加速アシスタンス、ローンチ コントロールを参照	123
ガソリン	263
ガソリンのグレード	264
カップホルダー、ドリンク ホルダーを参照	223
カメラ レンズのお手入れ	295
カメラ、リア ビュー カメラ	206
カメラベースのアシスト システム、Toyota Supra Safety を参照	161
カメラベースのクルーズ コントロール、レーダークルーズコントロールを参照	191
換気、パーキング ベンチレーションを参照	217
缶ホルダー、ドリンク ホルダーを参照	223

き

ギア チェンジ、オートマチックトランスミッション	119
キー、機械式	75
キーレス	77
機器リストを表示する	66
機器を管理する	66
機器を接続する	62
キック ダウン、オートマチックトランスミッション	119
機能障害、電子キー	74
希望速度、レーダークルーズコントロールを参照	191
キャタライザー、高温になる排気装置を参照	229
休憩の勧め、注意喚起アシスタンスを参照	183

給油	238
メンテナンスデータ	298
給油口	239
緊急ブレーキ機能（クリアランプソナー）、緊急ブレーキ機能を参照	203
緊急ブレーキシグナル	182

く

空気圧、タイヤ	240
空気圧コントロール、タイヤ空気圧警報を参照	252
クーラント	268
クーラント温度	133
下り坂	232
クリアランプソナー	200
グローブ ボックス	222
クロム メッキの表面、お手入れ	294

け

警告ウィンドウ、コントロール ディスプレイ	54
警告メッセージ、車両メッセージを参照	127
傾斜センサー	84
携帯電話を接続する	62
けん引	287
けん引、けん引を参照	287
けん引バー	288
けん引用アイ	289
けん引用ナイロン製ロープ	288
けん引用ロープ	288
けん引ロープ	288
検知物表示、リア ビュー カメラ	207

こ

高温になる排気装置	229
-----------	-----

交差点の通行警告	209
後方車両への接近警報.....	181
コーナリング ライト	146
故障表示、車両メッセージを参照 ...	127
故障メッセージ、車両メッセージを参照	127
個人設定、ドライバー プロファイルを参考.....	57
個人データの削除	56
個人データを削除する.....	56
個人プロファイル、ドライバー プロファイルを参照	57
固定バンド、ラゲッジルーム.....	226
固定ベルト、ラゲッジルーム内の固定用フックを参照	225
固定用ツール、ラゲッジルーム内の固定用フックを参照.....	225
誤報、意図しないアラームを防止するを参照	84
ゴム製部品のお手入れ.....	294
小物入れ.....	222
コンディション ベースド サービス CBS	270
コントローラー	41
コントロール ディスプレイ	41
コントロール ディスプレイ、設定	52
コントロール ディスプレイの設定	52
コントロール ディスプレイの表示言語を設定する	52
コンビ スイッチ、ワイパー システムを参照.....	115
コンビスイッチ、ターン インジケーターを参照.....	114
コンプレッサー	248

さ

サービス、ロードサイドアシストを参照	285
サービス時期、コンディション ベースド サービスを参照	270
サービス時期の表示	133, 270
再生タイヤ	245
最大冷房	214
サイド エアバッグ	150
サイド ブレーキ	113
サイドミラー	95
再利用、リサイクル	271
坂道発進アシスト、ヒルスタートアシストを参照	186
下げる、助手席側ドア ミラー、リバース 連動機能を参照	97
サスペンション設定、スポーツモードスイッチを参照	124
作動 / 作動解除	159
作動スタンバイ、停止状態、走行スタンバイ	36
サマー タイヤのトレッド	242
サラウンド ビューなしのサイド プロテクター	204
サンバイザー	220

し

シート バック レスト	87
シート ヒーター	99
シート ベルト	90
シート ベルトのお手入れ	295
シート、メモリー機能を参照	98
シートおよびヘッドレスト	86
GPS 位置測定、車両位置	54
CBS コンディション ベースド サービス	270

シール剤、タイヤパンク応急修理キット を参照.....	247	ジャンプ スタート、ジャンプ スタート を参照.....	285
時刻	53	充填圧力、タイヤ	240
自動洗車機.....	290	収納	222
自動防眩ドア ミラー	96	収納スペース	222
自動防眩ルーム ミラー	97	収納場所.....	222
自動ロック	82	出発時刻、パーキング ベンチレーション	219
自動ロック解除	82	出力表示、スポーツ表示を参照.....	138
シフト ポジション インジケーター.134		手動操作、フューエル リッド.....	240
車間距離コントロール付きクルーズ コン トロール、レーダークルーズコント ロールを参照	191	手動調節、送風口	216
車間警告、クリアランスソナーを参照	200	手動の送風口調節	216
シャシー番号、車台番号参照	10	Joystick、オートマチックトランスマッ ション.....	119
車線逸脱警告	173	省エネルギー、シフト ポジション イン ジケーターを参照.....	134
車線制限、警告	173	使用済みのバッテリーの廃棄.....	276
車線はみだし警告	173	衝突被害軽減ブレーキ	182
車台番号.....	10	照明	142
車内検知機能	84	照明、車内	148
車内の通信機器	230	照明、メーター パネル	148
車幅確認線、リア ビュー カメラ	207	初期化する、タイヤ空気圧警報 (TPM)	254
車両位置、車両位置測定	54	除湿、エア コンディショナーを参照	214
車両キー、電子キーを参照	70	助手席エアバッグ、表示灯	160
車両故障、いざというときにを参照	281	助手席エアバッグ用キー スイッチ ..	159
車両ステータス	139	助手席側ドア ミラーを下げる、リバース 連動機能を参照	97
車両装備.....	4	シンボルと表示	4
車両塗装.....	292		
車両のお手入れ	292		
車両の確認シグナル	82		
車両の長期保管	296		
車両の電子キー、バッテリーの交換 ..	73		
車両バッテリー	274		
車両メッセージ	127		
車両ロック時の車外ライト	72		
車両ロック時のルーム ライト.....	72		
ジャンプ スタート	285		
ジャンプ スタート ケーブル接続部.286			

す

推奨する燃料	263
推奨タイヤの識別	244
推奨タイヤ銘柄	244
スイッチ、運転席まわりを参照	32
スクリーン	41

スクリーン ミラーリング、接続	65
スタート、走行スタンバイを参照	37
スタート / ストップ ボタン	109
ステアリング ホイール、ボタン	32
ステアリング ホイール、メモリー機能を 参照	98
ステアリング ホイールのシフト パドル	119
ステアリング ホイールの調節	97
ステアリングのボタン	32
スノーチェーン	252
スパナ、ツール キットを参照	272
スピーチ コントロールシステム	49
全てのメッセージのリスト	55
スポーツ サスペンション、アダプティブ バリアブルサスペンションを参照	211
スポーツ プログラム、オートマチックト ランスマッシュョン	119
SPORT、スポーツモードスイッチを参 照	124
スポーツ表示	138
スポーツモードスイッチ	124
スマートエントリー	77
スマートキーシステム	77
スマートフォンをスピーチ コントロール で操作する	52
スマートフォンを接続する	62
スマートライト	143
3 ターン シグナル	115
座り方	86

セ

清掃、ヘッドアップ ディスプレイ	296
セーフティ システム、エアバッグを参照	150
セーフティ システム、Toyota Supra Safety を参照	161

積載重量	224
接続、スクリーン ミラーリング	65
接続する、モバイル機器	62
設定、ロック / ロック解除	81
設定可能な速度制限、マニュアルスピー ドリミッターを参照	189
SET ボタン、レーダークルーズコント ロールを参照	191
セレクター レバー、オートマチックトラ ンスマッシュョン	119
旋回予想線、リア ビュー カメラ	207
センサーのお手入れ	295
洗車	290
洗車機	290
センター コンソール	34
セントラル ロック システム	77

そ

走行	109
走行快適性	211
走行スタンバイ、エンジン スタート	37
走行スタンバイ、停止状態、作動スタン バイ	36
走行ダイナミクス用スイッチ、スポーツ モードスイッチを参照	124
走行モード、スポーツモードスイッチを 参照	124
送風口	217
速度制限、手動	189
速度制限装置、マニュアルスピードリ ミッターを参照	189
ソケット	220

た

ターン インジケーター、ターン インジ ケーターを参照	114
ターン インジケーター、表示灯	131

ターン インジケーター、ヘッドライト、 パッシング ライト	114
ターン インジケーター、ランプの交換、 ランプとライトを参照	273
タイヤ シール剤、タイヤパンク応急修理 キットを参照	247
タイヤ レッド	242
タイヤ パンク、走行	258
タイヤ パンク警告灯、TPM	256
タイヤ パンク時の走行について	258
タイヤ パンクのメッセージ、TPM	256
タイヤ空気圧	240
タイヤ空気圧警報 (TPM)	252
タイヤ交換	260
タイヤ修理キット、タイヤパンク応急修 理キットを参照	247
タイヤ状態表示	254
タイヤ設定	253
タイヤの交換	244
タイヤの寿命	243
タイヤの使用限界、タイヤ	243
タイヤの損傷	243
タイヤのパンクを修理する	246
タイヤの保管	245
タイヤパンク応急修理キット	247
タコメーター	132
単位	54

ち

チェーン	252
チャイルド シート、お子様の安全につい てを参照	100
チャイルド シートのクラス、ISOFIX、 適切な ISOFIX チャイルド レストレイ ント システムを参照	103
チャイルド レストRAINT システム、 お子様の安全についてを参照	100

チャイルド レストRAINT システムの 取付け	101
注意喚起アシスタント	183
注意事項	4
駐車時の緊急ブレーキ機能、緊急ブレー キ機能 (クリアランスソナー)	203
中性クリーナー、アルミホイール	294
長期保管、車両	296
調節、シートおよびヘッドレスト	86
調節、メーターパネルの明るさ	148
直接選択ボタン、プログラマブル ボタン を参照	48

つ

2 ステージ ブレーキ ライト、緊急ブ レーキシグナルを参照	182
通信機器、車内	230
ツーリスト機能、右側通行 / 左側通行を 参照	148
ツール	272
ツール キット	272
つや消し塗装	292

て

ディ ランニング ライト	145
停止状態、作動スタンバイ、走行stan バイ	36
停車した車両下の凝縮水	233
ディスプレイ	41
ディスプレイ、画面	296
ディスプレイ、画面のお手入れ	296
ディスプレイ、画面の清掃	296
ディファレンシャル ロック	189
手入れ	292
データ メモリー	6
データ、個人データを削除するを参照	56

データ保護、設定	56	ドア ポケット	223
テール ゲート、トランク リッドを参照	80	ドア ミラー	95
テール ライトの交換、ランプとライトを参照	273	ドア ミラー、機能障害	96
適切な使用	5	ドア ミラー、リバース連動機能	97
適切な仕様のために	5	ドア ミラーの警告灯、ブラインドスポットモニターを参照	177
デフロスト、ウィンドウの結露を参照	216	ドア ミラーの警告灯、リヤクロストラフィックアラートを参照	209
添加剤、エンジン オイルの種類	267	ドア ミラーのライト、ブラインドスポットモニターを参照	177
電球の交換、ランプとライトを参照	273	ドア ミラーのライト、リヤクロストラフィックアラートを参照	209
点検周期表示、サービス時期の表示を参照	133	凍結した路面、外気温度警告を参照	133
点検整備	270	凍結防止剤、ウォッシャー液を参照	269
点検整備時期、コンディション ベースド サービスを参照	270	盗難防止装置、盗難防止用ホイール ボルトを参照	260
点検整備システム	270	盗難防止装置、ロック	72
電源ソケット、ソケットを参照	220	盗難防止用ホイール ボルト	260
電源の遮断	276	登録、モバイル機器、接続を参照	62
電子キー	70	塗装	292
電子キー、機能障害	74	Toyota Supra Command	39
電子キー、追加	74	Toyota Supra Command の操作原理	39
電子キー、内蔵キー	75	Toyota Supra Safety	161
電子キー、紛失	74	ドライバー アシスト、Toyota Supra Safety を参照	161
電子キーによるコンフォート オープン	72	ドライバー プロファイル	57
電子キーによるコンフォート クローズ	72	ドライバー、ツール キットを参照	272
電子キーによるトランク リッド操作	73	ドライブのヒント、慣らし運転	228
電子キーによるロック	72	トラクションモード	187
電子キーによるロック解除	71	TRACTION、ダイナミック ドライビング	187
電子キーの故障	74	トランク リッド	80
電子的なオイル計測	265	トランスミッション ロックを電子的にロック解除	123
電話を接続する	62	トランスミッション、オートマチックトランスマッシュョンを参照	119
ドア キー、電子キーを参照	70	取扱説明書	68

と

ドア キー、電子キーを参照

取扱説明書のメディア	68
ドリンク ホルダー	223
トルク表示、スポーツ表示を参照	138
トレッド、タイヤ	242

な

内気循環モード	215
内装	220
内蔵キー	75
慣らし運転	228

に

荷物の固定	225
荷物の積込みと固定	225
荷物を積んで固定する	225

ぬ

布製部品のお手入れ	293
-----------	-----

ね

ネット、ラゲッジ ルーム	226
燃料	263, 298
種類	298
容量	298
燃料計	132
燃料の種類	263
燃料の節約	233

の

NORMAL、スポーツモードスイッチを 参照	124
飲み物用ホルダー	223

は

パーキング ブレーキ	113
------------	-----

パーキング ベンチレーション	217
----------------	-----

パーキング ライト	144
-----------	-----

パーツ交換	272
-------	-----

廃棄、車両バッテリー	276
------------	-----

排気装置	229
------	-----

ハイドロブレーニング	231
------------	-----

ハイビーム	115
-------	-----

ハザード フラッシャー	284
-------------	-----

はさみ込み防止、ウィンドウ	85
---------------	----

発炎筒	285
-----	-----

バック レスト角度	89
-----------	----

バック レスト幅	90
----------	----

バックミラー	95
--------	----

バッグ用フック	225
---------	-----

パッシング ライト	115
-----------	-----

発進補助、ヒルスタートアシストを参照	186
--------------------	-----

バッテリー、車両	274
----------	-----

バッテリーの交換、車両の電子キー	73
------------------	----

バッテリーの廃棄	276
----------	-----

バニティ ミラー	220
----------	-----

パワー ウィンドウ	85
-----------	----

パンク、タイヤ空気圧警報を参照	252
-----------------	-----

ハンド ブレーキ	113
----------	-----

ひ

ビーグルスタビリティコントロールとト ラクションコントロール	185, 186
-----------------------------------	----------

非常停止表示板	284
---------	-----

非常ロック解除、トランスマッision ロック	123
----------------------------	-----

非常ロック解除、フューエル リッド	240
-------------------	-----

左側通行、ヘッドライト調節	148
---------------	-----

日付	53
----	----

フューエル キャップ	239
------------	-----

フューエル リッド	239
-----------	-----

フューエル リッドの手動ロック解除	240
表示	126
表示警告灯	152
表示単位	54
表示灯と警告灯	129
標準装備、車両装備を参照	4
標準表示、ヘッドアップディスプレイ	
.....	140
日よけ、サンバイザーを参照	220
ヒルスタートアシスト	186
VIN、車台番号参照	10

ふ

VSC	186
フィルター、マイクロフィルターを参照	
.....	217
風量の手動調節	216
風量、オートエアコン	216
フック、ラゲッジルーム内の固定用フックを参照	225
フットブレーキ	231
部品およびアクセサリー	5
部品の交換	272
フューズ	276
ブラインドスポットモニター	177
プラスチック部品、お手入れ	294
プリクラッシュセーフティ	163
プリクラッシュセーフティ（対歩行者・自転車）	168
プリクラッシュセーフティ（対歩行者・自転車）	163
ブリッジ、ジャンプスタートを参照	
.....	285
Bluetooth接続	62
ブレーキアシスト	185
ブレーキシステム	229

ブレーキディスクの腐食	232
ブレーキディスクを慣らし運転する、ブレーキシステムを参照	229
ブレーキパッドを慣らし運転する、ブレーキシステムを参照	229
ブレーキ操作の注意事項	231
フロアカーペットのお手入れ	295
フロアマット	295
フロアマットのお手入れ	295
プログラマブルボタン、Toyota Supra Command	48
プロファイル、ドライバー プロファイルを参照	57
プロワ、風量を参照	216
フロントウィンドウでの表示、ヘッドアップディスプレイを参照	140
フロントエアバッグ	150
フロントシート	87
フロントフォグライトの交換、ランプとライトを参照	273
フロントヘッドレスト	95

へ

ヘッドアップディスプレイ	140
ヘッドアップディスプレイ、お手入れ	
.....	296
ヘッドアップディスプレイ、標準表示	
.....	140
ヘッドアップディスプレイ、メモリー機能を参照	
.....	98
ヘッドライト	115
ヘッドライトウォッシャーシステム、ワイパー システムを参照	
.....	115
ヘッドライトガラス	274
ヘッドライト内の湿気、ヘッドライトガラスを参照	
.....	274
ヘッドライトのお手入れ	291

ヘッドライトの交換、ランプとライトを参照	273
ヘッドラスト、フロント	95
ヘッドラストおよびシート	86
ベルト、シートベルトを参照	90
ベルト着用、シートベルトを参照	90

ほ

ホイールクリーナー、アルミホイール	294
ホイールとタイヤ	240
ホイールとタイヤの交換	244
ホイールの交換	244, 260
方向指示、表示灯	131
方向指示灯	25, 114
方向指示レバー	25, 114
ホーム ライト	145
ホーム ライトをオンにする	73
ホーン	32
保管、車両の長期保管を参照	296
補給するエンジン オイルの種類	267
補給するオイルの種類、エンジン	267
歩行者保護、アクティブ	160
保護機能、ウインドウ、はさみ込み防止を参照	85
保証	5
補足テキスト メッセージ	128
ポップアップフード	160
ボトル ホルダー、ドリンク ホルダーを参照	223
ホルダー、ドリンク ホルダーを参照	223
ボンネット	262

ま

マイクロ フィルター	217
マスター キー、電子キーを参照	70

マニュアル モード、オートマチックトランシミッション	119
マフラー、排気装置を参照	229
マルチファンクション ステアリング ホイール、ボタン	32

み

右側通行、ヘッドライト調節	148
水、停止した車両下の凝縮水を参照	233
水の中を通過する	231
ミラー	95
ミラー、メモリー機能を参照	98

め

メーター パネル	126
メーター パネル照明	148
メーター パネルの選択リスト	135
メッセージ	55
メッセージ、車両メッセージを参照	127
メニュー、メーター パネル、選択リストを参照	135
メニューの操作、Toyota Supra Command を参照	39
メモリー機能	98
メンテナンス、サービス時期の表示を参照	133
メンテナンス時期の表示	270

も

MODE ボタン、レーダークルーズコントロールを参照	191
文字と記号を入力する	45
モバイル機器を管理する	66
モビリティシステム、タイヤパンク応急修理キットを参照	247

Φ

USB インターフェース、車両での位置	221
USB ポート	64

よ

横方向交通、警告	209
----------	-----

ら

ライト	142
ライトの交換、ランプとライトを参照	
	273
ラゲッジ ルーム	224
ラゲッジ ルーム、収納スペース	226
ラゲッジ ルームの収納スペース	226
ラゲッジ ルームに積み込む、荷物を積む を参照	225
ラゲッジルーム内の固定用フック	225
ラバー製品のお手入れ	294
ランバー サポート	89
ランプスイッチ	142
ランプとライト	273
ランフラット タイヤ	246
ランフラット タイヤ、タイヤ	246
ランフラット タイヤ、ランフラット タ イヤを参照	246
ランフラット タイヤの識別表示	246

り

リア デフォッガー	217
リア ビュー カメラ	206
リア フォグ ライト	147
リア フォグ ライトの交換、ランプとラ イトを参照	273
リサイクル	271

RES CNCL ボタン、レーダークルーズ コントロールを参照	191
------------------------------------	-----

リセット、タイヤ空気圧警報 (TPM)	254
---------------------	-----

リセットする、タイヤ空気圧警報 (TPM)	254
-----------------------	-----

リバース連動機能、ドア ミラー	97
-----------------	----

LIM ボタン、マニュアルスピードリミッ ターを参照	189
-------------------------------	-----

リモート コントロール	70
-------------	----

リモコン キー、電子キーを参照	70
-----------------	----

リヤクロストラフィックアラート	209
-----------------	-----

る

ルーフ内張り	35
ルーム ライト	148

れ

冷却水	268
冷却水温度	133
冷却水の充填量	268
冷却水レベル	268
レイン センサー	116
レースコースの走行	233
レーダークルーズコントロール（全車速 追従機能付き）	191
レーン ディパー チャー ウォーニング (車線逸脱警告システム)	173
レーザーのお手入れ	293

ろ

ロードサイドアシスト	285
ロードサイドアシスト、ロードサイドア シストを参照	285
ロービーム	144
ローンチ コントロール	123

ロック、設定	81
ロック、ホイール ボルト	260
ロック解除、自動	82
ロック解除、設定	81
ロック解除時のウェルカム ライト	71
ロック解除時のシグナル、確認シグナル を参照.....	82
ロック解除時の車外ライト	71
ロック解除する、開閉を参照	70
ロック解除ボタン、オートマチックトラ ンスマッision	119
ロックする、開閉を参照.....	70
路面凍結警告、外気温度警告を参照	133
RON、ガソリンのグレード	264

わ

ワイパー、ワイパー システムを参照	115
ワイパー システム	115
ワイパープレードの交換.....	273
ワイパーを起こす位置.....	118

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター
全国共通・フリーコール

0800-700-7700
フリーコール

オーブン時間 365日 9:00~18:00

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）を
ご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
<http://www.toyota.co.jp> にて掲載しております。

「リコール等情報」については、
<http://toyota.jp/recall/index.html> にて掲載して
おります。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp



M 99U59

Printed in Germany-2019年7月1日
2019年7月7日初版
スープラ